

# 田原本町文化財 調査年報

2014年度

# 24



田原本町教育委員会

# 田原本町文化財 調査年報

2014年度

# 24



田原本町教育委員会

## 例 言

1. 本書は、田原本町教育委員会が2014年度（平成26年度）に実施した文化財事業の概要をまとめたものである。
2. 埋蔵文化財の発掘調査については、土地所有者・施工業者ならびに近隣の皆様にご協力とご理解を賜った。記して感謝します。
3. 本書は、Ⅰを清水琢哉・木下正樹、Ⅱを藤田三郎・木村麻衣子・西岡成晃・東藤隆浩、Ⅲを木村・東藤、Ⅳ. 1を清水、Ⅳ. 2を金原正子（株式会社古環境研究所）、Ⅳ. 3を江田真毅（北海道大学総合博物館）・安部みき子（大阪市立大学）・丸山真史（東海大学）・藤田、Ⅳ. 4を米田穰（東京大学総合研究博物館 放射性炭素年代測定室）・安部・丸山・藤田、Ⅳ. 5を能城修一（森林総合研究所）・鈴木三男（東北大学植物園）・小林和貴（東北大学植物園）・佐々木由香（株式会社パレオ・ラボ）・村上由美子（京都大学総合博物館）が執筆した。Ⅰ. 2の遺物は清水・木下・江浦至希子が、Ⅳ. 1の遺物は清水・江浦・松笠千恵子が実測し、清水・西岡・江浦がトレースをおこなった。本書は西岡が編集した。

# 目 次

I. 田原本町の埋蔵文化財	
1. 町内における開発	
(1) 町内における開発と発掘調査	1
2. 埋蔵文化財の調査	
(1) 発掘調査の概要	2
1. 唐古・鍵遺跡 第115次調査	4
2. 宮古北遺跡 第18次調査	19
3. 羽子田遺跡 第38次調査	24
4. 羽子田遺跡 第39次調査	33
5. 十六面・薬王寺遺跡 第35次調査	38
6. 多遺跡 第26次調査	43
(2) 工事立会の概要	47
II. 資料の整理と活用・普及	
1. 文化財資料の整理・保管	
(1) 埋蔵文化財の整理・保管	53
(2) 木製品の樹種同定と保存処理	54
(3) 図面・写真の保管と資料撮影、写真のデジタル化	61
(4) 図書の受領	62
(5) 指定文化財の寄託	62
2. 講座	63
3. 学校教育等への支援	
(1) 小学校出前授業・教材貸出	64
(2) 中学校職場体験学習	65
(3) 大学の学外授業	65
(4) 講師の派遣	65
4. 刊行物一覧	66
5. 資料の活用	
(1) 資料の貸出	67
(2) 写真掲載・撮影	68
(3) 資料調査	71
6. ボランティア組織	
(1) ボランティア組織の概要	71

### Ⅲ. 唐古・鍵考古学ミュージアム

#### 1. 常設展示

- (1) 田原本ギャラリー 今回の逸品 .....75

#### 2. 企画展・ミニ展示

- (1) 秋季企画展「弥生遺産Ⅱ～唐古・鍵遺跡の木製品～」.....77  
(2) 特別展示「田原本町内小学校の総合的な学習展示会」.....80  
(3) シンポジウム「ヤマト王権はいかにして始まったか Part.Ⅱ」 .....81

#### 3. 入館者・ホームページ

- (1) 入館者数 .....83  
(2) 節電対策夏季無料入館 .....85  
(3) 入館者アンケート .....86  
(4) 視察・研修・学校等からの来館 .....86  
(5) ホームページ .....87

#### 4. ボランティア

- (1) ボランティアガイドの実績 .....87  
(2) 企画展受付ボランティア .....87

### Ⅳ. 資料の報告

1. 十六面・薬王寺遺跡第31次調査の遺物整理事業（清水琢哉） .....91  
2. 唐古・鍵遺跡における花粉分析（金原正子）.....105  
3. 唐古・鍵遺跡第58次調査から出土した動物遺存体  
（江田真毅・安部みき子・丸山真史・藤田三郎） .....119  
4. 唐古・鍵遺跡の散乱人骨における形態学的所見と炭素・窒素同位体分析  
（米田穰・安部みき子・丸山真史・藤田三郎） .....133  
5. 唐古・鍵遺跡とその周辺遺跡で出土した木製品の樹種  
（能城修一・鈴木三男・小林和貴・佐々木由香・村上由美子） .....143



## I. 田原本町の埋蔵文化財



## 1. 町内における開発

## (1) 町内における開発と発掘調査

町内における2014年度（平成26年度）の民間開発行為等による埋蔵文化財発掘届（第93条）は60件、地方公共団体等による通知（第94条）は17件で、計77件を数える。

本年度の発掘調査は6件である。内訳は、個人住宅等の建築1件、公共事業1件、民間開発4件である。

なお、大字佐味での工事立会（R-201411）において、中近世の遺構・遺物を確認した。遺跡地外であったが、これらの成果により新規遺跡「佐味垣内遺跡」として、県へ登録申請をおこなう予定である。

第1表 田原本町における2014年度の発掘届・通知件数一覧

発掘届 93条	発掘通知 94条		発掘調査	工事 立会	慎重 工事	先行 工事
60	17	通知内容	6	41	9	1
		実施分	町 2 県 0	13	2	-

第2表 田原本町の発掘届・通知と発掘調査件数の推移

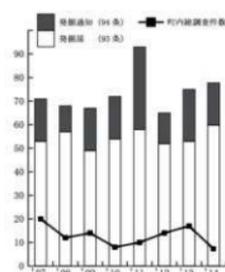
	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	
発掘届(93条)	53	57	49	54	58	52	53	60	
発掘通知(94条)	18	11	18	18	35	13	22	17	
計	71	68	67	72	93	65	75	77	
発掘 件数	町	18	11	13	7	10	14	17	6
	県	2	1	1	1	0	0	0	0
町内総調査件数	20	12	14	8	10	14	17	6	

第3表 町教育委員会が実施した発掘調査の原因別推移

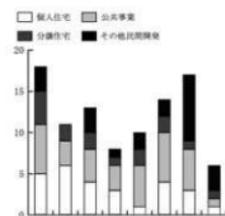
	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	
範囲確認	0	0	0	0	0	0	0	0	
個人住宅	5	6	4	2	1	4	3	1	
公共事業	6	3	4	3	5	6	5	1	
民間 開発	分譲	4	2	2	1	2	2	1	1
	その他	3	0	3	1	2	2	8	3
計	18	11	13	7	10	14	17	6	

第4表 町教育委員会による調査の面積及び出土遺物数の推移

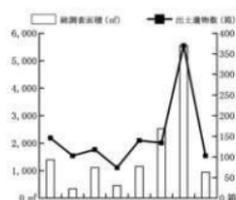
	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14
総調査面積(㎡)	1,400	341	1,117	457	1,152	2,530	5,555	929
出土遺物数(箱)	146	103	118	74	140	134	370	103



第1図 発掘届・通知と調査件数の推移



第2図 発掘調査原因の推移



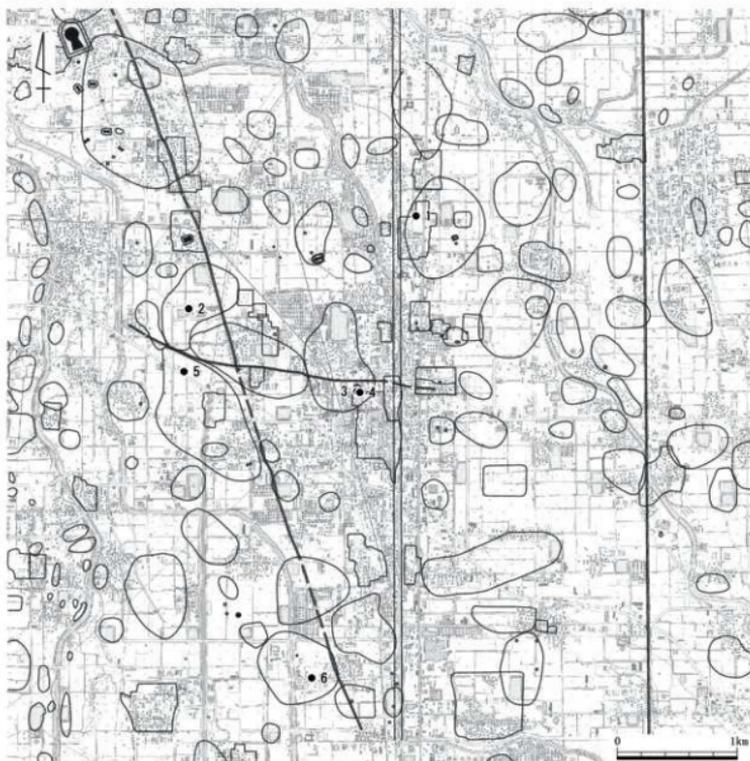
第3図 調査面積と出土遺物数の推移

## 2. 埋蔵文化財の調査

### (1) 発掘調査の概要

本年度は6件の発掘調査を実施した。弥生時代～古墳時代では、唐古・鍵遺跡、羽子田遺跡で成果が得られた。唐古・鍵遺跡北西部の第115次調査では弥生時代中期の方形周溝墓・弥生時代中～後期の環濠などを検出した。羽子田遺跡では、古墳時代後期の方墳2基を新たに検出した。

中・近世では、羽子田遺跡、十六面・薬王寺遺跡などで成果が得られた。羽子田遺跡では、のちに田原本寺内町の一角を形成する「小室」集落に伴うとみられる水路を検出し、その中からは羽釜が出土した。また、近世の瓦製作のための粘土採掘坑を複数検出し、うち1基からは投棄された瓦が大量に出土した。



第4図 田原本町の遺跡と調査地点 (S=1/40,000)

第5表 2014年度 発掘調査一覧表

遺跡名	次数	調査地		発掘者	原因	期間	面積	埋当	遺 産 考
		掘 出 遺 構							
1 唐古・群	第115次	田原本町大字唐古小字城ノ前61番1	南ヤマナカ	集合住宅の建築	2014. 9. 9 ～11.12	412㎡	清水原遺 木下正徳 西岡成基	受託事業	
		弥生時代中期：方形周溝墓2基 弥生時代中期～後期：横溝4条 中世：素懸小溝群、土城2基		弥生土器、石器、木製品		88箱			
2 宮古北	第18次	田原本町大字宮古小字方々404番6	ならコープ	倉庫の建築	2014. 4. 7 ～ 4.11	199㎡	清水・木下 西岡	受託事業	
		古墳時代：溝1条 古 代：溝1条、ピット3基 中世：素懸小溝群		土師器、瓦器等		1箱			
3 狛子田	第38次	田原本町小字鎌田内379番1・379番5	南竹村工務店	宅地造成	2014. 4.22 ～ 5.14	192㎡	清水・木下 西岡	受託事業	
		古墳時代：溝4条、河跡2条 鎌倉時代：溝1条 室町時代：土坑19基、ピット3基 江戸時代：ピット1基、板列2条		土師器、瓦器類・瓦葺・埴輪・瓦等		11箱			
4 狛子田	第39次	田原本町小字鎌田内379番1	個人	個人住宅の建築	2014. 9.11 ～ 9.12	19㎡	清水・西岡	国庫補助事業	
		弥生時代末：河跡1条 中世：ピット1基、素懸小溝群		弥生土器、土師器等		1箱			
5 十六面・ 園生寺	第30次	田原本町大字十六面小字カンザン96番2	藤オーケー	看板設置工事	2014. 9. 3 ～ 9. 4	12㎡	清水・木下 西岡	受託事業	
		古墳時代末：水田跡? 1面 境高時代：河跡1条 中世：素懸小溝2条		土師器、瓦器等		1箱			
6 多	第26次	田原本町大字多小字森ソウ309番1 南側道路	田原本町長	道路改良工事	2015. 1.13 ～ 1.23	195㎡	清水・木下 西岡	建設課	
		中世：素懸小溝群 近世：素懸小溝群		弥生土器、土師器、瓦器類、 石器等		1箱			

## 1. 唐古・鍵遺跡 第115次調査

### 1. 遺跡・既調査の概要

唐古・鍵遺跡は、奈良盆地の中央、標高47m前後の沖積地に立地する。弥生時代を代表する大規模な集落遺跡で、平成11年には遺跡の一部（約10ha）が史跡指定を受けた。調査では、南地区で青銅器製造に関わる遺構・遺物を確認しているほか、西地区中央及び西地区北部で弥生時代中期初頭と中頃の大型建物跡を確認している。特に、後者の大型建物跡では直径80cmを超える大柱が遺存していた。また、集落の周囲を幅10mの大環濠が囲み、その外側を幅4～5mの大溝が幾重にも取り囲んで「環濠帯」を形成している。

今回、西地区で集合住宅の建設が計画され、建物部分について発掘調査を実施した。調査地は、弥生集落の北西部を囲む環濠数条が確認された第13次調査地の北側に隣接し、その成果から大環濠の外側を巡る環濠3～4条が検出されることが予想された。また、西側隣接地の第29次調査成果から、本調査地周辺に弥生時代中期前半の方形周溝墓群が広がっていた可能性も考えられた。

### 2. 調査の成果

#### (1) 層序

調査地の現状は旧水田面から約1mの盛土（第I層）がおこなわれた宅地である。調査区の基本層序は以下のとおりである。

I：黄褐色砂礫土（客土）〔検出標高47.8m、以下数値のみ記す〕、II：暗青褐色土（水田床土）〔46.8m〕、III-1：暗褐色土〔46.6m〕、III-2：褐灰色土〔46.5m〕、IV：暗褐色粘質土〔46.4m〕、V：褐色土（黄斑・ハード）〔46.3m〕、VI：淡黄灰色シルト〔46.2m〕、VII：黒色粘土〔46.1m〕、VIII：淡青灰色シルト〔45.9m〕

弥生時代後期環濠の部分には第V層がみられず、その代わりに第IV層の厚さが0.2mとなり、中世遺物包含層の暗褐色粘質土が約0.1m堆積する。基本的には第V層上面が弥生時代後期～中世遺構検出面となるが、弥生後期環濠の部分はやや深くなる。また、第VI層上面では弥生時代前期～中期の遺構を検出した。ただし、調査区東半では第V層が極めて薄く、弥生時代前期～後期の遺構をほぼ同一面で確認した。これは後述する2号墓の墳丘部だったと考えられることも関係するとみられる。第VI層以下は、弥生時代以前の地山層となる。

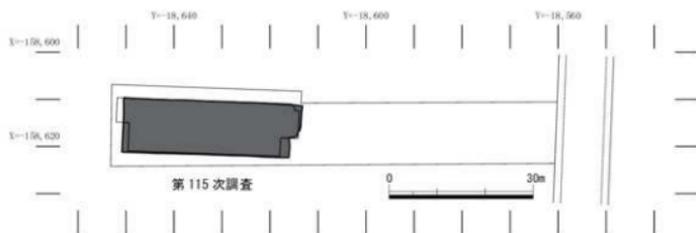
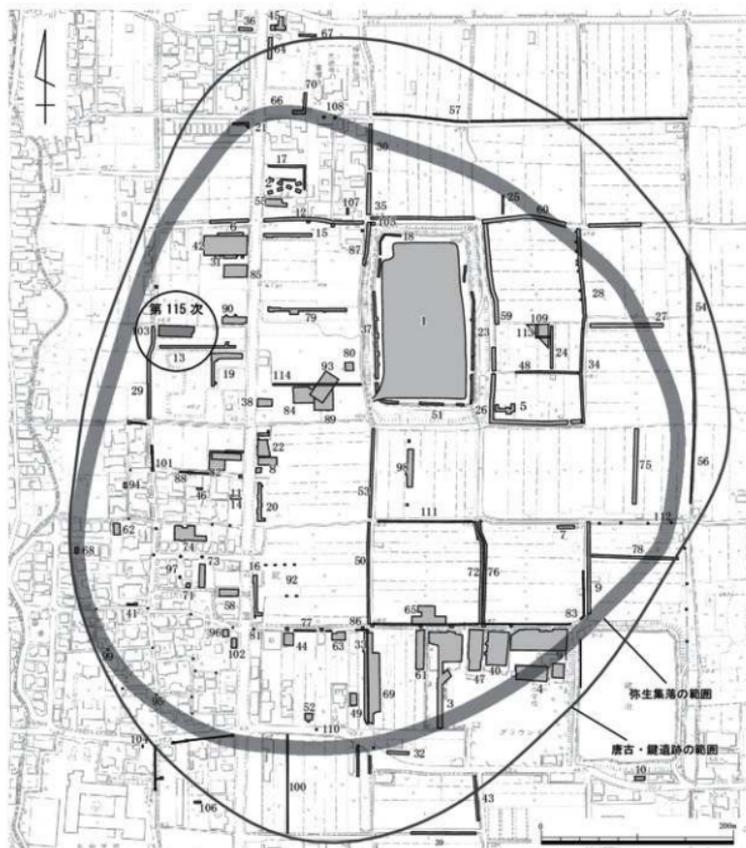
#### (2) 遺構と遺物

##### 弥生時代前期

**SX-151** 調査区東半のSD-102C西肩で弥生時代前期の壺1点が出土した。SD-102により胴部上半が失われていたが、正置された状態での単独出土であり、壺棺の可能性がある。

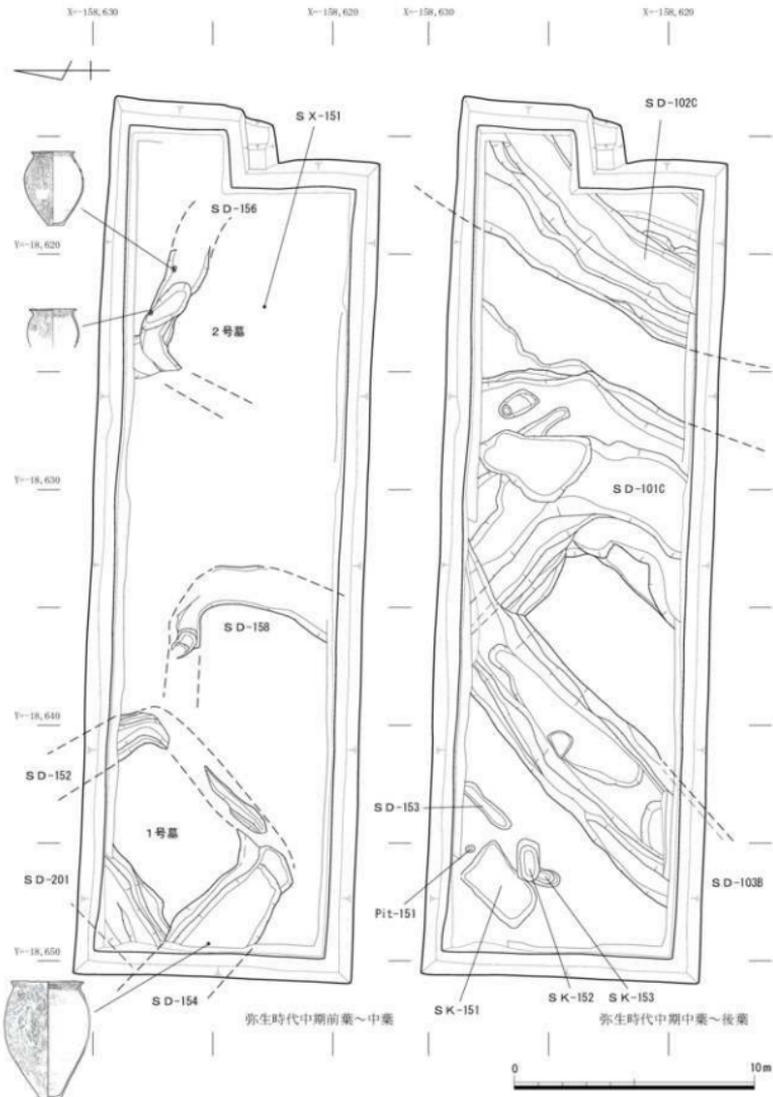
##### 弥生時代中期前葉～中葉

**SD-201** 調査区北西端で検出した北東-南西方向の大溝である。北西肩を検出していないが、推定幅約4m、深さ1.2mを測る。遺物が極めて僅少であるため、詳細な時期は明らかでない。上層はブロック土による人為的な埋め立てで、後述する1号墓築造に伴う整地とみられる。このことから、弥生時代中期初頭以前の遺構と考えられる。

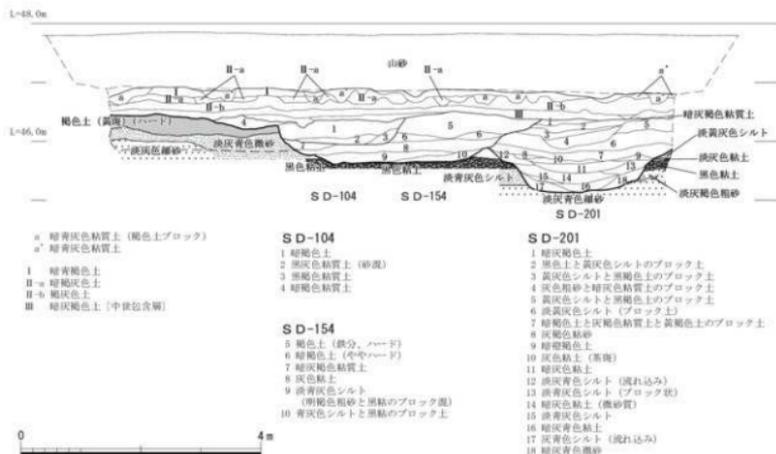


第5図 調査地位置図 (上: S=1/5,000、下: S=1/1,000)





第6図 弥生時代中期 遺構平面図 (S=1/200)



第7図 西壁断面図 (S=1/80)

**S D-102C** 調査区東端で検出した大溝である。深さ0.9mを測る。幅4m前後とみられるが、後期の再掘削により東肩が削平されており幅は不明。この段階の遺物は少ないが、大和第三～4様式頃の無頸壺が出土した。

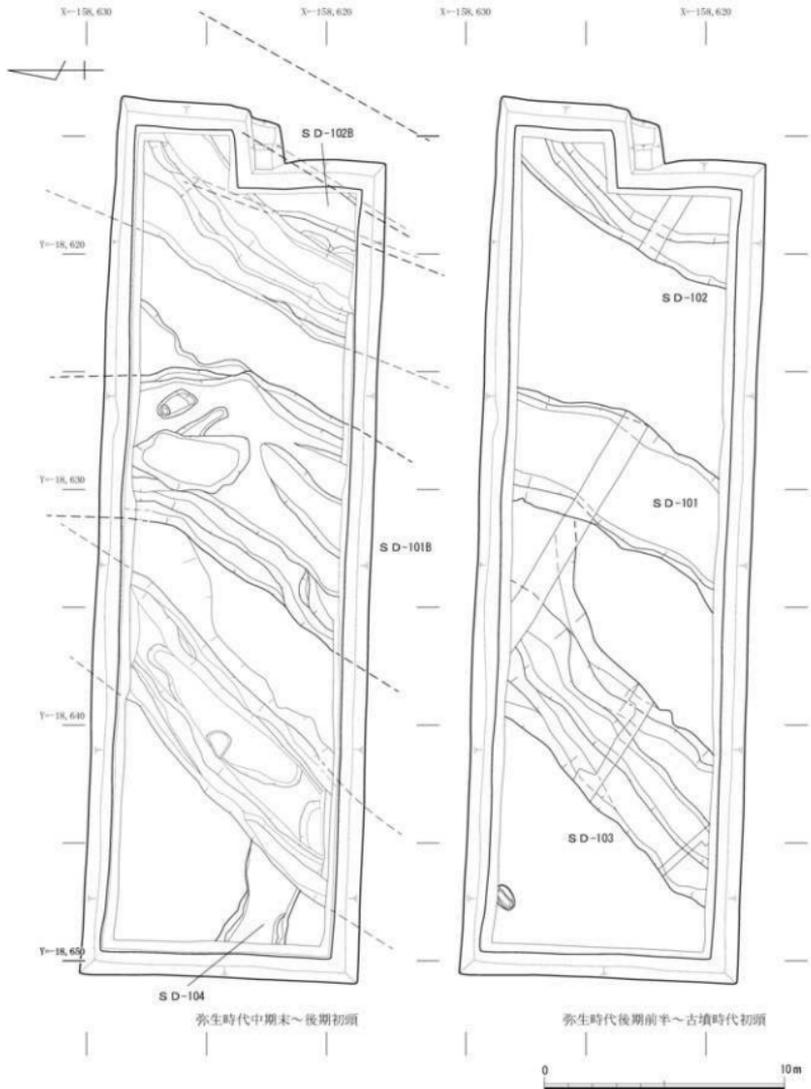
これらの他に、調査区北西隅で浅い土坑状の遺構を数基、溝状の遺構を1条検出した (SK-151・152・153・S D-153)。詳細な時期は不明。SK-151は1号墓の主体部である可能性を考え精査したが、遺物は僅少であり、関連性は薄いとみられる。

#### 弥生時代中期後葉～後期初頭

**S D-101B** 調査区中央で検出した大和第四様式の大溝である。幅7.8m、深さ0.9mを測る。下層の堆積土は灰色粗砂である。直径20cm前後の自然木が多数含まれる。また、北半の溝底は南北4.5m、東西1.5mの範囲で0.5m程度の深い土坑状となり (第13-b層：暗灰色粗砂)、堆積層中から自然木とともに高杯や壺・容器・板材などの木製品が多数出土した。なお、遺構の上層堆積で長さ24.5cmの打製石剣1点が出土している。唐古・鏡遺跡出土の石剣としては最大で、全国的にみても最大級の打製石剣となる。

**S D-102B** S D-102Cの東肩付近に偏った形で再掘削された弥生時代後期初頭の大溝である。深さ0.8mを測る。東肩を検出していないため正確な規模は明らかでないが、調査区内で幅4m以上あることを確認しており、推定幅6～7mとみられる。調査区南端で大和第五様式頃の壺1点 (第12図-1) が出土した。

**S D-104** 1号墓の周濠S D-154に重複する位置で掘削された東西方向の溝である。幅約2m、深さ0.4mを測る。S D-103に切られる。弥生時代中期末～後期頃とみられる土器細片が出土しているが、遺物が僅少なため詳細な時期は不明。



第8図 弥生時代中期末～古墳時代初頭の遺構平面図 (S = 1/200)



第9図 S D-102南半 第1～3層 遺物出土状況 (S=1/40)

弥生時代後期後半～古墳時代初頭

**S D-103** S D-103Bを再掘削した北東-南西方向の大溝である。S D-101Cを切る。幅4m、深さ0.4mを測る。弥生時代後期後半の土器片が僅かに出土した。

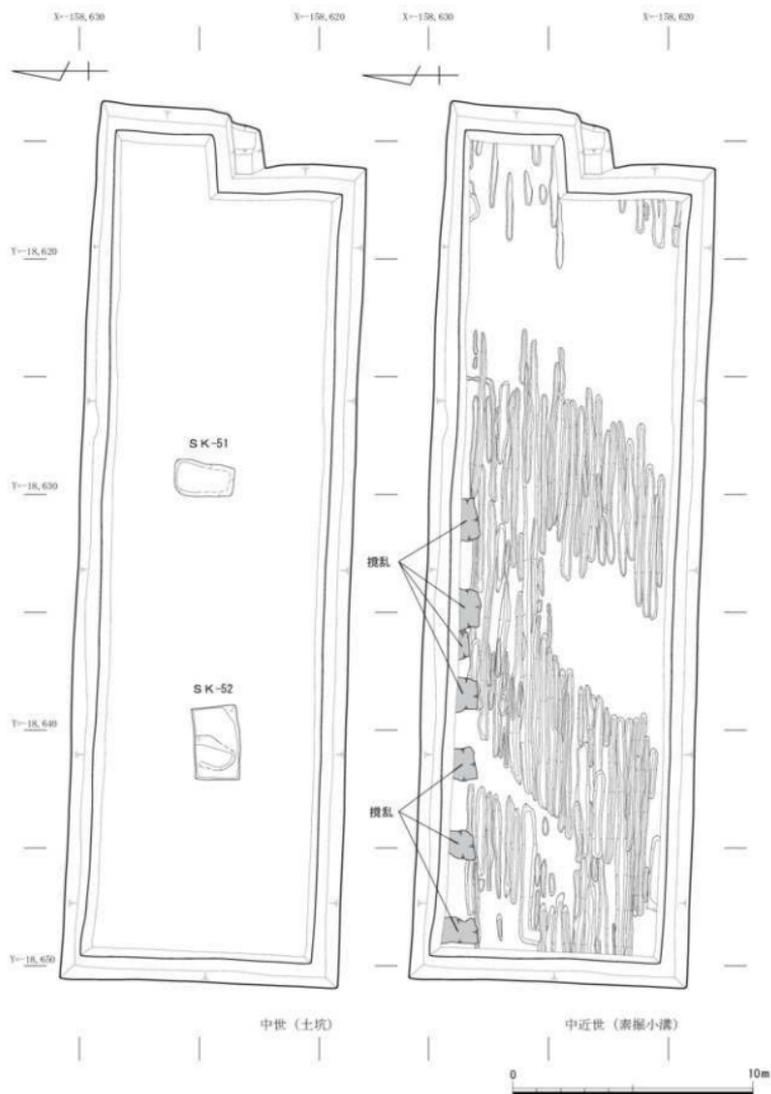
**S D-102** S D-102Bを再掘削した大溝である。東屑を検出していないが、推定幅約4m、深さ0.4m。調査区南半で西屑から投棄されたとみられる多量の土器が出土した。弥生時代後期末(大和第VI-4様式)の埋没と考えられる。

**S D-101** S D-101Bを再掘削した北東-南西方向の大溝である。幅4m、深さ0.4mを測る。溝の東屑付近に土器溜まりが認められるが、それ以外では遺物が僅少であった。弥生時代後期末(大和第VI-4様式～庄内式)の遺構とみられる。

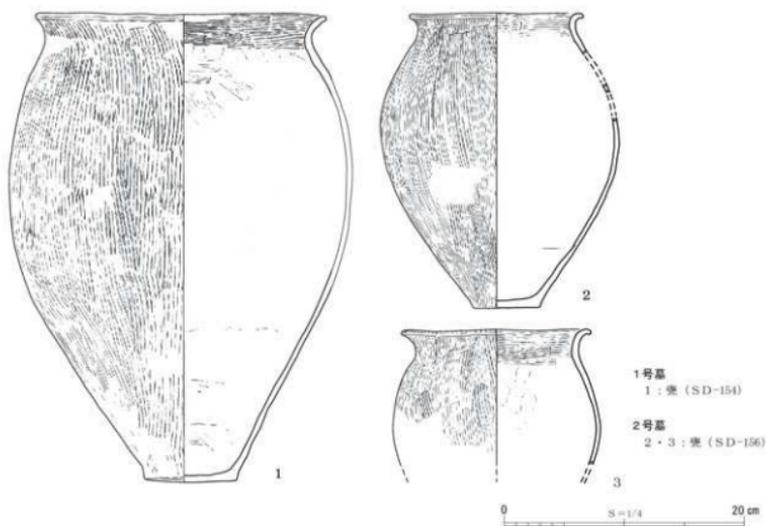
中世

**素掘小溝群** 調査区全体で、東西方向の小溝を多数検出した。弥生時代の環濠部分では深さ0.15m程度、それ以外ではほとんど残存しない程度の深さであった。遺物は僅少で、中世・近世の耕作に伴う遺構と考えられる。

**S K-51** S D-101のはほぼ中央に掘削された東西1.3m、南北2.5mの方形の土坑である。深さ0.3m。耕作に伴う集水施設であろうか。素掘小溝群に切られる。詳細な時期は不明であるが、鎌倉時代前後の遺構と考えられる。



第10図 中近世 遺構平面図 (S=1/200)



第11図 出土土器 1

SK-52 SD-103のほぼ中央に掘削された東西3m、南北1.8mの方形の土坑である。深さ0.6m。SK-51と同様の目的で掘削された遺構であろう。詳細な時期は不明。

### 3. 出土した遺物

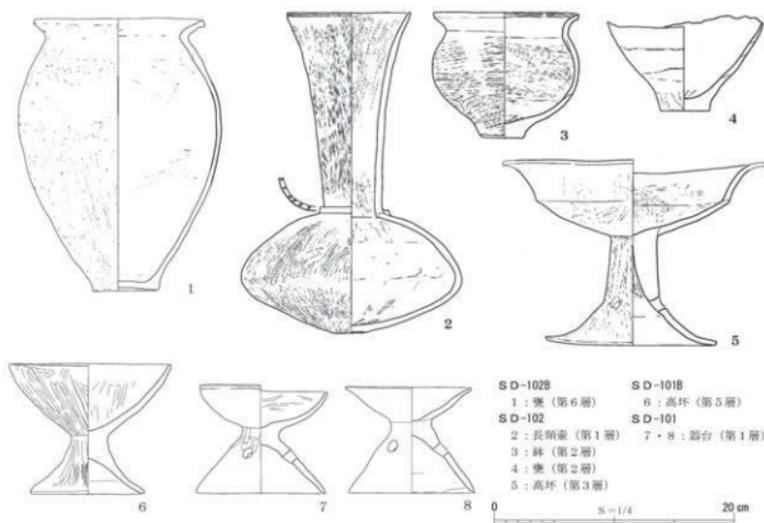
第11図-1～3は、大和Ⅲ-1様式の大和型甕である。1は1号墓南西側周濠底面付近から出土した。器高39.8cm、口径24.5cmを測る。外面に煤が付着し、内面下位に炭化物が付着する。2・3は2号墓北側周濠から出土した。2点とも鉄分が付着し、器面の劣化が著しい。2は器高25.0cm、口径14.5cmを測る。3は口径15.8cmを測る。

第12図-1はSD-102Bの第6層から出土した大和Ⅴ様式の甕である。外面はケズリ、内面はナデ調整だが一部にハケ調整を施す。

第12図-2～5は、SD-102の上層（第1～3層）から出土した大和Ⅵ-3～4様式頃にかけての弥生土器である。2は長頸壺で、頸部内外面と胴部外面はヘラミガキである。器高27.2cm、胴部直径18.4cmを測る。3は小形の甕である。外面はタタキ、内面は横方向のハケ仕上げである。器高10.7cm、口径12.2cmを測る。煤の付着はみられない。5は高坏である。外面はヘラミガキであるが、坏部の内面はハケ後に粗いミガキを施す。器高15.8cm、坏部の直径21.8cmを測る。

第12図-6はSD-101Bの上層（第5層）から出土した高坏である。

第12図-7・8はSD-101第1層から出土した古式土師器である。庄内期の小形器台で、この溝の埋没時期を示すものと考えられる。



第12図 出土土器 2

第13・14図の木製品は、SD-101Bの下層(第12・13層)および底面の土坑状遺構(第13-c層)から出土した。供伴する土器から、大和第Ⅳ様式の遺物と考えられる。

第13図-3の横杓子は未成品とみられる。突起部に別作りの柄を組み合わせるものと考えられる。

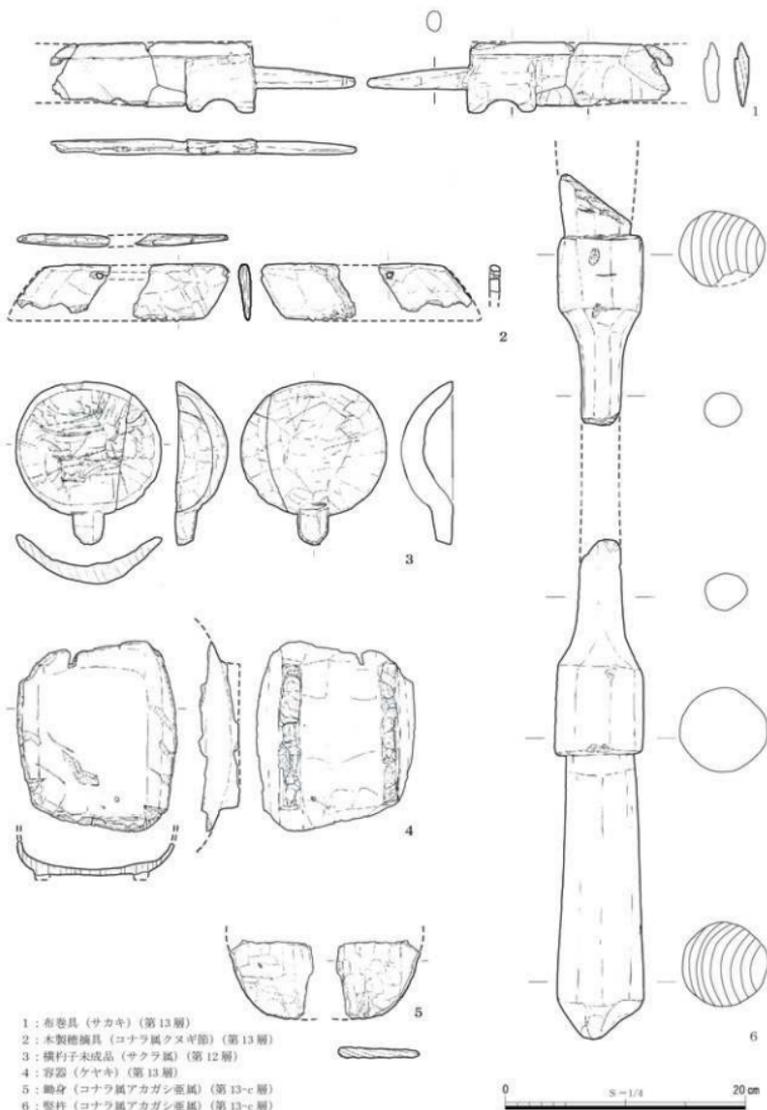
第14図-3の組合せ式高杯は、杯部の軸と目釘が残存する。脚部と軸部はいずれもヤマグワ製であるが、目釘は散孔材である。焼損していることから、破損後に廃棄された可能性がある。なお、第14図-1の高杯も一部焼損している。

第14図-8の用途不明品は、先端をとがらせ、2ヶ所にくびれがある板である。一部炭化する。人形の可能性もあるが類例が乏しいため用途は明らかでない。

#### 4. まとめ

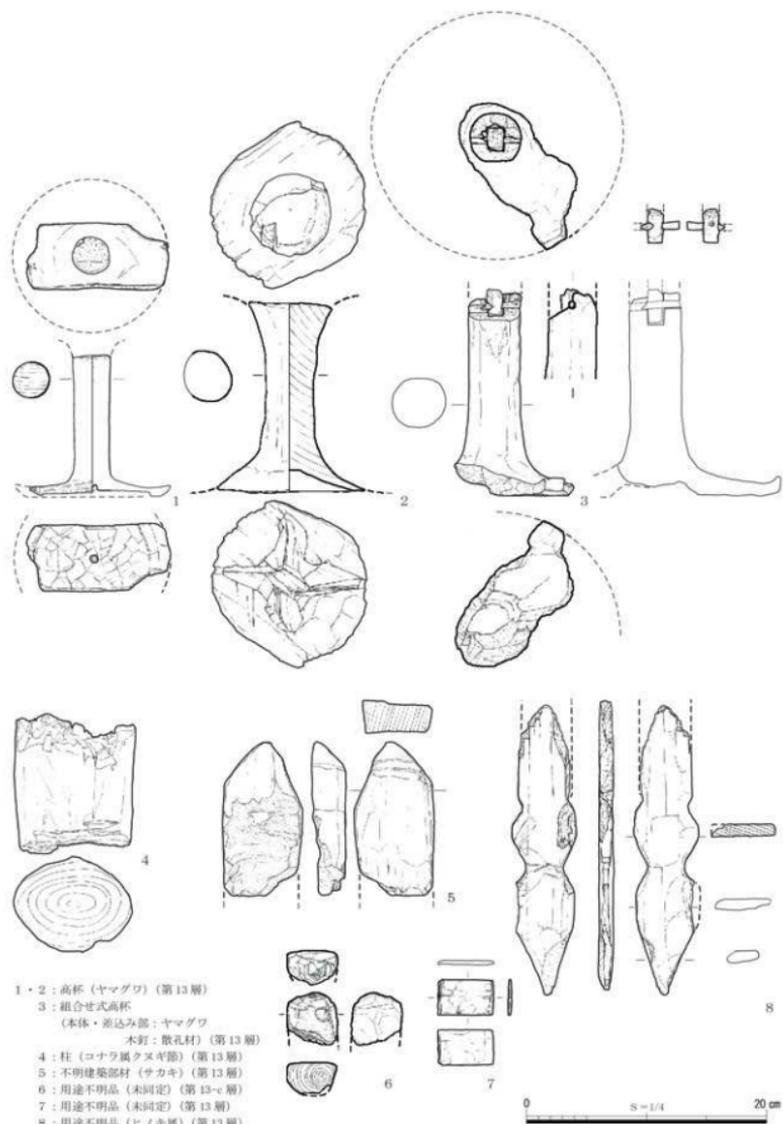
今回の調査は、遺跡北西部の環濠帯の変遷と周囲の土地利用を考える上で重要な成果が得られた。以下に土地利用の変遷を簡単にまとめる。

- ・弥生時代前期の遺構は、壺棺の可能性のある壺1点を検出している程度である。壺棺とすれば、集落辺縁部では、墓域として利用されることが希にあってと考えられる。
- ・中期初頭に遡る可能性があるSD-201が掘削される。ただし、環濠というよりは第85次調査地へと直線的に延びる大溝であり、近年十六面・薬王寺遺跡第31次調査などで検出しているような耕地に掘削された直線的な用水路(大規模な遺構ではあるが、遺物が殆ど出土せず、集落域から離れている可能性が高いもの)という理解も可能かもしれない。



- 1: 布巻具 (サカキ) (第13期)  
 2: 木製櫛櫛具 (コナラ属クヌギ節) (第13期)  
 3: 横杵子未成品 (サクラ属) (第12期)  
 4: 容器 (ケヤキ) (第13期)  
 5: 鉢身 (コナラ属アカガシ亜属) (第13-c期)  
 6: 整杆 (コナラ属アカガシ亜属) (第13-c期)

第13図 SD-101B出土木製品1



第14図 SD-101B出土木製品2

- ・弥生時代中期中葉には方形周溝墓2基が築かれ、墓域としての土地利用がなされる。
- ・その後、墓域を壊しながらSD-102C・SD-103Bといった断面逆台形の大溝が掘削され、環濠帯の一部に取り込まれる。また、中期中頃～後半にかけてSD-101Cが掘削される。
- ・中期後半の大溝SD-101Cからは周囲の自然木を伐採したためか、伐採痕のみを残す自然木が多数出土した。また、SD-101Cの平面プランを変更する形で再掘削された大溝SD-101Bの底で検出した土坑状の部分は木製品が多く出土しており、貯木のための構造物である可能性がある。ただし、焼損するなど破棄された状況の木製品も含まれるため、その位置づけは今後の検討が必要である。
- ・後期後半にはSD-102Cの再掘削（SD-102B）がおこなわれ、SD-103Bも再掘削（SD-103）された可能性がある。また、SD-101・102が後期末～庄内期にかけて再掘削される。
- ・古墳時代～古代の遺構は皆無。ただし、興福寺雑役免庄の坪付板からみて古代末には耕地となっていた可能性が高い。
- ・中世には耕地化が進み、現代に至る。



写真1 SD-101 出土土器



写真2 SD-102 上層出土土器



写真3 SD-101B 出土木製品

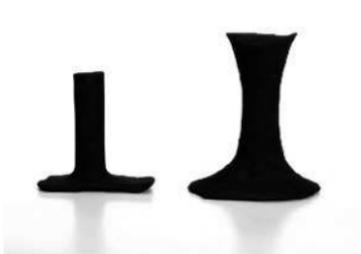


写真4 SD-101B 出土木製高杯



写真5 調査地全景(上が北)



写真6 1号墓(南東から)



写真7 2号墓(北から)



写真8 SD-201B 完掘状況(南から)



写真9 SD-101C 完掘状況(南から)



写真10 SD-201 完掘状況 (南西から)

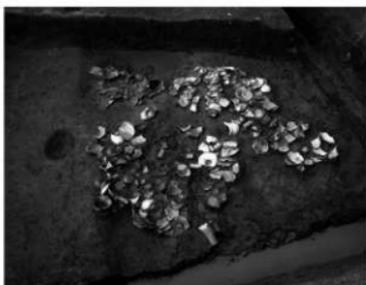


写真11 SD-102 第3層出土状況 (南から)



写真12 SD-101B 雑木出土状況 (南西から)



写真13 SD-101 完掘状況 (南から)



写真14 SD-103 完掘状況 (南から)



写真15 完掘状況 (東から)

## 2. 宮古北遺跡 第18次調査

### 1. 遺跡・既調査の概要

宮古北遺跡は、奈良盆地の中央、標高47m前後の沖積地に立地する。弥生時代～古墳時代前期の集落跡、古代の建物群などからなる複合遺跡である。当初は保津・宮古遺跡の一部として認識されていたが、調査の進展とともに保津・宮古遺跡との間に遺跡の空白部分が認識され、さらに北側の黒田池周辺の遺物散布地東側でも古墳時代前期の遺構が確認されたため（保津・宮古遺跡第11次調査）、保津・宮古遺跡第3・4次調査区とその北側を保津・宮古遺跡とは別の集落遺跡「宮古北遺跡」として取り扱うこととなった。宮古北遺跡では、遺跡西部で布留式古段階の方形区画を伴う集落、遺跡東部で布留式新段階の集落をそれぞれ検出しており、地点により集落の営まれた期間が異なるとみられる。また、古代道路「筋違道」に近接する地点で検出された飛鳥時代の建物群は倭屯倉に関わる遺構の可能性も考えられている。さらに、宮古北遺跡東端では、宮古前遺跡・宮古石橋遺跡として本遺跡から独立して認識されることになった中世の屋敷跡がある。なお、宮古北遺跡東部の第10次調査、遺跡中央北の第11・16次調査では顕著な遺構がみられず、各時期の遺構集中区との間には遺構密度の低い地区が点在している可能性が考えられる。

今回の調査地は、遺跡中央にあたり、布留式古段階の集落域の東側に隣接する場所と想定される。建物本体は約6,000㎡であるが、基本的には基礎掘削が遺構面まで及ばない設計であり、部分的に深くなる建物北端が発掘調査の対象となった。調査区は東西36m、幅3mの108㎡である。

### 2. 調査の成果

#### (1) 層序

調査地の現状は物流センターとして過去に造成を受けた土地で、客土が1.3m前後ある。

I-1: アスファルト〔検出標高47.65m、以下数値のみ記す〕、I-2: クラッシャーラン〔47.55m〕、I-3: 淡褐色砂礫土（改良土）〔47.45m〕、II: 暗青褐色土〔46.4m〕、III: 青灰褐色粘質土〔46.3m〕、IV: 青灰褐色粘質土（黄褐斑）〔46.1m〕、V: 黄褐色シルト〔46.0m〕

第I-1～I-3層が現代造成・整地層で、深さ1.25mを測る。第II～IV層が旧水田層および床土層である。各時期の遺構は第V層上面で検出した。なお、調査区南半は保津・宮古遺跡第3次調査時の試掘調査区が重複しており、調査済みである。

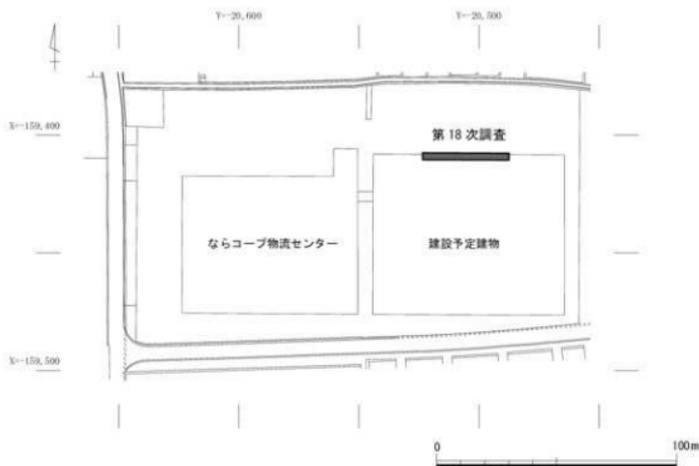
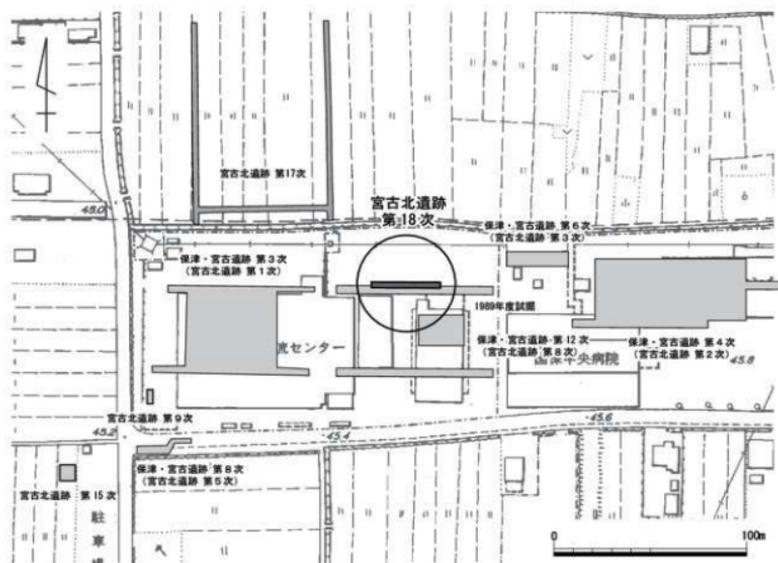
#### (2) 遺構と遺物

##### 古墳時代

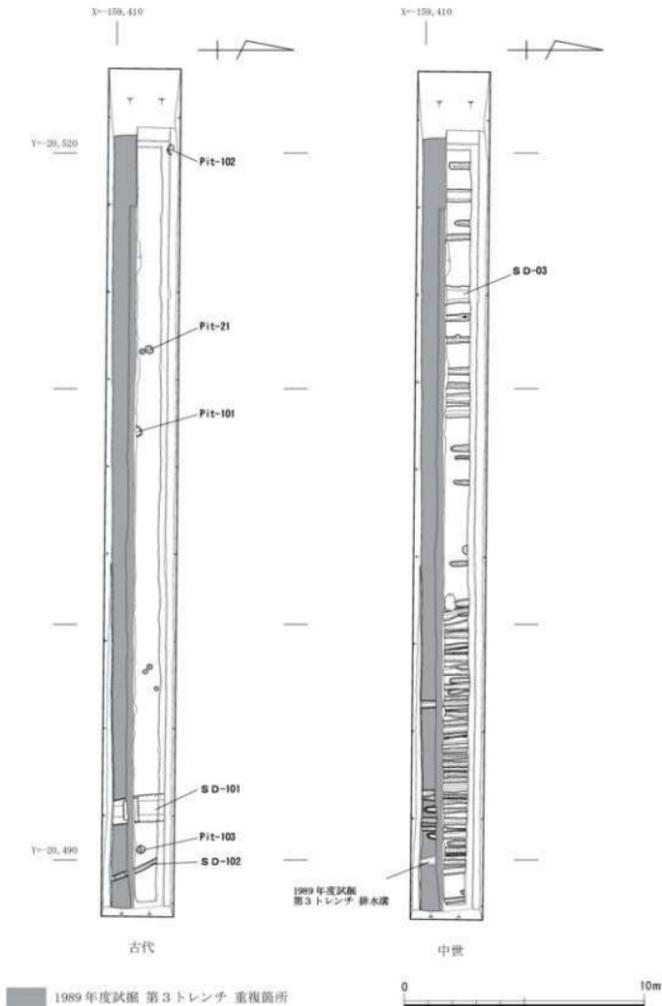
**SD-101** 調査区東半で検出した南北方向の大溝である。幅1.1m、深さ0.3mを測る。須恵器壺片が出土している。遺物から、古墳時代後期の遺構と考えられる。

**SD-102** SD-101の東側2mで検出した西北西-東南東方向の小溝である。幅約0.2m、深さ約0.2mを測る。南半は過去の調査時に掘削されていた。遺物が僅少であるため、詳細な時期は不明である。ただし、筋違道と方位が一致する方向であることから、古代に遡る溝である可能性が考えられる。

**柱穴群** 調査区全体で古墳時代後期～古代とみられる柱穴3基、中世の可能性のある柱穴1基を

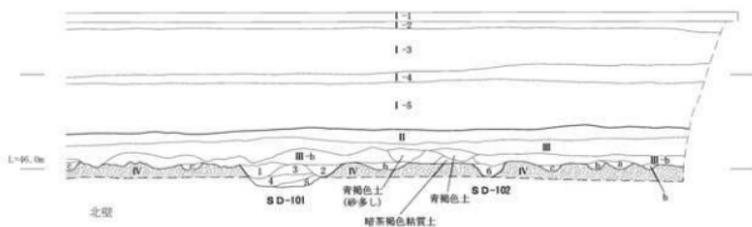


第15図 調査地位置図 (上: S = 1/2,500、下: S = 1/2,000)



第16図 調査区平面図 (S=1/200)

L=48.0m



北壁

- I-1 アスファルト
- I-2 クラッシューラン
- I-3 赤褐色砂礫土〔改良土〕
- I-4 緑青色砂礫土
- I-5 山砂と緑青色上のブロック土
- II 緑青色土
- III-a 青灰色粘質土
- III-b 青灰色粘質土〔黄褐色、しまる〕
- V 黄褐色シルト〔ベース〕

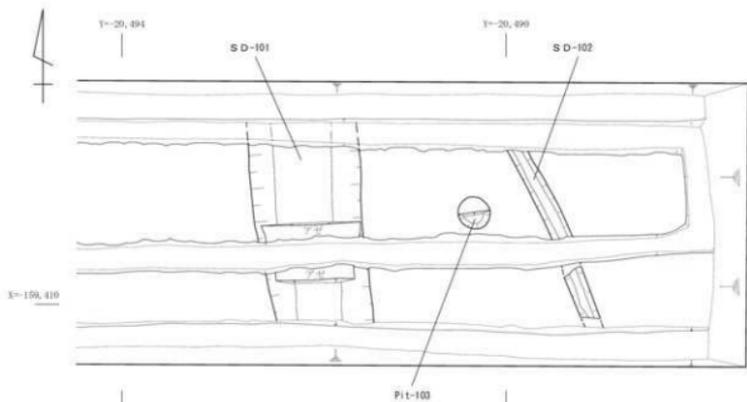
- a 灰色粘質土
- b 緑灰色粘質土
- c 緑灰色粘質土〔剛い〕

SD-101

- 1 緑灰色土〔黄褐色シルト混〕
- 2 緑灰色粘質土〔茶色〕
- 3 緑青色粘質土
- 4 黄褐色粘質土
- 5 緑灰色風砂〔粘土質〕

SD-102

- 6 緑青色粘質土



X=150,410

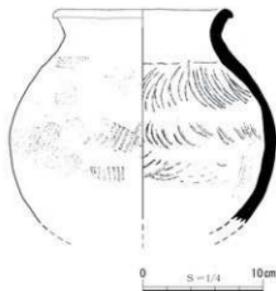
0 2m

第17図 古墳時代遺構平面図・北壁断面図 (S = 1/50)

検出した。いずれも直径0.3m前後、深さ0.1～0.3mである。調査区が細長いため、建物の平面プランを確認するには至らなかった。

### 中世

**奈掘小溝群** 調査区全体で検出した、南北方向の小溝群である。遺物が僅少であり、詳細な時期は明らかでない。ただし、前述のS D-102を切ることから、中世前後の遺構と考えられる。



第18図 S D-101出土須恵器壺

### 3. まとめ

今回の調査では、古墳時代後期の溝と柱穴数基などを検出した。古墳時代後期にも何らかの遺構があったと確認できたことの意義は大きい。また、古代頃とみられる筋違道と方位が一致する小溝S D-102の位置づけについては検討が必要である。



写真1 遺構検出状況(東から)



写真2 S D-101(南から)



写真3 S D-101出土状況(東から)



写真4 完掘状況(東から)

### 3. 羽子田遺跡 第38次調査

#### 1. 遺跡・既調査の概要

羽子田遺跡は、奈良盆地の中央、標高49m前後の沖積地に立地する。弥生時代～古墳時代前期の集落跡、古墳時代前期末～後期の古墳群からなる複合遺跡である。古墳時代前期末に形成が始まる古墳群（羽子田古墳群）は現在30基を確認しているが、その大半は1辺10m前後の方墳で、前方後円墳とみられるものは3基程度である。このうち、1号墳は古墳群の南端付近にあり、明治30年の病舎建築工事時に牛形埴輪や盾持人などの形象埴輪が出土している。牛形埴輪はほぼ完存する希少な牛の埴輪であることから、「埴輪牛」として重要文化財の指定を受けている。第11・36次調査で1号墳の周濠を確認しており、北西～南東に軸をもつ前方後円墳である可能性が考えられているものの、埴形と埴丘規模についてはよくわかっていない。

今回の調査は、1号墳の南端とその南側隣接地での宅地分譲工事に伴い、共用部分の道路敷について実施した。調査では、南東側の状況が判明していない1号墳の埴形についての情報が得られることが期待された。なお、本調査地の南側には室町時代以降に成立したとみられる小室環濠集落が拡がり、特に集落の北端に配置された長顕寺に隣接する位置となる。ただし、本調査地は環濠の外となるため、中世遺構については希薄であることを予想していた。

#### 2. 調査の成果

##### (1) 層序

調査地は宅地である。過去の造成により1m弱の客土層が形成されていた。ここでは、調査区北半の層序を示す。

I：暗褐色土〔検出標高49.25m、以下数値のみ記す〕、II：黄褐色砂礫土〔49.15m〕、III：黄灰色粘土・青灰色シルト・暗褐色土・黒色粘土のブロック土〔49.05m〕、IV：灰褐色土〔48.3m〕、V：暗青褐色土〔48.1m〕、VI：灰褐色粘質土（灰黄色粘質土ブロック混）〔48.0m〕、VII：暗褐色粘質土〔47.8m〕、VIII：黒色粘土〔47.6m〕、IX：灰白色粘土〔47.4m〕

第I～III層が造成土で、特に第III層は田原本町周辺でしばしば見られる地盤層の黄灰色粘土・青灰色シルトを中心とするブロックを主体として形成されていた。平安時代後期～鎌倉時代前半頃の瓦器片も混在しており、どこかの中世遺構が分布する場所でおこなわれた土木工事の残土である可能性がある。

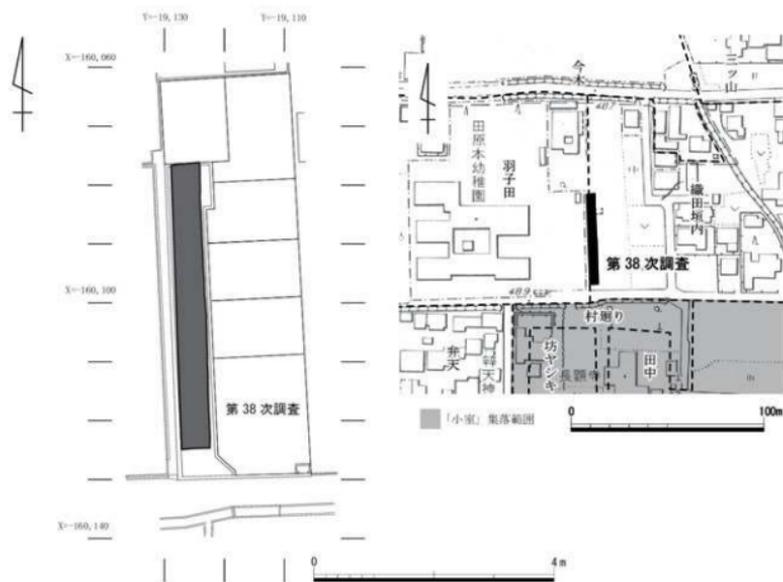
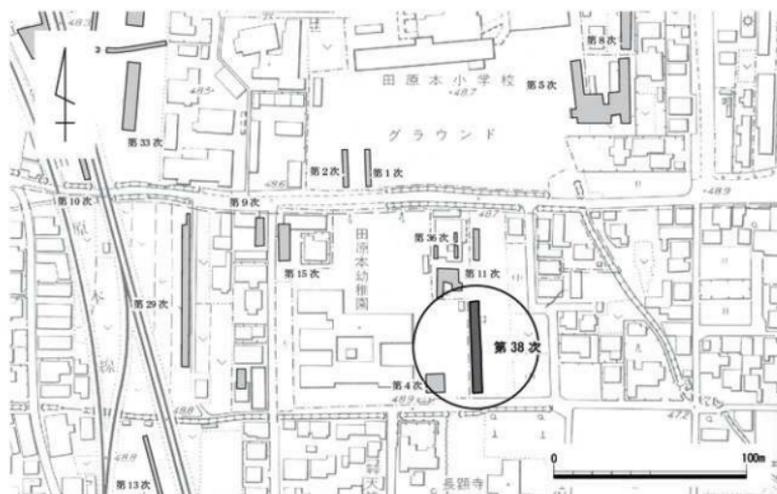
第VI層上面が中世の遺構検出面となり、第VII層上面が古墳時代の遺構検出面となっているが、調査区南半では第VI層がみられず、直接第VII層で古墳時代～中世の遺構が検出される。

##### (2) 遺構と遺物

###### 弥生時代後期～古墳時代中期

**SR-101** 調査区南端で検出した河跡とみられる遺構である。調査区外に拡がるため、規模は明らかでない。古式土師器とみられる土器片が少量出土した。

**SR-102** 調査区中央で検出した、南南東～北北西方向の河跡である。幅約10m、深さ約0.6mを測る。河の下層堆積からは布留1式頃の土器片が出土しているが、中・上層からは5世紀代の須



第19図 調査地位置図 (上: S=1/2500、左下: S=1/80) および、調査地周辺小字図 (右下: S=1/2500)

恵器や馬歯などが出土した。なお、後述する6世紀頃の溝SD-101に切られる。

#### 古墳時代後期

**羽子田31号墳** 調査区中央で検出した北西-南東方向の溝SD-101と、その北側で検出した南西-北東の溝SD-102がほぼ直行する位置関係となり、いずれも粗砂を主体とした堆積土であることから、両溝が1つの方墳を構成していると思われる。墳丘規模は調査区外に広がるため不明だが、南側のSD-101が幅2.5m・深さ0.6m、北側のSD-102が幅2m・深さ0.6m。遺物は僅少であるが、古墳時代後期頃の土器を含む。

**羽子田32号墳** SD-104は、調査区北端で検出した北東-南西方向の溝である。幅約1m、深さ0.6m。5世紀代とみられる円筒埴輪片が少量出土した。方墳の周濠とみられる。なお、北側の第11次調査でも同じ輪の溝を検出しており、両者が同一の方墳を構成している可能性が考えられる。この場合、墳丘規模は10mとなる。

**SD-103** 調査区北側で検出した、北西-南東方向の溝である。幅2.6m、深さ0.7mを測る。調査区南東で若干東側に屈曲する。堆積土は中層までが灰色粘質土、下層が粗砂となっている。なお、本遺構の最上層から平安時代頃の須恵器三耳壺が出土した(第22図-1)。9世紀頃に播磨周辺で製作されたものである可能性がある。なお、この溝は羽子田1号墳の外濠に相当する可能性もあるが、今回の調査成果のみでは判断できない。

#### 中世

**SD-51** 調査区全体で検出した、南北方向の大溝である。深さ0.7m、西屑のみの検出であるため溝幅は不明だが、南端で2m以上あることを確認した。中層から瓦器・土師質羽釜などの土器が出土した(第22図-2・3)。遺物の時期から、13-14世紀頃の遺構と考えられる。

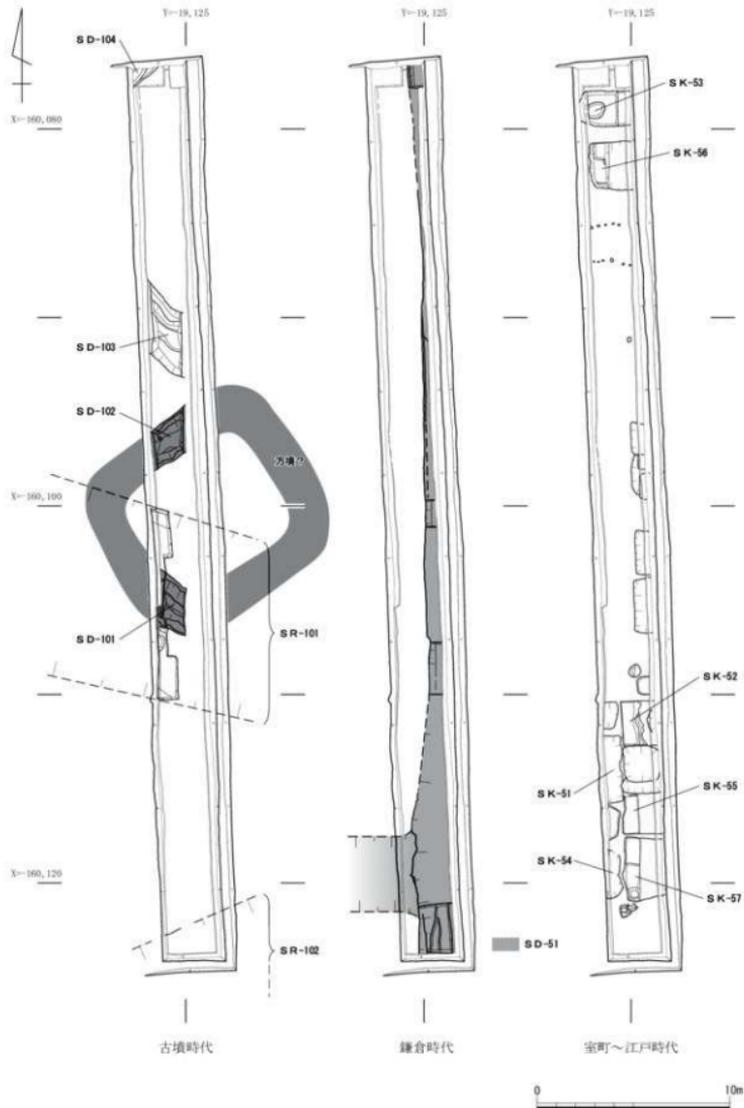
#### 近世初頭

調査区全体で多数の方形の土坑を検出した。大半が中世大溝SD-51と重複して掘削されており、SD-51の堆積土である灰色粘土を採取するための粘土採掘坑である可能性が高い。土坑は重複するものを含めて19基を検出したが、うち1基を完掘、5基を半掘して時期と堆積状況を確認した。

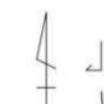
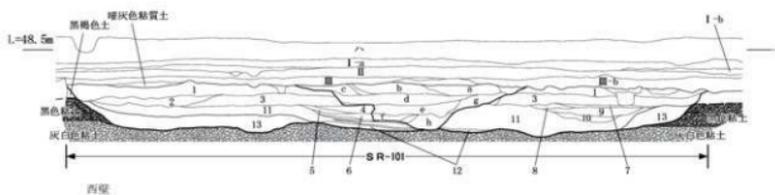
**SK-51** 調査区南側西端で検出した土坑である。南北3.6mを測る。大半が調査区外となるため、東西の規模は不明。上層を掘削したのみであり、詳細は明らかでない。

**SK-52** 調査区南半で検出した、深さ0.5mの方形の土坑である。南北2.4m以上、東西1.4m以上を測るが、東側と南側を別の粘土採掘坑に切られるため、正確な規模は明らかでない。東側から埋められたとみられ、下層の黒褐色土(ブロック土)が東半に偏っている。土師質羽釜などが出土した。中世末-近世初頭の遺構とみられる。

**SK-53** 調査区北端で検出した、1辺2m、深さ1.2mの方形の土坑である。下層は青灰色粘質土、上層は褐色土を主体とするブロック土堆積で埋没している。土坑底には17世紀の瓦が多数遺棄されていた。出土位置が北側に大きく偏っており、土坑の北側から投棄されたものと考えられる。出土した軒瓦のうち残存の良好なものを図示する(第22図-4~9)。このうち、4~7の軒丸瓦は范傷の位置が一致することから、同一の范型を用いているとみられる(奈良市教育委員会 原田氏の教示による)。8は鳥衾とみられる道具瓦である。共通する特徴として、離型用の雲母が表面に多く付着する。また、破断面や剝離面も燻し焼きされて黒色化していることから、焼成時に破損したも



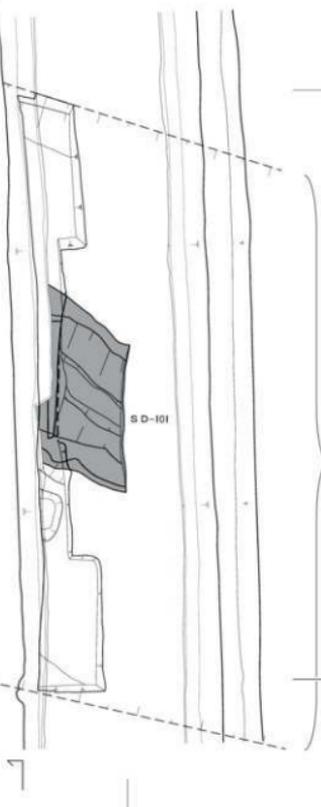
第20図 調査区平面図 (S=1/250)



Y=19, 125

X=160, 100

X=160, 110



ハ 鉄砲貫のブロック土〔家土〕

- I-a 埋青色土 (ソフト)
- I-b 埋青色土 (やぐら、茶庭)
- II 埋茶灰色土
- III 埋灰色粘質土
- IV 埋灰色粘質土・黄褐色土ブロック

**S D-101**

- a 埋灰色土 (シルト質)
- b 埋灰色シルト
- c 埋青色土 (ブロック状)
- d 埋灰色粘砂
- e 灰白色粘砂
- f 埋灰色粘質土 (ブロック状粘砂面)
- g 埋灰色粘質土 (シルト質)
- h 埋灰色粘質土 (ブロック状、黄褐色粘砂面)

**S R-101**

- 1 埋褐色土
- 2 埋灰色粘質土
- 3 埋褐色土 (粘質)
- 4 灰色粘土 (微砂質)
- 5 灰色微砂
- 6 灰色粘土
- 7 埋灰色粘質土
- 8 埋灰色粘質シルト
- 9 埋灰色粘砂
- 10 埋褐色粘質土
- 11 灰色粘土 (灰黄色シルト面)
- 12 埋灰色粘質土
- 13 埋灰色粘土



第21図 S R-101・S D-101平面図および西壁断面図 (S=1/80)

のである可能性が高い。

**SK-56** SK-53の南側に隣接して掘削された、南北2m、深さ1.3mの方形の土坑である。西半のみ掘削して深さ・層序を確認した。遺物は僅少であり、詳細な時期を明らかにすることができなかった。

**SK-55** 調査区南側で検出した、南北2m以上、東西2m以上の方形の土坑である。東側が調査区外となり、北側が別の粘土採掘坑に切られるため、正確な規模は明らかでない。西半のみ掘削をおこなった結果、深さ0.5mであることを確認した。中世末～近世初頭の土器が出土しているが、平安時代末～鎌倉時代頃の瓦器片も多数出土している。SD-51を切ることから、本来SD-51に伴う土器である可能性が高い。

**SK-57** SK-55の南側に隣接して掘削された、南北3.4m、深さ1mの方形の土坑である。東側が調査区外に拡がるため、東西の幅は明らかでない。西半のみを掘削して深さ・層序を確認した。南半が一段深くなる。遺物は少ないが、盾形埴輪片等が出土している。ブロック土を主体とした堆積土であることから、他の土坑と同様、SD-51の粘土堆積を目的に掘削された粘土採掘坑であると考えられる。

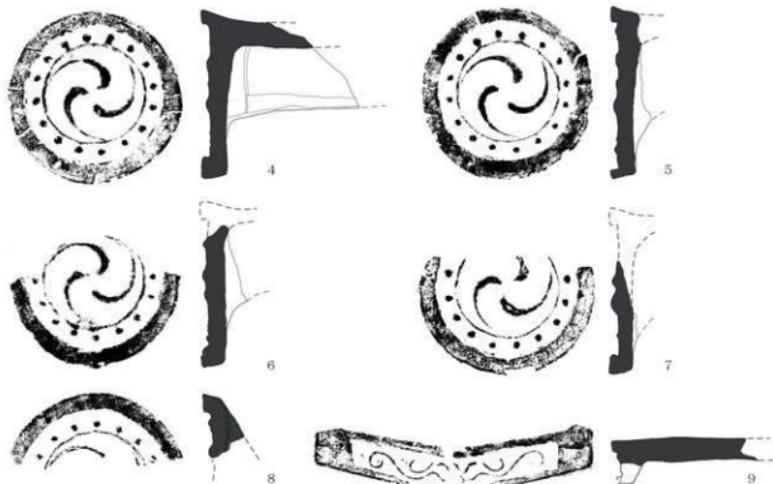
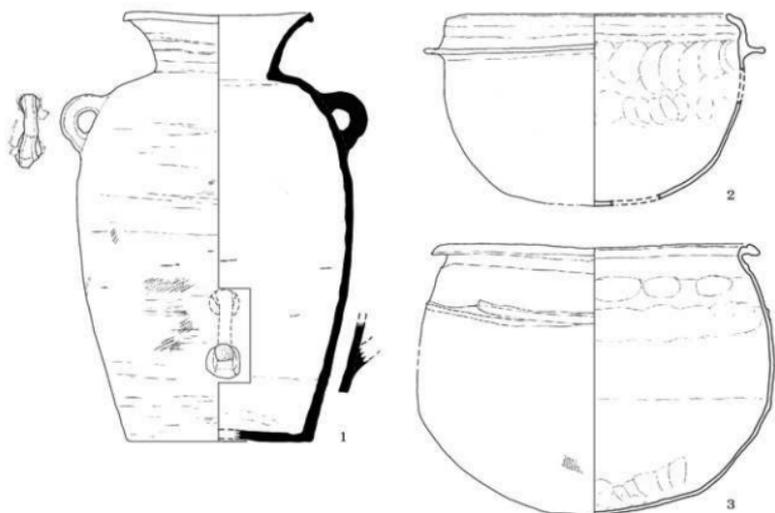
### 3. まとめ

今回の調査では、重要文化財「埴輪牛」を伴っていた古墳と考えられる羽子田1号墳についての直接的な遺構を検出することはできなかった。また、第36次調査では二重周濠の可能性も考えられていたが、今回の調査で検出したSD-103を外濠とする復元案については対応すべき第11次調査地の遺構と堆積土が大きく異なるため、現状では積極的に二重周濠とすることは難しい。今後、周囲で調査する機会があれば確認をすすめていく必要がある。

今回の調査では、当初予想していなかった中世の遺構・遺物が多くみられた。南側隣接地の小室集落は室町時代頃に環濠集落化したと考えられるが、本調査地の小字名「織田垣内」も集落に関わる名称であり、鎌倉～室町時代頃の屋敷地が存在した可能性も考えられる。

また、調査区全体で江戸時代の瓦製作に関わるとみられる粘土採掘坑を多数検出した。全ての粘土採掘坑を調査したわけではないが、うち1基には焼成失敗品とみられる17世紀の瓦が多数破棄されていた。平野氏による田原本の直接支配が始まった時期の資料であるとするれば、教行寺の著尾転出から現在の浄照寺建設に至る一連の造営事業とも関連する可能性があり、どのような建物に使用されたのかを十分検討する必要がある。

なお、須恵器三耳壺については奈良市教育委員会 三好美穂氏・池田裕英氏、独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所 尾野善裕氏・神野恵氏・小田裕樹氏ほか多くの方からご教示を賜った。また、瓦については奈良市教育委員会 原田憲二郎氏からご教示を賜った。ここに記して感謝いたします。



1: 須恵器三耳壺 (SD-103)

2: 土師器羽釜 (SD-51)

3: 土師器土釜 (SD-51)

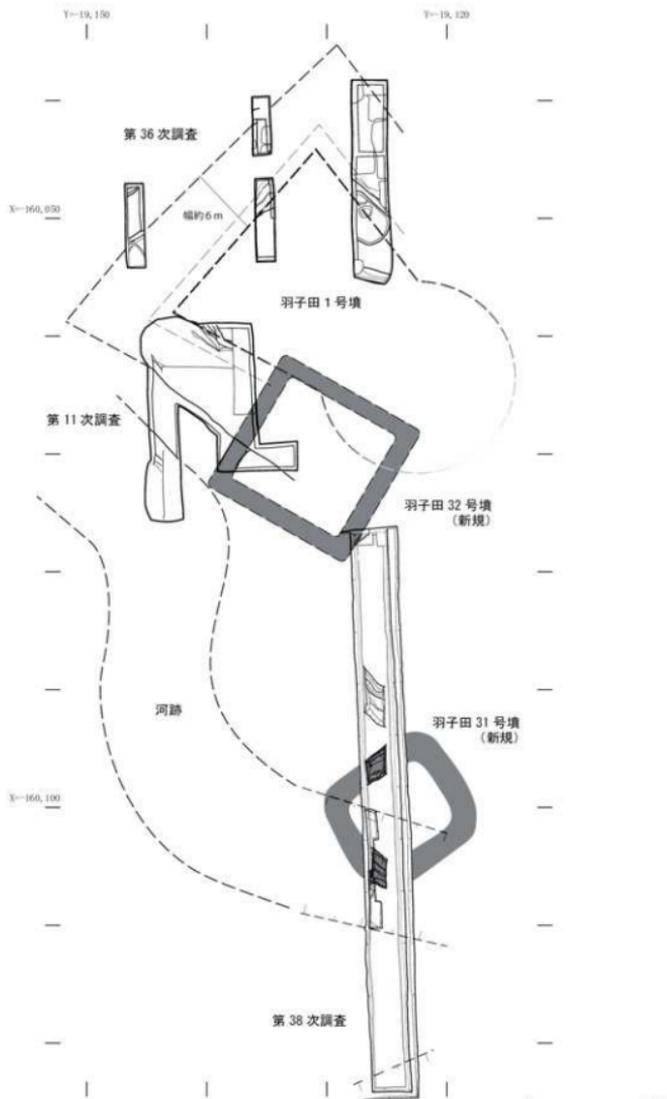
4~7: 軒丸瓦 (SK-53)

8: 鳥食? (SK-53)

9: 軒平瓦 (SK-53)

0 5=1/4 20 cm

第22図 出土遺物



第23図 羽子田1号墳復元想定図 (S=1/200)



写真1 遺構検出状況(南から)



写真2 SD-51 完掘状況(北東から)



写真3 SK-52 羽釜出土状況(南から)



写真4 SK-53 瓦出土状況(東から)



写真5 SD-101 掘削状況(東から)



写真6 完掘状況(南から)

## 4. 羽子田遺跡 第39次調査

### 1. 遺跡・既調査の概要

羽子田遺跡は、奈良盆地の中央、標高49m前後の沖積地に立地する。弥生時代～古墳時代前期の集落跡、古墳時代前期末～後期の古墳群からなる複合遺跡である。古墳時代前期末に形成が始まる古墳群（羽子田古墳群）は現在30基を確認しているが、その大半は1辺10m前後の方墳で、前方後円墳とみられるものは3基程度である。このうち、1号墳は古墳群の南端付近にあり、明治30年の病院建設工事時に埴輪牛や盾持人などの形象埴輪が出土している。埴輪牛はほぼ完存する希少な牛の埴輪であることから重要文化財の指定を受けている。第11・36次調査で1号墳の周濠を確認しており、北西-南東に軸をもつ前方後円墳である可能性が考えられているものの、墳形と墳丘規模についてはよくわかっていない。

今回の調査は、第38次調査の終了を受けて宅地分譲地造成がおこなわれた6区画のうち、南端の土地での個人住宅建築に伴って実施した。第38次調査の結果から、弥生時代末頃の河跡、中世の遺構が広がることが予想された。

### 2. 調査の成果

#### (1) 層序

調査地は宅地である。

I：黄灰色砂礫土〔検出標高49.1m、以下数値のみ記す〕、II：暗褐色土（ブロック土）〔49.05m〕、III：暗青灰色土〔48.3m〕、IV：暗灰褐色土〔48.05m〕、V：暗灰褐色粘質土〔48.0m〕、VI：橙褐色土〔47.9m〕、VII：暗灰粘〔47.5m〕

第I～II層が造成土で、第II層は第38次調査でも確認した黄灰色粘土・青灰色シルトを中心とするブロック土を多く含む造成土である。弥生時代末～中世の遺構検出面は第V層上面であるが、これ自体が弥生時代末頃の遺構堆積土である。第VI層以下が地山となる。

#### (2) 遺構と遺物

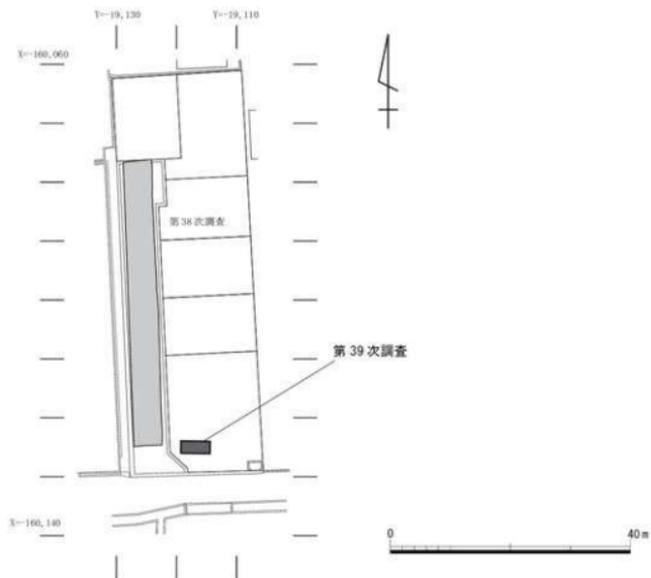
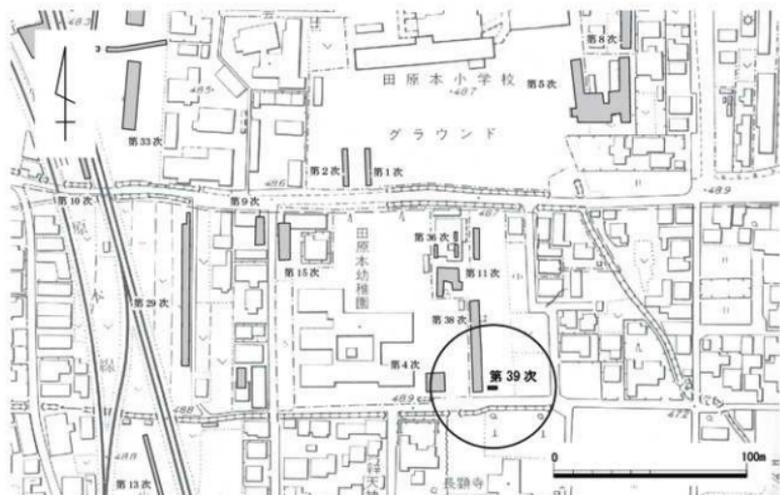
**SR-101** 調査区全体が北東-南西方向の河川内であった。弥生時代末～古墳時代初頭頃の土器片が出土していることから、西側に隣接する第38次調査区南端で検出したSR-101と同一の遺構となる可能性が高い。この場合、遺構の規模は幅9m前後、深さ0.6前後を測る。

**素掘小溝群** 南北方向の小溝10条を検出した。幅0.2～0.3m、深さ0.1m前後を測る。中世の耕作に伴う遺構と考えられる。

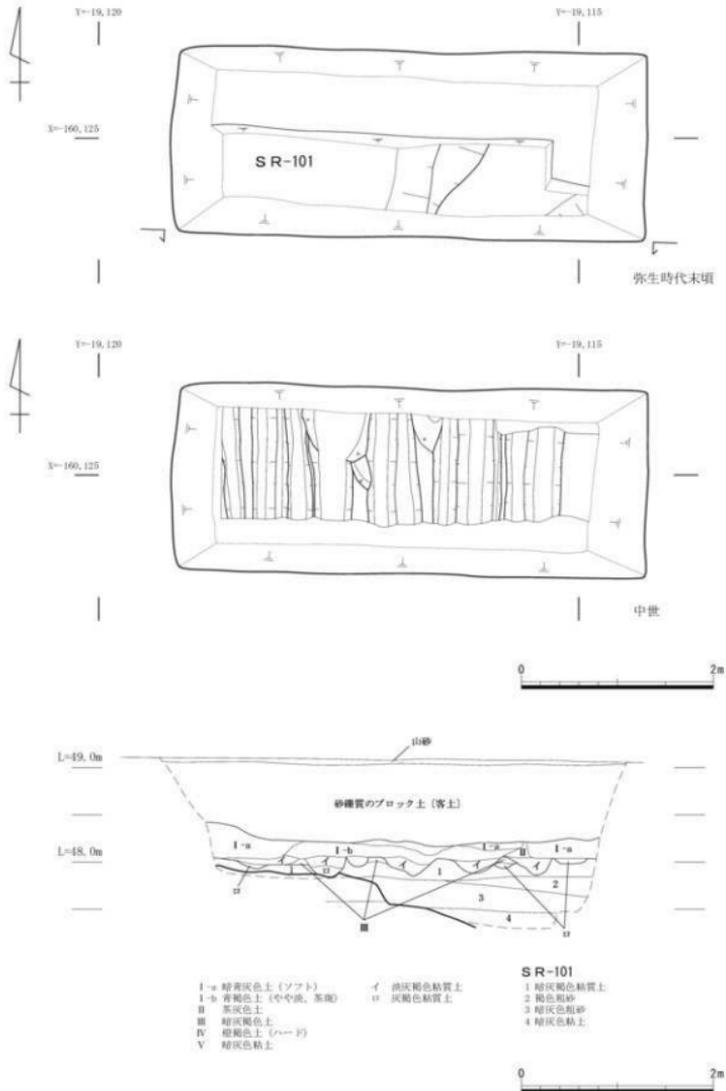
### 3. まとめ

今回の調査では、古墳時代初頭の河跡を確認することができた。第38次調査で西屑のみを検出していたSR-101と同一の遺構とみられ、今回その東屑を確認したことにより、幅0.9m程度という推定値が得られた。

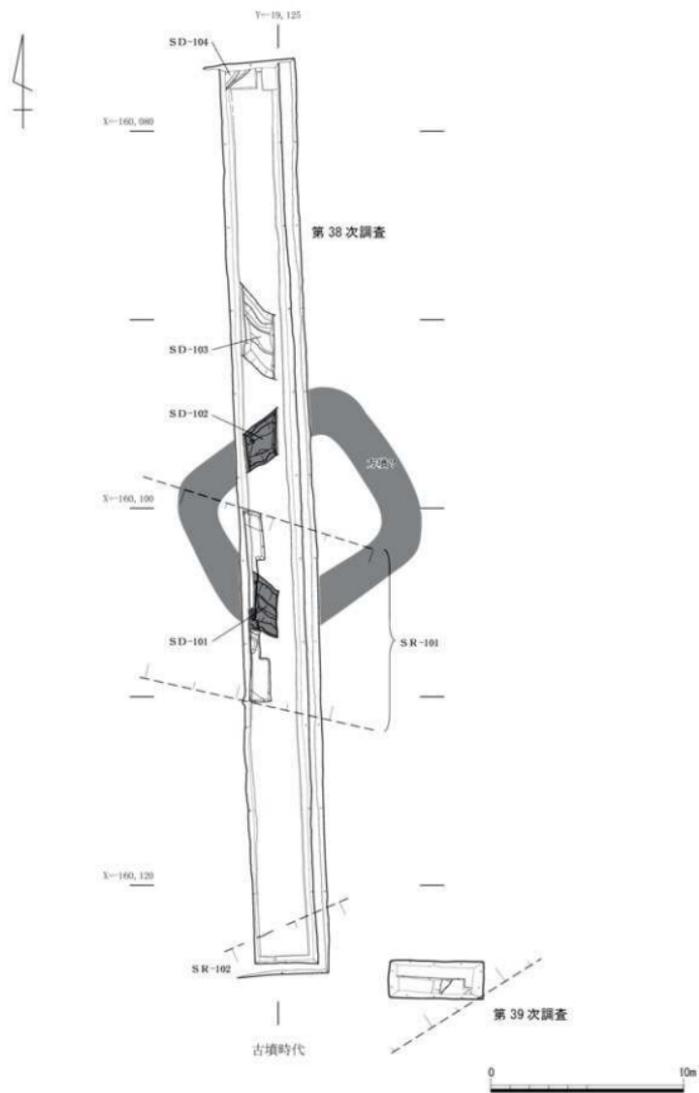
なお、第38次調査で確認している中世大溝について、その東屑を確認することはできなかった。この遺構についての規模の解明は今後の課題となった。



第24図 調査地位置図 (上: S=1/2500、下: S=1/800)



第25図 遺構平面図および南壁断面図 (S = 1/50)



第26図 第38・39次調査区の遺構位置関係 (S=1/250)



写真1 近世遺構検出状況（北西から）



写真2 近世遺構完掘状況（北西から）



写真3 SR-101 完掘状況（北東から）



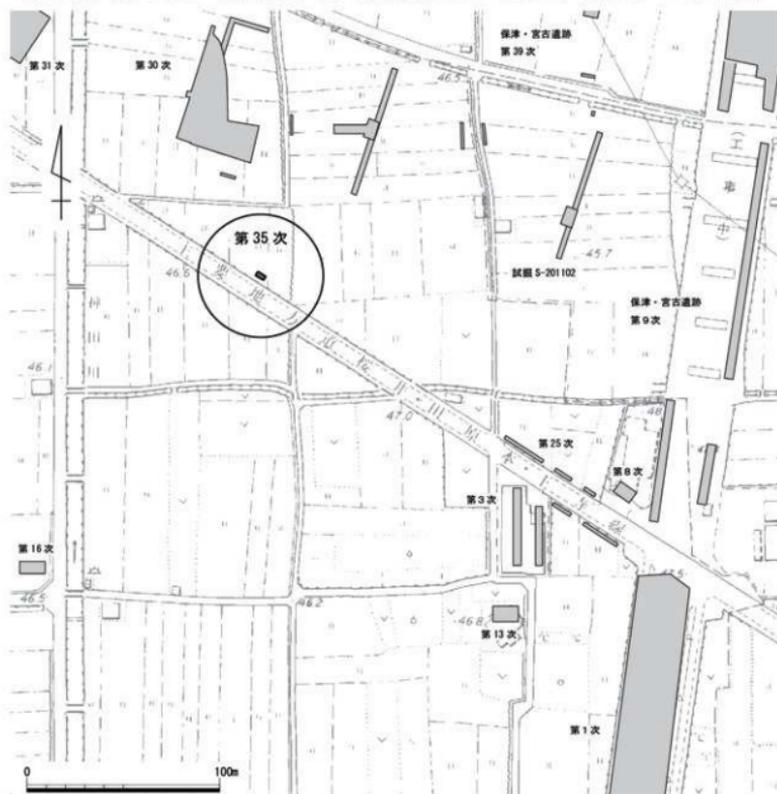
写真4 完掘状況（東から）

## 5. 十六面・薬王寺遺跡 第35次調査

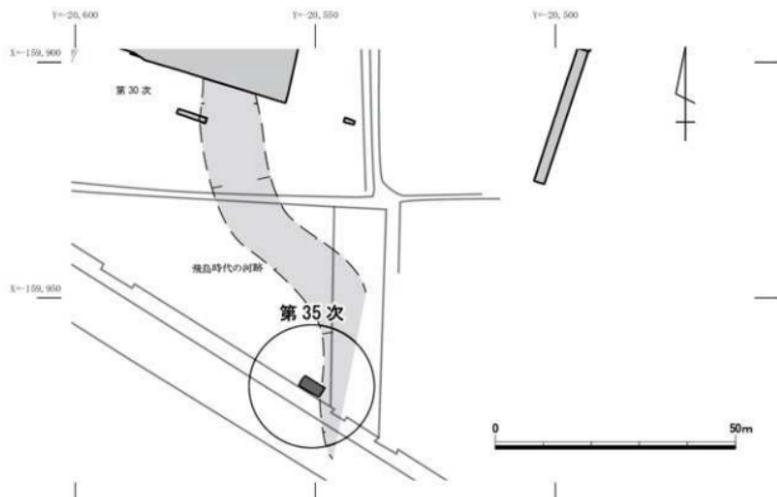
### 1. 遺跡・既調査の概要

十六面・薬王寺遺跡は、奈良盆地の中央、標高48m前後の沖積地に立地する。これまでの調査で、弥生時代から近世にかけての複合遺跡であることが判明している。その内容は、弥生時代前期の集落、弥生時代後期後半～古墳時代前期の集落および方形周溝墓群、古墳時代中期～飛鳥時代の集落および耕地、奈良時代の建物群、中世の環濠屋敷跡などである。中世の環濠屋敷跡は、周囲の小字名から、保津氏の居館跡と推定されている。

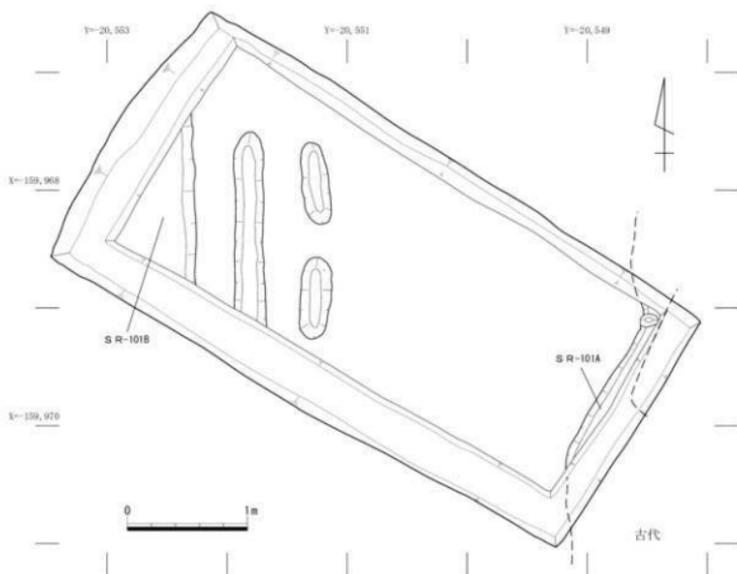
今回の調査地は、遺跡西北部に位置する。平成25年度の発掘調査（第30次調査）後に大型商業施設の建設が始まったが、今回追加工事として看板を設置することとなり、基礎が深いことから発掘



第27図 調査地位置図 (S=1/2,500)



第28図 調査区配置図 (S = 1/1,000)



第29図 調査区平面図 古代遺構面 (S = 1/40)

調査での対応が必要となった。付近では、南東側の第1・3・8・13次調査などで古代の水田遺構等を検出しているほか、北側に隣接する第30次調査で古墳時代前期～中期の集落遺構・飛鳥時代の河跡・奈良時代の建物群などを検出している。今回の調査地は第30次調査区に近接しているため、これらと一連の遺構が検出される可能性が考えられた。

## 2. 調査の成果

### (1) 層序

調査地は平成25年の第30次調査実施前まで水田だったが、大型商業施設の開発に伴い看板設置予定の本調査区の範囲を残して厚さ0.5～1mの造成が進んでいた。

I：暗青褐色土〔検出標高45.7m、以下数値のみ記す〕、II：茶灰色土〔45.5m〕、III：暗灰褐色土〔45.4m〕、IV：暗褐色粘質土〔45.3m〕、V：灰色粗砂〔45.2m〕、VI：暗褐色粘質土〔45.1m〕

第I層は現水田耕土、第II層は床土、第III層は中・近世包含層、第IV層上面が飛鳥時代～中世の遺構検出面、第VI層上面が古墳時代末頃の水田面となる。

### (2) 遺構と遺物

**SD-01・02** 中世頃の南北方向の小溝である。幅0.2m前後、深さ0.05m前後。耕作に伴う遺構とみられる。遺物が僅少であり、詳細な時期は不明。

**SK-51** 調査区北東端で検出した土坑状の遺構である。遺構の一部を確認したのみであり、その規模は明らかでない。深さ0.2m前後。顕著な遺物は出土しなかった。

**SR-101A** 調査区東端で検出した、南北方向で若干蛇行気味の河跡である。肩を一部検出した程度で、遺構の詳細については不明。

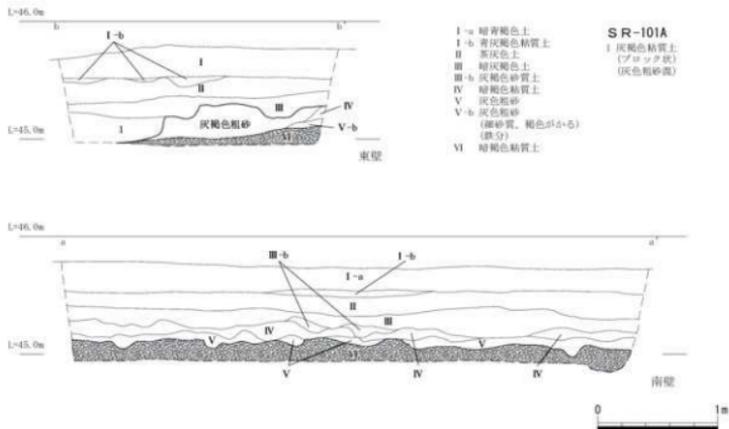
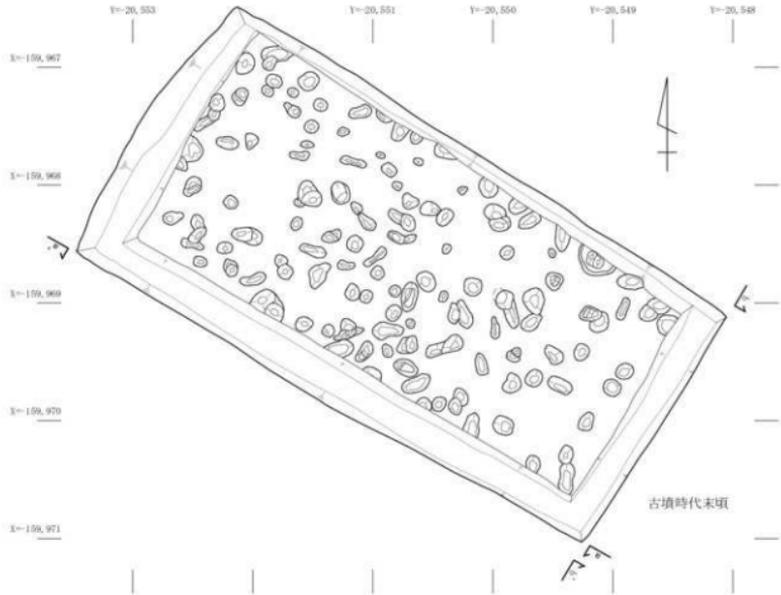
**SR-101B** 調査区西端で検出した粗砂堆積である。南北方向に流れる。東肩を検出したのみであり、深さ等は不明。

**SX-101** 洪水とみられる薄い粗砂層の直下で、調査区全体に広がる足跡状の窪みを多数検出した。埋没水田である可能性が考えられる。ただし、調査面積が狭小なこともあり明瞭な畦畔は確認していない。このため、水田の規模・プランを確認することはできなかった。飛鳥時代前後の遺構と考えられる。

## 3. まとめ

今回の調査では、足跡状の窪みを多数検出した。洪水堆積に被覆された水田面である可能性が考えられるが、調査区が狭小であったこともあり、明確な畦畔は確認することができなかった。北側の第30次調査では、飛鳥時代の河跡と人工的な東西方向の大溝や耕作に伴うとみられる小溝群を確認しており、本調査地で確認した遺構もこれらと一連の水田遺構とみられる。

足跡を伴う飛鳥時代前後の水田遺構は、西側の第31次調査区、南東側の第1・3・8・13次調査でも確認しており、十六面・薬王寺遺跡の北部が飛鳥時代には広大な水田域となっていたことが分かる。付近は倭屯倉との関連が指摘される大字「宮古」にも近く、飛鳥時代には東西軸に一致する用水路が掘削されるなど計画的な水田開発がおこなわれた可能性がある（第30次調査第2トレンチ）。本地周辺の耕地開発については今後の研究課題である。



第30図 調査区平面図 古墳時代末頃遺構面および断面図 (S = 1/40)



写真1 古代遺構検出状況（北から）



写真2 古代遺構完掘状況（北から）



写真3 古墳時代遺構検出状況（北から）



写真4 完掘状況（北西から）

## 6. 多遺跡 第26次調査

### 1. 遺跡・既調査の概要

多遺跡は、奈良盆地のほぼ中央、飛鳥川流域に所在し、標高約52mの沖積地に立地する。遺跡範囲には、多氏の祖である神八井耳命を祀る多神社（多坐弥志理都比古神社）境内を含む。

本遺跡は、昭和47年の飛鳥川改修工事で土器などが出土したことで広く認識されるようになった。その後、水路改修やリハビリセンター建設などに伴って調査が重ねられ、弥生時代から古墳時代にかけての集落遺跡であることが明らかになった。

今回の調査は、多神社の南を通る東西道路の北側拡幅工事に伴うものである。奈良県立橿原考古学研究所が同じ道路の南側で実施した第5次調査では、遺構密度が低く、東へいくほど弥生時代遺物包含層も薄くなるため、遺跡の縁辺であるとしている。今回の調査地も弥生集落域からはやや外れると想定された。

### 2. 調査の成果

#### (1) 層序

調査区は東西100m、南北2mで道路と隣接した水田にまたがる。南壁付近が過去の水道管理設工事の攪乱を受けており、調査地の基本層序は水田側の北壁で示す。

I：暗茶灰色土〔検出標高52.1m、以下数値のみ記す〕、II：淡灰青色粘質土〔51.8m〕、III-a：灰褐色粘質土〔51.6m〕、III-b：灰色粘土〔51.5m〕、IV：黒褐色土〔51.3m〕、V：橙褐色土〔51.25m〕

第III-b層上面まで重機により除去し、近世遺構を検出した。なお、第IV層が弥生時代の遺物包含層に対応する可能性があるが、工事深度より深いため、北壁排水溝・サブトレッチなどでの部分的な検出にとどめた。また、この層からは顕著な遺物は出土していない。

#### (2) 遺構と遺物

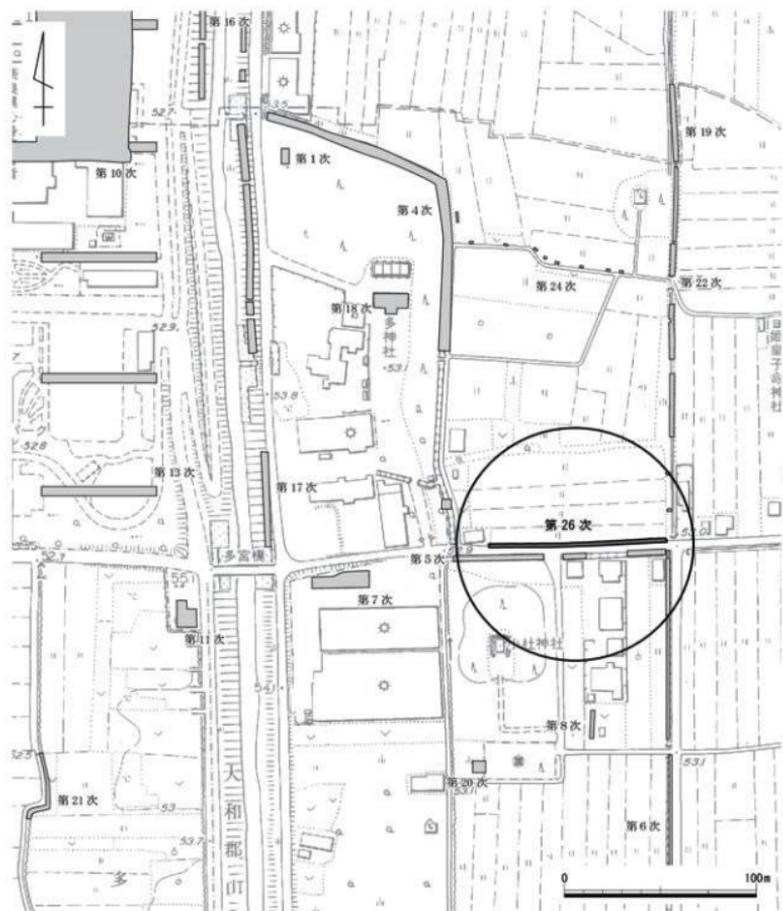
##### 中世

**素掘小溝群** 北排水溝と調査区内6ヶ所に設定したサブトレッチでの確認にとどまっているものの、調査区の全域で東西方向の中世素掘小溝群を検出した。遺物は僅少であるが、羽釜・中世須恵器などが出土した。なお、この小溝群に伴うとみられる遺物に、被熱痕のある小型の瓦質焼成の容器が出土した（第33図）。奈良文化財研究所 小池伸彦氏により蛍光X線分析を実施していただいたところ、内面にごく微量の金が検出された。灰吹法などの金精錬に関わる遺物の可能性もあるが、詳細は不明である。今後の類例を待つ必要がある。

##### 近世

**SD-01** 調査区全体で確認した東西方向の溝跡である。幅0.8m、深さ0.2m前後を測る。近世の里道沿いに掘削された水路跡と考えられる。顕著な遺物が出土していないため、詳細な時期は不明。

**素掘小溝群** SD-01と並行するように、東西方向の素掘小溝群を検出した。遺物は僅少である。



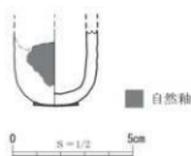
第31図 調査地位位置図 (上: S=1/2,500、下: S=1/1,000)



### 3. まとめ

今回の調査地は、中世以降は耕作地であったと考えられる。弥生時代の薄い遺物包含層を確認したが、遺物は僅少であり、弥生集落としては辺縁部である。地形的に低かったことから、その後形成された中世～近世の堆積層が厚くなったものと考えられる。

出土遺物の分析にあたり、独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所 小池伸彦・神野恵の両氏に多大なるご協力をいただいた。ここに記して感謝いたします。



第33図 出土土器

内面口縁下 (金 検出箇所)

元素	鉄 (Fe)	鉛 (Pb)	チタン (Ti)	ジルコニウム (Zr)	パラジウム (Pd)	亜鉛 (Zn)	マンガン (Mn)	金 (Au)	イットリウム (Y)
含有率	75.7%	5.8%	4.6%	4.4%	3.4%	2.0%	1.8%	1.4%	0.9%

器壁外面

元素	ケイ素 (Si)	鉄 (Fe)	アルミニウム (Al)	チタン (Ti)	マンガン (Mn)	ジルコニウム (Zr)	鉛 (Pb)
含有率	35.0%	32.8%	29.3%	1.4%	0.6%	0.5%	0.4%



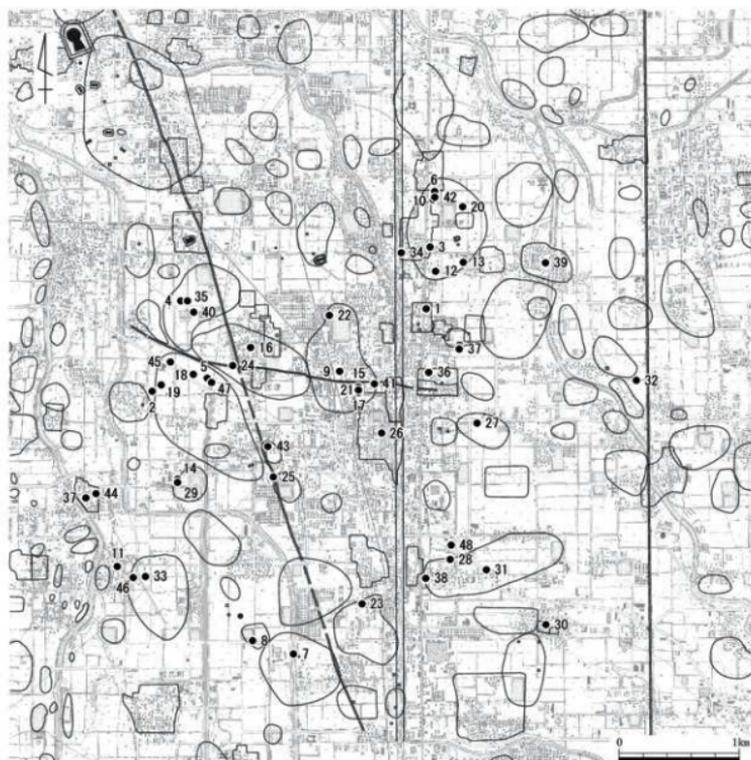
写真1 調査区西端サブレンチ西壁 (東から)



写真2 完掘状況 (西から)

## (2) 工事立会の概要

2014年度に実施した工事立会は48件である(第7表)。史跡整備事業に伴う唐古・鍵遺跡の工事立会が1件、公共上下水道工事に伴う工事立会が4件、その他公共事業に伴う工事立会が7件、個人住宅建築等に関わる工事立会が26件、民間開発に伴う工事立会が10件である。



第34図 田原本町の遺跡と工事立会地点 (S=1/40,000)

第7表 2014年度 工事立会一覧

道路名	調査地	原因者	工事の目的	立会者	調査日	内容	
1	小取田中 (R-201401)	田原本町大字小取 小字北2684番1・ 小字寺内1222番2	個人	舗装工事	清水	2014. 4. 14	舗装の布基礎掘削時に立会。G1-0.9m前後の掘削で、養生時代中期頃の河床埋積?・近世～近代頃の東西遺構確認。遺物検出。
2	西竹田 (R-201402)	田原本町大字西竹田 小字院田32番1	西宮川 コンクリート	骨資原料原場の造成	清水	2014. 4. 14	舗装基礎掘削部分に立会。立会時すでに掘削完了。遺構・遺物なし。
3	唐古・藤 (R-201403)	田原本町大字藤小字上塚 255番3	個人	資材原場の造成	清水	2014. 4. 18	舗装基礎掘削部分に立会。掘削は20L-0.4m掘削で遺構面まで留まるが、一部古土層・遺構面まで掘削される。養生時代中期頃の土層片が少量出土。
4	宮古北 (R-201404)	田原本町大字原田小字高田 124番1号	市民生活協同組合 ならこぼ	倉庫兼事務所棟の建築	清水	2014. 5. 15	建物本体工事着手時に立会。掘立柱状改良と同様のバール埋め込み工事のため、正確不明だが、浅い掘削であり遺構への影響は軽微とみられる。遺物なし。
5	十六区・薬王寺 (R-201405)	田原本町大字十六区 小字池田1番外	㈱オータワ	大型店舗の建築	清水	2014. 5. 16 ～ 6. 30	遊水池・防火水塔・建物本体部分の布基礎掘削時に立会。G1-0.9～2.0m前後の掘削。養生時代～近代の遺構・河床等と共に各時期の上層片が少量出土。
6	唐古・藤 (R-201406)	田原本町大字西宮小字高塚 81番・81番2	個人	個人住宅の建築	清水 木下	2014. 6. 2	柱状改良工事時に立会。掘立柱の状況不明。遺構・遺物不明。
7	多 (R-201407)	田原本町大字多内地	塚原土木事務所	河川工事	清水 木下	2014. 6. 2	幾島川での掘削工事を実施したため立会。資料断では積造工事となっていたが、確認のため立会を実施。工事が進行したため遺構・遺物確認できず。掘削は遺物包含層には及ばないと思われる。
8	矢加瀬 (R-201408)	田原本町大字矢加 小字東長17230番1号	田原本町長 (下水道課)	下水道工事	清水 木下	2014. 6. 11 ～ 13	人杭設置予定部分の試験時に立会。掘立柱遺構面または既設掘削管区内にたまる。遺構・遺物なし。
9	新子田 (R-201409)	田原本町大字新町 小字能ノ内4番	個人	個人住宅の建築	清水	2014. 6. 13	柱状改良工事時に立会。掘立柱の状況不明。遺構・遺物不明。養生時代中期頃のバタ基礎部分の影響はないとみられる。
10	唐古・藤 (R-201410)	田原本町大字唐古小字高塚 89番5号	㈱中谷本舗	工場の建築	清水	2014. 6. 20 ・ 7. 2	調査私設掘工事時および布基礎掘削時に立会。調査掘削は掘削区に狭くあり、地下遺構の確認は困難。布基礎掘削は0.5mの掘削で養生時代遺構面への影響はないとみられる。遺構・遺物不明。
11	遺跡跡 (丸味堀内) (R-201411)	田原本町大字丸味 小字北地内682番 東横道跡外	田原本町長 (下水道課)	下水道工事	清水 木下	2014. 7. 8 ～ 8. 29	人杭設置予定部分の試験時および人杭設置掘削時に立会。近代の石路筋・中世以前の石水塔等を確認。中世の上層片・近代の水路管等が出土。別途報告あり。遺跡跡外であったが、丸味堀内遺跡として新に原址登録を申請する予定。
12	唐古・藤 (R-201412)	田原本町大字藤 小字北地内135番4・136番3	個人	農業用倉庫の建築	清水	2014. 7. 9	バタ基礎掘削時に立会。G1-0.35mの掘削に加えて、掘でさらに0.2mの掘削。養生代に0.35m程度の盛りがなされており、掘下遺構への影響はないとみられる。遺構・遺物不明。
13	唐古・藤 (R-201413)	田原本町大字藤小字中溝田 130番1号	田原本町長 (下水道課)	水道管の埋設工事	清水	2014. 8. 15 ・ 16	水道工事の掘削時に立会。掘削は0.6～0.7～0.9mで遺構内に留まる。遺構・遺物不明。
14	遺物検出地 (R-201414)	田原本町大字野野 小字上人家24番	個人	個人住宅の建築	清水	2014. 8. 25	建物本体のバタ基礎工事完了後に工事着手の連絡があったため急遽立会。排水溝・掘削部分の掘削部分を確認。G1-0.3mまで近代視見層であることを確認。掘削の上層等が散見。先行工事のため給水機の出土を求める。
15	新子田 (R-201415)	田原本町小字藤堀堀内 379番6	個人	個人住宅の建築	清水	2014. 8. 4	柱状改良工事時に立会。掘立柱の状況不明。遺構・遺物不明。
16	保津・宮古 (R-201416)	田原本町大字宮古 小字ツヤ西99番5	個人	個人住宅の建築	清水	2014. 9. 5	バタ基礎掘削工事時に立会。G1-0.25m程度の掘削で、現代視見層内に留まる。近代の陶磁器の散見を確認。
17	新子田 (R-201417)	田原本町小字藤堀堀内 379番12	個人	個人住宅の建築	清水	2014. 9. 11	柱状改良直前の掘削直前に工事着手準備を進めている状況を確認したため、立会。掘立柱の状況不明。遺構・遺物不明。掘工業者に注意をおこなう。
18	十六区・薬王寺 (R-201418)	田原本町大字薬王寺 小字元山61番外	㈱ジョイフル	店舗(飲食店)の建築	清水	2014. 10. 2	建物本体部分の柱状改良工事時に立会。掘立柱の状況不明。遺構・遺物不明。
19	十六区・薬王寺 (R-201419)	田原本町大字西竹田 小字川原田1番1号	大阪デリカ フーズ㈱	食品加工工場建設	清水	2014. 10. 2	掘立柱工事時に立会。G1-0.6m前後で中世包・古銅器。その下層片が第1期内前期の石見層が、遺構表面は軟い地とみられる。遺物なし。
20	唐古・藤 (R-201420)	田原本町大字藤小字辻・本 128番外	田原本町長 (総合政策課)	公園整備に伴う 造成工事および 復元掘削工事	清水 木下	2014. 10. 10 ～ 2015. 1. 14	造成工事は掘削を伴わないため、地下遺構への影響なし。復元掘削工事では、地下遺構への影響がない程度の掘削が予定されていたが、一部で予定より深い掘削をおこなった。中世視見層が確認されたため、掘削業者と協議をおこない、造成上～水田上までの掘削に留めるよう設計変更をおこなった。養生時代～中世の上層片が少量出土。

1. 田原町の埋蔵文化財

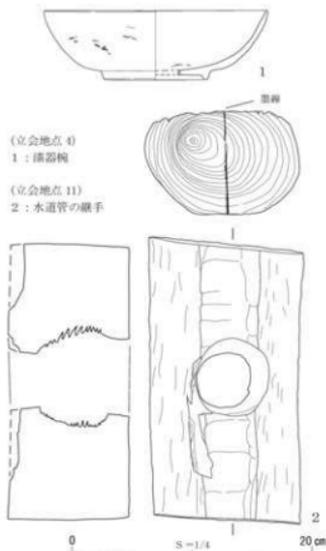
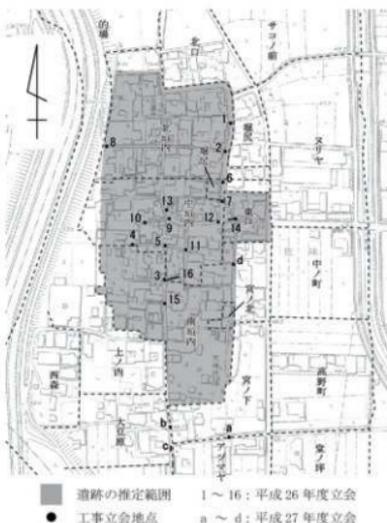
遺跡名	調査地	発掘者	工事の目的	立命者	調査日	内容
21 羽子田 (R-201321)	田原本町小字磯田町内 379番1	個人	個人住宅の建築	清水	2014.10.15	柱状改良工事時に立命。掘削のため状況不明。遺構・遺物不明。
22 羽子田 (R-201322)	田原本町大字八尾 小字船田430番28	個人	個人住宅の建築	清水	2014.10.31	基礎掘削時の遺構による掘削時に立命。ベタ基礎の下部から0.4m程度の掘削で、客土内に留まる。遺構・遺物なし。
23 繁庄 (R-201323)	田原本町大字宮森 小字南畑内275番	個人	個人住宅の建築	清水	2014.10.31	ベタ基礎掘削時に立命。0.1-0.4mの掘削。6-1.5mで現代様式掘削。以下は50センチが出土しており近世造成土か。遺構なし。
24 保津・宮古 (R-201324)	田原本町大字宮古 小字西谷田133番3	田原本町長 (水道課)	水道管の埋設工事	清水	2014.11.6	排水管埋入作業の掘削時に立命。0.1-1.4m程度の掘削で、過去の工事時の戻し土内に留まる。遺構・遺物なし。
25 経津道 (R-201325)	田原本町大字藤田寺 小字西ノ山132番14	個人	個人住宅の建築	清水	2014.11.7	ベタ基礎掘削時に立命。0.1-0.4mまでの掘削で、現代造成前の山砂まで留まる。遺構・遺物なし。
26 寺内町 (R-201326)	田原本町小字五反田 640番1号	個人	個人住宅の建築	清水	2014.11.27	柱状改良工事時に立命。遺構・遺物不明。着手直前に柱状改良の追加が決定。発掘届の受理に先行して工事者の戻ししているため、照会協議のうえ追加工事の発注を求める。
27 飯子ホウズミ (R-201327)	田原本町大字飯手 小字ホウズミ982番4	個人	個人住宅の建築	木下	2014.11.28	ベタ基礎工事着手後に遺構があり、立命。ベタ基礎にはほぼ完成しており。遺構・遺物不明。着手前に連絡をもらえらる。
28 千代 (橋梁寺跡) (R-201328)	田原本町大字千代 小字ヒト872番9	㈱アーネストワン	分譲住宅の建築	清水	2014.12.1	柱状改良工事時に立命。掘削であり、降雨のため状況不明。遺構・遺物不明。
29 遺物散石地 (R-201329)	田原本町大字平野 小字土人塚25番2	個人	個人住宅の建築	清水	2014.12.5	ベタ基礎工事の掘削後に立命。掘削は浅く、近代造成土内に留まる。遺構・遺物不明。
30 楯崎寺 (R-201330)	田原本町大字味田 小字和田ノ内834番	個人	個人住宅の建築	清水	2014.12.17 ・1.16	ベタ基礎工事時および排水管設置工事時に立命。掘削0.15-0.1-0.3m程度。建物解体時の土のみみられる掘削層内に留まる。遺構・遺物なし。
31 千代 (橋梁寺跡) (R-201331)	田原本町大字千代 小字見古965番	個人	青空駐車場の造成	清水	2015.1.8	掘削工事時に立命。現土表面から-0.25～0.15mの掘削。現代造成土の下層にブロック土上。一部に中世瓦片・土器を含む粘質土が認められる。ブロック土は近代の土木工事による埋戻しか。
32 楯崎外 (R-201332)	田原本町大字舟上 小字田中1番外 北郷水路	田原本町長 (建設課)	水路改修工事	清水	2015.1.10	水路改修工事の掘削時に立命。現土表面から-0.3m程度の掘削で、水面よりまたは過去の工事時の戻し土内に留まる。遺構・遺物なし。
33 長塚 (R-201333)	田原本町大字秋味小字樋口 213番1号	田原本町長 (建設課)	農業用水路施設工事	清水	2015.1.16	水路施設工事の掘削時に立命。0.1-0.25m程度の掘削で、水面以上まで留まる。野の土は近世造成水増層の可能性があるが詳細不明。遺構・遺物なし。
34 皆古・楯原氏御船 船定地 下ノ道 (R-201334)	田原本町大字楯小字堀内 350番14	個人	個人住宅の建築	清水	2015.1.17	ベタ基礎工事時に立命。0.0～1mの造成土上から0.3-0.4m程度の掘削。現代造成層内に留まる。遺構・遺物なし。
35 宮古北 (R-201335)	田原本町大字楯田 小字堀ノ木130番・131番1	市民生活協同組合 ならコープ	青空駐車場の造成	清水	2015.1.24	掘削の基礎掘削時に立命。0.1-0.2mの掘削で、現代水田床土内に留まる。遺構・遺物なし。
36 飯平北 (R-201336)	田原本町大字飯手 小字ヘンビタ190番5	個人	個人住宅の建築	清水	2015.1.28	ベタ基礎工事着手後に遺構があり、立命。ベタ基礎完成後の立命であり、地下遺構の確認ができたため、掘削は盛土内に留まったとみられる。遺構・遺物不明。施工業者に注意。
37 大瀬 (R-201337)	田原本町大字大瀬 小字南畑内252番3	個人	個人住宅の建築	清水	2015.2.9 ・10	敷地内の試掘および基礎改良工事時に立命。深さから0.4-0.6mまでが中世遺物を含む。0.2-0.8mまでが中世時代の山田川埋積土とみられる。近代以降の様瓦片等が散見される。
38 千代 (橋梁寺跡) (R-201338)	田原本町大字千代 小字中ノ口1115番1 西郷水路外	田原本町長 (建設課)	道路工事	清水	2015.2.10	水路改修の改良工事時に立命。現代水路のへドロ側の表層改良工事のため状況不明。現代瓦葺が一定量みられる。遺構不明。
39 法喜寺 (R-201339)	田原本町大字法喜寺 小字寺内50番 西郷水路	田原本町長 (建設課)	水路改修工事	清水	2015.2.12	道路内の暗渠水路改修工事時に立命。0.1-0.4mの掘削で、近世遺物を含む層内に留まる。遺構・遺物なし。
40 宮古北 (R-201340)	田原本町大字宮古小字女木 404番5	市民生活協同組合 ならコープ	倉庫の新設	清水 木下	2015.2.16 ・20	柱状改良工事時に立命。0.1-0.6mまでの掘削で、中世造成物を含む層内に留まる。中世素焼き土器確認するが。遺構・遺物なし。
41 平野氏御船跡 (R-201341)	田原本町小字御田271番	個人	個人住宅の建築	木下	2015.2.19 ・24	柱状改良工事時に立命。0.1-0.2m程度の掘削で、盛土内に留まる。遺構・遺物なし。
42 皆古・楯 (R-201342)	田原本町大字皆古小字高塚 831番2	㈱西中本舗	看板設置工事	清水	2015.3.9	基礎掘削時に立命。0.1-1.6mの掘削で、客土内に留まる。遺構・遺物なし。
43 藤下寺堂 (R-201343)	田原本町大字藤下寺 小字新庄60番5	個人	個人住宅の建築	清水	2015.3.16	柱状改良工事時に立命。掘削のため、状況不明。遺構・遺物不明。
44 大瀬 (R-201344)	田原本町大字大瀬 小字堀内239番外 北郷水路	田原本町長 (建設課)	道路工事	清水	2015.3.17	日字溝設置時の掘削工事時に立命。0.1-0.7mまでの掘削で、日工工事の埋戻し土内に留まる。遺構・遺物なし。

遺跡名	調査地	原因者	工事の目的	立会者	調査日	内容
十六国・薬王寺 (R-201345)	田原本町大字宮古 小字上蔵田170番1 所領道路外	田原本町長 (建設課)	橋梁工事	清水	2015. 3.24	橋脚部分の掘削工事を確認したため立会。掘削は完了しており、0.1~1.0m程度であったとみられる。詳細不明であるが、堀河道内であろう。遺物なし。
佐味 (R-201346)	田原本町大字佐味 小字中ノ町249番1号	佐味環境保全会	水路工事	清水	2015. 3.27	掘削工事を確認したため立会。掘削は完了しており、水面から0.4m程度。堀河道の増陸が広がるとみられる。遺物なし。先行工事であり、地味露の掘削は依頼。
十六国・薬王寺 (R-201347)	田原本町大字保津小字足跡 292番1の一割	個人	診療所および薬局の 建築	清水	2015. 3.30	鋼管杭打設工事に立会。1.0m以上の造成土であり、打設工法である状況不明。遺物・遺物不明。
千代（助業寺跡） (R-201348)	田原本町大字千代 小字ヒトノ872番6	個人	個人住宅の増築	清水	2015. 3.31	鋼管杭打設工事に立会。過去に打設工法による造成がなされており、状況不明。遺物・遺物不明。

## R-201411 (仮称) 佐味垣内遺跡 工事立会

周辺の遺跡外であったが、大字佐味での下水道の人坑設置に伴う掘削時に立会をおこなった結果、中・近世の遺構・遺物を確認した。工事の範囲は小字「北垣内」「中垣内」「南垣内」とその周辺「堀尻」「東口」などの広い範囲にわたる。立会調査の結果、字「北垣内」の東端に近世～現代の環濠とみられる大溝が存在したと、字「中垣内」付近に中世の遺物を包蔵する堆積層が広がることなどを確認した。中世に遡る可能性がある集落遺跡として、字「北垣内」「中垣内」「南垣内」の範囲を想定することができそうである。

この成果と、次年度に予定されている南側隣接地の工事立会成果を総合して遺跡範囲を確定し、「佐味垣内遺跡」として遺跡新規発見の手続きをおこなう予定である。



第35図 (仮称) 佐味垣内遺跡の範囲と工事立会地点 (S=1/5,000)

第36図 (仮称) 佐味垣内遺跡出土遺物



## Ⅱ. 資料の整理と活用・普及



## 1. 文化財資料の整理・保管

## (1) 埋蔵文化財の整理・保管

平成26年度の発掘調査と工事立会に伴い保管した埋蔵文化財は、遺物コンテナ約103箱とナイロン袋他である。遺物量は前年度に比較し約265箱少ないが、これは前年の十六面・薬王寺遺跡第31次調査で出土した遺物が約300箱に及んだことが原因で、100箱余りの遺物量は例年とおりの数量になる。平成26年度の内訳は下表のとおりであり、唐古・鍵遺跡第115次調査が88箱、羽子田遺跡第38次調査が11箱であり、両遺跡の遺物で占められている。唐古・鍵遺跡では弥生土器と木製品が、羽子田遺跡では瓦が主な遺物となる。

## 【埋蔵文化財保管数1】

調査番号	遺跡名	調査回数	遺物明細	遺物量	
				現場後	洗浄後 (土器・瓦)
H26-01	宮古北遺跡	第18次調査	土師器・須恵器等	1箱	1/2箱
H26-02	羽子田遺跡	第38次調査	土師器・須恵器・瓦器・埴輪・瓦等	11箱	13箱
H26-03	十六面・薬王寺遺跡	第35次調査	土師器・須恵器等	1箱	1袋(中)
H26-04	羽子田遺跡	第39次調査	弥生土器・土師器等	1箱	1袋(中)
H26-05	唐古・鍵遺跡	第115次調査	弥生土器・石器・木製品等	88箱	39箱
H26-06	多遺跡	第26次調査	弥生土器・土師器・須恵器・石器等	1箱	1/3箱
R-201401	小阪里中遺跡	工事立会	弥生土器	1箱	1点
R-201403	唐古・鍵遺跡	工事立会	弥生土器・土師器・瓦器・石器等	2袋(中)	1袋(中)
R-201405	十六面・薬王寺遺跡	工事立会	土師器・須恵器等	1箱	1袋(中)
R-201411	(仮称)佐味垣内遺跡	工事立会	土師器・瓦質土器・近世陶磁器・木製品等	1箱	1/3箱
R-201420	唐古・鍵遺跡	工事立会	弥生土器・石器等	1箱	1袋(中)

※遺物量の表記の箱とは、長さ56cm・幅36cm・深さ15cmの容量を標準として換算している。また、袋(小・中・大)は、ナイロン袋の小・中・大の大きさを表している。

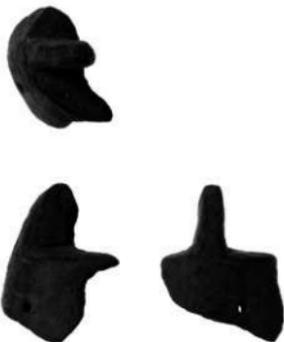
## 【土器以外の遺物とサンプルの保管数量(該当回数のみ)】

調査番号	遺跡名	調査回数	土製品	焼土塊	木製品	石製品	骨製品	金属器	銭貨	ガラス	木	石	獣骨・貝類	種子	炭化米
H26-02	羽子田遺跡	第38次調査	11	2	38	6	-	1	-	-	17	16	22	8	-
H26-04	羽子田遺跡	第39次調査	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
H26-05	唐古・鍵遺跡	第115次調査	3	4	487	392	1	-	-	-	121	12	61	1,679	223
H26-06	多遺跡	第26次調査	1	-	2	4	-	-	-	-	3	-	-	-	-
計			15	6	528	402	1	1	0	0	142	28	83	1,687	223

【Pickupした土器・形象埴輪類の数量（該当次数のみ）】

調査番号	遺跡名	調査次数	編年土器	搬入土器	絵画土器	記号土器	文様土器	特殊土器	土器製作使用痕	縄文土器	古墳時代土器	古代土器	中世土器	近世土器	形象埴輪	瓦
H26-02	羽子田遺跡	第38次調査	-	2	-	-	-	6	-	-	-	1	1	-	4	20
H26-05	唐古・鍵遺跡	第115次調査	-	9	1	1	1	1	1	-	-	-	-	-	1	-
R-201420	唐古・鍵遺跡	立会調査	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計			0	12	1	1	1	7	1	0	0	1	1	0	5	20

再整理事業では、既に収納している土器を再整理し、重要と思われる遺物をPickupするとともに、再収納することにより遺物箱数を減らしている。今回は、唐古・鍵遺跡第37次調査の317箱分を実施した。この整理によって、下記の項目の遺物をPickupした。今回の再整理で注目される遺物としては、銅鐸形土製品がある。河跡（SX-2101）からの出土で、弥生時代中期から後期初頭の土器が混在する中から見つけ出したものである。



銅鐸形土製品

【再整理事業に伴いPickupした遺物数量（該当次数のみ）】

遺跡名	編年土器	搬入土器	絵画土器	記号土器	文様土器	特殊土器	土器製作使用痕	縄文土器	古墳時代土器	古代土器	中世土器	近世土器	形象埴輪	土製品	埴土塊
唐古・鍵遺跡 第37次調査	75	281	18	15	142	210	59	4	-	-	-	-	3	150	111

（2）木製品の樹種同定と保存処理

平成26年度においては、唐古・鍵遺跡の木製品の樹種同定49点を実施した（下表）。また、保存処理事業としては、唐古・鍵遺跡第16次調査の一木鋤、十六面・薬王寺遺跡第5次調査の円形曲物、羽子田遺跡第19次調査の又鋸など町内遺跡出土の木製品を、高級アルコール法で71点、トレハロース含浸法で9点を委託した。また、町直営としてはラクチツール・トレハロース含浸法で150点、真空凍結乾燥法等で29点を処理した。

【樹種同定一覧表】

No.	遊跡名	次数	製品コード	製品名	遊構名	層位	結果(学名/和名)
1	唐古・遊跡跡	13	KRX-013-000198	紙	SP-02		ヤニ属
2	唐古・遊跡跡	47	KRX-017-100018	原材	SP-2101	第8層	<i>Torreya nucifera</i> Sieb. et Zucc. カヤ
3	唐古・遊跡跡	59	KRX-059-000098	用途不明品	SK-3101	第7層	<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i> コナラ属アカガシ亜属
4	唐古・遊跡跡	59	KRX-059-000338	用途不明品	SK-3101	第3層	back 楳枝
5	唐古・遊跡跡	59	KRX-059-000368	用途不明品	SK-3135	第6層	<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i> コナラ属アカガシ亜属
6	唐古・遊跡跡	59	KRX-059-000378	用途不明品	SK-3135	第5層	<i>Calliurus</i> ムラサキシキブ属
7	唐古・遊跡跡	59	KRX-059-000368	典杭	SK-1101	第5層	<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i> コナラ属アカガシ亜属
8	唐古・遊跡跡	115	KRX-115-100038	楳丸	SP-1018	第12層	<i>Quercus sect. Agilifolys</i> コナラ属クヌギ節
9	唐古・遊跡跡	59	KRX-059-000608	用途不明品	SK-3135	第4層	<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i> コナラ属アカガシ亜属
10	唐古・遊跡跡	59	KRX-059-000618	用途不明品	SK-3135	第3層	<i>Calliurus</i> ムラサキシキブ属
11	唐古・遊跡跡	59	KRX-059-000638	用途不明品	SP-1102	第4層	<i>Podocarpus</i> マキ属
12	唐古・遊跡跡	59	KRX-059-000658	用途不明品	SP-1102	第3層	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl. ヒノキ
13	唐古・遊跡跡	59	KRX-059-000708	蓋板版	SK-2067	第5層	<i>Cryptomeria japonica</i> D. Don スギ
14	唐古・遊跡跡	59	KRX-059-000778	不明建築材	SK-2067	第6層	<i>Cleyera japonica</i> Thunb. サカキ
15	唐古・遊跡跡	59	KRX-059-000808	用途不明品	SP-4101	第8層	<i>Sals</i> コナラ属
16	唐古・遊跡跡	48	KRX-048-000608	用途不明品	SK-1111	第4(下)層	<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i> ? コナラ属アカガシ亜属?
17	唐古・遊跡跡	59	KRX-059-100018	原材	SK-3135	第4(下)層	<i>Aphananthe aspera</i> Planch. ムクノキ
18	唐古・遊跡跡	115	KRX-115-000018	駒の身	SP-101C	第17-b層	<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i> コナラ属アカガシ亜属
19	唐古・遊跡跡	115	KRX-115-000028	駒の身	SP-101B	第13-c層	<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i> コナラ属アカガシ亜属
20	唐古・遊跡跡	115	KRX-115-000038	木留丁	SP-101B	第13-c層	<i>Quercus sect. Agilifolys</i> コナラ属クヌギ節
21	唐古・遊跡跡	115	KRX-115-000048	製作	SP-101B	第14層	<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i> コナラ属アカガシ亜属
22	唐古・遊跡跡	115	KRX-115-000058	布巻具	SP-101B	第13層	<i>Cleyera japonica</i> Thunb. サカキ
23	唐古・遊跡跡	115	KRX-115-000068	高杯	SP-101B	第13層	<i>Morus australis</i> Poirét ヤマツツ
24	唐古・遊跡跡	115	KRX-115-000078	高杯	SP-101B	第13層	<i>Morus australis</i> Poirét ヤマツツ
25-1			KRX-115-000088	高杯(本体)			<i>Morus australis</i> Poirét ヤマツツ
25-2	唐古・遊跡跡	115	KRX-115-000088	高杯(差込み部)	SP-101B	第13層	<i>Morus australis</i> Poirét ヤマツツ
25-3			KRX-115-000088	高杯(木釘)			diffuse-porous wood 散孔材
26	唐古・遊跡跡	115	KRX-115-000098	不明容器	SP-101B	第13層	<i>Zelkova serrata</i> Makino ケヤキ
27	唐古・遊跡跡	115	KRX-115-000108	不明容器	SP-101B	第13層	<i>Zelkova serrata</i> Makino ケヤキ
28	唐古・遊跡跡	115	KRX-115-000118	白子未成品	SP-101B	第12層	<i>Prunus</i> サクラ属
29	唐古・遊跡跡	115	KRX-115-000128	有蓋桶	SP-101B	第13-c層	<i>Castanopsis sieboldii</i> Hatusima スダジイ
30	唐古・遊跡跡	115	KRX-115-000138	柱材	SP-101B	第13層	<i>Quercus sect. Agilifolys</i> コナラ属クヌギ節
31	唐古・遊跡跡	115	KRX-115-000148	不明建築材	SP-101B	第13層	<i>Cleyera japonica</i> Thunb. サカキ
32	唐古・遊跡跡	115	KRX-115-000158	用途不明品	SP-101B	第13層	<i>Chamaecyparis</i> ヒノキ属
33	唐古・遊跡跡	115	KRX-115-100018	原材	SP-101B	第14層	<i>Castanopsis sieboldii</i> Hatusima スダジイ
34	唐古・遊跡跡	115	KRX-115-100028	原材	SP-101B	第13層	<i>Zelkova serrata</i> Makino ケヤキ
35	唐古・遊跡跡	115	KRX-115-100038	有蓋桶	SP-101	第13層	<i>Podocarpus</i> マキ属
36	唐古・遊跡跡	115	KRX-115-100048	楳丸	SP-101C	第19層	<i>Aphananthe aspera</i> Planch. ムクノキ
37	唐古・遊跡跡	115	KRX-115-100058	楳丸	SP-101C	第17層	<i>Chamaecyparis</i> ヒノキ属
38	唐古・遊跡跡	115	KRX-115-100068	楳丸	SP-101B	第17層	<i>Chamaecyparis</i> ヒノキ属
39	唐古・遊跡跡	115	KRX-115-100078	楳丸	SP-101B	第13層	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl. ヒノキ
40	唐古・遊跡跡	115	KRX-115-100088	楳丸	SP-101B	第13層	<i>Cryptomeria japonica</i> D. Don スギ
41	唐古・遊跡跡	115	KRX-115-100098	楳丸	SP-101B	第13層	<i>Quercus sect. Prinus</i> コナラ属コナラ節
42	唐古・遊跡跡	115	KRX-115-100108	楳丸	SP-101B	第13層	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl. ヒノキ
43	唐古・遊跡跡	115	KRX-115-100118	楳丸	SP-101B	第13層	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc. クリ
44	唐古・遊跡跡	115	KRX-115-100128	楳丸	SP-101B	第13-c層	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl. ヒノキ
45	唐古・遊跡跡	115	KRX-115-100138	楳丸	SP-101B	第13-c層	<i>Cinnamomum camphora</i> Presl クスノキ
46	唐古・遊跡跡	115	KRX-115-100148	楳丸	SP-101B	第13-c層	<i>Abies</i> モミ属
47	唐古・遊跡跡	115	KRX-115-100158	楳丸	SP-101B	第13-c層	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl. ヒノキ
48	唐古・遊跡跡	115	KRX-115-100168	楳丸	SP-101B	第12層	<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i> コナラ属アカガシ亜属
49	唐古・遊跡跡	115	KRX-115-200018	サンブル	SP-101C	第28層	broad-leaved tree 広葉樹

【保存処理木製品一覧】

No.	通称名	次数	製品コード	製品名	樹種	台帳 No.	通称名	層位	取上 番号	保存処理機関	保存処理方法
1	唐古・観音峠	14	K00-014-00001E	用途不明品	コナラ属 アカガシ亜属	10	SX-101	下層	8-01	吉田生物研究所	高級アル法
2	唐古・観音峠	14	K00-014-00002E	用途不明品	広葉樹	8	SX-101	下層			
3	唐古・観音峠	16	K00-016-00007E	部材	ヒノキ	142	SX-103		8-01	吉田生物研究所	高級アル法
4	唐古・観音峠	16	K00-016-00008E	部材	ヒノキ	142	SX-103		8-02	吉田生物研究所	高級アル法
5	唐古・観音峠	16	K00-016-00013E	(不燃繊維)	炭化材	100	SD-102			吉田生物研究所	高級アル法
6	唐古・観音峠	16	K00-016-00014E	不明容器	ヤブヅク	149	SD-103			町直営	ラクナ法
7	唐古・観音峠	16	K00-016-00015E	薪割機排屑	同定不可	116	SD-102	最下層		町直営	ラクナ法
8	唐古・観音峠	16	K00-016-00020E	燻箱	コナラ属 アカガシ亜属	41	SD-101		8-02	吉田生物研究所	高級アル法
9	唐古・観音峠	16	K00-016-00021E	薪割機排屑	同定不可	329	SD-101			吉田生物研究所	高級アル法
10	唐古・観音峠	16	K00-016-00023E	一本輪	コナラ属 アカガシ亜属	50	SD-101		8-12	吉田生物研究所	高級アル法
11	唐古・観音峠	16	K00-016-00024E	薪割機成品	広葉樹	41	SD-101		8-01	吉田生物研究所	高級アル法
12	唐古・観音峠	16	K00-016-00025E	板A	コナラ属 アカガシ亜属	44	SD-101		8-03	町直営	ラクナ法
13	唐古・観音峠	16	K00-016-00028E	不明容器	燻箱材	225	SX-102		8-06	吉田生物研究所	高級アル法
14	唐古・観音峠	16	K00-016-00027E	排屑	同定不可	136	SD-103			町直営	ラクナ法
15	唐古・観音峠	16	K00-016-00029E	不明容器 (筒?)	ヤブヅク	262	SD-101			吉田生物研究所	高級アル法
16	唐古・観音峠	16	K00-016-00029E	板B	コナラ属 クスノキ属	224	SX-102		8-19	吉田生物研究所	高級アル法
17	唐古・観音峠	16	K00-016-00030E	平根	コナラ属 アカガシ亜属	224	SX-102		8-04	町直営	ラクナ法
18	唐古・観音峠	16	K00-016-00031E	逸木成品	コナラ属 クスノキ属	224	SX-102		8-21	吉田生物研究所	高級アル法
19	唐古・観音峠	16	K00-016-00032E	用途不明品	イヌゲナク	79	SD-101		8-18	町直営	ラクナ法
20	唐古・観音峠	16	K00-016-00034E	用途不明品	コナラ属 アカガシ亜属	44	SD-101		8-04	吉田生物研究所	高級アル法
21	唐古・観音峠	16	K00-016-00035E	部材	ツバキ科 ツバキ属	224	SX-102		8-22	町直営	ラクナ法
22	唐古・観音峠	16	K00-016-00036E	丸太丸	同定不可	142	SD-103		8-03	町直営	ラクナ法
23	唐古・観音峠	16	K00-016-00037E	燃料	コナラ属 クスノキ属	224	SX-102		8-06	吉田生物研究所	高級アル法
24	唐古・観音峠	19	K00-019-00029E	芯	イヌゲナク	791	SD-204	第9層		町直営	ラクナ法
25	唐古・観音峠	19	K00-019-00030E	板A	ヒノキ科 ヒノキ属	1119	SD-204	第9層		吉田生物研究所	高級アル法
26	唐古・観音峠	19	K00-019-00045E	用途不明品	未同定	471	SD-203	第3層		町直営	ラクナ法
27	唐古・観音峠	19	K00-019-00050E	板A	コウヤマキ科 コウヤマキ属	722	SD-204	第3(下)層	8-352	吉田生物研究所	高級アル法
28	唐古・観音峠	19	K00-019-00060E	棒B	未同定	550	SX-101	第7層	8-728	町直営	ラクナ法
29	唐古・観音峠	19	K00-019-00064E	丸太丸	ヤブヅク	1122	SD-204	第20層	8-2004	町直営	ラクナ法
30	唐古・観音峠	19	K00-019-00067E	用途不明品	カヤ	478	SD-203	第1(上)層		町直営	ラクナ法
31	唐古・観音峠	20	K00-020-00029E	板B	未同定	437	SX-101	第6層		町直営	ラクナ法
32	唐古・観音峠	20	K00-020-00029E	板D	未同定	437	SX-101	第6層		町直営	ラクナ法
33	唐古・観音峠	20	K00-020-00032E	有節棒	コナラ属 アカガシ亜属	564	SX-101	アゼSo. 第10層		町直営	ラクナ法
34	唐古・観音峠	20	K00-020-00034E	棒B	未同定	699	SX-215	第2層	上-229	町直営	ラクナ法
35	唐古・観音峠	20	K00-020-00035E	棒A	未同定	343	SX-101	第3層	8-601	町直営	ラクナ法
36	唐古・観音峠	20	K00-020-00038E	棒B	未同定	519	SX-101	第33層		町直営	ラクナ法
37	唐古・観音峠	20	K00-020-00039E	棒B	未同定	342	SX-101	第6層	8-602	町直営	ラクナ法
38	唐古・観音峠	20	K00-020-00040E	棒D	未同定	164	SX-107	第2層		町直営	ラクナ法
39	唐古・観音峠	20	K00-020-00043E	棒B	未同定	705	SX-215	第2層	8-214	町直営	ラクナ法
40	唐古・観音峠	20	K00-020-00052E	棒D	未同定	268	SX-101	第3層	8-631	町直営	ラクナ法
41	唐古・観音峠	20	K00-020-00053E	棒B	未同定	398	SX-101	第6層	8-632	町直営	ラクナ法
42	唐古・観音峠	20	K00-020-00055E	板B	未同定	242	SX-101	第6層	8-601	町直営	ラクナ法
43	唐古・観音峠	23	K00-023-00051E	板A	ヒノキ	273	SX-151	第1層	8-419	町直営	ラクナ法
44	唐古・観音峠	23	K00-023-00052E	部材	ヒノキ	273	SX-151	第1層	8-414	町直営	ラクナ法
45	唐古・観音峠	23	K00-023-00053E	板A	ヒノキ	273	SX-151	第1層	8-412	町直営	ラクナ法
46	唐古・観音峠	23	K00-023-00054E	板A	サワラ	164	SD-100			町直営	ラクナ法
47	唐古・観音峠	23	K00-023-00055E	部材	サワラ	338	SX-151 +154	第3層	8-505	町直営	ラクナ法
48	唐古・観音峠	23	K00-023-00056E	部材	ヒノキ	218	SD-103	第3層		町直営	ラクナ法
49	唐古・観音峠	23	K00-023-00057E	用途不明品	同定不可	193	SX-113	第2層	8-205	吉田生物研究所	高級アル法
50	唐古・観音峠	23	K00-023-00058E	部材	ヒノキ	254	SX-101	第1層		町直営	ラクナ法
51	唐古・観音峠	23	K00-023-00059E	部材	ヤブヅク	177	SX-113	第1層	8-101	町直営	ラクナ法
52	唐古・観音峠	23	K00-023-00060E	部材	コナラ属 アカガシ亜属	273	SX-151	第4層	8-401	吉田生物研究所	高級アル法
53	唐古・観音峠	23	K00-023-00062E	用途不明品	同定不可	307	SX-151	第3層		町直営	ラクナ法
54	唐古・観音峠	24	K00-024-00010E	不明建築材	ヒノキ	196	SX-103			吉田生物研究所	高級アル法
55	唐古・観音峠	24	K00-024-00011E	不明建築材	ヒノキ	196	SX-103			吉田生物研究所	高級アル法
56	唐古・観音峠	26	K00-026-00014E	葉?*	ツツリ科 ツツリ属	SX-210		第4層		吉田生物研究所	高級アル法
57	唐古・観音峠	26	K00-026-00012E	用途不明品	ツツリ科 ツツリ属	SX-210		第1層		吉田生物研究所	高級アル法
58	唐古・観音峠	26	K00-026-00013E	建築部材	ツツリ属	449	SX-200	第2層	8-202	町直営	ラクナ法
59	唐古・観音峠	26	K00-026-00014E	建築部材	ツツリ属	449	SX-200	第2層	8-201	町直営	ラクナ法
60	唐古・観音峠	26	K00-026-00015E	不明容器	ヒノキ	554	SX-200	第3層		町直営	ラクナ法
61	唐古・観音峠	26	K00-026-00017E	動物産物	ヒノキ	459	SX-200	第3層	8-201	町直営	ラクナ法
62	唐古・観音峠	26	K00-026-00018E	板A	ヒノキ科 ヒノキ属	283	SX-201			吉田生物研究所	高級アル法
63	唐古・観音峠	26	K00-026-00019E	円形産物 (片?種部材)	ヒノキ	555	SX-200	第3層		町直営	ラクナ法

No.	道跡名	次巻	製品コード	製品名	組織	台帳 No.	道跡名	層位	箱上 番号	保存処理機関	保存処理方法
64	唐古・縄遺跡	33	KIX-033-00628	用途不明品	未特定	1061		第4層		府直営	ラック法
65	唐古・縄遺跡	33	KIX-033-00649	用途不明品	未特定	330	58-123	第1層		府直営	ラック法
66	唐古・縄遺跡	33	KIX-033-00660	楕円	未特定	963	58-175	第7層	W-701	府直営	ラック法
67	唐古・縄遺跡	33	KIX-033-00670	楕円	未特定	1050	5D-202			府直営	ラック法
68	唐古・縄遺跡	33	KIX-033-00673	丸太板	未特定	603	58-123	第2層	R-209	府直営	ラック法
69	唐古・縄遺跡	33	KIX-033-00674	用途不明品	未特定	1008	58-208	第4層	R-409	府直営	ラック法
70	唐古・縄遺跡	33	KIX-033-00675	用途不明品	未特定	1043	5D-204	第2層		府直営	ラック法
71	唐古・縄遺跡	33	KIX-033-00677	丸太板	未特定	1043	5D-204	第2層		府直営	ラック法
72	唐古・縄遺跡	33	KIX-033-00679	用途不明品	未特定	953	58-111	第3層		府直営	ラック法
73	唐古・縄遺跡	33	KIX-033-00689	加工棒	未特定	989	5D-124	第2層		府直営	ラック法
74	唐古・縄遺跡	33	KIX-033-00691	丸太板	未特定	777	58-111	第4層		府直営	ラック法
75	唐古・縄遺跡	33	KIX-033-00692	楕円	未特定	652	58-120	第3層	その1	府直営	ラック法
76	唐古・縄遺跡	33	KIX-033-00697	楕円	未特定	603	58-123	第3層	R-207	府直営	ラック法
77	唐古・縄遺跡	33	KIX-033-00699	楕円	未特定	603	58-123	第3層	R-213	府直営	ラック法
78	唐古・縄遺跡	33	KIX-033-00700	用途不明品	未特定	603	58-123	第2層	R-213	府直営	ラック法
79	唐古・縄遺跡	33	KIX-033-00692	楕円	未特定	957	58-175	第2層		府直営	ラック法
80	唐古・縄遺跡	33	KIX-033-00693	楕円	未特定	594	58-123	第2(上)層		府直営	ラック法
81	唐古・縄遺跡	33	KIX-033-00697	楕円	未特定	1061	5D-202	第3層		府直営	ラック法
82	唐古・縄遺跡	33	KIX-033-00699	楕円	未特定	1061	5D-202	第3層		府直営	ラック法
83	唐古・縄遺跡	33	KIX-033-06100	楕円	未特定	253	5D-109	第4(下)層	G-407	府直営	ラック法
84	唐古・縄遺跡	34	KIX-034-00912	用途不明品	未特定					府直営	ラック法
85	唐古・縄遺跡	37	KIX-037-00945	角柱	コナラ属 アカガシ亜属	859	58-2130	第7(下)層	その1	府直営	ラック法
86	唐古・縄遺跡	37	KIX-037-00949	用途不明品	イナゴ科 カヤ楓カサ	999	58-2122	第20層		吉岡生物研究所	高級アル法
87	唐古・縄遺跡	37	KIX-037-00949	楕円	コナラ属 アカガシ亜属	479	58-2114	第6-8層	その4	府直営	ラック法
88	唐古・縄遺跡	37	KIX-037-00950	不明建築材 未成品	ヤブツバキ	1130	58-2213	第2層		吉岡生物研究所	高級アル法
89	唐古・縄遺跡	37	KIX-037-00951	楕円	広葉樹	807	58-2130	第7層		府直営	ラック法
90	唐古・縄遺跡	37	KIX-037-00954	楕円	同定不可	1114	58-2116	第5(下)層		府直営	ラック法
91	唐古・縄遺跡	37	KIX-037-00955	不明建築材	モミ属	806	58-2130	第7層		吉岡生物研究所	高級アル法
92	唐古・縄遺跡	37	KIX-037-00977	楕円の身	コナラ属 アカガシ亜属	1053	5D-22018	第4層		府直営	ラック法
93	唐古・縄遺跡	37	KIX-037-00978	楕円又楕円	コナラ属 アカガシ亜属	417	58-2114	第3層	R-611	府直営	ラック法
94	唐古・縄遺跡	37	KIX-037-00981	楕円	イナゴ科	869	58-2114	第6(下)層	R-1602	府直営	ラック法
95	唐古・縄遺跡	37	KIX-037-00991	楕円・楕円の身	コナラ属 アカガシ亜属	1075	58-2139	第3層		府直営	ラック法
96	唐古・縄遺跡	38	KIX-038-00910	楕円の身	イナゴ科	141	5D-201	第4層		府直営	ラック法
97	唐古・縄遺跡	38	KIX-038-00923	楕円	イナゴ科	119	5D-201	第3層		府直営	ラック法
98	唐古・縄遺跡	38	KIX-038-00924	楕円の身	コナラ属 アカガシ亜属	146	58-206	第2層	R-201	府直営	ラック法
99	唐古・縄遺跡	38	KIX-038-00929	楕円	イナゴ科	86	58-101	第3層	R-301	府直営	ラック法
100	唐古・縄遺跡	38	KIX-038-00929	不明建築材	ムクゴシ	131	5D-201	第3層		府直営	ラック法
101	唐古・縄遺跡	41	KIX-041-00929	ラ	未特定	42	5D-201	第5層		府直営	ラック法
102	唐古・縄遺跡	47	KIX-047-00950	楕円	ナンシキ科	179	5D-2101	第3層		府直営	ラック法
103	唐古・縄遺跡	47	KIX-047-00979	楕円	ナンシキ科	828	5D-2104	第9-8層		府直営	ラック法
104	唐古・縄遺跡	47	KIX-047-00979	用途不明品	コナラ属 アカガシ亜属	866	5D-2105	第5層		大阪市博物館協会	ラック法
105	唐古・縄遺跡	49	KIX-049-00914	角柱	ヤブツバキ	205	5D-108	第4層		府直営	ラック法
106	唐古・縄遺跡	53	KIX-053-00944	用途不明品	ヒノキ	333	5D-101B	第6層		府直営	ラック法
107	唐古・縄遺跡	53	KIX-053-00945	用途不明品	カサ	333	58-101B	第6層		大阪市博物館協会	ラック法
108	唐古・縄遺跡	55	KIX-055-00907	用途不明品	コナラ属 アカガシ亜属	41	5D-102	第3(下)層		大阪市博物館協会	ラック法
109	唐古・縄遺跡	58	KIX-058-00949	用途不明品	コナラ属 アカガシ亜属	371	3D-106	第4層		府直営	ラック法
110	唐古・縄遺跡	59	KIX-059-00922	つや	針葉樹	858	58-3101	第3層	W-307	大阪市博物館協会	ラック法
111	唐古・縄遺跡	59	KIX-059-00927	楕円子	広葉樹	433	5D-1102	第4層	R-402	大阪市博物館協会	ラック法
112	唐古・縄遺跡	59	KIX-059-00933	合子	広葉樹	224	58-101	第6層		府直営	ラック法
113	唐古・縄遺跡	59	KIX-059-00934	用途不明品	コナラ属 アカガシ亜属	911	58-3104	第4層		府直営	ラック法
114	唐古・縄遺跡	59	KIX-059-00939	組合せ	広葉樹	1102	58-2135	第4(下)層		吉岡生物研究所	高級アル法
115	唐古・縄遺跡	59	KIX-059-00940	不明建築材	コナラ属 アカガシ亜属	1103	58-2135	第4(下)層	R-404	府直営	ラック法
116	唐古・縄遺跡	59	KIX-059-00951	用途不明品	同定不可	1118	58-3125	第4(下)層		吉岡生物研究所	高級アル法
117	唐古・縄遺跡	59	KIX-059-00952	用途不明品	コナラ属 アカガシ亜属	1118	58-3135	第4(下)層		府直営	ラック法
118	唐古・縄遺跡	59	KIX-059-00962	用途不明品	ツバキ科ツバキ属	833	3D-1102	第4層	R-403	吉岡生物研究所	高級アル法
119	唐古・縄遺跡	59	KIX-059-00968	用途不明品	イナゴ科 カヤ楓カサ	914	58-3103	第4層		吉岡生物研究所	高級アル法
120	唐古・縄遺跡	59	KIX-059-00979	丸太板	サカキ属サカキ	1096	3D-1101	第3層		府直営	ラック法
121	唐古・縄遺跡	61	KIX-061-00911	楕円	クワ科クワ属	1486	3D-151A	第8(下)層		府直営	ラック法
122	唐古・縄遺跡	61	KIX-061-00935	不明器	クワ科クワ属	1489	5D-151B	第8層		吉岡生物研究所	高級アル法
123	唐古・縄遺跡	61	KIX-061-00946	不明建築材	イナゴ科 カヤ楓カサ	1521	3D-151C	第9層		吉岡生物研究所	高級アル法
124	唐古・縄遺跡	61	KIX-061-00977	有蓋樽	クスノキ科 クスノキ属	1553	5D-151B	第8(下)層	R-452	吉岡生物研究所	高級アル法

No.	道研名	次第	製品コード	製品名	組織	台帳 No.	道研名	層位	着上 番号	保存処理機関	保存処理方法	
125	唐古・織造絲	61	KIX-061-00090	有筋絲	エゴノキ糸 エゴノキ織	1555	SD-1518B	第8(F)層	R-868	吉岡生物研究所	高級アル法	
126	唐古・織造絲	61	KIX-061-00091H	有筋絲	クスノキ糸 クスノキ織	1555	SD-1518B	第8(F)層	R-869	吉岡生物研究所	高級アル法	
127	唐古・織造絲	61	KIX-061-00094H	有筋絲	ウツギ科 ハリギリ糸 ハリギリ織	1555	SD-1518B	第8(F)層	R-872	吉岡生物研究所	高級アル法	
128	唐古・織造絲	61	KIX-061-00095H	有筋絲	ウツギ科 ハリギリ糸 ハリギリ織	1555	SD-1518B	第8(F)層	R-873	吉岡生物研究所	高級アル法	
129	唐古・織造絲	61	KIX-061-00096H	有筋絲	クスノキ糸 シロダ織	1555	SD-1518B	第8(F)層	R-874	吉岡生物研究所	高級アル法	
130	唐古・織造絲	61	KIX-061-00099H	有筋絲	同定不可	1555	SD-1518B	第8(F)層	R-876	吉岡生物研究所	高級アル法	
131	唐古・織造絲	61	KIX-061-00108H	有筋絲	フナ科シイ属ウ	1555	SD-1518B	第8(F)層	R-877	吉岡生物研究所	高級アル法	
132	唐古・織造絲	61	KIX-061-00109H	有筋絲	ヒト科 ムクノキ織	1555	SD-1518B	第8(F)層	R-878	吉岡生物研究所	高級アル法	
133	唐古・織造絲	61	KIX-061-00104H	用途不明品	イイギリ糸 イイギリ織 イイギリ	1153	SK-118	第6-8層		吉岡生物研究所	高級アル法	
134	唐古・織造絲	61	KIX-061-00105H	用途不明品	ノウゼン草ウ科 糸織	1125	SK-118	第6層		吉岡生物研究所	高級アル法	
135	唐古・織造絲	61	KIX-061-00106H	用途不明品	ヒト科 ケヤキ属ケヤキ	1133		第6層		吉岡生物研究所	高級アル法	
136	唐古・織造絲	61	KIX-061-00107H	用途不明品	バウリアウ科ウ	1137	SK-118	第6層	R-604	吉岡生物研究所	高級アル法	
137	唐古・織造絲	61	KIX-061-00108H	用途不明品	ウツギ科ウ	1137	SK-118	第6層	R-607	吉岡生物研究所	高級アル法	
138	唐古・織造絲	61	KIX-061-00109H	用途不明品	イナキ科 カヤ織カヤ	1367	SK-153	第2層	R-203	吉岡生物研究所	高級アル法	
139	唐古・織造絲	61	KIX-061-00117H	不明資源	マユ科マユ属 イボウキ	1432	SD-151	第5-8層		町直営	ラウチ法	
140	唐古・織造絲	61	KIX-061-00118H	用途不明品	イブツヤ科 イブツヤ織 イブツヤ	1491	SD-1518B	第8層		吉岡生物研究所	高級アル法	
141	唐古・織造絲	61	KIX-061-00119H	用途不明品	サカキ属サカキ	1543	SD-1518B	第8層		町直営	ラウチ法	
142	唐古・織造絲	63	KIX-063-00089H	織	同定不可	304	SD-103B	第3(F)層		町直営	ラウチ法	
143	唐古・織造絲	63	KIX-063-00012H	一本織	コナラ織	283	SD-103A	第3層	R-301	町直営	ラウチ法	
144	唐古・織造絲	63	KIX-063-00013H	一本織	糸織(シロ織経目)	283	SD-103A	第3層	R-302	町直営	ラウチ法	
145	唐古・織造絲	63	KIX-063-00020H	織子止	クワ織	275	SD-103A	第4層		町直営	ラウチ法	
146	唐古・織造絲	65	KIX-065-00029H	用途不明品	スギ科 スギ織スギ	4332	SK-292	第2層		吉岡生物研究所	高級アル法	
147	唐古・織造絲	65	KIX-065-00041H	用途不明品	イナキ科 カヤ織カヤ	1126			R-101	町直営	ラウチ法	
148	唐古・織造絲	69	KIX-069-10007H	原料	アサギ科 アサギシロ織	2131	SK-1137	第6(F)層	R-603	町直営	ラウチ法	
149	唐古・織造絲	73	KIX-073-00003H	平織	イナキガシ糸目	116	SD-103	第6層		大阪市博物館協会	ラウチ法	
150	唐古・織造絲	73	KIX-073-00008H	網交員	イナキガシ	143	SD-103	第9層		町直営	ラウチ法	
151	唐古・織造絲	73	KIX-073-00009H	網交員	ヒノキ	88	SD-104	第2層		町直営	ラウチ法	
152	唐古・織造絲	73	KIX-073-00011H	織子止	クワ科クワ織	116	SD-103	第6層		吉岡生物研究所	高級アル法	
153	唐古・織造絲	73	KIX-073-00012H	織子止	イヌダマ	84	SD-106	第4層		町直営	ラウチ法	
154	唐古・織造絲	73	KIX-073-00015H	用途不明品	クワ科クワ織	82	SD-103	第3(F)層		町直営	ラウチ法	
155	唐古・織造絲	73	KIX-073-00017H	用途不明品	コナラ織クマヤ織	98	SD-106	第6層		町直営	ラウチ法	
156	唐古・織造絲	74	KIX-074-00023H	型織	糸織	697	SK-119	第1(F)層	その1	町直営	PE・真空凍結法	
157	唐古・織造絲	74	KIX-074-00031H	不明織物	ヒノキ科ヒノキ織	841	PI1-105H	第1層		町直営	ラウチ法	
158	唐古・織造絲	74	KIX-074-00032H	有筋織	ムクノキ織 ツバキ科ウ	743	SK-291	第4層		吉岡生物研究所	高級アル法	
159	唐古・織造絲	74	KIX-074-00033H	有筋織	ツバキ科ウ	811	PI1-105H	第4層	R-412	吉岡生物研究所	高級アル法	
160	唐古・織造絲	74	KIX-074-00040H	用途不明品	クワ科クワ織	818	SK-203	第3層		吉岡生物研究所	高級アル法	
161	唐古・織造絲	79	KIX-079-00019H	柱	糸織	291	PI1-152			町直営	ラウチ法	
162	唐古・織造絲	79	KIX-079-00020H	柱	糸織	317	PI1-182			町直営	ラウチ法	
163	唐古・織造絲	79	KIX-079-00029H	用途不明品	同定不可	244	SK-106	第6層		町直営	ラウチ法	
164	唐古・織造絲	79	KIX-079-00033H	用途不明品	コナラ織 アサギシロ織	892	SD-101B	第7(F)層		吉岡生物研究所	高級アル法	
165	唐古・織造絲	79	KIX-079-00034H	用途不明品	ウツギ科	104	SD-101B	第6層		町直営	ラウチ法	
166	唐古・織造絲	79	KIX-079-00035H	用途不明品	イヌダマ	104	SD-101B	第6層		町直営	ラウチ法	
167	唐古・織造絲	79	KIX-079-00042H	柱	糸織	217	PI1-173			町直営	ラウチ法	
168	唐古・織造絲	79	KIX-079-00043H	用途不明品	糸織	267	SD-103	第5-8層		町直営	ラウチ法	
169	唐古・織造絲	82	KIX-082-00005H	蒸	広葉織	407	SK-206		R-301	吉岡生物研究所	高級アル法	
170	唐古・織造絲	88	KIX-088-00003H	小型白 未成織	トナリキ	23	SK-2102	第2層		R-201	町直営	ラウチ法
171	唐古・織造絲	89	KIX-089-00001H	織物織片 未成織	ヒト織	625	SK-1201			大阪市博物館協会	ラウチ法	
172	唐古・織造絲	91	KIX-091-00003H	不明資源	織皮	646	SD-101D	See_第27層		町直営	ラウチ法	
173	唐古・織造絲	91	KIX-091-00002H	型	広葉織	516	SD-101D	第11層		吉岡生物研究所	高級アル法	
174	唐古・織造絲	93	KIX-093-00005H	網交員	ヒト織	1218	PI1-1201H	第6-8層		大阪市博物館協会	ラウチ法	
175	唐古・織造絲	93	KIX-093-00006H	型	ヒト織	761	SK-2120	第11(F)層		町直営	ラウチ法	
176	唐古・織造絲	93	KIX-093-00011H	不明資源	ヤナギ織	1013		掘上		町直営	ラウチ法	
177	唐古・織造絲	93	KIX-093-00025H	原料	ヒノキ科	762	SK-2120	第11(F)層		町直営	ラウチ法	
178	唐古・織造絲	93	KIX-093-00030H	用途不明品	ヒノキ	906	PI1-1201H	第6層		町直営	ラウチ法	

Ⅱ. 資料の整理と活用・普及

No.	道跡名	次数	製品コード	製品名	組織	台帳 No.	道跡名	層位	館上 番号	保存処理機関	保存処理方法
179	唐古・縄遺跡	38	K38-099-00000A	不明容器	ヤブヅク	542	38-291	第2層		町直営	ラック法
180	唐古・縄遺跡	102	K38-102-00000A	不明容器	エノキ属	43	53-101	第17-4層		町直営	ラック法
181	唐古・縄遺跡	115	K38-115-00002A	網皮	サクラ	183	50-101B	第13層	W-1004	町直営	ラック法
182	唐古・縄遺跡	115	K38-115-00003A	網皮	サクラ	181	50-101B	第13層		町直営	ラック法
183	唐古・縄遺跡	115	K38-115-00004A	網皮	サクラ	214	50-101B	第12層		町直営	ラック法
184	洪水風遺跡	2	S2K-002-00002A	組合せ織	コナラ属 アカガシ亜属	216	38-192	第5(下)層		大阪府博物館協会	ラック法
185	洪水風遺跡	2	S2K-002-00003A	用途不明品	ナシ亜科	433	38-192 433	第3層		町直営	ラック法
186	法皇寺北遺跡	6	H6A-006-00001A	用途不明品	コウヤマキ	89	50-2051A	第3層		吉田生物研究所	高級アル法
187	保津・ 宮古遺跡	16	HTP-016-00001A	漆器板	未特定	22	50-05	第3層		町直営	PE・真空凍結法
188	保津・ 宮古遺跡	16	HTP-016-00002A	漆器板	未特定	21	50-05	第3層		町直営	PE・真空凍結法
189	保津・ 宮古遺跡	16	HTP-016-00004A	漆器板	未特定	63	50-05	第3(上)層	W-301	町直営	PE・真空凍結法
190	保津・ 宮古遺跡	16	HTP-016-00005A	円形漆物	未特定	104	50-05	第3層		町直営	PE・真空凍結法
191	保津・ 宮古遺跡	16	HTP-016-00006A	漆器板	未特定	27				町直営	PE・真空凍結法
192	保津・ 宮古遺跡	16	HTP-016-00007A	円形漆物	未特定	104	50-05	第3層		町直営	PE・真空凍結法
193	保津・ 宮古遺跡	16	HTP-016-00008A	漆物漆板	未特定	23	50-05			町直営	ラック法
194	保津・ 宮古遺跡	16	HTP-016-00009A	漆物漆板	未特定	53	50-05			町直営	ラック法
195	保津・ 宮古遺跡	16	HTP-016-00010A	漆物漆板	未特定	53	50-05			町直営	ラック法
196	保津・ 宮古遺跡	16	HTP-016-00011A	漆物漆板	未特定	53	50-05	第3層		町直営	ラック法
197	保津・ 宮古遺跡	16	HTP-016-00012A	漆物漆板	未特定	63	50-05	第3層	W-302	町直営	ラック法
198	宮古北遺跡	15	H0A-015-00005A	用途不明品	コナラ属 アカガシ亜属	51	38-294	第4層		吉田生物研究所	高級アル法
199	宮古北遺跡	15	H0A-015-00007A	用途不明品	ヒノキ科ヒノキ属	50	58-291	第4層		吉田生物研究所	高級アル法
200	獅子田遺跡	19	HC7-019-00005A	網・跡の身	イチイガシ科目	81	58-101	第4層	W-550	町直営	ラック法
201	獅子田遺跡	19	HC7-019-00003A	又網	イチイガシ科目	96	58-101	第6(下)層		町直営	ラック法
202	獅子田遺跡	19	HC7-019-00007A	網・跡の身	イチイガシ科目	75	58-101	第5層	W-523	町直営	ラック法
203	獅子田遺跡	19	HC7-019-00008A	農具柄	同定不可	86	58-101	第6(下)層		町直営	ラック法
204	獅子田遺跡	19	HC7-019-00009A	農具柄	サカキ	86	58-101	第5(下)層		町直営	ラック法
205	獅子田遺跡	19	HC7-019-00010A	農具柄	コナラ属 アカガシ亜属	86	58-101	第5(下)層		町直営	ラック法
206	獅子田遺跡	19	HC7-019-00011A	農具柄	コナラ属 アカガシ亜属	84	58-101	第5(下)層		町直営	ラック法
207	獅子田遺跡	19	HC7-019-00012A	農具柄	イチイガシ科目	67	58-101	第4(下)層		町直営	ラック法
208	獅子田遺跡	21	HC7-021-00001A	跡の柄	イチイガシ科目	51	58-291	第2層	W-291	町直営	ラック法
209	獅子田遺跡	33	HC7-033-00001A	手織	コナラ属 アカガシ亜属	121	58-103	第3(下)層		町直営	ラック法
210	獅子田遺跡	38	HC7-038-10007A	帛布	未特定	75	50-101	第3層		町直営	PE・真空凍結法
211	獅子田遺跡	38	HC7-038-10009A	帛布	未特定	75	50-101	第3層		町直営	PE・真空凍結法
212	獅子田遺跡	38	HC7-038-10008A	帛布	未特定	75	50-101	第3層		町直営	PE・真空凍結法
213	獅子田遺跡	38	HC7-038-10010A	帛布	未特定	75	50-101	第3層		町直営	PE・真空凍結法
214	獅子田遺跡	38	HC7-038-10011A	帛布	未特定	72	58-101	第3層		町直営	PE・真空凍結法
215	獅子田遺跡	38	HC7-038-10012A	帛布	未特定	69	50-103	第3層		町直営	PE・真空凍結法
216	獅子田遺跡	38	HC7-038-10013A	帛布	未特定	69	50-101	第3層		町直営	PE・真空凍結法
217	獅子田遺跡	38	HC7-038-10014A	帛布	未特定	72	58-101	第4層		町直営	PE・真空凍結法
218	獅子田遺跡	38	HC7-038-10015A	帛布	未特定	78	58-56	第1層		町直営	PE・真空凍結法
219	獅子田遺跡	38	HC7-038-10016A	帛布	未特定	36	50-51	第2層		町直営	PE・真空凍結法
220	獅子田遺跡	38	HC7-038-10017A	帛布	未特定	36	50-51	第2層		町直営	PE・真空凍結法
221	獅子田遺跡	38	HC7-038-50001A	サンプル	未特定	86				町直営	PE・真空凍結法
222	十六面・ 薬王寺遺跡	5	JR1-005-00001A	円形漆物 (片円形)	未特定	46	50-01	片円形 2段目		町直営	ラック法
223	十六面・ 薬王寺遺跡	5	JR1-005-00002A	円形漆物 (片円形)	未特定	46	50-01	片円形 3段目		町直営	ラック法
224	十六面・ 薬王寺遺跡	5	JR1-005-00003A	円形漆物 (片円形)	未特定	46	50-01	片円形 2段目		町直営	ラック法
225	十六面・ 薬王寺遺跡	5	JR1-005-00008A	円形漆物 (片円形)	未特定	28	50-04	片円形 3段目		町直営	ラック法
226	十六面・ 薬王寺遺跡	24	JR1-024-00007A	用途不明品	マツ科マツ属	83	53-101	第6層	W-608	吉田生物研究所	高級アル法
227	十六面・ 薬王寺遺跡	30	JR1-030-00002A	用途不明品	ガマズミ	396	58-2154	第3層		町直営	ラック法
228	十六面・ 薬王寺遺跡	30	JR1-030-00014A	香炉	スズ	90	58-2101	第6層		町直営	ラック法
229	十六面・ 薬王寺遺跡	30	JR1-030-00015A	香炉	スズ	90	58-2101	第6層		町直営	ラック法
230	十六面・ 薬王寺遺跡	30	JR1-030-00039A	香炉	ヒノキ科 アスナロ属	117	50-3102	第2層		町直営	ラック法
231	十六面・ 薬王寺遺跡	30	JR1-030-00039A	用途不明品	ウツギ	69	58-3052	第5(下)層		町直営	ラック法

No.	道跡名	次数	製品コード	製品名	樹種	台帳 No.	道跡名	層位	着上 番号	保存処理機関	保存処理方法
232	十六番・ 薬王寺道跡	31	JRY-031-00001E	除去	コナラ属 アサギシ亜属	1213	SK-174	第3層		吉田生物研究所	高級アル法
233	十六番・ 薬王寺道跡	31	JRY-031-00002E	曲柄又麻	カシ	1375	SK-191	第2層	W-207	吉田生物研究所	高級アル法
234	十六番・ 薬王寺道跡	31	JRY-031-00003E	結縛糸	イナギサ	1375	SK-191	第2層	W-201	町直営	ラクチ法
235	十六番・ 薬王寺道跡	31	JRY-031-00008E	用途不明品	ヒノキ	1375	SK-178	第3層		町直営	ラクチ法
236	十六番・ 薬王寺道跡	31	JRY-031-00009E	用途不明品	ヒノキ	1375	SK-178	第3層		町直営	ラクチ法
237	十六番・ 薬王寺道跡	31	JRY-031-00012E	下駄	カヤ	427	SK-16	第1層	W-101	町直営	ラクチ法
238	小坂室中道跡	1	KSY-001-00022E-1	朽形曲物 (片)9枚	未特定	152	SE-01			町直営	PEG処理
239	小坂室中道跡	1	KSY-001-00022E-2	朽形曲物 (片)9枚	未特定	152	SE-01			町直営	PEG・真空凍結法
240	小坂室中道跡	1	KSY-001-00001E	透器輪	未特定	49	SD-21C	第5層		町直営	PEG・真空凍結法
241	小坂室中道跡	1	KSY-001-00002E	曲物広板	ヒノキ科ヒノキ属	101	SK-52	第3層		吉田生物研究所	高級アル法
242	小坂室中道跡	1	KSY-001-00003E	曲物広板	ヒノキ科ヒノキ属	101	SK-52	第3層		吉田生物研究所	高級アル法
243	西竹田道跡	1	YTD-001-00001E	輪	マンサク科 イスノキ	21	SD-6001	第2層		吉田生物研究所	高級アル法
244	西竹田道跡	1	YTD-001-00002E	透輪	未特定	16	SD-6001	第3層		町直営	PEG・真空凍結法
245	西竹田道跡	1	YTD-001-00009E	用途不明品	ヒノキ科ヒノキ属	16	SD-6001	第3層		吉田生物研究所	高級アル法
246	薬業寺推定地	5	JRJ-005-00001E	輪	マンサク科 イスノキ	40	SD-01	第3層		吉田生物研究所	高級アル法
247	薬業寺推定地	5	JRJ-005-00003E	透器輪	未特定	35	SD-01	第1層		町直営	PEG・真空凍結法
248	薬業寺推定地	5	JRJ-005-00020E	曲物広板	未特定	171	SK-52	第2層	W-201	町直営	ラクチ法
249	薬業寺推定地	5	JRJ-005-00021E	曲物広板	未特定	39	SK-52	第2層	W-203	町直営	ラクチ法
250	薬業寺推定地	5	JRJ-005-00022E	箸	マツ科ヒノキ属	58	SD-01B	第5-6層		吉田生物研究所	高級アル法
251	薬業寺推定地	5	JRJ-005-00023E	部材	未特定	27	SD-01	第3層		町直営	ラクチ法
252	薬業寺推定地	5	JRJ-005-00049E	用途不明品	ヒノキ科 アスナギ属	44	SD-01	第4層		吉田生物研究所	高級アル法
253	薬業寺推定地	5	JRJ-005-00049E	用途不明品	二葉ネ林 ニギキ属ニギキ	30	SD-01	第5層		吉田生物研究所	高級アル法
254	年内町道跡	5	JYC-005-00004E	朽形曲物 (片)9枚	未特定	74	SK-11	第5層		町直営	ラクチ法
255	杖塚内道跡 (伊-20141)		SK-E-201411- 00001E	透輪	未特定	5	SD-6001B	第2層		町直営	PEG・真空凍結法
256	杖塚内道跡 (伊-20141)		SK-E-201411- 00002E	竹輪	未特定	11				町直営	PEG・真空凍結法
257	杖塚内道跡 (伊-20141)		SK-E-201411- 00003E	竹輪	未特定	14	SD-15001	第3層		町直営	PEG・真空凍結法
258	杖塚内道跡 (伊-20141)		SK-E-201411- 00004E	藤手	未特定	10	SD-11001	第3層		町直営	PEG・真空凍結法
259	杖塚内道跡 (伊-20141)		SK-E-201411- 00005E	用途不明品	未特定	10	SD-11001	第3層		町直営	PEG・真空凍結法

※ラクチ法はラクチロール・トレハロース含浸法、高級アル法は高級アルコール処理法、PEG・真空凍結法はPEG含浸・真空凍結乾燥法を略す。

## (3) 図面・写真の保管と資料撮影、写真のデジタル化

発掘調査に伴う現場写真と図面については、下表のとおりである。また、写真撮影は、町内の各遺跡から出土した速報展や企画展用の遺物、保存処理用木製品、重要考古資料目録の作成に伴う土器等の遺物の撮影をおこなった。また、唐古・鍵考古学ミュージアムの企画展関連遺物の写真デジタル化をおこなった。

## 【図面・写真の保管数量】

調査番号	遺跡名	調査回数	図面		35 mm			
					カラーポジ		モノクロネガ	
			現場	遺物	シート数	コマ数	シート数	コマ数
H26-01	宮古北遺跡	第18次調査	8	1	4	63	2	62
H26-02	羽子田遺跡	第38次調査	17	10	9	163	5	162
H26-03	十六面・薬王寺遺跡	第35次調査	3	-	4	66	2	65
H26-04	羽子田遺跡	第39次調査	2	-	1	20	1	21
H26-05	唐古・鍵遺跡	第115次調査	57	-	18	351	10	349
H26-06	多遺跡	第26次調査	12	-	4	74	2	73
計			99	11	40	736	22	732

## 【写真撮影一覧】

種類	資料名・内容	フィルム (4×5)	カット数	備考
考古遺物	唐古・鍵遺跡第13次・ 羽子田遺跡第38次・ 千代遺跡第1次外 木製品	カラーポジ	2	保存処理用
		モノクロネガ	13	
	唐古・鍵遺跡第26次外 木製品	デジタル 645RAW	16	
	唐古・鍵遺跡 木製品（平塚外）	デジタル 645RAW	35	秋季企画展「弥生遺産Ⅱ～唐古・鍵遺跡の木製品～」
	唐古・鍵遺跡・ 羽子田遺跡・佐味遺跡・ 十六面・薬王寺遺跡 弥生土器外	デジタル 645RAW	27	春季企画展「たわらもと2015 発掘速報展」
	唐古・鍵遺跡第115次 木製品	デジタル 645RAW	10	報告用
	唐古・鍵遺跡 弥生土器 木製品	デジタル 645RAW	109 20	重要考古資料目録作成用
計		デジタル 645RAW	217	
		カラーポジ	2	
		モノクロネガ	13	

## 【デジタル化一覧】

内 容	カラーポジ (4×5)	成 果 品
十六面・薬王寺遺跡ほか出土遺物 (企画展 Vol.15)・唐古・鍵遺跡絵画土器ほか	50 枚	DVD 2 枚

#### (4) 図書を受領

平成26年度は、文化財保存課と唐古・鍵考古学ミュージアムに関係諸機関・個人（282機関等）から869冊の図書の寄贈を受けた。また、図書の購入は12冊である。

#### 【図書を受領】

分類	報告書	概報	現説資料	年報	館報	図録	パンフレット	紀要	会報
冊数	515(1)	69	2	78	7	59	12	34	3

分類	論文集	たより	発表資料	単行本	雑誌	目録	その他	合計
冊数	3	20	10	13	26	3	15	869

※ 上記冊数には、2部以上の寄贈30冊を含んでいない。 ※( )の数字は、CD-ROM1枚の枚数である。

#### (5) 指定文化財の寄託

平成26年10月14日、町指定文化財「小林家文書」が所有者 小林敏良氏より町に寄託された。「小林家文書」は平成24年9月27日に指定を受け、その所管は小林氏にあったが、広く活用するため田原本町に寄託されたものである。

寄託当初は古文書保管用の紙製箱に収納していたが、現在は桐箱に収納している。

「小林家文書」は桃山～昭和時代にかけての田原本村「小室」における村方文書を中心とした古文書で、総点数は1,132点を数える。文禄四年（1595）の「大和国十市郡田原本御検地帳」（写）をはじめとした土地利用や集落形態をうかがえるもの、村方や江戸時代の田原本村を治めていた旗本平野氏に関わるもの、村内を詳細に描いた絵図など、田原本村の様相を明らかにするうえで不可欠なものである。また、奈良県最初の新聞である「日新新聞」が、第4号を除いて全て現存していることも注目される。

このように、「小林家文書」は田原本町の歴史を解き明かすためにきわめて重要な文書群であり、町指定文化財として一括指定したものである。

今回の寄託を受け、今後より広く活用する予定であるが、一部の文書に損傷が生じており、公開等に先立って修繕をおこなう必要がある。



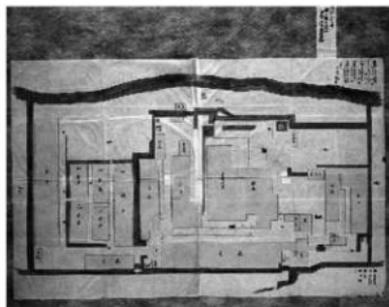
「田原本村割付」



「日新新聞」



「田原本村全図」



「田原本郭内絵図」

## 2. 講座

成人向けの講座として、講演会を1回開催した。また、小中学生向けの体験講座を夏に開催した。

講演会では唐古・鏡遺跡と関連のあるテーマを設定し、講師を招いて講演をおこなった。チャレンジ子ども弥生探検隊では、ミュージアム展示品をモデルにしたマグネットクリップ・キーホルダー作りを実施した。

### 【講演会】

実施日	内容	講師	受講者数
3月21日(土)	「唐古・鏡遺跡の織物にみる弥生時代の紡織技術」	福井大学 東村 純子 氏	45名

### 【チャレンジ子ども弥生探検隊】

実施日	内容	会場	参加者数
8月20日(水)	体験講座 マグネットクリップ・キーホルダー作り	会議室	20名



東村 純子氏 講演



マグネットクリップ・キーホルダー作り

### 3. 学校教育等への支援

#### (1) 小学校出前授業・教材貸出

町内小学校から依頼を受け、総合的学習の時間及び社会科等の授業として、以下内容の出前授業をおこなった。これらの児童の作品や学習成果は、1月末から2月初旬に開催した「田原本町内小学校の総合的な学習展示会」にて公開し、274名が観覧した。

#### 【出前授業】

実施日	学校・学年	児童数	内 容
4月23日(水)	北小学校 6年	1クラス(33名)	ミュージアム見学・勾玉づくり
5月23日(金)			火熾し・赤米炊飯・脱穀
10月3日(金)			土器づくり
12月12日(金)			土器の野焼き
7月3日(木)	東小学校 6年	1クラス(20名)	ミュージアム見学・勾玉づくり
10月2日(木)			土器づくり
11月6日(木)			土器の野焼き
11月20日(木)			火熾し・赤米炊飯
5月8日(木)	南小学校 6年	2クラス(54名)	火熾し・赤米炊飯
6月5日(木)			土器づくり
7月10日(木)			勾玉づくり
5月30日(金)	平野小学校 6年	2クラス(62名)	勾玉づくり
6月27日(金)			土器づくり
10月10日(金)			土器の野焼き
10月24日(金)			火熾し・赤米炊飯
4月24日(木)	田原本小学校 6年	5クラス(126名)	ミュージアム見学
6月6日(金)			勾玉づくり
6月12日(木)・13日(金)			土器づくり
6月20日(金)			火熾し・赤米炊飯
20日間	11クラス(延べ1,633名)		メニュー延べ28



小学校出前授業(南小学校)



小学校出前授業(平野小学校)

## (2) 中学校職場体験学習

中学生の職場体験学習として、田原本中学校・北中学校の生徒を受け入れ、文化財保存課と唐古・鍵考古学ミュージアムで体験学習を実施した。

## 【体験学習】

期 間	学 校 名	内 容	人 数
11月4・5・6日	田原本中学校	土器洗浄・遺物選別・石器の整理・ 土器拓本・ミュージアム受付	3名
11月12・13・14日	北中学校		3名
6日間	2学校	延べ10メニュー	延べ18名

## (3) 大学の学外授業

奈良大学の通信教育の課外授業として、4回受け入れ、下記内容の授業をおこなった。

## 【学外授業】

実 施 日	内 容	人 数
8月2日(土)	奈良大学 通信教育課程「文化財学講読Ⅱ」 唐古・鍵遺跡の現地説明 唐古・鍵考古学ミュージアムの概要説明・展示品解説	111名
9月7日(日)		26名
1月11日(日)		31名
2月28日(土)		27名
4日間		計195名



中学校職場体験学習(北中学校)



奈良大学通信教育

## (4) 講師の派遣

前記以外に、教育委員会等の事業として下記のとおり職員を派遣した。

#### 【講師の派遣】

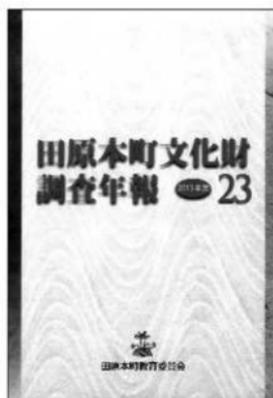
実施日	講座名等	演題	講師
6月23日(月)	同志社大学文化情報学部設置科目「歴史文化情報入門」	弥生土器のみかた	藤田
7月26日(土)	柏原市立歴史資料館 夏季企画展「縄文から弥生へ—船橋遺跡の縄文絵画土器が語るもの—」関連講演会	絵画土器が語る精神世界	藤田
8月21日(水)	小学校社会科研修会	弥生時代と唐古・鍵遺跡	藤田
9月14日(日)	唐古・鍵遺跡の保存と活用を支援する会「唐古・鍵遺跡考古学講座」	ヤマトの弥生拠点集落—唐古・鍵遺跡—	藤田
11月9日(日)	(社福) ボロボロの会・(社福) 八尾すずらん福祉会共同企業体「古代史講座」	唐古・鍵遺跡について	藤田

#### 4. 刊行物一覧

本年度は、下記5点の書物を印刷した。

##### 【刊行物名】

書籍名	発行日	部数	内容
唐古・鍵考古学ミュージアム 秋季企画展図録『弥生遺産Ⅱ～唐古・鍵遺跡の木製品～』	2014年10月	2,000部	唐古・鍵遺跡から出土した木製品を、生活利用・製作技術の観点から探る展示
シンポジウム『ヤマト王権はいかにして始まったか Part. Ⅱ』	2014年10月	500部	田原本青垣生涯学習センター・唐古・鍵考古学ミュージアムの開館10周年記念事業として開催したシンポジウムの発表要旨集
『国史跡唐古・鍵遺跡保存管理計画書』	2015年2月	150部	唐古・鍵遺跡の保存管理計画策定事業の報告書
『田原本町文化財年報23 2013年度』	2015年3月	750部	平成25年度の文化財事業の報告
『唐古・鍵遺跡 考古資料目録Ⅰ—土器編Ⅰ(絵画・記号・文様)—』	2015年3月	800部	唐古・鍵遺跡出土資料の解説目録。遺跡概要と絵画土器・記号土器・土器文様を掲載



## 5. 資料の活用

## (1) 資料の貸出

平成26年度は、7機関に延べ10遺跡90点の遺物等を貸出した。貸出内容は、十六面・薬王寺遺跡、唐古・鍵遺跡の出土品が大半である。

## 【資料貸出の一覧】

貸出先/展覧会名/期間	遺跡名	資料名	点数
柏原市立歴史資料館/平成26年度夏季企画展『縄文から弥生へ—船橋遺跡の縄文絵画土器が語るもの—』 平成26年6月27日～9月5日	清水風遺跡	絵画土器6・土器展示台1	7点
奈良県橿原考古学研究所附属博物館/速報展『大和を照らす32』 平成26年6月27日～9月19日	十六面・薬王寺遺跡	土師器4・滑石製白玉12・滑石製管玉2・グリーンタフ製管玉2・グリーンタフ製管玉未成品1・滑石製勾玉3・グリーンタフ製勾玉1・グリーンタフ製勾玉未成品1・碧玉製勾玉未成品1・滑石素材1・グリーンタフ素材2・水晶製穿孔具1・石鏝1・砥石1・滑石製鏡形石製品2・滑石製有孔円板1	36点
下関市立考古博物館/平成26年度特別展『青銅器と弥生人のまつり—祭具からみた祭りのすがた—』 平成26年9月8日～12月12日	唐古・鍵遺跡	絵画土器(レプリカ)1・異形高坏1・ト骨2・刻みをいれた鹿角1・土製銅鐸型複製元品1	6点
葛城市歴史博物館/葛城市制10周年第15回特別展『葛城とヤマトタケル白鳥伝説—古代人が残した鳥の造形—』 平成26年9月8日～12月5日	唐古・鍵遺跡	絵画土器3・絵画土器(レプリカ)1・鳥形土器2・菊頭形土製品1・鳥形土製品3・木製鳥形容器1・鳥類骨7	23点
	清水風遺跡	絵画土器1・絵画土器(レプリカ)1	
	羽子田遺跡	須恵器(鳥頭形装飾)1・鳥(革袋)形土器1	
	小阪細長遺跡	鳥形土器1	
奈良県立美術館/特別展『語り継ぐコロとコトバ 大古事記展—五感で味わう、愛と創造の物語—』 平成26年10月7日～12月17日	唐古・鍵遺跡	ト骨1・釣針2	3点
橿原市教育委員会/体験学習『田んぼの生き物観察会①—稲刈り体験をしよう!』 平成26年10月10日～11月7日	—	体験学習用具(木製臼1・炊飯土器2・杓子・五徳・風除け・貫頭衣各一式)	8点
鈴鹿市考古博物館/平成26年度企画展『鈴—鈴の音、鎌の音、太古の響き』 平成27年1月15日～3月25日	唐古・鍵遺跡	銅鐸型土製品5・土製銅鐸型外枠1・青銅製鈴1	7点
7機関/延べ会期期間日数512日	延べ10遺跡等		90点

## 【種別による貸出点数】

土器	埴輪	土製品 焼土	石器	木器	金属器	骨角器	ガラス	骨・貝	種・穀物	レプリカ 模型	総点数
20点	0点	10点	32点	1点	1点	6点	0点	7点	0点	13点	90点

【資料の継続貸出】

貸出先/展示名/期間	遺跡名	資料名	点数
香芝市二上山博物館 常設展示 【貸出期間】平成26年4月1日～平成27年3月31日	唐古・鍵遺跡	弥生土器・垂・高坏・槍先形石器	5点
大阪府立弥生文化博物館 常設展示 【貸出期間】平成26年4月1日～平成27年3月31日	唐古・鍵遺跡	土葬	2点
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館 常設展示 【貸出期間】平成26年4月1日～平成27年3月31日	唐古・鍵遺跡	石製銅鐸型・土製銅鐸型外枠・土製武器 鈍型外枠・高坏形土製品・送風管	13点
3件	延べ3遺跡		20点

(2) 写真掲載・撮影

写真の貸出及び掲載（転載含む）は48件145点であった。写真掲載の内容は、唐古・鍵遺跡の出土遺物の利用率が高い。

【写真掲載・撮影】

貸出先	掲載書籍等	名称(遺跡名)	資料名	点数
西ベストセラーズ	月刊『歴史人』2014年6月号	唐古・鍵遺跡	人骨	1点
藤本義則	たわらもと吹奏楽団演奏会プログラム	唐古・鍵遺跡	復元楼閣・楼閣が描かれた土器片	2点
西南都銀行	南都銀行スタンプラリーパンフレット『ナント・なら・ぶらり！古都めぐり！！』	唐古・鍵遺跡	復元楼閣	1点
HAKODAKARA中経出版 ブランドカンパニー	月刊『歴史読本』7月号	唐古・鍵遺跡	遺跡遠景(2)・復元楼閣・絵画土器	4点
	『奈良歴史読本(仮)』	唐古・鍵遺跡	褐鉄甕容器と納められた翡翠製勾玉・復元楼閣	2点
川崎加奈子	かたりべ文庫 職人の手仕事Vol.18『日本刺繍』	保津・宮古遺跡	木製盾	1点
青谷上寺地遺跡展示館	ロビー展「弥生の盾とよらい(仮称)」パネル展示	清水風遺跡	絵画土器(4)	4点
		唐古・鍵考古学ミュージアム	鳥装のシャーマン模型	1点
柏原市立歴史資料館	平成26年度夏季企画展「縄文から弥生—船橋遺跡の縄文絵画土器が語るもの—」関連印刷物	清水風遺跡	絵画土器(5)	5点
福かざろひコミュニケーションズ	大和路小誌『やまとみち』第135号	十六面・葉王寺遺跡	勾玉・鏡形石製品集合	1点
奈良県立美術館	特別展「語り継ぐココロとコトバ古事記展—五感で味わう、甕と創造の物語—」関連印刷物	唐古・鍵遺跡	ト骨・釣針(2)	3点
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	平成26年度速報展「大和をゆるる32」関連印刷物	十六面・葉王寺遺跡	第31次調査区遺構(3)・遺物出土状況(1)	4点
西ベストセラーズ	『歴史人』別冊 古代史の謎	唐古・鍵遺跡	槌棒・鎌打具と布巻具・絵画土器・楼閣が描かれた絵画土器・復元楼閣	5点(転載5)
下関市立考古博物館	平成26年度特別展「青銅器と弥生人のまつり—器具からみた祭りのすがた—」関連印刷物	唐古・鍵遺跡	絵画土器・異形高坏・ト骨集合・祭祀具集合・土製銅鐸型復元品・土製銅鐸型構造イラスト・鋳造風景イラスト	7点
		唐古・鍵考古学ミュージアム	マツリの風景模型(2)・鳥装のシャーマン模型・盾と杖を持つ人物模型	4点

貸出先	掲載書籍等	名称(遺跡名)	資料名	点数
葛城市歴史博物館	特別展「葛城とヤマトタケル 白鳥伝説—古代人が残した島の造形—」関連印刷物	唐古・鍵遺跡	絵画土器(4)・楼閣が描かれた絵画土器・甕頭形土製品・木製鳥形容器	7点
		清水風遺跡	絵画土器	1点
		羽子田遺跡	革袋形土製品・水鳥頭形須臾器装飾	2点
		小坂細長遺跡	鳥形容器	1点
前三森舎	『あなたの知らない奈良県の歴史(仮)』	唐古・鍵遺跡	復元楼閣	1点
	ビジュアル版『出雲と大和』歴史の謎を解く	唐古・鍵遺跡	楼閣が描かれた土器片	1点
	『邪馬台国の実像』	唐古・鍵遺跡	楼閣が描かれた土器片	1点
丸善出版部	『衣服の百科事典』	唐古・鍵遺跡	翡翠製丸玉・碧玉製管玉・水晶製丸玉・ガラス玉(2)	5点
西G.B.	週刊『日本の神社』	多神社	多神社本殿	1点
横浜市歴史博物館	平成26年度企画展「大おにぎり展—出土資料からみた穀物の歴史」関連印刷物	唐古・鍵遺跡	短頸甕(2)・徳東・徳東と炭化米	4点
尼崎市立田能資料館	第44回尼崎市立田能資料館特別展「弥生の食べもの」関連印刷物	唐古・鍵遺跡	甕頭形土製品	1点
セインズベリー 日本美術研究所	英国高校教育向け教材「Online Resource For Japanese Archaeology And Cultural Heritage」	唐古・鍵遺跡	イノシシ下顎骨・第11次調査区ドングリピット	2点 (転載2)
藤はる制作室	別冊宝島『邪馬台国と卑弥呼』	唐古・鍵遺跡	楼閣を描いた土器片・復元楼閣	2点
藤タウン通信	『邪馬台国への旅(仮)』	唐古・鍵遺跡	白と土器転用井戸枠・一本軸・木棺蓋・鳥装のシャーマン模型・盾と矛を持つ人物模型・マツリの風景模型・唐古・鍵ムライラスト(4)	10点
		唐古・鍵考古学ミュージアム	展示風景(10)	10点
新光文書院	『社会科資料集 6年』	唐古・鍵遺跡	絵画土器	1点 (転載)
学校法人河合塾	2014年度 第2回セントラレーニングテスト(日本史)(高校生対象)	唐古・鍵遺跡	楼閣を描いた土器片・復元楼閣	2点 (転載2)
拓朝日カルチャーセンター	朝日新聞 11月20日夕刊	唐古・鍵遺跡	復元楼閣	2点
クラブツーリズム カルチャー旅行センター	『おとなの寺旅』	安養寺	木造阿弥陀如来立像	1点
		千萬院	木造十一面観音立像	1点
朝日新聞出版	『日本発掘!』	笹針山2号墳	馬形埴輪・馬夷人物形埴輪集合	1点
織エディット	角川まんが学習シリーズ『日本の歴史』別巻	唐古・鍵遺跡	翡翠製勾玉	1点
奈良県観光局 ならの魅力創造課	観光ガイドブック『なら記紀・万葉名所図会 図解で楽しい! 大古事記展編』	唐古・鍵遺跡	ト骨	1点 (転載)
藤グレイル	『古墳の地図帳(仮)』	唐古・鍵遺跡	復元楼閣	1点

貸出先	掲載書籍等	名称(遺跡名)	資料名	点数
静岡市立登呂博物館	企画展「祭礼のかたち」展示パネル	唐古・鍵遺跡	絵画土器・大型建物検出状況・大型建物平面図	3点
香川県埋蔵文化財センター	旧練兵場遺跡出土絵画土器展示関連パネル	唐古・鍵遺跡	復元模型	1点
前アート・エフ	『標準学方調査1学期版 中2 [地理] [歴史]』	唐古・鍵遺跡	弥生土器	1点
	『標準学方調査1学期版 中3 [歴史]』	唐古・鍵遺跡	弥生土器	1点
大阪府立弥生文化博物館	常設展示室パネル	唐古・鍵遺跡	土製銅鐔型外枠・炭検出状況	2点
糸島市立伊都国歴史博物館	平成26年度伊都国フォーラム発表要旨集	唐古・鍵遺跡	褐鉄甕容器と納められた翡翠製勾玉	1点
京都新聞出版センター	『京都発掘! 出土品から見た歴史 (仮)』	唐古・鍵遺跡	復元模型	1点
縄連学会	配布用教材『歴史(上)』	唐古・鍵遺跡	弥生土器・石廬丁	2点
奈良県立橿原考古学研究所	『Archaeological Institute of Kashihara, Nara Prefecture』 〔奈良県立橿原考古学研究所要覧 英語版〕	唐古・鍵遺跡	鳥頭形土製品・土製銅鐔型外枠	2点 (転載2)
縄ワクト	『夏の生活 社会 歴史1』	唐古・鍵遺跡	絵画土器	1点 (転載)
桑原久男	『モノと図像から探る怪異・妖怪の世界』	唐古・鍵考古学ミュージアム	ミュージアムエントランス・展示風景・マツリの風景模型	3点
唐古・鍵遺跡の保存と活用を支援する会	会報誌『からこかぎ』	清水風遺跡	絵画土器実測図	1点
縄ニューサイエンス社	考古調査ハンドブックシリーズ『弥生土器』	唐古・鍵遺跡	弥生土器・弥生土器集合・絵画土器・記号土器	4点
縄悠工房	『社会科 資料集6年』	唐古・鍵考古学ミュージアム	縄織りの風景模型	1点
トリー・ハン冊	商品紹介パンフレット	唐古・鍵考古学ミュージアム	大型建物住展示風景	3点
縄新泉社	『石野博信 倭国大乱とは何か』	唐古・鍵遺跡	弥生土器・搬入土器(2)・模陶を描いた土器片・褐鉄甕容器と納められた翡翠製勾玉・青銅器鐔型遺物・粘銅間津遺物・稲束と炭化米・穂揃具集合・平銅と聚片集合・唐古・鍵遺跡範囲図	12点
		唐古・鍵考古学ミュージアム	盾と文を持つ人物模型	1点
48件		延べ56遺跡		145点

## (3) 資料調査

本町所有・保管遺物について、下記の者による資料調査があった。

## 【資料調査】

調査日	調査者	資料名
4月18日(金)	杉山拓己	唐古・鍵遺跡 土師器
6月16日(月)	石田智子	唐古・鍵遺跡 須玖式土器
6月13日(金)	藤アクセス	唐古・鍵遺跡 弥生土器 羽子田遺跡 人物埴輪 笹鉾山2号墳 人物埴輪
8月13日(木)	島根大学 岩本崇	唐古・鍵遺跡 有孔銅製品 銅剣 巴形銅器 素文鏡 銅鏡
7月22日(火)	奈良県立橿原考古学研究所 北井利幸 中部大学 米沢真澄	唐古・鍵遺跡 青銅器鋳造関連遺物
8月1日(金)	清水邦彦	唐古・鍵遺跡 青銅器鋳造関連遺物
8月20日(水) ～21日(木)	河野摩耶	唐古・鍵遺跡 弥生土器 盾 清水風遺跡 弥生土器
9月12日(金)	北海道大学大学院 近藤浩之 ほか4名	唐古・鍵遺跡 ト骨
11月26日(水)	糸魚川フォッサマグナミュージアム 宮島宏	唐古・鍵遺跡 楊鉄鉈容器に納められた翡翠製勾玉
12月5日(金)	鈴鹿市考古博物館 谷口隆亮	唐古・鍵遺跡 銅押形土製品 土製鋳型外枠 笹鉾山2号墳 馬形埴輪

## 6. ボランティア組織

## (1) ボランティア組織の概要

唐古・鍵遺跡を総合的に支援する任意ボランティア組織として、平成16年4月10日、「唐古・鍵遺跡の保存と活用を支援する会」(愛称:唐古・鍵支援隊)が設立された。今年度の会員は、74名である。

主な活動は、唐古・鍵考古学ミュージアムの展示説明ガイドや小学校の総合学習の支援や子ども会等を対象とした考古学体験、ミュージアムへの勧誘活動、文化財保存課(ミュージアム)主催事業への支援等がある。活動については、4月の総会を経て、月例の運営委員会で検討され実施されている。また、「ものづくり教室」の部会を基本的に月2回おこない、新しい体験学習メニューの開発や体験学習教材の整備など、延べ32日440人が参加した。唐古・鍵遺跡においては団体向けに現地ガイドを実施し、5日間で延べ86人に対応した。

また、歴史・考古学の知識を活動に活かすため「弥生勉強会」を実施し、田原本町文化財保存課の藤田を講師に迎え、事前勉強会を開いた後、国府遺跡、大和郡山市の弥生遺跡などの現地見学をおこなった。

【唐古・鍵支援隊の支援活動】

活動日	内容	主催	支援内容	活動人数
11月8日	秋季企画展 講演会	文化財保存課	受付	2人
3月21日	唐古・鍵考古学ミュージアム 講演会			2人
8月20日	チャレンジ子ども弥生探検隊 (マグネットクリップ・キーホルダー作り)		支援	6人
4月23日・4月24日・5月8日・ 5月23日・5月30日・6月5日・ 6月6日・6月12日・6月13日・ 6月20日・6月27日・7月3日・ 7月10日・10月2日・10月3日・ 10月10日・10月24日・11月6日・ 11月20日・12月12日 計20日間	総合的学習 (土器づくり・野焼き・火織し・ 炊飯・脱穀・勾玉づくり)	北小学校 平野小学校 田原本小学校 東小学校 南小学校	支援	204人
1月28日・1月30日・1月31日・ 2月1日・2月3日・2月4日 計6日間	田原本町内小学校の総合的な学習展示会	文化財保存課 支援隊 町内5小学校	受付 支援	34人
11月1日	文化祭 (弥生体験)	生涯教育課	支援	12人
7月26日・8月30日・9月13日・ 9月27日 計4日間	唐古・鍵遺跡 コスモス栽培	総合政策課	支援	93人
延べ34日		15団体		353人





### Ⅲ. 唐古・鍵考古学ミュージアム



# 唐古・鍵遺跡第58次調査から出土した動物遺存体

北海道大学総合博物館

江田 真毅

大阪市立大学大学院医学研究科

安部みき子

東海大学海洋学部

丸山 真史

田原本町教育委員会

藤田 三郎

## 1. はじめに

唐古・鍵遺跡では多数の動物遺存体が出土しており、これまでに魚類、両生類、哺乳類の一部について報告されており、当遺跡一帯の環境復元や集落における動物利用について、徐々に明らかになりつつある。

今回報告する唐古・鍵遺跡第58次調査出土の弥生時代の動物遺存体のうち、種類や部位などを同定したものは魚類2点、両生類10点、鳥類14点、哺乳類168点である。特筆されるのは、第58次調査において弥生時代中期の遺構からニワトリが出土していることである。管見の限り日本国内で最古級の家禽の利用となり、注目に値する。以下では、第58次調査の概要および出土した動物遺存体について報告する。(丸山)

## 2. 第58次調査の概要

### (1) 調査の概要

唐古・鍵遺跡の調査は、2015年12月現在、117次を数える。これまでの調査から唐古・鍵遺跡は、弥生時代の拠点的な大環濠集落であることが判明している。また、検出された遺物は多種多様で膨大な量になっている。

今回報告する動物骨は、唐古・鍵遺跡の第58次調査の区画溝や井戸等の各遺構から出土したものである。本調査地は、唐古・鍵遺跡の西部を南北に縦断する国道24号の西側沿線で、大字鍵字垣内281番1にあたる。店舗付賃貸住宅の建築に伴う事前調査として、1995年8月17日～9月28日にかけて実施した。調査面積は、東西20m、南北6.6～7.6mの138㎡、遺物は遺物箱180箱である。

本調査地は、唐古・鍵弥生集落の西地区にあたり、周辺約30mの範囲内では第16・73・81・92・102次と比較的多くの調査を実施している。この西地区の微高地は、弥生集落の西半部を占め、東半部にある北地区や南地区の微高地と比して大きい。この西地区の微高地は、南南西から北北東方向に主軸をもつもので大きく、北部・中央部・南部の3つに分けることができる。今回の第58次調査地は、その中央部と南部の境界部分にあたり、後述するように両者を区画する溝が検出されている。

調査では、下記に示すとおり弥生時代前期から後期までの土坑や溝、柱穴と中世の大溝や土坑を検出した。弥生時代の遺構は集落内の居住関係の遺構、中世は「唐古南氏居館」関係の遺構と考えられる。ここでは、報告する動物骨が出土した弥生時代の遺構を中心に述べるが、これら弥生時代

第58次調査周辺の  
弥生時代中期の大溝



第1図 第58次調査地位置図 (遺跡全体: S = 1/5,000、第58次調査周辺: S = 1/1,500)

の遺構は中世遺構に多くを削り取られており、良好な部分は半分程度となっている。動物骨は、残存した遺構の下部の粘土層を中心とする土層から出土している。

弥生時代前期 (大和第Ⅰ様式) : 木器貯蔵穴1基・小土坑・柱穴・大溝1条

弥生時代中期初葉 (大和第Ⅱ様式) : 大溝1条・落ち込み1条

弥生時代中期中葉 (大和第Ⅲ様式) : 木器貯蔵穴1基・小溝

弥生時代中葉後葉 (大和第Ⅳ様式) : 井戸2基・土坑

弥生時代後期初葉 (大和第Ⅴ様式) : 井戸2基

鎌倉～室町時代 : 土坑4基・大溝1条

## (2) 弥生時代の主要遺構の概要

### 弥生時代前期

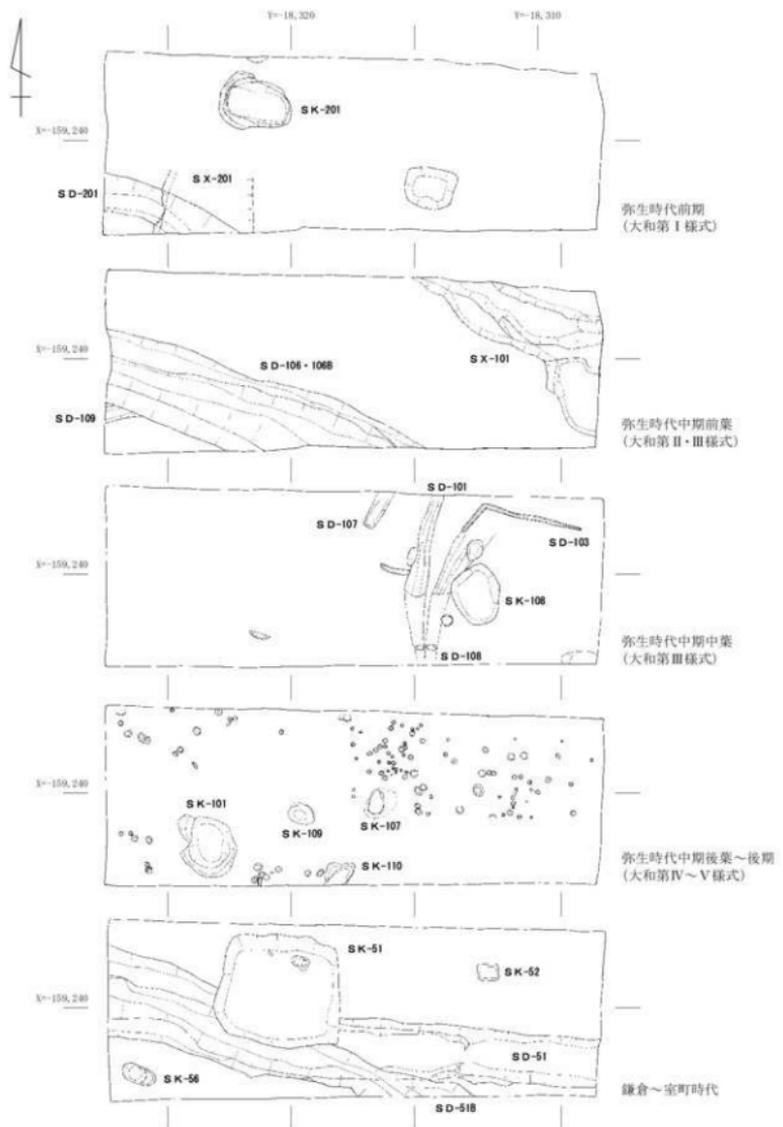
**SK-201** 調査区の西北で検出した楕円形を呈する大型の穴である。主軸は東南東-西北西方向にあるが、土坑上面の南肩はSD-51に、東半はSK-51の中世遺構に削平され、3/4を失っている。推定規模は長軸3.3m、短軸2.4m、深さ1.1mを測る。堆積は大きく二分され、上層は灰褐色砂質土等、下層は暗灰青色微砂等で形成され約0.7mの厚さを有する。下層は黒色粘土、灰色粘土等のブロックが混在することから、人為的に埋められた可能性が高い。遺物は上層と下層の間で広縁の未成品が1点、上層内からはややまとまって土器が出土している。時期は大和第Ⅰ-1様式で最も古い。遺構の形態や遺物の出土状況から木器貯蔵穴と推定される。

**SD-201** 調査区の西南隅で検出した大溝で、東南東-西北西方向に主軸をもつ。溝の上面はSK-115やSD-106に切られ、正確な規模は不明である。推定溝幅2.5m、深さ1mを測る。溝の堆積は大きく3層に分層でき、上層は暗灰黄色粘質土・中層は黄灰色微砂～暗褐色粗砂・下層は黒褐色粘土等で構成されている。遺物は下層から木製容器3点・手斧柄などが出土しているが、全体に遺物は少ない。時期は大和第Ⅰ-2様式である。集落内部を区画する溝と考えられる。

### 弥生時代中期

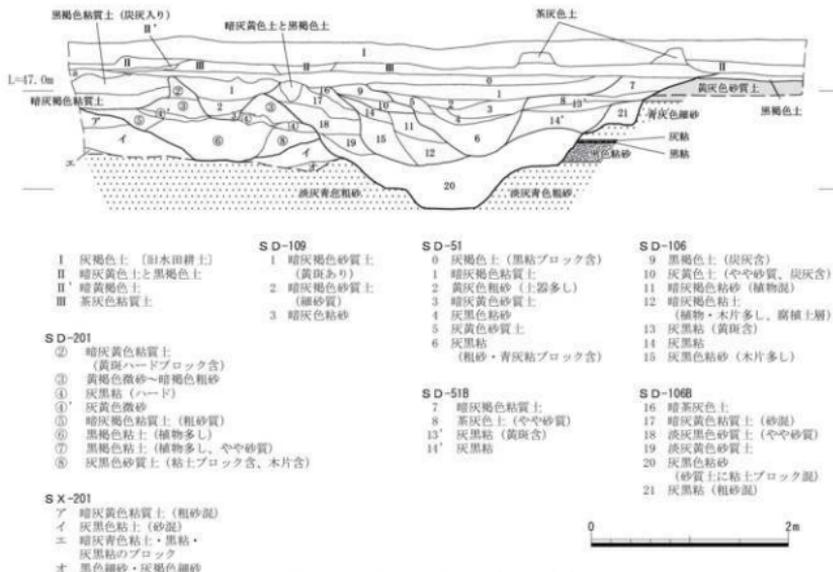
**SD-106B・106** 調査区の西南隅で延長15mにわたって検出した大溝で、今回の調査の弥生時代の遺構としては、最も主要な遺構である。前述SD-201の北側にほぼ平行するように(東南東-西北西方向)、すなわち、前期のSD-201の北側の肩を一部壊しながら掘削しているが、また、逆にこの大溝の大半は後述する中世大溝SD-51に重複するように掘削・破壊されており、本溝の上層の残存状況はかなり悪い。溝の堆積状況から再掘削されていると判断され、最初の掘削溝SD-106Bは(取上層位:第7～10層)は大和第Ⅱ-1・2様式の土器を主体とし、再掘削溝SD-106は(取上層位:第1～6層)は大和第Ⅱ-3様式を主体とし、部分的に大和第Ⅱ-1・2様式の土器が混在する状況にある。このような状況であるが、大和第Ⅱ様式期に収まる遺構と判断して良い。規模は当初の溝が幅約4m、深さ1.3m、再掘削は推定幅3m、深さ0.9mを測る。当初の溝は灰黒色粘土、再掘削の溝は暗灰褐色粘砂層(植物腐食土層)等で構成されており、後者の土層からは大量の土器のほか、容器片、鍬片、箆、板材、骨針・報告する獣骨類が出土している。この大溝はその位置関係から第16次調査のSD-102と考えられる。

**SK-101** 調査区の西南で検出した大型井戸である。井戸の北半はSD-51によって大きく削



第2図 遺構変遷図 (S=1/200)

0 5m



第3図 調査区西壁断面図 (S=1/50)

られ失われている。また、大溝SD-106の南肩を壊している。平面形態は楕円形で、逆台形の断面形態を呈すると思われる。長軸推定2.8m、短軸2.3m、深さ1.35mを測る。堆積は下層の黒褐色粘砂、中層の灰黒色砂質土等が埋積した後、再掘削され灰黒色粘質土(上層)が堆積する。遺物は最下層から石小刀、上層下位から土器片がまとめて出土した。時期は大和第IV-1様式である。

**SK-107** 調査区のほぼ中央で検出した楕円形の平面プランの井戸である。井戸の南半はSD-51に削られている。長軸1.1m、短軸0.65m、深さ0.75mを測る。ただし、井戸の下部は、壁の細砂層が崩落したため袋状になっている。井戸の底面には直径8cm、深さ4cmのビットがあり、井戸に覆い屋があった可能性がある。また、この井戸と関連するかどうか不明であるが、井戸の北側には人頭大の平たい石がある。井戸の埋土は黒灰色粘質土、暗褐色砂質土等で構成されている。時期は大和第IV-1様式である。

**弥生時代後期**

**SK-109** 調査区の中央やや西側で検出した井戸である。井戸の上面と南半は、中世のSK-51とSD-51によって削られている。このため、規模は正確におさえられないが、直径1.1m、深さ1.1m前後と推定される。埋土は、下層が暗灰色粗砂、中層が灰黒色粘砂層、上層が黒灰色粘土で構成される。遺物は中層から多く出土したが、おもに木材と土器片である。時期は大和第V-1様式である。

**SK-110** 調査区の南端中央で検出した井戸である。この井戸は、SD-106の南肩の一部を壊して掘削されている。平面形態は楕円形を呈すが、本来は円形で北西側に楕円形の立ち上がり部が



ついたものと考えられる。断面は上部が広がるカワ筒状である。長軸の現長1.4m、短軸復元推定0.7m、深さ1mを測る。埋土は基本的に黒色粘土の水平堆積であるが、最下層は砂混じり、下層は木片を含み、中層は柔らかい土質をしている。最下層から完形の短頸壺が出土した。時期は大和第V-1様式である。

### (3) まとめ

本調査において、主要遺構となるSD-106B・106は、調査地東側20mの第16次調査で検出したSD-102、さらに東100mの第77次調査のSX-3101に接続すると思われる。また、反対方向にあたる西側20mの第73次調査のSD-106に繋がると推定されることから、本溝の総延長は190mとなる。この大溝は、東南東から西北西方向にほぼ直線的に掘削されており、この溝とはほぼ並走する大溝も近くに存在することから南地区の北辺を区画するとともに、西地区の中央部と南部も区画すると考えられる。いずれにしても本溝内には多量の遺物が投棄されていることから、居住区内の排水路的な役割があったのであろう。(藤田)

## 3. 動物遺存体の概要

以下では、出土した動物遺存体の各種について、出土量やそれぞれの特徴について記載する。今回、出土した動物遺存体は第1表に種名を示す。

第1表 種名表

硬骨魚綱 Osteichthyes	哺乳綱 Mammalia
コイ目 Cyprinida	食肉目 Carnivora
コイ科 Cyprinidae	イヌ科 Canidae
コイ <i>Cyprinus carpio</i>	ホンドキツネ <i>Vulpes vulpes</i>
両生綱 Amphibia	イタチ科 Mustelidae
無尾目 Anura	ホンドテン <i>Martes melampus</i>
無尾目の一種 Anurafam., gen. et sp. indet.	偶蹄目 tiodactyla
鳥綱 Aves	イノシシ科 Suidae
キジ目 Galliformes	イノシシ類 <i>Sus scrofa</i>
キジ科 Phasianidae	シカ科 Cervidae
キジ <i>Phasianus colchicus</i>	ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>
ニワトリ <i>Gallus gallus</i>	ウサギ目 Ragonomorpha
キジ科の一種 Phasianidae gen. et sp. indet.	ウサギ科 Lepoidae
カモ目 Anseriformes	ニホンノウサギ <i>Lepus brachyurus</i>
カモ科 Anatidae	齧歯目 Rodentia
カモ亜科 Anatinae	ネズミ科 Muridae
カモ亜科の一種 Anatinae gen. et sp. indet.	アカネズミ <i>Apodemus speciosus</i>
スズメ目 Passeriformes	ネズミ科の一種 Muridae gen. et sp. indet.
スズメ目の一種 Passeriformes fam., gen. et sp. indet.	

### (1) 魚類

硬骨魚類が計2点出土した。SD-106Bの第10層からコイの前頭骨(右)、主鰓蓋骨(左)が各1点である。大きさは、いずれも体長20cm程度と推定される。(丸山)

### (2) 両生類

種を同定できないカエル亜目が、SD-106から8点、SD-106Bから1点、計9点が出土した。骨の大きさは小型種のもので、ニホンヒキガエル程度の大きさのものは出土していない。SD-106からは椎骨2点、肩甲骨(左)、上腕骨(右)、大腿骨(左)、腸骨(右)、脛・腓骨が1点ずつ、SD-106Bからは腸骨(右)が出土した。(安部)

### (3) 鳥類

SD-106から13点、廃土から1点、計14点が出土した。安部の所有する比較骨標本の肉眼比較で同定した結果、分析対象としたすべての骨で目以上を単位とした同定ができた(第2表)。キジ科(キジとニワトリを含む)、カモ科(カモ亜科)、スズメ目が確認された。

キジ科はSD-106第4層から9点、廃土から1点の計10点が出土した。江田・井上<sup>(1)</sup>の基準から、SD-106出土の足根中足骨は内側足底縁がないことからニワトリと同定された(第5図-1)。この足根中足骨には距突起が確認されている。また、SD-106出土の大腿骨では大転子含気窩が確認されずニワトリもしくはヤマドリと同定できた(第5図-2)。この大腿骨は両骨端の形成が不完全な若鳥の骨であった。このほかにも寛骨3点(最少部位数は1)で、骨端の癒合していないキジ科資料が認められている。一方、廃土から出土した大腿骨は大転子含気窩があるキジと同定できる資料であり<sup>(2)</sup>、火を受けて白色化していた。前述の足根中足骨とニワトリもしくはヤマドリの大腿骨はミカドキジの標本より大きい資料、SD-106出土の大指基節骨は同標本とほぼ同大の資料、他はアカヤマドリとほぼ同大の資料であった。

スズメ目はSD-106の第4層から2点、第8層から1点の計3点が出土した。すべてトラツグミ標本よりかなり小さい資料であった。

カモ亜科はSD-106第4層から脛足根骨が1点検出された。オナガガモより小さい資料であった。いずれの分類群でも、明瞭な解体痕や加工痕、骨髓骨様の交織骨は認められなかった。(江田)

### (3) 哺乳類

#### 小型哺乳類

種まで同定できた小型哺乳類は5科13点であり、遺構・部位別の出土量を第3表に示した。

SD-106から出土した哺乳類はニホンノ

第2表 第58次調査から出土した鳥類

遺構	層位	分類群	部位	残存		度数	
SD-106	4層	ニワトリ	足根中足骨	右	w	1	
				左	w	1	
		キジ科	寛骨	右寛骨臼、腸骨、坐骨			1*
				左坐骨			1*
				連合仙椎			1*
			手根中手骨	右	w	1	
				左	w	1	
				大指基節骨	右	w	1
		大腿骨	右	s-d	1		
			左	w	1*		
		カモ亜科	脛足根骨	左	s-d	1	
				左	w	1	
		スズメ目	手根中手骨	左	w	1	
				大指基節骨	右	w	1
SD-106B	8層	上腕骨	左	p	1		
			右	p	1		
廃土		キジ	大腿骨	左	p+s	1	
総計						14	

w: 残存, p: 近位端, d: 遠位端, s: 骨幹部, \*: 骨端未癒合もしくは形成不完全

ウサギ10点、アカネズミを含むネズミ科2点、ホンドキツネとホンドテンが各1点である。ニホンノウサギの下顎骨の大きさは、安部が所有する現生標本とほぼ同大であった。ネズミ科の骨は出土数が多かったが種の同定が可能な下顎骨と臼歯が遺存していたものはアカネズミの1点のみであった。しかし、同定できなかったネズミの出土骨は全て小型種の大ききで、大型種のイエネズミに匹敵する大きさの骨は出土していない。また、ノウサギの上腕骨、腰椎、尺骨と踵骨ならびにテンの肩甲骨が焼けた状態で出土している。これらの焼骨も他の骨と同様にSD-106から出土している。

SK-101からはニホンザルの左大腿骨が1点のみ出土し、小転子の下方で切断されていた。ニホンザルが出土した遺構は大和第IV-1様式であり、SD-106から出土した動物遺存体とは時期が異なっている。(安部)

### 大型哺乳類

大型哺乳類は種類を同定したものがイノシシ類とシカであり、計152点を数える(第3表)。これら種同定したものの以外に、破片の大きさからイノシシ類あるいはシカと思われる破片が53点出土している。

イノシシ類は、SD-106から頭蓋骨10点、椎骨9点などが計58点出土しており、乳歯段階の顎骨や骨端が癒合していない幼獣が多数含まれる。また、下顎骨、椎骨、四肢骨などに解体痕が、頭蓋骨や寛骨などにイヌと思われる咬痕が見られる。SD-106Bから頭蓋骨6点、椎骨5点などが計34点出土しており、骨端が癒合していない幼獣が含まれる。また、四肢骨には解体痕や肉を削いだ痕跡が見られる。椎骨のうち1点の第6頸椎には叩き切ろうとした深い傷が見られる。SD-201から上腕骨、大腿骨3点ずつなどが計17点出土した。四肢骨の大部分は、骨端が癒合していない幼獣であり、橈骨に解体痕がみられる。SK-101から遊離歯3点、寛骨2点などが計14点出土しており、遊離歯のうち1点は加工痕が見られるメスの犬歯である。また、左尺骨には刃物による解体痕が、踵骨には解体痕とイヌと思われる咬痕が見られる。SK-107から尺骨、指骨が各1点、計2点が出土した。SK-109から遊離歯、中手骨が各1点、計2点が出土した。SK-110から、距骨が1点出土した。SK-111から、上腕骨が1点出土した。SK-114から肋骨、脛骨が1点ずつ、計2点が出土した。いずれも骨端が癒合していない幼獣である。SK-201から椎骨、中足骨が1点ずつ、計2点が出土した。

シカは、SD-106から椎骨3点、上腕骨2点などが計10点出土しており、骨端が癒合していない幼獣を含む。上腕骨や距骨に解体痕や肉を削いだ痕跡がみられ、寛骨には穴が穿たれている(第6図-1)。また、尺骨は被熱して褐色を呈する。この穴の平面形態は隅丸の三角形を呈し、7.5×6.3mmの大きさである(第6図-2)。SD-106Bから上腕骨と椎骨が各1点、計2点が出土しており、いずれにも解体痕が見られる。SK-101から、枝角、大腿骨などが各1点、計3点が出土した。枝角は被熱して褐色ないし黒色を呈する。また、大腿骨は螺旋状に破損しており、イヌと思われる咬痕が見られる。SK-109から枝角が1点出土しており、加工品であるが、機能や用途は明らかでない。SK-110から下顎骨、橈骨などが各1点、計5点が出土した。橈骨は被熱して黒色を呈する。

(丸山)

第3表 哺乳類集計表

遺構	種別	頭蓋骨				下顎骨				頸骨				肩胛骨				尺骨				腕骨				趾骨				計
		左	右	-	右	左	右	-	右	左	右	-	右	左	右	-	右	左	右	-	右	左	右	-	右	左	右			
SD-106	イノシシ	3	7	1	1	9	1			2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	1	1	1	1	遊離歯10, 肋骨(左)1, 中手骨1, 趾骨(右)1, 中足骨(左)3, 中手/中足骨1, 指骨2	58	
	シカ					3	1		2						1	1								1						
	ニホンノウサギ			1		1			1						1												1	遊離歯3	10	
SD-106B	ホンドゲン																												1	
	アカネズミ			1																									1	
	イノシシ	2	3	1		5	1		2	1	1										1	3	2	1	1	1	遊離歯2, 中足骨(右)2, 指骨1	34		
SD-201	シカ					1			1																				2	
	ホンドキツネ																												1	
	ネズミ科					1																							1	
SK-101	イノシシ								1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	手根骨1	17		
	シカ	1																									遊離歯3, 肋骨(左)1, 指骨2	14		
SK-107	イノシシ																										枝角1, 中手骨/中足骨1	3		
	シカ																				1					指骨1	2			
SK-109	イノシシ																										遊離歯1, 中手骨(左)1	2		
	シカ																										枝角1	1		
SK-110	イノシシ																								1			1	1	
	シカ			1																							遊離歯1, 手根骨(左)1, 指骨1	5		
SK-111	イノシシ																												1	
SK-114	イノシシ																										肋骨(左)1	2		
SK-201	イノシシ																										中足骨(右)1	2		

#### 4. 考察

唐古・鍵遺跡第58次調査で出土した動物は、魚類のコイ、両生類のカエル類、鳥類のニワトリを含むキジ科、カモ科、スズメ目、哺乳類のニホンノウサギ、アカネズミを含むネズミ科、ホンドギツネ、ホンドテン、イノシシ類、シカである。これらの大部分は区画溝であるSD-106およびSD-106Bから出土しており、食用となるものが多い。

出土した破片数では哺乳類が大部分を占め、イノシシ類が卓越する。小型哺乳類ではニホンノウサギが比較的多い。大型哺乳類と比較すれば少数に留まるが、その毛皮は貴重な資源であったと考えられる。SD-106・106Bから出土したイノシシ類とシカの量比はおよそ8:2であり、イノシシ類が圧倒する。イノシシ類は乳歯段階の顎骨や、骨端部が癒合していない四肢骨を多く含み、約半数が幼獣のものである。唐古・鍵遺跡のイノシシ類は大部分がブタであることや<sup>(1)</sup>、家畜化を示す個体が含まれることが指摘される<sup>(4)</sup>。当資料に含まれる頭蓋骨や下顎骨などは破片ばかりで、形態によって野生イノシシとブタを区別することは困難である。しかし、池上・曾根遺跡において幼若獣が多いことによって飼養個体の存在が指摘されるように<sup>(5)</sup>、当資料中にも飼養個体が含まれる可能性がある。

SD-106から出土したシカの寛骨に見られる穿孔は、平面形がシカの中手足骨や中足骨を素材とする刺突具や骨髄の断面形に酷似している。石鏃が刺さった場合に扁平な変形の断面形を呈するのは異なる。傷を負ってなお、生存していた場合にみられる傷の周囲の骨増殖は生じていない。深い傷であるが、穿孔部位は寛骨であるため、致命傷とは考えにくい。しかし、後肢の動きの妨げとなり、捕獲されたのであろう。このほかにSD-106・106Bから出土したイノシシ類やシカの骨には解体痕が多くみられる。同じ奈良盆地に位置する縄文時代の橿原遺跡から出土したものに比べ、解体痕が確認できる頻度が高いように思われる。このことは金属器の使用と関連しており、金属器は石器より鋭く切れるため、骨に傷がつきやすくなった結果と捉えたい。

今回の資料で最も注目されるのは、弥生時代中期に比定される区画溝からニワトリの骨が出土したことである。弥生時代のニワトリの骨はこれまでに唐神遺跡（長崎県志岐市：中期～後期）、原ノ辻遺跡（同：中期～後期）、酒見貝塚（福岡県福岡県大川市：後期）、塚崎東畑遺跡（福岡県久留米市：中期～後期）、朝日遺跡（愛知県清洲市および名古屋市区：後期）から報告されている<sup>(6)</sup>。また、宮ノ下遺跡（大阪府大阪市）でも明らかなニワトリの脛足根骨が弥生時代中期末～古墳時代中期の包含層で、ニワトリの可能性のある大腿骨が弥生時代中期の包含層で検出されている<sup>(7)</sup>。日本ではこれまで縄文時代の遺物包含層からの確実な出土例はないため、ニワトリは弥生時代に弥生的要素の一つとして日本に導入されたと考えられてきた<sup>(8)</sup>。一方で、これまでの検出例では弥生時代中期と後期の遺物が混在する包含層や遺構から出土していたため、弥生時代のいつごろからニワトリが日本で利用されていたのかは特定できていなかった。今回ニワトリと同定した足根中足骨は、共存遺物から弥生時代中期（大和第Ⅲ-3様式）に特定できる区画溝から出土したものである。日本へのニワトリの導入が弥生時代中期まで遡ることを示す貴重な資料といえる。

今回確認された足根中足骨でも距突起が認められた。弥生時代の遺跡からはこれまでに唐神遺跡で2例、朝日遺跡で1例ニワトリの足根中足骨が検出されており、そのすべてで発達した距突起が

認められている<sup>19)</sup>。ニワトリの距突起は基本的に雄に特異的に形成される構造であるため、これらの足根中足骨は雄のものと考えられる。これは江田<sup>10)</sup>の指摘した性別の顕著な雄への偏りを補強するデータといえる。また、唐古・鍵遺跡出土の足根中足骨の近位端幅(BP)と全長(GL)<sup>11)</sup>を唐神遺跡や朝日遺跡出土の弥生時代のニワトリ、自然環境下で捕獲された「野生セキショクヤケイ」、動物園や実験施設で飼育されていた「飼育セキショクヤケイ」およびさまざまな品種の「ニワトリ」と比較すると、そのサイズ・プロポーションは朝日遺跡出土のニワトリと極めてよく類似していた(第7図)。唐古・鍵遺跡で利用されたニワトリも、江田<sup>12)</sup>が弥生時代のニワトリの特徴として指摘した「体サイズはセキショクヤケイと類似しており、家畜化は「飼育セキショクヤケイ」よりわずかに進展していた程度」によく合致しているといえる。

キジ科の資料として、骨端が未癒合もしくは骨端の形成が不完全な大腿骨と寛骨が出土したことも注目すべき結果といえる。とくに大腿骨は大転子含気窩のないヤマドリもしくはニワトリの骨であった。仮にこれらの骨がニワトリのものであれば、唐古・鍵遺跡では弥生時代中期にすでにニワトリの繁殖がおこなわれていたことになる。今後、コラーゲンタンパク分析、古代DNA分析を実施して、これらの骨がニワトリのものかを検討する必要があるだろう。(江田・安部・丸山)

## 5. おわりに

今回は、唐古・鍵遺跡第58次調査で出土した動物遺存体について、各種の同定結果を報告した。これまで唐古・鍵遺跡の動物遺存体について、特定の分類群について報告されてきたが、各遺構における動物種構成を明らかにする最初の報告となる。第58次調査で検出した区画溝SD-106・106Bからは多数の動物遺存体が出土しており、魚類、両生類、鳥類、哺乳類を確認した。大部分は食料残渣と考えられるが、毛皮や羽毛、骨や角もまた資源として利用されたであろう。特筆されるのは、弥生時代中期と比定されるニワトリの出土であり、初期的な家禽の飼育を物語る貴重な資料である。一方、従来から注目されるブタの家畜化については、当資料から詳細を知るには不十分であった。今後、家畜・家禽を含む動物利用を他地点の資料と比較検討する必要がある。(丸山)

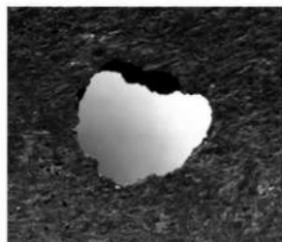
## 註

- (1) 江田真毅・井上貴史2011「非計測形質によるキジ科遺存体の同定基準作成と弥生時代のニワトリの再評価の試み」『動物考古学』第28号 動物考古学研究会 pp.23-33
- (2) 註1と同じ。
- (3) 西本豊弘1991「弥生時代のブタについて」『国立歴史民俗博物館研究報告』第36集 国立歴史民俗博物館pp.175-194
- (4) 安部みき子1996「イノシシとブタを考える」『卑弥呼の動物ランド』大阪府立弥生文化博物館pp.88-93
- (5) 金子浩昌・牛沢百合子1980「池上遺跡出土動物遺体」『池上・四ツ池遺跡』第6分冊 自然遺物編(財)大阪文化財センター pp.9-32
- (6) a: 黒田長久1959「宍岐島及び山口県から出土の鳥骨について」『日本生物地理学会会報』21 日本生物地理学会pp.67-74  
b: 西本豊弘1993「弥生時代のニワトリ」『動物考古学』第1号 動物考古学研究会pp.45-48

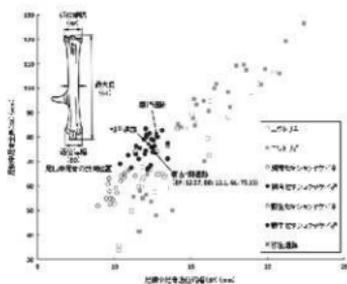
- c : 西本豊弘1994「酒見貝塚の動物遺体」『大川市文化財調査報告書 第1集 酒見貝塚：大川市大字酒見所在貝塚の調査概報』大川市教育委員会pp.65-70
- d : 西本豊弘1997「塚崎東畑遺跡出土の動物遺体と鹿角加工品」『塚崎東畑遺跡：三溝町大字高三溝字塚崎東畑所在遺跡の調査県道宮本・大川線関係埋蔵文化財調査報告書』福岡県教育委員会pp.99-103
- e : 西本豊弘・佐藤治・新美倫子1992「朝日遺跡の動物遺体」『朝日遺跡2 自然科学編』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第31集 愛知県埋蔵文化財センター pp.207-212
- f : 納屋内高史・松井章2009「カラカミ遺跡2007・2008年度調査出土の動物遺存体」『志岐カラカミ遺跡Ⅱ-カラカミ遺跡東亞考古学会第1地点の発掘調査-』宮本一夫編 九州大学大学院人文科学研究科考古学研究室pp.131-142
- g : 江田真毅2014「カラカミ遺跡2011年度および2013年度調査出土の鳥類遺体について」『天手長男神社遺跡・市史跡 カラカミ遺跡2次』田中聡一・松見祐二編 志岐市教育委員会pp.181-189
- (7) 江田真毅・別所秀高・井上貴央2014「大阪府宮ノ下遺跡出土資料からみた先史時代の河内平野における鳥類利用」『動物考古学』第31号 日本動物考古学会pp.21-32
- (8) a : 註6のbと同じ。
- b : 新美倫子2009「弥生文化の家畜飼育」『食料の獲得と生産』弥生時代の考古学5 設楽博己・藤尾慎一郎・松本武彦編 同成社pp.95-103
- (9) 註6のe、f、gと同じ。
- (10) 江田真毅2016「家畜化に伴う骨形態の小進化と弥生時代のニワトリ」『動物考古学』第33号 日本動物考古学会pp.49-61
- (11) 計測は以下に倣う。
- Driesch, A., 1976. A guide to the measurements of animal bones from archaeological sites. Peabody Museum Bulletin, 1: 1-136.
- (12) 註10と同じ。



第5図 SD-106 出土のニワトリ足根中足骨(1)と  
キジ科幼鳥大腿骨(2) バー：2cm



第6図



第7図 弥生ニワトリ資料および現生ニワトリ  
標本の足根中足骨近位端幅と最大長の  
散布図

「飼育セキショクヤケイ」は動物園などでセキ  
ショクヤケイとして飼育されている個体、「ニワト  
リ」は現在の様々な品種のニワトリを示す。江田  
(2016) に加筆して作成。



SK-101 全景



SK-101 動物遺存体出土状況



#### IV. 資料の報告



## 十六面・薬王寺遺跡第31次調査の遺物整理事業

田原本町教育委員会事務局文化財保存課

清水 琢哉

### 1. はじめに

平成25年度に実施した十六面・薬王寺遺跡第31次調査では、出土遺物量が300箱ちかくに及んだため、その洗浄作業に平成28年1月までの期間を要した。このため、昨年刊行した『田原本町文化財調査年報23』では遺構の報告をおこない、本年報では出土遺物の報告をおこなうことにした。ただし、本調査で出土した遺物は極めて多く、本報告は遺跡の変遷と性格を考える上で重要と思われる遺構と遺物を中心に紹介することとした。

### 2. 弥生時代前期～中期初頭の出土遺物

調査区北西部を中心に弥生時代前期～中期初頭の遺物が出土している。第2図-1は、SX-201の小土坑から横転した状態で出土した大和第Ⅰ-1-a様式の壺である。第2図-2・3はSD-201から出土した大和第Ⅱ-1-b様式の壺である。

このほか、石棒・流紋岩製石庖丁・結晶片岩製石庖丁などの破片（第17図-1～4）が弥生時代末～古墳時代の遺構や包含層から出土した。

### 3. 古墳時代初頭の方形周溝墓と出土遺物

本調査では、弥生時代後期後半～古墳時代初頭の方形周溝墓5基を検出した。このうち、出土遺物が最も充実していた1号墓を中心に報告する。

1号墓の主丘部は1辺9.5m前後で、幅2.3m前後、深さ0.3～0.5mの周濠が四方を囲む（第3図）。特に東側周濠が深く、最も多く土器が集中し、北西隅付近は僅少であった（第4図）。

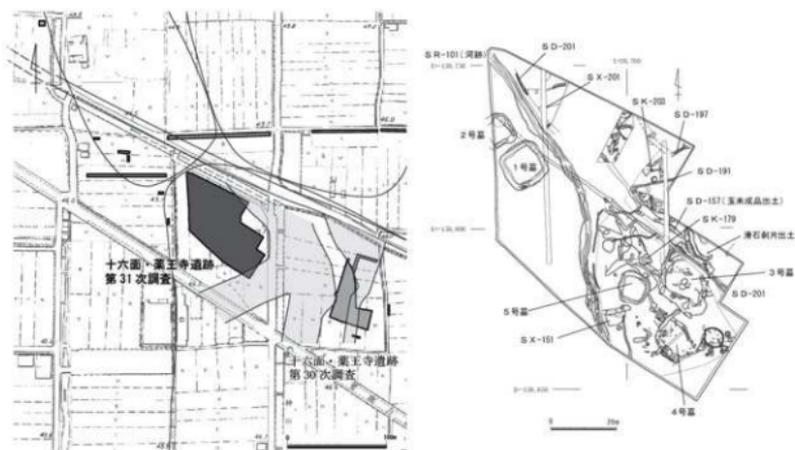
第5・6図は1号墓から出土した土器である。小形丸底壺や小形器台が出土しているほか、庄内形甕（第6図-17）と肩に波状文を施す布留系の甕（第6図-18）が共伴する。また、搬入土器としては、山陰地方の台付無頸壺（第6図-19）、山陰系の二重口縁壺（第6図-21）、胎土に結晶片岩を多く含む紀伊産の壺（第6図-20）、近江～伊勢湾岸周辺からの搬入とみられる外面タテハケ・内面ナデ仕上げの甕（第6図-22）がある。これらの遺物は、布留0式に位置づけられる。

第7図-1～3は、調査区北東部で検出した井戸SK-205下層の土器である。いずれもほぼ完形で出土した。布留1式に位置づけられる。

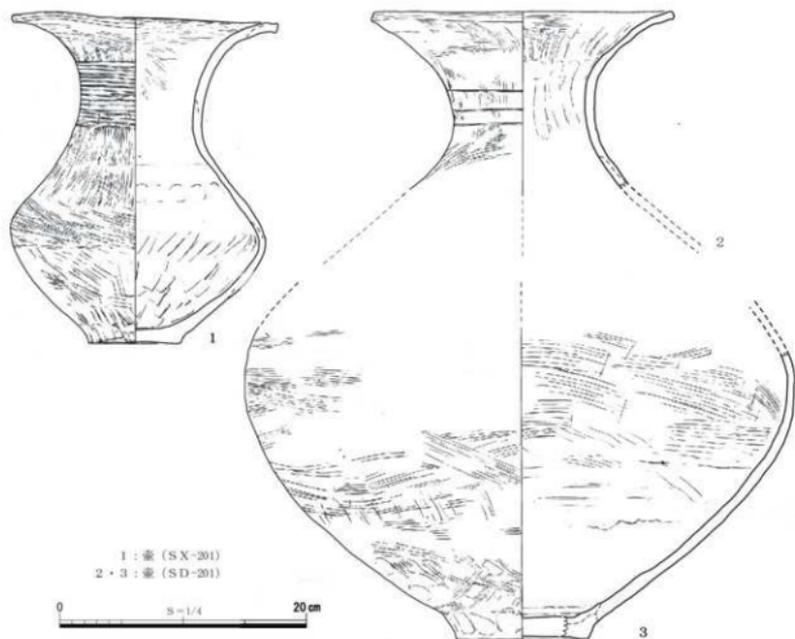
第8図-1は加飾器台で、大和第Ⅵ-4様式頃の甕数点とともにSD-191から出土した。第8図-2～4は3号墓周濠から出土した壺である。第8図-4は、龍目の残る鉢である。

第9図は、調査区北東端で検出した北東方向の溝SD-197から出土した土器である。須恵器は出土していないが、布留3式の様相を呈する。碧玉製勾玉未成品（第17図-7）がSR-104最下層から出土しているが、SD-197を切っており、本遺物はこの遺構に伴っていた可能性がある。

第10図は、調査区中央付近で検出したSK-179とその遺物である。長軸4m、短軸2.5m、深さ

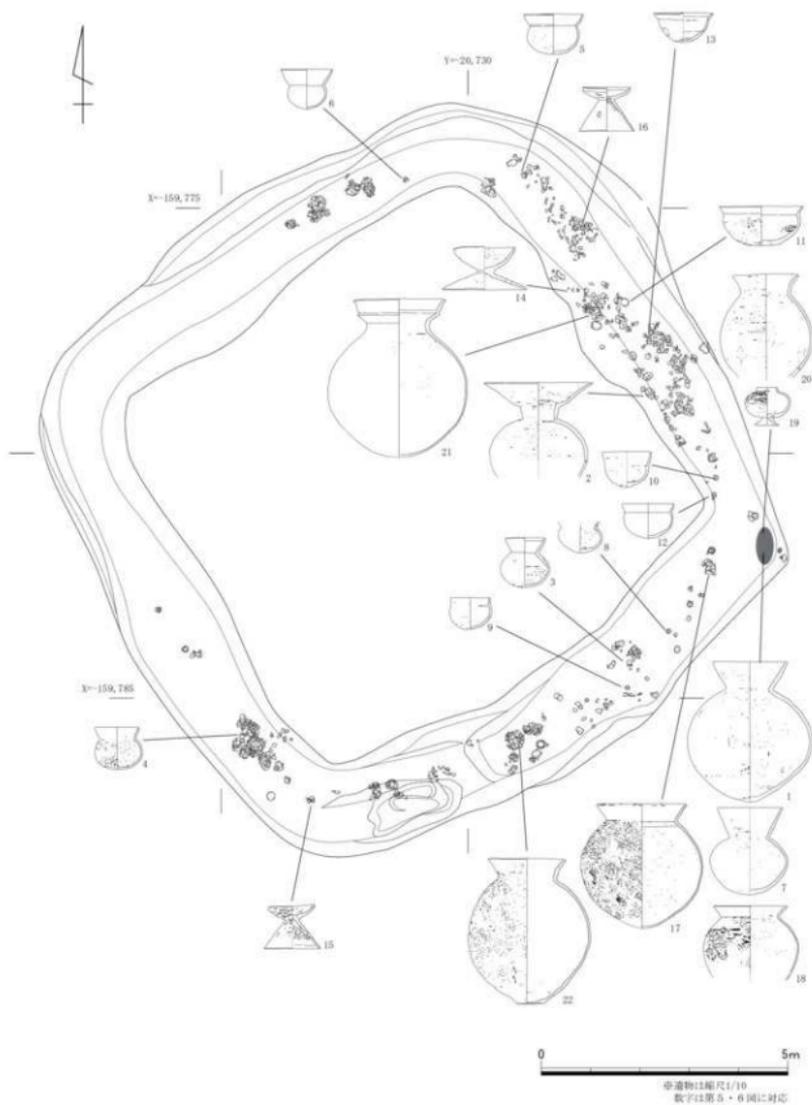


第1図 調査地の位置(左: S=1/5,000)と弥生時代~古墳時代中期の遺構(右: S=1/1,500)

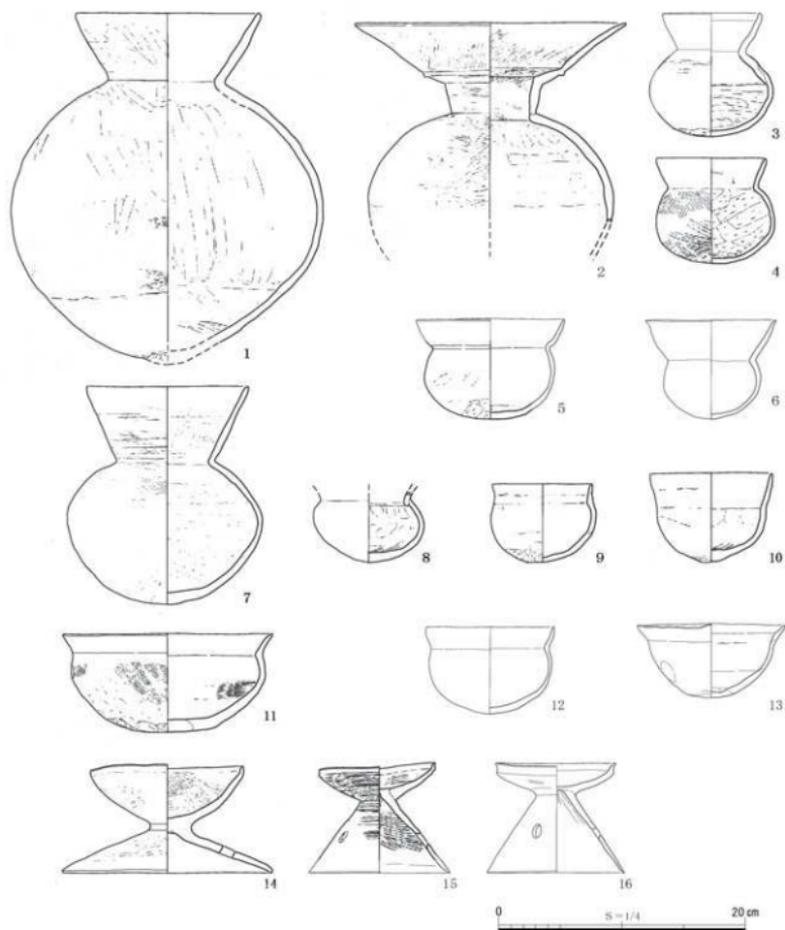


第2図 弥生時代前期~中期初頭の土器



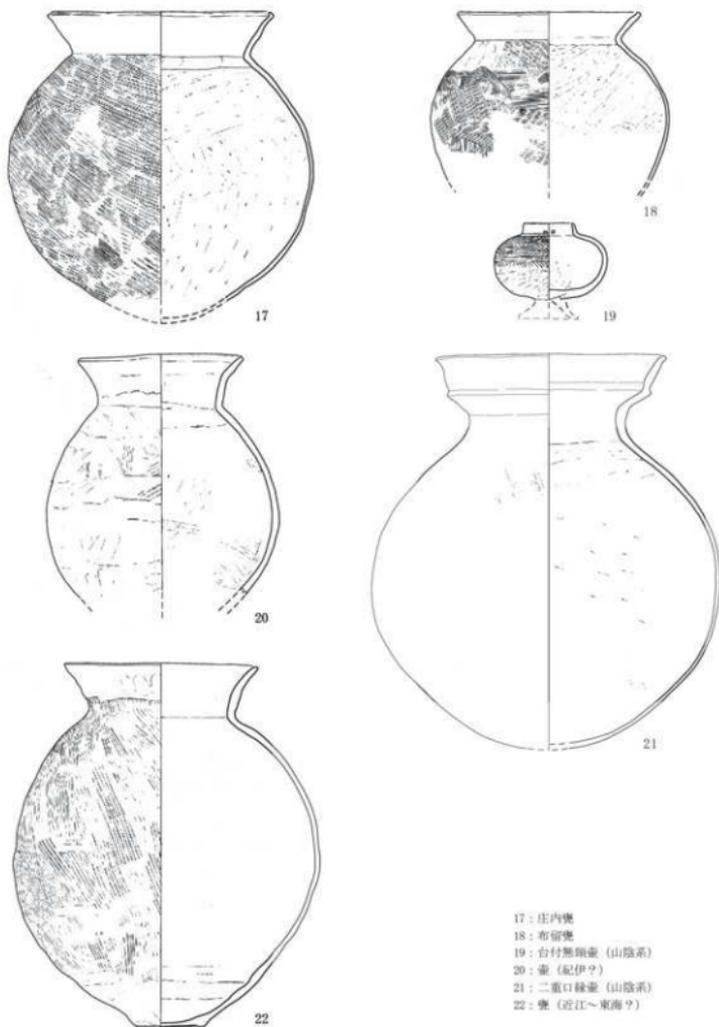


第4图 1号墓出土状况 (S=1/100)



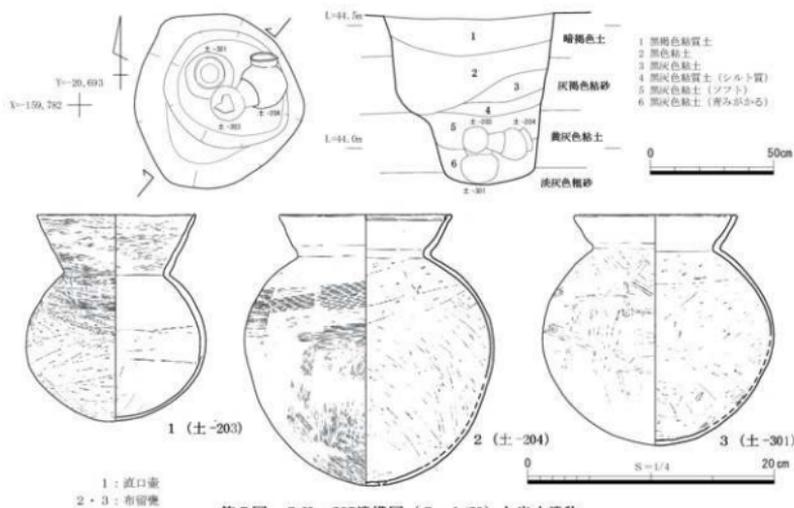
- 1・7: 直口壺  
 2: 二重口縁壺  
 3～6:  
 8～10: 小形丸底壺  
 11～13: 鉢  
 14: 高杯  
 15・16: 小形器台

第5図 SD-151出土土器1

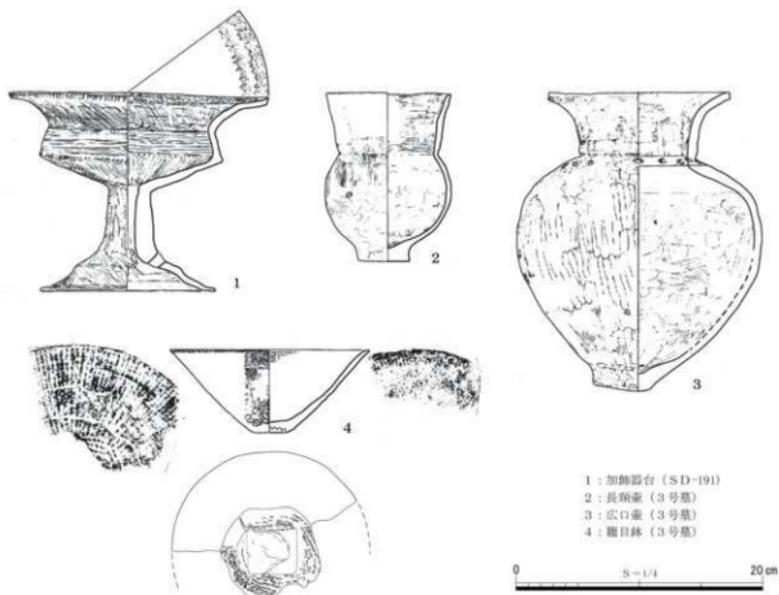


0 S-1/4 20 cm

第6図 SD-151出土土器2



第7図 SK-205遺構図 (S=1/20) と出土遺物



第8図 その他の弥生時代遺構の出土遺物

0.8mの大形の井戸で、中層を中心に多数の土器が出土した。このうち第3層出土の土器2点を図示する。第10図-1は複合口縁の甕で、四国系の影響を受けている。第10図-2は布留甕で、肩部に刺突文を施す。いずれも布留2・3式の様相を示す。なお、グリーンタフ片1点がこの井戸内から出土しており、本遺跡での玉製作時期を考える上で重要である。

このほか、4号墓直上の中世小溝から出土した銅鏃(第17図-9)、布留1式の堅穴住居跡の遺構から出土した鉄斧(第17図-11)、布留3・4式の土坑SK-191から出土した又鋏・紡錘車(第18図-1・2)、井戸SK-174から出土した掛矢状木製品(第18図-3)を図示する。

#### 4. 古墳時代後期の大溝と出土遺物

第11図-1～12は須恵器で、1～9がSD-101、10～12がSD-101と交差する河跡SR-103から出土した。このほか、SD-106下層から滑石製の鏡形石製品2点(第17図-5・6)が、SD-101上層から銅鏡1点(第17図-12)が出土した。

#### 5. 古代の遺構と遺物

平安時代の地鎮遺構と井戸、鎌倉時代の土坑などを検出した。SK-10は調査区中央北で検出した地鎮遺構で、土師皿6点(第13図)とさし銭の状態で癒着した銅銭12枚が出土している。銅銭については、奈良文化財研究所のご協力でCTスキャン画像を撮影していただいた結果、大半の銘を判読することができた(第14図)。890年初鑄の寛平大寶が含まれることから、9世紀末～10世紀初頭頃の年代となる可能性が考えられる。

SK-17は、直径2m、深さ1.6mの井戸で、中層から土師皿多数・黒色土器1点、下層から黒色土器1点が出土した(第15図)。供献土器の可能性がある。

SK-16は方形プランの浅い土坑で、下駄と土師皿・甕等が出土した(第16図-1～3)。

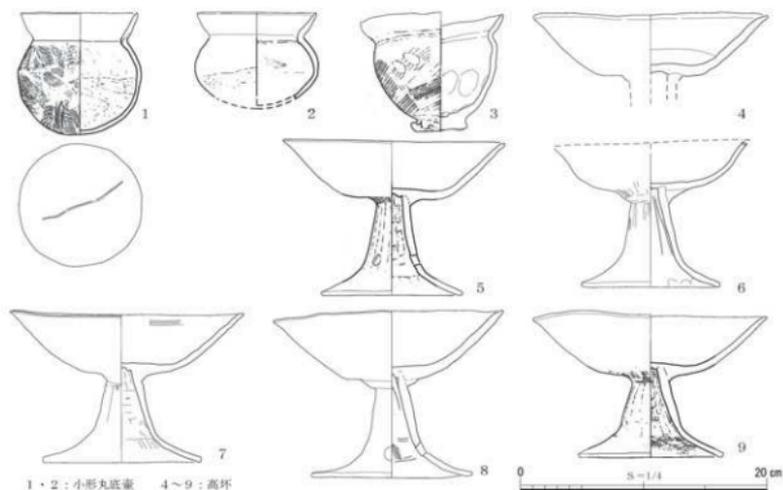
SX-51は、調査地北端で検出した長方形の遺構で、北側に隣接する河川に直接繋がる溜め池のような性格が想定される。瓦器塊等が出土した(第16図-4～8)。

#### 6. まとめ

今回報告した資料は、重要な遺構・遺物に絞って整理作業をおこなったものの、滑石・グリーンタフを素材とする玉製作関連遺物については後日再整理をおこなうことを期して勾玉未製品のみ報告した。

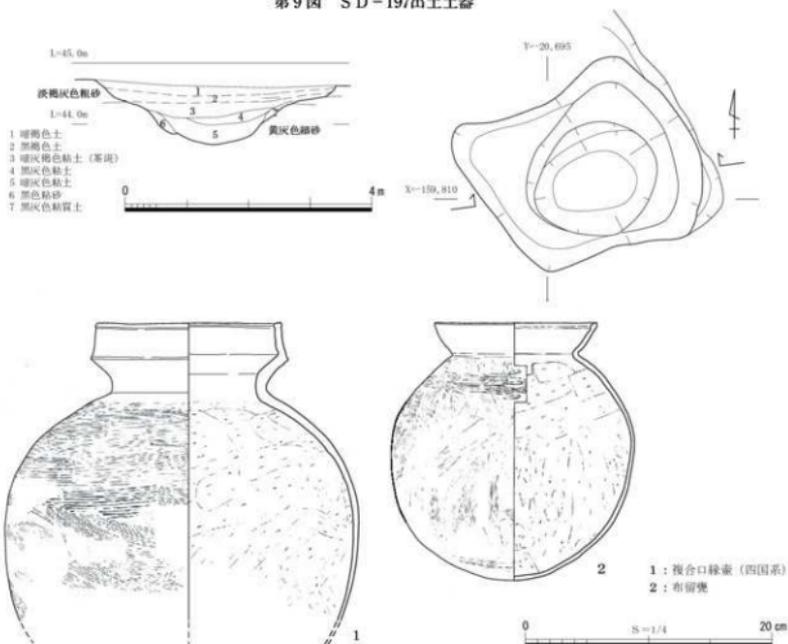
なお、銅銭のCTスキャン画像・X線画像は独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所から提供していただきました。

末筆ながら、実測作業にあたられた松笠千恵子氏・江浦至希子氏、銅銭と古代の土師器の分析に多大なるご協力をいただいた松村恵司氏・小池伸彦氏・高妻洋成氏・尾野善裕氏・神野恵氏(独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所)・三好美穂氏(奈良市教育委員会)、玉未成品についてご教示をいただいた廣瀬時習氏(大阪府近つ飛鳥博物館)、古式土師器についてご教示をいただいた青木勘時氏(上牧町教育委員会)をはじめとする皆様に深く感謝いたします。



1・2：小形丸底甕 4～9：高坏  
3：小形甕

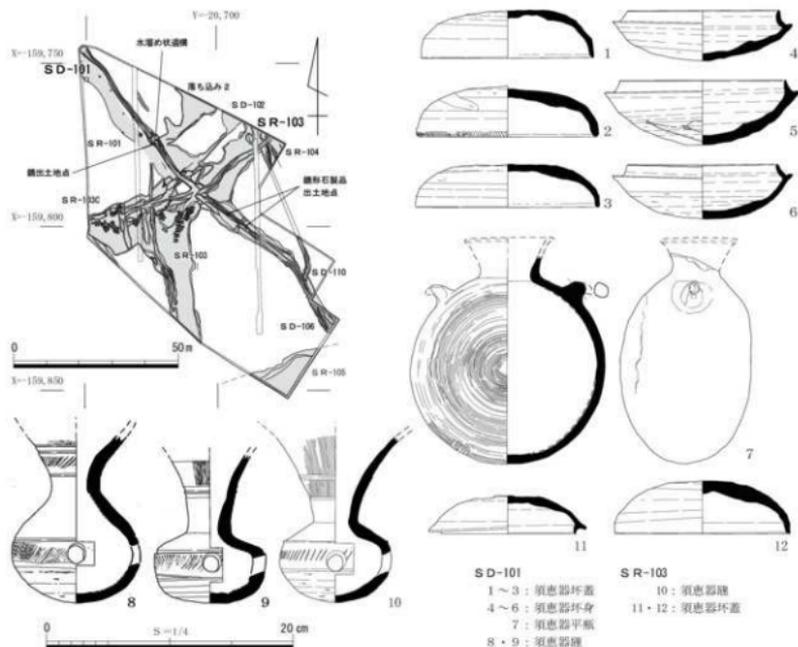
第9図 SD-197出土土器



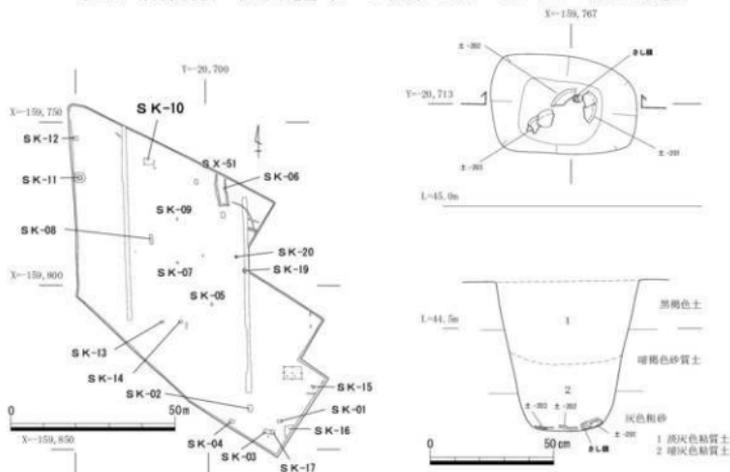
- 1 暗褐色土  
2 黒褐色土  
3 暗灰色粘土 (茶黒)  
4 黒灰色粘土  
5 暗灰色粘土  
6 黒色粗砂  
7 黒灰色粘質土

- 1：複合口縁索 (四国系)  
2：布留裏

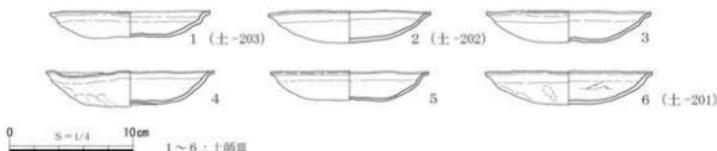
第10図 SK-179 遺構図 (S=1/80) と出土土器



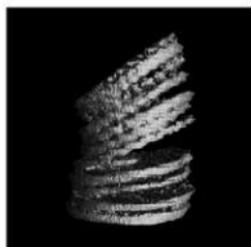
第11図 古墳時代中・後期の遺構 (S=1/1,500) とSD-101・SR-103出土須恵器



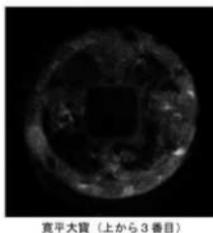
第12図 地鎮遺構SK-10遺構図 (左: S=1/1,500, 右: S=1/20)



第13図 SK-10出土土師器



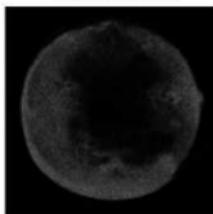
CT スキャン画像



寛平大寶（上から3番目）



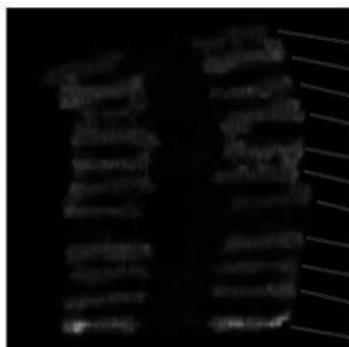
長年大寶（上から5番目）



寛平大寶（文字反転・上から4番目）



承和昌寶（文字反転・上から7番目）



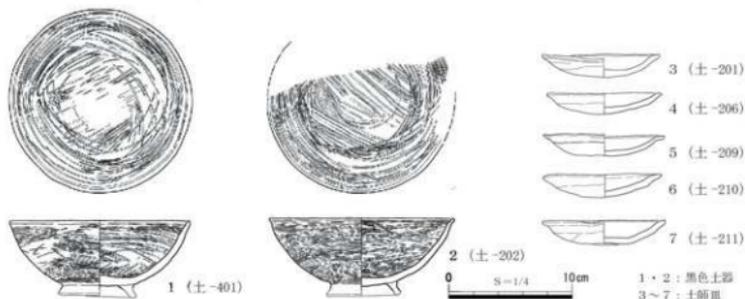
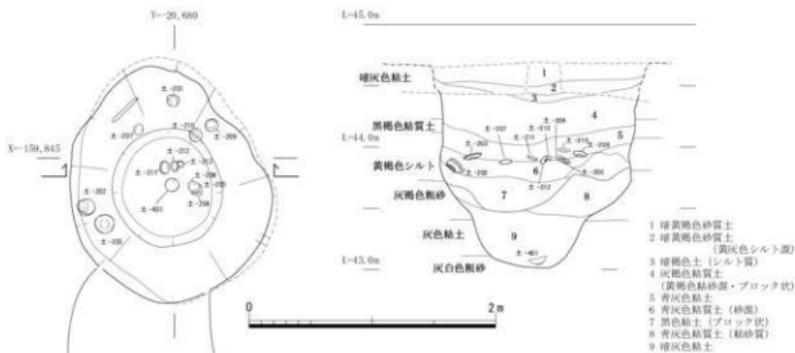
X線画像（縦割り断面）

奈良文化財研究所でのCT スキャン画像による判読結果（一部推定）  
写真提供：独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所

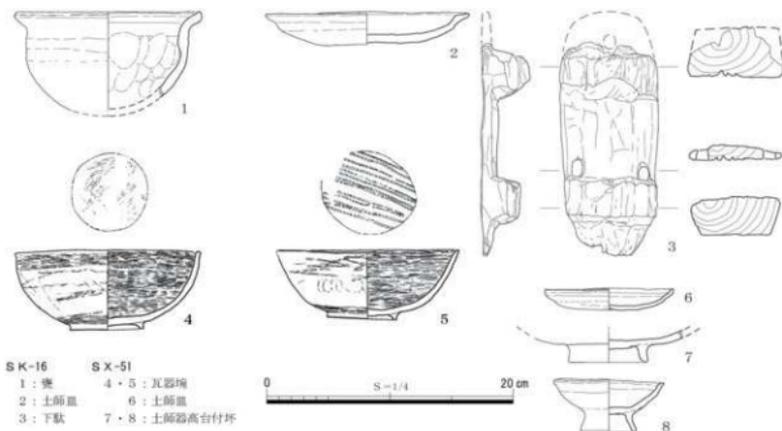
	初鑄年	判別文字
⑤	寛平大寶 890年	「平」「大」
⑧	貞観永寶 870年	「永」
⑨	寛平大寶 890年	「平」「大」
⑩	寛平大寶 890年	「大」
⑦	長年大寶 848年	「年」「長」
⑨	貞観永寶 870年	「永」
⑥	承和昌寶 835年	「承」
	不明	-
	不明	-
⑨	貞観永寶 870年	「永」「貞」
	不明 (承和昌寶?)	-

○囲みの数字は、皇朝十二銭の中で何番目をかを示す

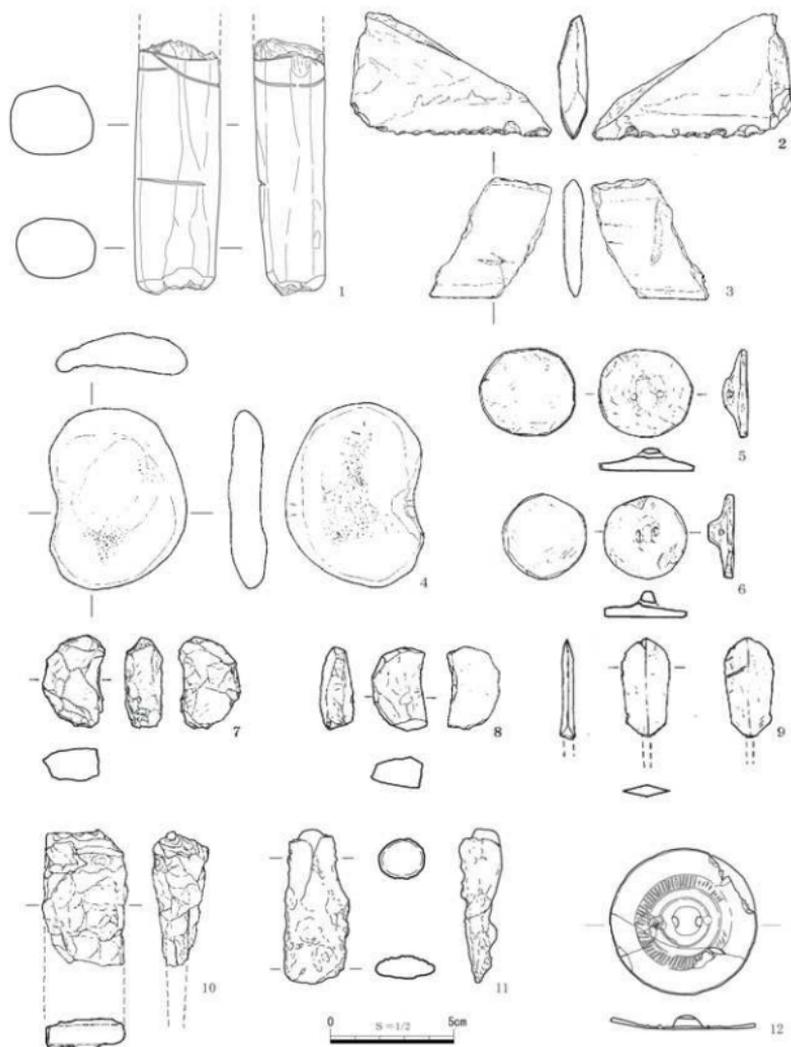
第14図 SK-10出土さし銭CTスキャン・X線画像



第15図 SK-17遺構図 (S=1/40) と出土遺物



第16図 SK-16・SX-51出土遺物

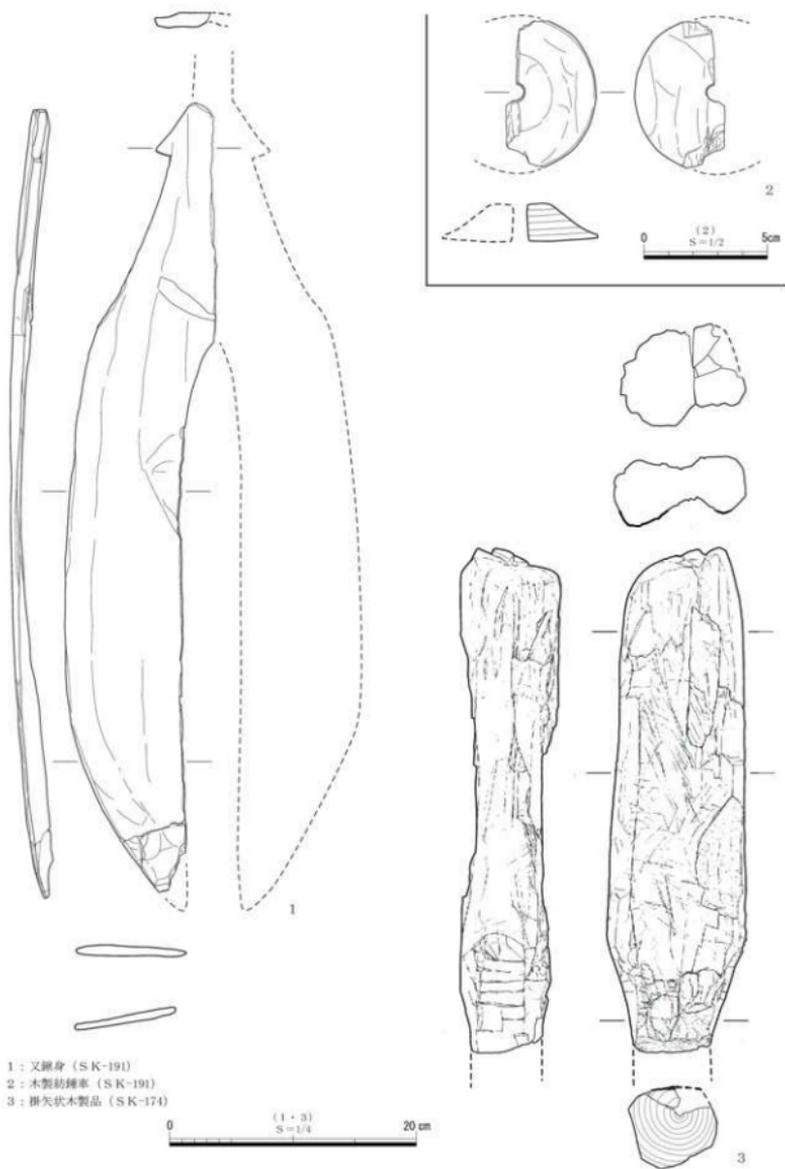


- 1 : 石棒 (SR-101)  
 2 : 波紋岩製石砲丁 (SR-101)  
 3 : 結晶片岩製石砲丁 (SD-106)  
 4 : 磨石 (2号基)

- 5・6 : 滑石製楕圆形石製品 (SD-106)  
 7 : 碧玉製勾玉未成品 (SR-104)  
 8 : グリーンタフ製勾玉未成品 (SR-103)  
 9 : 銅鏝 (4号基)

- 10 : 用途不明鉄製品 (SD-106)  
 11 : 袋状鉄斧 (SX-101)  
 12 : 青銅鏡 (SD-101)

第17図 出土石・金属製品



第18図 出土木製品

# 唐古・鍵遺跡における花粉分析

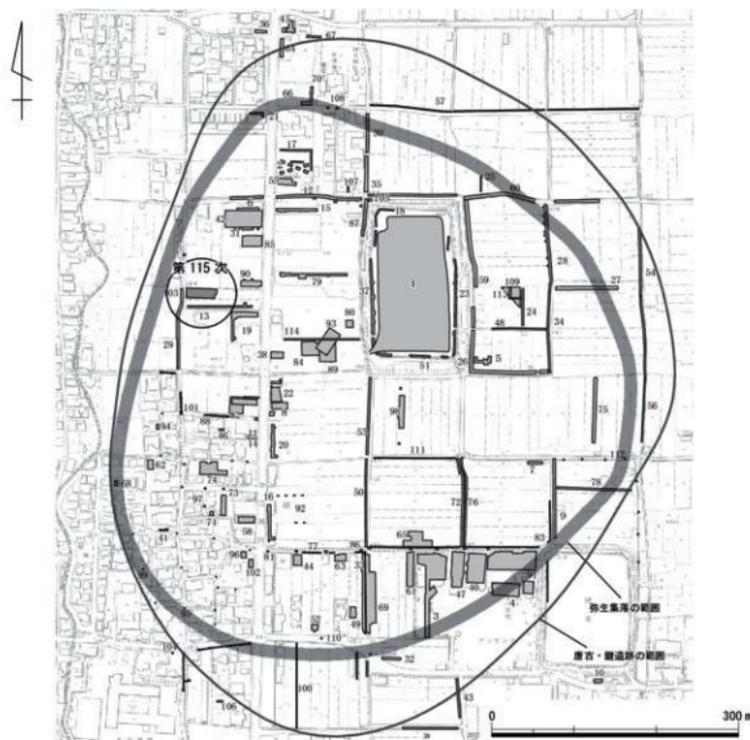
株式会社古環境研究所  
金原 正子

## 1. はじめに

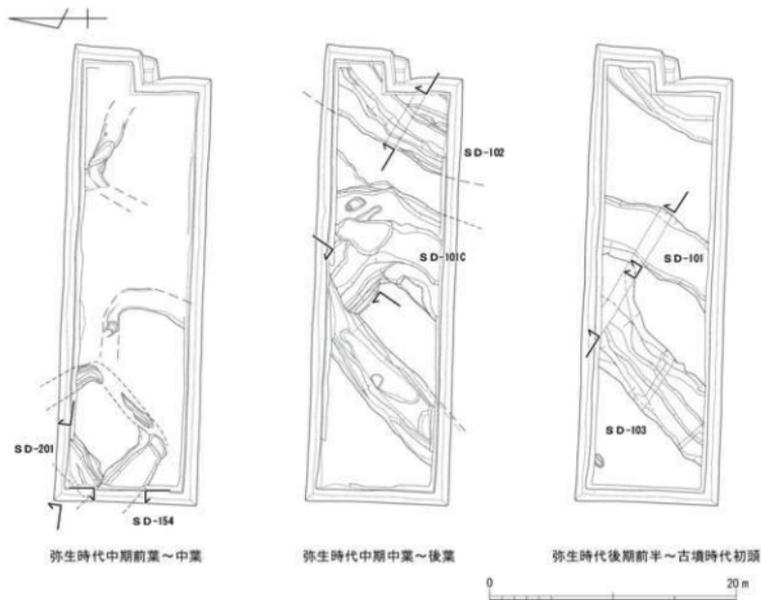
花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。しかし花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

## 2. 試料

分析試料は、第115次調査区より採取された試料22点である。



第1図 第115次調査地位位置図 (S=1/6,000)



第2図 試料採取位置 (S = 1/400)

第1表 試料一覧

No.	遺構名	分析No.	土色	時期
1	SD-101 中央アゼ 北壁	④	暗褐色砂質土	VI-4～庄内
2		⑦	暗灰色粘土	VI-4 埴
3		⑩	黒色粘土 (植物含む)	V-1 埴
4	SD-101C 北側アゼ 西壁	④	黒灰色粘土シルト (植物多し)	IV-1 埴
5		②	暗褐色粘質土	IV-1 ?
6		④	暗褐色土 (ハード、黄斑多し)	III-4
7		⑦	黒色粘土 (ゾフト、植物多し)	III-3～4 ?
8		⑨	黒色粘質土 (砂礫質、植物多し)	III-3 埴 ?
9	SD-102 アゼ 北壁	③	暗灰色粘土	IV-3～4
10		④	灰色粗砂 (砂礫質)	V-2
11		⑥	暗黄褐色土 (鉄分、ハード)	V-2
12		⑧	黒灰色粘質土 (黄斑多し)	IV 埴 ? 遺物少ない
13		⑫	黒灰色粘質土 (砂混)	III-4
14	SD-201 調査区北壁	⑦	暗灰色粘土	II-2 埴 水田に伴う水路? 周溝墓形成前の直線的な大溝
15		⑨	灰色粘土	
16	SD-103 (外側の竪溝) 北側アゼ 北壁	③	暗灰褐色粘質土 (暗い)	IV 埴
17		⑤	暗灰褐色粘質土 (褐斑)	V 埴
18		⑧	黒灰色粘土 (暗灰にちから)	IV 埴
19		⑨	黒色粘質土 (粗砂混、やや微砂質)	III 後半
20		⑬	黒灰色粘質土 (砂混)	VI 埴
21	SD-154 調査区西壁	⑧	褐色土 (鉄分、ハード)	III-3 埴
22		⑫	黒灰色粘土	II-3～III-1 埴 (方形周溝墓)



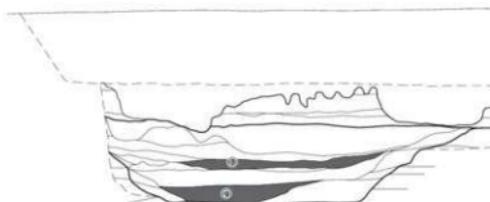
SD-101 中央アゼ 北壁



SD-101C 北側アゼ 西壁



SD-102 アゼ 北壁



SD-201 調査区北壁



SD-103 北側アゼ 北壁



SD-154 調査区西壁

第3図 試料採取層位

### 3. 方法

花粉の分離抽出は、中村<sup>(1)</sup>の方法をもとに、以下の手順でおこなった。

- 1) 試料から1cmを採量
- 2) 0.5%リン酸三ナトリウム(12水)溶液を加え15分間湯煎
- 3) 水洗処理の後、0.25mmの篩で籾などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去
- 4) 25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置
- 5) 水洗処理の後、氷酢酸によって脱水し、アセトリス処理(無水酢酸9:濃硫酸1のエルドマン氏液を加え1分間湯煎)を施す
- 6) 再び氷酢酸を加えて水洗処理
- 7) 沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作製
- 8) 検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって300~1000倍でおこなった。花粉の分類は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン(-)で結んで示した。同定分類には所有の現生花粉標本、島倉(1973)<sup>(2)</sup>、中村(1980)<sup>(3)</sup>を参照しておこなった。イネ属については、中村(1974・1977)<sup>(4)</sup>を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属型とする。

### 4. 結果

#### (1) 分類群

出現した分類群は、樹木花粉35、樹木花粉と草本花粉を含むもの6、草本花粉29、シダ植物孢子3形態の計73である。これらの学名と和名および粒数を第2表に示し、花粉数が200個以上計数できた試料は、周辺の植生を復原するために花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを第4図に示す。なお、200個未満であっても100個以上計数できた試料については傾向をみるため参考に図示し、主要な分類群は顕微鏡写真に示した。また、寄生虫卵についても検鏡した結果、4分類群が検出された。以下に出現した分類群を記載する。

#### 〔樹木花粉〕

マキ属、モミ属、ツガ属、マツ属複雑管東亜属、スギ、コウヤマキ、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、ヤナギ属、クルミ属、サワグルミ、ノグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、ハシバミ属、クマシデ属-アサダ、クリ、シイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属-ケヤキ、エノキ属-ムクノキ、アカメガシワ、ウルシ属、ニシキギ科、カエデ属、トチノキ、ブドウ属、ノブドウ、アオイ科、グミ属、ミズキ属、モクセイ科、トネリコ属、タニウツギ属

#### 〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科-イラクサ科、バラ科、マメ科、ウコギ科、ゴマノハグサ科、ニワトコ属-ガマズミ属

#### 〔草本花粉〕

ガマ属-ミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、イボクサ、ミズアオイ属、ネギ属、タデ属、タデ属サナエタデ節、ギシギシ属、ソバ属、アカザ科-ヒユ科、ナデシコ科、キンボウゲ属、カラマツソウ属、アブラナ科、ワレモコウ属、ツリフネソウ属、

アカバナ科、チドメグサ亜科、セリ亜科、ナス科、ゴキツル、タンポポ亜科、キク亜科、オナモミ属、ヨモギ属

〔シダ植物胞子〕

単条溝胞子、ミズワラビ、三条溝胞子

〔寄生虫卵〕

回虫卵、鞭虫卵、カビラリア、不明虫卵

以下にこれらの特徴を示す。

①回虫 *Ascaris lumbricoides*

回虫は、回虫 *Ascaris lumbricoides*

比較的大きな虫卵で、およそ80×60μmあり楕円形で外側に蛋白質膜を有し、胆汁色素で黄褐色ないし褐色を呈する。糞便とともに外界に出た受精卵は、18日で感染幼虫包蔵卵になり経口摂取により感染する。回虫は、世界に広く分布し、現在でも温暖・湿潤な熱帯地方の農村地帯に多くみられる。

②鞭虫 *Trichuris trichiura*

卵の大きさは、50×30μmでレモン形あるいは岐阜ちょうちん形で、卵殻は厚く褐色で両端に無色の栓がある。糞便とともに外界に出た虫卵は、3～6週間で感染幼虫包蔵卵になり経口感染する。鞭虫は、世界に広く分布し、現在ではとくに熱帯・亜熱帯の高温多湿な地域に多くみられる。

③カビラリア *Capillaria* sp.

主に鶏の小腸に寄生する毛虫で、卵は大きさ形とも鞭虫卵に類似するが、両端栓状物がやや突出しその幅は小さく卵殻もやや薄い。鶏の生食や不完全な調理で感染する。

④不明虫卵 Unknown eggs

卵の大きさは約75×40μmで淡黄色、一端に小蓋があり、肝蛭に似るが小さい。

(2) 花粉群集の特徴

それぞれの地点において、下位より花粉構成と花粉組成の変化の特徴を記載する(第4図)。

1) SD-101 中央アゼ北壁(試料4、7、11、17)

下部の試料17では、樹木花粉が60%を占め、コナラ属アカガシ亜属を主にスギ、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、ニレ属-ケヤキ、エノキ属-ムクノキ、シイ属、コナラ属コナラ亜属が伴われる。樹木・草本花粉のクワ科-イラクサ科、草本花粉のイネ科(イネ属型を含む)がやや多く、ヨモギ属、セリ亜科、カヤツリグサ科、ソバ属が出現する。試料11では、樹木花粉の占める割合が45%になり、コナラ属アカガシ亜属が半減し、ニレ属-ケヤキ、エノキ属-ムクノキが減少する。これより上部にかけて樹木花粉の組成、構成に変化はほとんどない。草本花粉では、ガマ属-ミクリ属が優占し、クワ科-イラクサ科が半減する。試料7では、草本花粉の占める割合がさらに増加し、ガマ属-ミクリ属、カヤツリグサ科が多くなる。試料4では、特徴的にイネ科(イネ属型を含む)が





第2表 唐古・縄遺跡における花粉分析結果

学名	和名	50-101中央アゼ北壁				50-101北側アゼ北壁				50-102アゼ北壁				50-103北側アゼ北壁				50-104遺跡				
		4	7	11	17	2	4	7	9	3	4	6	10	12	7	9	3	5	8	10	9	10
Arboreal pollen 樹木花粉																						
<i>Podocarpus</i>	マキ属														1	1			1	1		
<i>Abies</i>	モミ属	3	2	3	1			1	3	1	1			2	2	2	4	3	1	4	3	2
<i>Tsuga</i>	ツガ属	3	4	2	4			1	2	2				1	1	1	2			2		
<i>Pinus subsp. Diplolepis</i>	マツ属緑葉型東亜種	2	6	6	2	1		4	1	7	2			1	3	5	1	3	3	4	1	
<i>Cryptomeria japonica</i>	スギ	21	19	34	26	7	1	7	8	48	21			2	19	18	17	16	10	24	20	3
<i>Sciadopitys verticillata</i>	コウヤマキ	2	1	1	3			2	1	1	1			1	1				1	1	1	4
<i>Taxus chimonensis</i>	イチイ科-イヌスギ科-ヒノキ科	29	37	61	30	1	4	9	19	87	23			25	30	22	5	19	12	12	1	36
<i>Salix</i>	ヤナギ属					1		1	1	1				2	2					7		3
<i>Juglans</i>	クルミ属					1																
<i>Platanus rhytidolia</i>	サワグルミ		1					1														
<i>Platanus strahlmannii</i>	ノグルミ									1												
<i>Alnus</i>	ハンノキ属				1					1					1				2	1	5	1
<i>Betula</i>	カバネキ属	1	1		2			1	1	2	1				3	1		1				3
<i>Corylus</i>	ハシバミ属																			1		
<i>Corylus-Davie japonica</i>	クマシラガ属-アサダ	1	1	2	2			2	1	1				1			1	3		2		
<i>Castanea cretensis</i>	クリ	2	11	12	1	5	1	8	5	23	6			3	12	8	4	2	2	3	5	28
<i>Castanopsis</i>	シイ属	17	7	23	16	1	1	7	15	19	7			3	12	12	11	9	15	21	17	32
<i>Fagus</i>	ブナ属									1								1	1	1		1
<i>Quercus subsp. Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	18	11	6	13	6	1	2	14	9	12			8	7	12	7	14	6	8	7	5
<i>Quercus subsp. Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	40	26	61	93	9	5	72	81	33	12			7	87	68	77	18	39	60	46	72
<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>	ニレ属-ウケヤキ	1	1	4	20	4	1	15	26	15	5			2	44	1	2	6	3	7	3	7
<i>Celtis-Platanus aspera</i>	エノキ属-ムクノキ	1	3	4	21			1	55	92	2	2		1	182	1	3	1	2	9	20	1
<i>Mallotus japonicus</i>	アカメガシワ					1																
<i>Rhus</i>	ウルシ属														1							1
Celastraceae	ニシキギ科																			5		
<i>Acer</i>	カエデ属									1												1
<i>Arcutella turbinata</i>	トナリノキ				1		2									2			3	2		2
<i>Ficus</i>	ブドウ属														1							2
<i>Apollonia brevipedunculata</i>	ノブドウ	2	1							1	1				6					4	7	
Malvaceae	アオイ科									1												
<i>Elaeagnus</i>	グミ属				1																	
<i>Cornus</i>	ミズキ属									1												
Olacaceae	モクセイ科																					
<i>Fraxinus</i>	トネリコ属															1				1	1	
<i>Walgola</i>	タニウツギ属				1																	
Arboreal/Nonarboreal pollen 樹木・非樹木花粉																						
Moraceae-Urticaceae	タケ科-イラクサ科	10	18	39	59	19	10	38	25	43	37			12	28	30	23	14	16	17	45	23
Rosaceae	バラ科			1	1					1										7	1	
Leguminosae	マメ科				1	1																
Araliaceae	ウコギ科							1	1													1
Scrophulariaceae	ゴマノハグサ科																					1
<i>Sambucus-Tiburnum</i>	ニワトコ属-ガマズミ属			1	1					1										2	1	
Nonarboreal pollen 非樹木花粉																						
<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属	1	139	126	3			1		4	2									1		
<i>Alisma</i>	サジメモダカ属		1																			
<i>Sagittaria</i>	オモダカ属	2	1			1		1	1										2			
Gramineae	イネ科	150	43	33	37	218	101	86	98	50	40			80	46	130	135	85	179	92	80	93
<i>Oryza type</i>	イネ属型	43	3	6	10	23	23	47	53	10	13			6	8	42	44	7	42	29	15	8
Cyperaceae	カヤツリグサ科	10	39	14	7	8	4	9	3	17	16			2	5	15	21	9	9	6	8	9
<i>Alopecurus Aetnae</i>	イボグサ		1						1													1
<i>Monochoria</i>	ミズアオイ属								1	1												
<i>Allium</i>	ネギ属									1											1	
<i>Polygonum</i>	タデ属										1											
<i>Polygonum sat. Pruriaria</i>	タデ属サナユタダ節	2	1	2	1				2	1									2			1
<i>Rumex</i>	ゲンギシ属									1												
<i>Fagopyrum</i>	ソバ属					1																2
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ビロコ科	2	4	4	5	12	10	9	8	5				6	4	2	5	7	6	6	11	1
<i>Caryophyllaceae</i>	ナデシコ科		1	1							1											1



コナラ属アカガシ亜属、クリ、シイ属、コナラ属コナラ亜属、ニレ属-ケヤキなどが伴われる。クワ科-イラクサ科もやや多く、イネ科（イネ属型を含む）を主にカヤツリグサ科、セリ亜科、ヨモギ属が低率に出現する。試料3の方が樹木花粉の割合が高い。

#### 4) SD-201 調査区北壁（試料7、9）

試料はいずれも極めて類似した出現傾向である。樹木花粉より草本花粉の占める割合がやや高く、イネ科（イネ属型を含む）が優占しヨモギ属が、カヤツリグサ科が伴われる。樹木花粉では、コナラ属アカガシ亜属、を主にイチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、スギ、シイ属などが出現する。

#### 5) SD-103 北側アゼ北壁（試料3、5、8、10）

下部の試料10では、樹木花粉より草本花粉の占める割合がやや高く、イネ科（イネ属型を含む）、ヨモギ属、クワ科イラクサ科が比較的多い。樹木花粉では、コナラ属アカガシ亜属を主にスギ、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、シイ属などが出現する。試料8では、樹木花粉と草本花粉の占める割合がほぼ同じになり、コナラ属アカガシ亜属など要素が増加し、ヨモギ属が減少、イネ科（イネ属型を含む）が増加する。試料5では、草本花粉のイネ科（イネ属型を含む）が益々増加する。試料3では、シダ植物胞子が増加する。

#### 6) SD-154 調査区西壁（試料9、10、12）

下部の試料12では、樹木花粉の占める割合が高く、コナラ属アカガシ亜属、エノキ属-ムクノキ、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、スギ、シイ属、コナラ属コナラ亜属、クリなどが出現する。草本花粉のイネ科（イネ属型を含む）、クワ科-イラクサ科が出現する。試料10では、密度が極めて低く、花粉は検出されない。試料9では、草本花粉の占める割合が高くなり、イネ科（イネ属型を含む）が卓越し、アブラナ科が伴われる。

## 5. 花粉分析から推定される植生と環境

### (1) SD-101 中央アゼ北壁（試料4、7、11、17）

下部（試料17）の層準では、周囲は比較的樹木が多く、コナラ属アカガシ亜属を主とする照葉樹が基本的には優占し、ニレ属-ケヤキ、エノキ属-ムクノキ、コナラ属コナラ亜属などの落葉広葉樹も生育する。スギ、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科などの針葉樹は、やや遠方に分布していた。周囲には人為環境に多いクワ科-イラクサ科、イネ科を主にヨモギ属、セリ亜科、カヤツリグサ科の草本が生育する。栽培植物のソバ属が検出され、周囲にソバの畑が分布していた。

試料11、7の層準では、ガマ属-ミクリ属が多くなり、溝内に繁茂したとみなされる。周辺ではコナラ属アカガシ亜属を中心にニレ属-ケヤキ、エノキ属-ムクノキの樹木が減少する。

試料4の層準では、イネ科（イネ属型を含む）が増加し、周囲では水田を含む人為環境がより拡大した。

### (2) SD-101C 北側アゼ西側（試料2、4、7、9）

下部の試料9、7の層準では、周囲にはコナラ属アカガシ亜属、エノキ属-ムクノキの樹木と水田などのイネ科の多く生育する人為地が分布していたとみなされる。回虫卵、鞭虫卵が比較的高い密度で検出され、ヒトが密度高く居住し、溝にはヒトの排泄物が投棄されるか流れ込んでいた。

上部の試料2、4では、イネ科の草本が極めて増加し、樹木の生育域が開墾などで縮小し、水田

を含む人為環境が大きく拡大する。

(3) SD-102 アゼ北壁 (試料3、4、6、10、12)

下部の試料12層準では、エノキ属-ムクノキを主に樹木が多く、エノキ属-ムクノキは適湿地の二次林であり、当初周辺には二次林が分布していた。また、鞭虫卵、回虫卵がやや高い密度で出現し、近接してヒトが密度高く居住し、溝にはヒトの排泄物が投棄されるか流れ込んでいたと推定される。

試料10の層準では、イネ科 (イネ属型を含む) が卓越し、周辺はイネ科を主とする草本が生育し、人為性の高い環境となる。試料6では密度が極めて低くなり、堆積速度が速い可能性が推定される。

上部の試料4、3の層準になると、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、スギがやや多くなり、これらはやや遠方要素と考えられ、周辺には草本や樹木の密度の低い裸地の多い状態が考えられる。周辺には樹木では、コナラ属アカガシ亜属、クリ、シイ属、コナラ属コナラ亜属、ニレ属-ケヤキなどの樹木、クワ科-イラクサ科、イネ科、カヤツリグサ科、セリ亜科、ヨモギ属の草本が分布する。

(4) SD-201 調査区北壁 (試料7、9)

イネ科 (イネ属型を含む) が優占し、周辺には水田を含む人為地が広がっていたと推定される。樹木では周辺にコナラ属アカガシ亜属が分布し、遠方にはスギ、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科などの針葉樹が分布していた。

(5) SD-103 北側アゼ北壁 (試料3、5、8、10)

下部の試料10、9の層準は、イネ科 (イネ属型を含む) を主にヨモギ属、クワ科イラクサ科が比較的多く分布し、上位に向かい草本は増加する。樹木ではコナラ属アカガシ亜属などの照葉樹とスギ、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科などの針葉樹が分布する。

試料5、3の層準では、イネ科 (イネ属型を含む) が増加し、草本の多い環境が拡大し、水田など人為環境が拡大したとみなされる。

(6) SD-154 調査区西壁 (試料9、10、12)

下部の試料12の層準では、コナラ属アカガシ亜属、エノキ属-ムクノキ、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、スギなど照葉樹、落葉樹、針葉樹など樹木が多い。上部の試料9、10の層準では花粉密度が極めて低く、堆積速度が速い可能性がある。

試料9では、イネ科が極めて多くなり、アブラナ科も伴われ、草本の多い人為環境が拡大する。

## 6. まとめ

各溝において、下部にあたる第Ⅱ様式、第Ⅲ様式から第Ⅳ様式の時期にかけて、エノキ属-ムクノキの二次林要素の樹木が多く、比較的近隣に分布し、SD-101CやSD-102、SD-154では特に多い。第Ⅳ様式から第Ⅴ様式、第Ⅵ様式、庄内式期にかけては、イネ科やイネ属型が多くなり、水田を含むイネ科の多い植生が分布する。SD-102の上部では、周辺は裸地が多くなったと推定された。

## 参考文献

- (1) 中村純1967『花粉分析』古今書院 p.82-102
- (2) 高倉巳三郎1973「日本植物の花粉形態」『大阪市立自然科学博物館収蔵目録』第5集 p.60
- (3) 中村純1980「日本産花粉の標徴」『大阪自然史博物館収蔵目録』第13集 p.91
- (4) a. 中村純1974「イネ科花粉について、とくにイネ (*Oryza sativa*) を中心として」『第四紀研究』13 p.187-193  
b. 中村純1977「稲作とイネ花粉」『考古学と自然科学』第10号 p.21-30
- (5) 金原正明1993「花粉分析法による古環境復原」『新版古代の日本』第10巻 古代資料研究の方法 角川書店 p.248-262

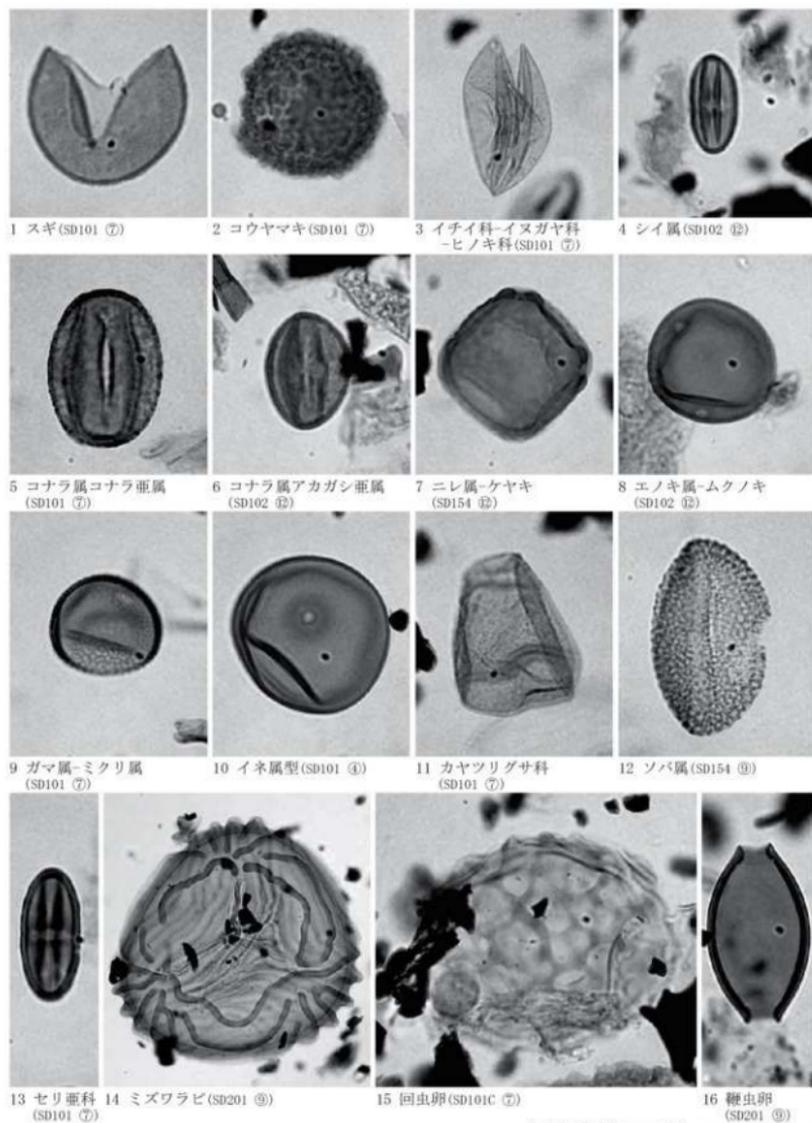


写真1 唐古・鍵道跡の花粉

# 唐古・鍵遺跡第58次調査から出土した動物遺存体

北海道大学総合博物館

江田 真毅

大阪市立大学大学院医学研究科

安部みき子

東海大学海洋学部

丸山 真史

田原本町教育委員会

藤田 三郎

## 1. はじめに

唐古・鍵遺跡では多数の動物遺存体が出土しており、これまでに魚類、両生類、哺乳類の一部について報告されており、当遺跡一帯の環境復元や集落における動物利用について、徐々に明らかになりつつある。

今回報告する唐古・鍵遺跡第58次調査出土の弥生時代の動物遺存体のうち、種類や部位などを同定したものは魚類2点、両生類10点、鳥類14点、哺乳類168点である。特筆されるのは、第58次調査において弥生時代中期の遺構からニワトリが出土していることである。管見の限り日本国内で最古級の家禽の利用となり、注目に値する。以下では、第58次調査の概要および出土した動物遺存体について報告する。(丸山)

## 2. 第58次調査の概要

### (1) 調査の概要

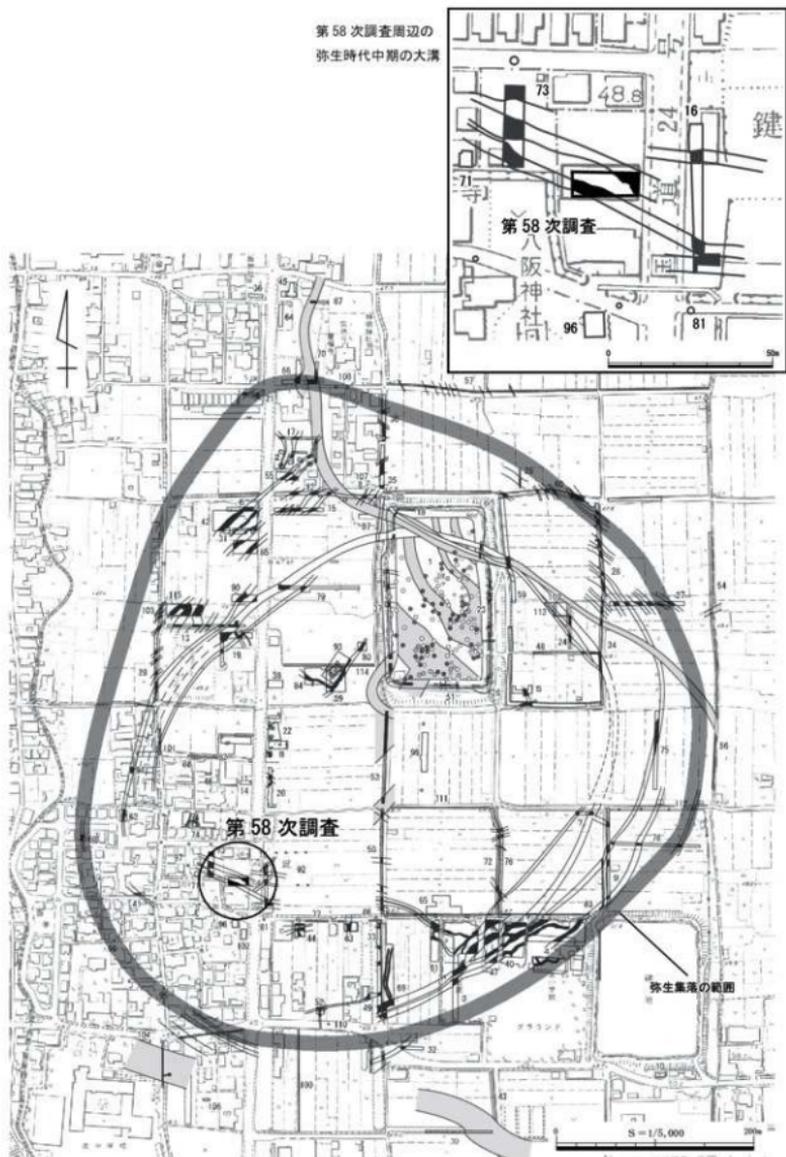
唐古・鍵遺跡の調査は、2015年12月現在、117次を数える。これまでの調査から唐古・鍵遺跡は、弥生時代の拠点的な大環濠集落であることが判明している。また、検出された遺物は多種多様で膨大な量になっている。

今回報告する動物骨は、唐古・鍵遺跡の第58次調査の区画溝や井戸等の各遺構から出土したものである。本調査地は、唐古・鍵遺跡の西部を南北に縦断する国道24号の西側沿線で、大字鍵字垣内281番1にあたる。店舗付賃貸住宅の建築に伴う事前調査として、1995年8月17日～9月28日にかけて実施した。調査面積は、東西20m、南北6.6～7.6mの138㎡、遺物は遺物箱180箱である。

本調査地は、唐古・鍵弥生集落の西地区にあたり、周辺約30mの範囲内では第16・73・81・92・102次と比較的多くの調査を実施している。この西地区の微高地は、弥生集落の西半部を占め、東半部にある北地区や南地区の微高地と比して大きい。この西地区の微高地は、南南西から北北東方向に主軸をもつもので大きく、北部・中央部・南部の3つに分けることができる。今回の第58次調査地は、その中央部と南部の境界部分にあたり、後述するように両者を区画する溝が検出されている。

調査では、下記に示すとおり弥生時代前期から後期までの土坑や溝、柱穴と中世の大溝や土坑を検出した。弥生時代の遺構は集落内の居住関係の遺構、中世は「唐古南氏居館」関係の遺構と考えられる。ここでは、報告する動物骨が出土した弥生時代の遺構を中心に述べるが、これら弥生時代

第58次調査周辺の  
弥生時代中期の大溝



第1図 第58次調査地位置図（遺跡全体：S = 1/5,000、第58次調査周辺：S = 1/1,500）

の遺構は中世遺構に多くを削り取られており、良好な部分は半分程度となっている。動物骨は、残存した遺構の下部の粘土層を中心とする土層から出土している。

弥生時代前期 (大和第Ⅰ様式) : 木器貯蔵穴1基・小土坑・柱穴・大溝1条

弥生時代中期初葉 (大和第Ⅱ様式) : 大溝1条・落ち込み1条

弥生時代中期中葉 (大和第Ⅲ様式) : 木器貯蔵穴1基・小溝

弥生時代中葉後葉 (大和第Ⅳ様式) : 井戸2基・土坑

弥生時代後期初葉 (大和第Ⅴ様式) : 井戸2基

鎌倉～室町時代 : 土坑4基・大溝1条

## (2) 弥生時代の主要遺構の概要

### 弥生時代前期

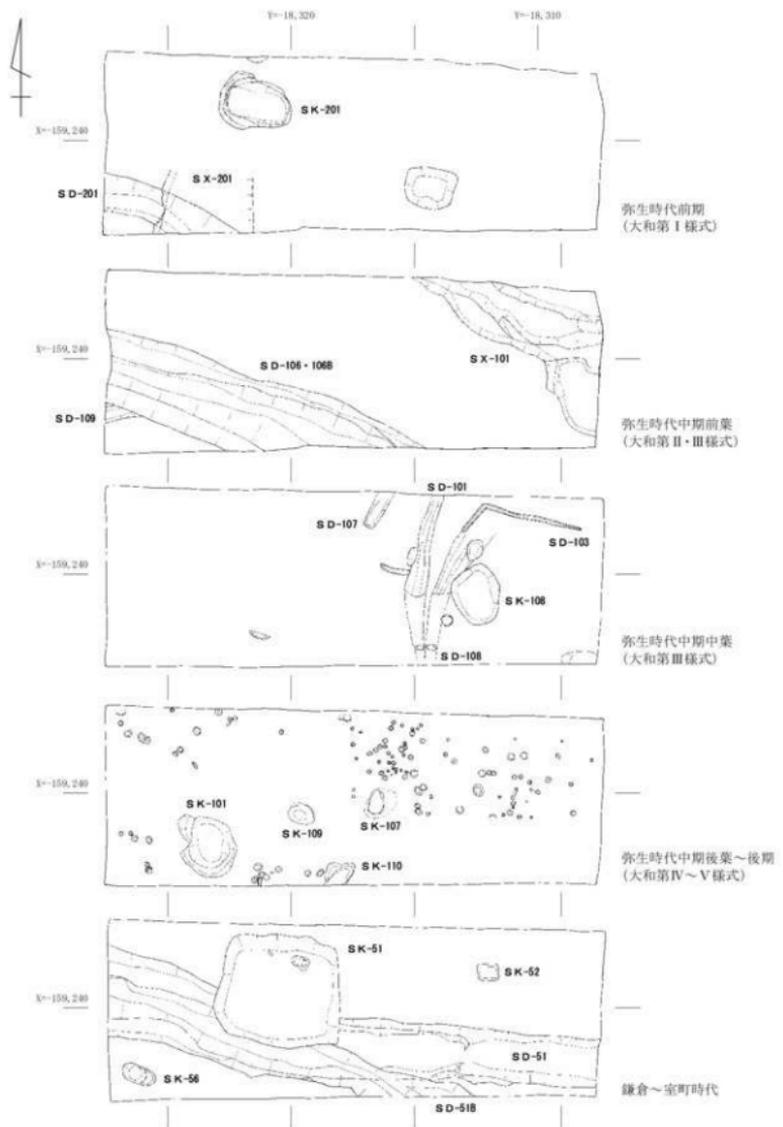
**SK-201** 調査区の西北で検出した楕円形を呈する大型の穴である。主軸は東南東-西北西方向にあるが、土坑上面の南肩はSD-51に、東半はSK-51の中世遺構に削平され、3/4を失っている。推定規模は長軸3.3m、短軸2.4m、深さ1.1mを測る。堆積は大きく二分され、上層は灰褐色砂質土等、下層は暗灰青色微砂等で形成され約0.7mの厚さを有する。下層は黒色粘土、灰色粘土等のブロックが混在することから、人為的に埋められた可能性が高い。遺物は上層と下層の間で広縁の未成品が1点、上層内からはややまとまって土器が出土している。時期は大和第Ⅰ-1様式で最も古い。遺構の形態や遺物の出土状況から木器貯蔵穴と推定される。

**SD-201** 調査区の西南隅で検出した大溝で、東南東-西北西方向に主軸をもつ。溝の上面はSK-115やSD-106に切られ、正確な規模は不明である。推定溝幅2.5m、深さ1mを測る。溝の堆積は大きく3層に分層でき、上層は暗灰黄色粘質土・中層は黄灰色微砂～暗褐色粗砂・下層は黒褐色粘土等で構成されている。遺物は下層から木製容器3点・手斧柄などが出土しているが、全体に遺物は少ない。時期は大和第Ⅰ-2様式である。集落内部を区画する溝と考えられる。

### 弥生時代中期

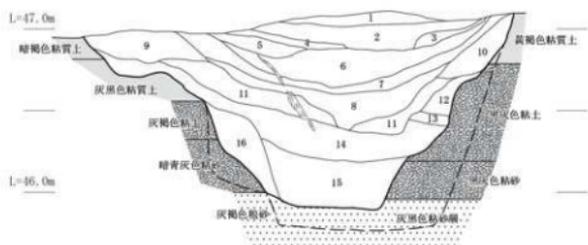
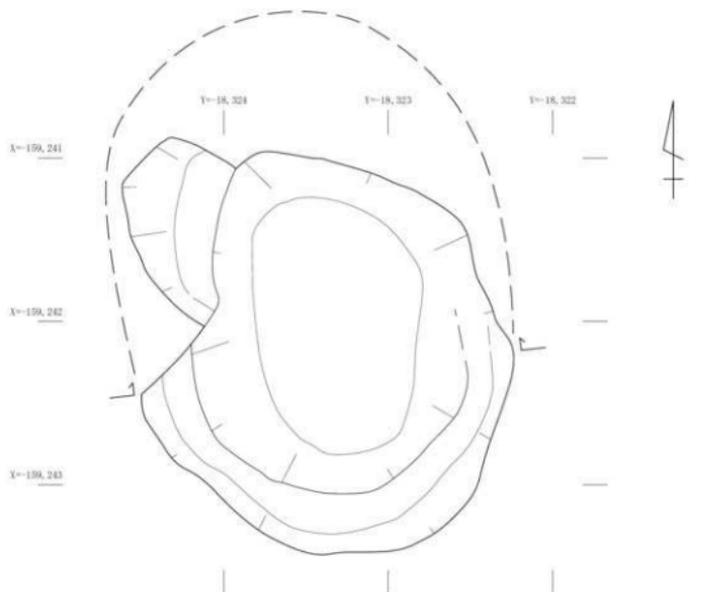
**SD-106B・106** 調査区の西南隅で延長15mにわたって検出した大溝で、今回の調査の弥生時代の遺構としては、最も主要な遺構である。前述SD-201の北側にほぼ平行するように(東南東-西北西方向)、すなわち、前期のSD-201の北側の肩を一部壊しながら掘削しているが、また、逆にこの大溝の大半は後述する中世大溝SD-51に重複するように掘削・破壊されており、本溝の上層の残存状況はかなり悪い。溝の堆積状況から再掘削されていると判断され、最初の掘削溝SD-106Bは(取上層位:第7～10層)は大和第Ⅱ-1・2様式の土器を主体とし、再掘削溝SD-106は(取上層位:第1～6層)は大和第Ⅱ-3様式を主体とし、部分的に大和第Ⅱ-1・2様式の土器が混在する状況にある。このような状況であるが、大和第Ⅱ様式期に収まる遺構と判断して良い。規模は当初の溝が幅約4m、深さ1.3m、再掘削は推定幅3m、深さ0.9mを測る。当初の溝は灰黒色粘土、再掘削の溝は暗灰褐色粘砂層(植物腐食土層)等で構成されており、後者の土層からは大量の土器のほか、容器片、鍬片、箆、板材、骨針・報告する獣骨類が出土している。この大溝はその位置関係から第16次調査のSD-102と考えられる。

**SK-101** 調査区の西南で検出した大型井戸である。井戸の北半はSD-51によって大きく削



第2図 遺構変遷図 (S=1/200)





- |                 |                     |
|-----------------|---------------------|
| 1 暗茶褐色土         | 10 灰黒色粘質土 (炭灰混)     |
| 2 暗褐色粘質土 (炭灰混)  | 11 灰黒色粘質土           |
| 3 灰褐色砂質土 (炭層)   | 12 黒灰色粘土 (微砂質)      |
| 4 黒色粘質土 (炭灰層)   | 13 灰褐色粘質土 (細砂質、植物層) |
| 5 灰褐色粘質土        | 14 灰黒色砂質土 (粘土質)     |
| 6 灰黒色粘質土 (砂粒多し) | 15 黒褐色粘土            |
| 7 暗灰褐色粘質土 (炭灰層) | 16 黒褐色粘砂            |
| 8 暗青灰色粘土 (微砂層)  |                     |
| 9 暗茶灰色粘質土       |                     |

第4図 SK-101平面図および北壁断面図 (S=1/30)

ついたものと考えられる。断面は上部が広がるカワ筒状である。長軸の現長1.4m、短軸復元推定0.7m、深さ1mを測る。埋土は基本的に黒色粘土の水平堆積であるが、最下層は砂混じり、下層は木片を含み、中層は柔らかい土質をしている。最下層から完形の短頸壺が出土した。時期は大和第V-1様式である。

### (3) まとめ

本調査において、主要遺構となるSD-106B・106は、調査地東側20mの第16次調査で検出したSD-102、さらに東100mの第77次調査のSX-3101に接続すると思われる。また、反対方向にあたる西側20mの第73次調査のSD-106に繋がると推定されることから、本溝の総延長は190mとなる。この大溝は、東南東から西北西方向にほぼ直線的に掘削されており、この溝とはほぼ並走する大溝も近くに存在することから南地区の北辺を区画するとともに、西地区の中央部と南部も区画すると考えられる。いずれにしても本溝内には多量の遺物が投棄されていることから、居住区内の排水路的な役割があったのであろう。(藤田)

## 3. 動物遺存体の概要

以下では、出土した動物遺存体の各種について、出土量やそれぞれの特徴について記載する。今回、出土した動物遺存体は第1表に種名を示す。

第1表 種名表

硬骨魚綱 Osteichthyes	哺乳綱 Mammalia
コイ目 Cyprinida	食肉目 Carnivora
コイ科 Cyprinidae	イヌ科 Canidae
コイ <i>Cyprinus carpio</i>	ホンドキツネ <i>Vulpes vulpes</i>
両生綱 Amphibia	イタチ科 Mustelidae
無尾目 Anura	ホンドテン <i>Martes melampus</i>
無尾目の一種 Anurafam., gen. et sp. indet.	偶蹄目 tiodactyla
鳥綱 Aves	イノシシ科 Suidae
キジ目 Galliformes	イノシシ類 <i>Sus scrofa</i>
キジ科 Phasianidae	シカ科 Cervidae
キジ <i>Phasianus colchicus</i>	ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>
ニワトリ <i>Gallus gallus</i>	ウサギ目 Ragonomorpha
キジ科の一種 Phasianidae gen. et sp. indet.	ウサギ科 Lepoidae
カモ目 Anseriformes	ニホンノウサギ <i>Lepus brachyurus</i>
カモ科 Anatidae	齧歯目 Rodentia
カモ亜科 Anatinae	ネズミ科 Muridae
カモ亜科の一種 Anatinae gen. et sp. indet.	アカネズミ <i>Apodemus speciosus</i>
スズメ目 Passeriformes	ネズミ科の一種 Muridae gen. et sp. indet.
スズメ目の一種 Passeriformes fam., gen. et sp. indet.	

### (1) 魚類

硬骨魚類が計2点出土した。SD-106Bの第10層からコイの前頭骨(右)、主鰓蓋骨(左)が各1点である。大きさは、いずれも体長20cm程度と推定される。(丸山)

### (2) 両生類

種を同定できないカエル亜目が、SD-106から8点、SD-106Bから1点、計9点が出土した。骨の大きさは小型種のもので、ニホンヒキガエル程度の大きさのものは出土していない。SD-106からは椎骨2点、肩甲骨(左)、上腕骨(右)、大腿骨(左)、腸骨(右)、脛・腓骨が1点ずつ、SD-106Bからは腸骨(右)が出土した。(安部)

### (3) 鳥類

SD-106から13点、廃土から1点、計14点が出土した。安部の所有する比較骨標本の肉眼比較で同定した結果、分析対象としたすべての骨で目以上を単位とした同定ができた(第2表)。キジ科(キジとニワトリを含む)、カモ科(カモ亜科)、スズメ目が確認された。

キジ科はSD-106第4層から9点、廃土から1点の計10点が出土した。江田・井上<sup>(1)</sup>の基準から、SD-106出土の足根中足骨は内側足底縁がないことからニワトリと同定された(第5図-1)。この足根中足骨には距突起が確認されている。また、SD-106出土の大腿骨では大転子含気窩が確認されずニワトリもしくはヤマドリと同定できた(第5図-2)。この大腿骨は両骨端の形成が不完全な若鳥の骨であった。このほかにも寛骨3点(最少部位数は1)で、骨端の癒合していないキジ科資料が認められている。一方、廃土から出土した大腿骨は大転子含気窩があるキジと同定できる資料であり<sup>(2)</sup>、火を受けて白色化していた。前述の足根中足骨とニワトリもしくはヤマドリの大腿骨はミカドキジの標本より大きい資料、SD-106出土の大指基節骨は同標本とほぼ同大の資料、他はアカヤマドリとほぼ同大の資料であった。

スズメ目はSD-106の第4層から2点、第8層から1点の計3点が出土した。すべてトラツグミ標本よりかなり小さい資料であった。

カモ亜科はSD-106第4層から脛足根骨が1点検出された。オナガガモより小さい資料であった。いずれの分類群でも、明瞭な解体痕や加工痕、骨髓骨様の交織骨は認められなかった。(江田)

### (3) 哺乳類

#### 小型哺乳類

種まで同定できた小型哺乳類は5科13点であり、遺構・部位別の出土量を第3表に示した。

SD-106から出土した哺乳類はニホンノ

第2表 第58次調査から出土した鳥類

遺構	層位	分類群	部位	残存		度数	
SD-106	4層	ニワトリ	足根中足骨	右	w	1	
				左	w	1	
		キジ科	寛骨	右寛骨臼、腸骨、坐骨			1*
				左坐骨			1*
				連合仙椎			1*
			手根中手骨	右	w	1	
				左	w	1	
				大指基節骨	右	w	1
		大腿骨	右	s-d	1		
			左	w	1*		
		カモ亜科	脛足根骨	左	s-d	1	
				左	w	1	
		スズメ目	手根中手骨	左	w	1	
				大指基節骨	右	w	1
SD-106B	8層	上腕骨	左	p	1		
			右	p	1		
廃土		キジ	大腿骨	左	p+s	1	
総計						14	

w: 残存, p: 近位端, d: 遠位端, s: 骨幹部, \*: 骨端未癒合もしくは形成不完全

ウサギ10点、アカネズミを含むネズミ科2点、ホンドキツネとホンドテンが各1点である。ニホンノウサギの下顎骨の大きさは、安部が所有する現生標本とほぼ同大であった。ネズミ科の骨は出土数が多かったが種の同定が可能な下顎骨と臼歯が遺存していたものはアカネズミの1点のみであった。しかし、同定できなかったネズミの出土骨は全て小型種の大きさで、大型種のイエネズミに匹敵する大きさの骨は出土していない。また、ノウサギの上腕骨、腰椎、尺骨と踵骨ならびにテンの肩甲骨が焼けた状態で出土している。これらの焼骨も他の骨と同様にSD-106から出土している。

SK-101からはニホンザルの左大腿骨が1点のみ出土し、小転子の下方で切断されていた。ニホンザルが出土した遺構は大和第IV-1様式であり、SD-106から出土した動物遺存体とは時期が異なっている。(安部)

### 大型哺乳類

大型哺乳類は種類を同定したものがイノシシ類とシカであり、計152点を数える(第3表)。これら種同定したものの以外に、破片の大きさからイノシシ類あるいはシカと思われる破片が53点出土している。

イノシシ類は、SD-106から頭蓋骨10点、椎骨9点などが計58点出土しており、乳歯段階の顎骨や骨端が癒合していない幼獣が多数含まれる。また、下顎骨、椎骨、四肢骨などに解体痕が、頭蓋骨や寛骨などにイヌと思われる咬痕が見られる。SD-106Bから頭蓋骨6点、椎骨5点などが計34点出土しており、骨端が癒合していない幼獣が含まれる。また、四肢骨には解体痕や肉を削いだ痕跡が見られる。椎骨のうち1点の第6頸椎には叩き切ろうとした深い傷が見られる。SD-201から上腕骨、大腿骨3点ずつなどが計17点出土した。四肢骨の大部分は、骨端が癒合していない幼獣であり、橈骨に解体痕がみられる。SK-101から遊離歯3点、寛骨2点などが計14点出土しており、遊離歯のうち1点は加工痕が見られるメスの犬歯である。また、左尺骨には刃物による解体痕が、踵骨には解体痕とイヌと思われる咬痕が見られる。SK-107から尺骨、指骨が各1点、計2点が出土した。SK-109から遊離歯、中手骨が各1点、計2点が出土した。SK-110から、距骨が1点出土した。SK-111から、上腕骨が1点出土した。SK-114から肋骨、脛骨が1点ずつ、計2点が出土した。いずれも骨端が癒合していない幼獣である。SK-201から椎骨、中足骨が1点ずつ、計2点が出土した。

シカは、SD-106から椎骨3点、上腕骨2点などが計10点出土しており、骨端が癒合していない幼獣を含む。上腕骨や距骨に解体痕や肉を削いだ痕跡がみられ、寛骨には穴が穿たれている(第6図-1)。また、尺骨は被熱して褐色を呈する。この穴の平面形態は隅丸の三角形を呈し、7.5×6.3mmの大きさである(第6図-2)。SD-106Bから上腕骨と椎骨が各1点、計2点が出土しており、いずれにも解体痕が見られる。SK-101から、枝角、大腿骨などが各1点、計3点が出土した。枝角は被熱して褐色ないし黒色を呈する。また、大腿骨は螺旋状に破損しており、イヌと思われる咬痕が見られる。SK-109から枝角が1点出土しており、加工品であるが、機能や用途は明らかでない。SK-110から下顎骨、橈骨などが各1点、計5点が出土した。橈骨は被熱して黒色を呈する。

(丸山)

第3表 哺乳類集計表

遺構	種類	頭蓋骨				下顎骨				頸骨				肩胛骨				腕骨				尺骨				跗骨				趾骨				趾骨				計
		左	右	-	-	左	右	-	-	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右					
SD-106	イノシシ	3	7	1	1	9	1		2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	遊離歯10, 肋骨(左)1, 中手骨1, 趾骨(右)1, 中足骨(左)3, 中手/中足骨1, 指骨2	58				
	シカ					3	1	2																									遊離歯3	10				
SD-106B	ニホンノウサギ			1		1																												10				
	ホンドテン																																	1				
	アカネズミ			1																														1				
	イノシシ	2	3	1		5	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	34					
SD-201	シカ					1			1																									2				
	ホンドキツネ																																	1				
	ネズミ科					1																												1				
SK-101	イノシシ	1						1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	17				
	シカ																																	14				
SK-107	イノシシ																																	3				
	シカ																																	2				
SK-109	イノシシ																																		2			
	シカ																																		1			
SK-110	イノシシ																																		1			
	シカ																																	5				
SK-111	イノシシ																																		1			
	シカ																																		2			
SK-201	イノシシ																																		2			
	シカ																																		2			

#### 4. 考察

唐古・鍵遺跡第58次調査で出土した動物は、魚類のコイ、両生類のカエル類、鳥類のニワトリを含むキジ科、カモ科、スズメ目、哺乳類のニホンノウサギ、アカネズミを含むネズミ科、ホンドギツネ、ホンドテン、イノシシ類、シカである。これらの大部分は区画溝であるSD-106およびSD-106Bから出土しており、食用となるものが多い。

出土した破片数では哺乳類が大部分を占め、イノシシ類が卓越する。小型哺乳類ではニホンノウサギが比較的多い。大型哺乳類と比較すれば少数に留まるが、その毛皮は貴重な資源であったと考えられる。SD-106・106Bから出土したイノシシ類とシカの量比はおよそ8:2であり、イノシシ類が圧倒的である。イノシシ類は乳歯段階の顎骨や、骨端部が癒合していない四肢骨を多く含み、約半数が幼獣のものである。唐古・鍵遺跡のイノシシ類は大部分がブタであることや<sup>(1)</sup>、家畜化を示す個体が含まれることが指摘される<sup>(4)</sup>。当資料に含まれる頭蓋骨や下顎骨などは破片ばかりで、形態によって野生イノシシとブタを区別することは困難である。しかし、池上・曾根遺跡において幼若獣が多いことによって飼養個体の存在が指摘されるように<sup>(5)</sup>、当資料中にも飼養個体が含まれる可能性がある。

SD-106から出土したシカの寛骨に見られる穿孔は、平面形がシカの中手足骨や中足骨を素材とする刺突具や骨髄の断面形に酷似している。石鏃が刺さった場合に扁平な変形の断面形を呈するのは異なる。傷を負ってなお、生存していた場合にみられる傷の周囲の骨増殖は生じていない。深い傷であるが、穿孔部位は寛骨であるため、致命傷とは考えにくい。しかし、後肢の動きの妨げとなり、捕獲されたのであろう。このほかにSD-106・106Bから出土したイノシシ類やシカの骨には解体痕が多くみられる。同じ奈良盆地に位置する縄文時代の橿原遺跡から出土したものに比べ、解体痕が確認できる頻度が高いように思われる。このことは金属器の使用と関連しており、金属器は石器より鋭く切れるため、骨に傷がつきやすくなった結果と捉えたい。

今回の資料で最も注目されるのは、弥生時代中期に比定される区画溝からニワトリの骨が出土したことである。弥生時代のニワトリの骨はこれまでに唐神遺跡（長崎県志岐市：中期～後期）、原ノ辻遺跡（同：中期～後期）、酒見貝塚（福岡県福岡県大川市：後期）、塚崎東畑遺跡（福岡県久留米市：中期～後期）、朝日遺跡（愛知県清洲市および名古屋市区：後期）から報告されている<sup>(6)</sup>。また、宮ノ下遺跡（大阪府東大阪市）でも明らかなニワトリの脛足根骨が弥生時代中期末～古墳時代中期の包含層で、ニワトリの可能性のある大腿骨が弥生時代中期の包含層で検出されている<sup>(7)</sup>。日本ではこれまで縄文時代の遺物包含層からの確実な出土例はないため、ニワトリは弥生時代に強制的要素の一つとして日本に導入されたと考えられてきた<sup>(8)</sup>。一方で、これまでの検出例では弥生時代中期と後期の遺物が混在する包含層や遺構から出土していたため、弥生時代のいつごろからニワトリが日本で利用されていたのかは特定できていなかった。今回ニワトリと同定した足根中足骨は、共存遺物から弥生時代中期（大和第Ⅲ-3様式）に特定できる区画溝から出土したものである。日本へのニワトリの導入が弥生時代中期まで遡ることを示す貴重な資料といえる。

今回確認された足根中足骨でも距突起が認められた。弥生時代の遺跡からはこれまでに唐神遺跡で2例、朝日遺跡で1例ニワトリの足根中足骨が検出されており、そのすべてで発達した距突起が

認められている<sup>19)</sup>。ニワトリの距突起は基本的に雄に特異的に形成される構造であるため、これらの足根中足骨は雄のものと考えられる。これは江田<sup>10)</sup>の指摘した性別の顕著な雄への偏りを補強するデータといえる。また、唐古・鍵遺跡出土の足根中足骨の近位端幅(BP)と全長(GL)<sup>11)</sup>を唐神遺跡や朝日遺跡出土の弥生時代のニワトリ、自然環境下で捕獲された「野生セキショクヤケイ」、動物園や実験施設で飼育されていた「飼育セキショクヤケイ」およびさまざまな品種の「ニワトリ」と比較すると、そのサイズ・プロポーションは朝日遺跡出土のニワトリと極めてよく類似していた(第7図)。唐古・鍵遺跡で利用されたニワトリも、江田<sup>12)</sup>が弥生時代のニワトリの特徴として指摘した「体サイズはセキショクヤケイと類似しており、家畜化は「飼育セキショクヤケイ」よりわずかに進展していた程度」によく合致しているといえる。

キジ科の資料として、骨端が未癒合もしくは骨端の形成が不完全な大腿骨と寛骨が出土したことも注目すべき結果といえる。とくに大腿骨は大転子含気窩のないヤマドリもしくはニワトリの骨であった。仮にこれらの骨がニワトリのものであれば、唐古・鍵遺跡では弥生時代中期にすでにニワトリの繁殖がおこなわれていたことになる。今後、コラーゲンタンパク分析、古代DNA分析を実施して、これらの骨がニワトリのものかを検討する必要があるだろう。(江田・安部・丸山)

## 5. おわりに

今回は、唐古・鍵遺跡第58次調査で出土した動物遺存体について、各種の同定結果を報告した。これまで唐古・鍵遺跡の動物遺存体について、特定の分類群について報告されてきたが、各遺構における動物種構成を明らかにする最初の報告となる。第58次調査で検出した区画溝SD-106・106Bからは多数の動物遺存体が出土しており、魚類、両生類、鳥類、哺乳類を確認した。大部分は食料残渣と考えられるが、毛皮や羽毛、骨や角もまた資源として利用されたであろう。特筆されるのは、弥生時代中期と比定されるニワトリの出土であり、初期的な家禽の飼育を物語る貴重な資料である。一方、従来から注目されるブタの家畜化については、当資料から詳細を知るには不十分であった。今後、家畜・家禽を含む動物利用を他地点の資料と比較検討する必要がある。(丸山)

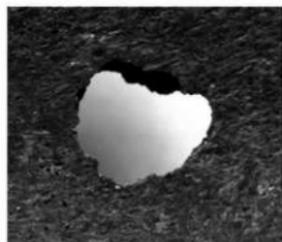
## 註

- (1) 江田真毅・井上貴史2011「非計測形質によるキジ科遺存体の同定基準作成と弥生時代のニワトリの再評価の試み」『動物考古学』第28号 動物考古学研究会 pp.23-33
- (2) 註1と同じ。
- (3) 西本豊弘1991「弥生時代のブタについて」『国立歴史民俗博物館研究報告』第36集 国立歴史民俗博物館pp.175-194
- (4) 安部みき子1996「イノシシとブタを考える」『卑弥呼の動物ランド』大阪府立弥生文化博物館pp.88-93
- (5) 金子浩昌・牛沢百合子1980「池上遺跡出土動物遺体」『池上・四ツ池遺跡』第6分冊 自然遺物編(財)大阪文化財センター pp.9-32
- (6) a : 黒田長久1959「宍岐島及び山口県から出土の鳥骨について」『日本生物地理学会会報』21 日本生物地理学会pp.67-74  
b : 西本豊弘1993「弥生時代のニワトリ」『動物考古学』第1号 動物考古学研究会pp.45-48

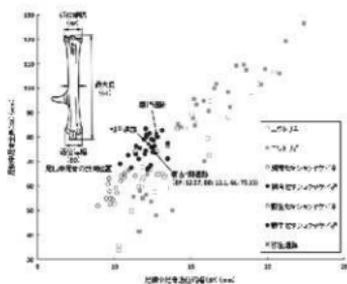
- c : 西本豊弘1994「酒見貝塚の動物遺体」『大川市文化財調査報告書 第1集 酒見貝塚：大川市大字酒見所在貝塚の調査概報』大川市教育委員会pp.65-70
- d : 西本豊弘1997「塚崎東畑遺跡出土の動物遺体と鹿角加工品」『塚崎東畑遺跡：三溝町大字高三溝字塚崎東畑所在遺跡の調査県道宮本・大川線関係埋蔵文化財調査報告書』福岡県教育委員会pp.99-103
- e : 西本豊弘・佐藤治・新美倫子1992「朝日遺跡の動物遺体」『朝日遺跡2 自然科学編』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第31集 愛知県埋蔵文化財センター pp.207-212
- f : 納屋内高史・松井章2009「カラカミ遺跡2007・2008年度調査出土の動物遺存体」『沓岐カラカミ遺跡Ⅱ-カラカミ遺跡東亞考古学会第1地点の発掘調査-』宮本一夫編 九州大学大学院人文科学研究科考古学研究室pp.131-142
- g : 江田真毅2014「カラカミ遺跡2011年度および2013年度調査出土の鳥類遺体について」『天手長男神社遺跡・市史跡 カラカミ遺跡2次』田中聡一・松見祐二編 沓岐市教育委員会pp.181-189
- (7) 江田真毅・別所秀高・井上貴央2014「大阪府宮ノ下遺跡出土資料からみた先史時代の河内平野における鳥類利用」『動物考古学』第31号 日本動物考古学会pp.21-32
- (8) a : 註6のbと同じ。
- b : 新美倫子2009「弥生文化の家畜飼育」『食料の獲得と生産』弥生時代の考古学5 設楽博己・藤尾慎一郎・松本武彦編 同成社pp.95-103
- (9) 註6のe、f、gと同じ。
- (10) 江田真毅2016「家畜化に伴う骨形態の小進化と弥生時代のニワトリ」『動物考古学』第33号 日本動物考古学会pp.49-61
- (11) 計測は以下に倣う。
- Driesch, A., 1976. A guide to the measurements of animal bones from archaeological sites. Peabody Museum Bulletin, 1: 1-136.
- (12) 註10と同じ。



第5図 SD-106 出土のニワトリ足根中足骨(1)と  
キジ科幼鳥大腿骨(2) バー：2cm



第6図



第7図 弥生ニワトリ資料および現生ニワトリ  
標本の足根中足骨近位端幅と最大長の  
散布図

「飼育セキショクヤケイ」は動物園などでセキ  
ショクヤケイとして飼育されている個体、「ニワト  
リ」は現在の様々な品種のニワトリを示す。江田  
(2016) に加筆して作成。



SK-101 全景



SK-101 動物遺存体出土状況

# 唐古・鍵遺跡の散乱人骨における形態学的所見と 炭素・窒素同位体分析

東京大学総合研究博物館 放射性炭素年代測定室

米田 稜

大阪市立大学大学院医学研究科

安部みき子

東海大学海洋学部

丸山 真史

田原本町教育委員会

藤田 三郎

## 1. はじめに

奈良県磯城郡田原本町に所在する唐古・鍵遺跡は奈良盆地中央に位置する環濠集落として古くから知られ、数多くの人工遺物に加え、動植物の遺存体や人骨が出土している。弥生時代を代表する遺跡のひとつである。本研究ではこれまで報告のない散乱人骨について報告し、その中に残存するコラーゲンの炭素・窒素同位体比から、当時の人々が利用したタンパク質を推定することで、これまで分析事例の限られている弥生時代の稲作農耕民の食生態の実態について検討した。

古人骨の様々な分析から、当時の人々の生活や健康について研究する骨考古学が日本先史時代についても盛んに応用されるようになり、考古学との協働で成果を上げている。しかし、弥生時代については、海浜の墓地遺跡である土井ヶ浜遺跡や北九州の甕棺墓人骨など、その報告例は少ない<sup>(1)</sup>。とくに、社会の複雑化がすすみつつあった弥生時代において、環濠集落から出土した古人骨の分析事例は報告されていない。そこで、本研究では、唐古・鍵遺跡から出土した木棺に埋葬された人骨と、動物骨などとともに遺棄された散乱人骨から有機物コラーゲンを抽出して、炭素・窒素同位体比を比較した。一括遺物を分析対象とする考古学に対して、古人骨を研究対象とする骨考古学では個人に関する情報を得ることができるので、社会・集団における個人差を議論することが可能となり、社会の複雑化と生活の多様化を明らかにできる可能性があり、弥生文化研究によっても有意義なアプローチであると期待される。

これまでに人類学的な研究の対象とされる資料は、埋葬されており比較的保存状態のよい人骨が中心であり、個体情報が少ない散乱人骨では研究があまりおこなわれてこなかった。唐古・鍵遺跡でも埋葬人骨は上述の木棺に納められた2個体のみであり、個人差や社会・集団について議論するには十分ではない。そこで、本研究では動物骨のなかに含まれていた散乱人骨にも着目し、同位体分析の対象とした。

## 2. 唐古・鍵遺跡での墓関係資料

唐古・鍵遺跡は、弥生時代前期から古墳時代前期まで継続する大規模集落で、基本的には居住関係の遺構を中心に検出している（第1図）。特に中期以降は大規模な多重環濠によって集落の内と外



が顕在化し、弥生時代墓制の中心となる方形周溝墓は、集落から離れて墓域を形成することになる。遺跡の北北西500mの清水風遺跡<sup>(2)</sup>、北東400mの法貫寺北遺跡<sup>(3)</sup>、南方600mの法貫寺斎宮前遺跡<sup>(4)</sup>、1kmの阪手東遺跡<sup>(5)</sup>で検出された方形周溝墓は、唐古・鍵遺跡の弥生時代中・後期の墓域として推定できるものである。しかしながら、近年の調査では集落の縁辺にも方形周溝墓が存在することが明らかになってきた。従来の調査でもその手がかりが少しあったわけであるが<sup>(6)</sup>、第91次調査(集落南東端/大和Ⅱ-3様式)<sup>(7)</sup>や第115次調査(集落北西端/大和Ⅱ-3~Ⅲ-1様式)<sup>(8)</sup>からほぼ確実となってきたのである。これら方形周溝墓は、大環濠が掘削された直後頃まで築造され、それ以降は集落から離れた場所へと変遷していったと考えられる。第91次調査地の南側の第4次調査<sup>(9)</sup>においても弥生時代前期の方形周溝状の遺構が検出されていることから、墓域の形成は前期に遡る可能性がある。以上のことから、唐古・鍵遺跡の墓域は、前期から中期初頭は集落の縁辺、中期中頃から古墳時代前期には集落から離れた地域で基本的には形成されることになる。ただし、後期後半から古墳時代初頭の環濠埋没時には一部、方形周溝墓の築造がみられる。

この他、方形周溝墓以外の成人墓としては、北地区(集落北東部)の第23次調査で木棺墓2基(大和Ⅱ-1様式?)<sup>(10)</sup>、南地区(集落南端)の第33次調査で土壘墓1基(大和Ⅲ-3様式)<sup>(11)</sup>が検出されており、成人墓は環濠帯からその外側に造られ、同時期としては居住区とは重複しない傾向がある。これに対し、小児墓とみられる土器棺墓は、中期後半~庄内期のもので、居住区内の各所で17基ほど検出している。これらのなかで人骨が検出されたのは第23次調査の木棺墓のみである。

今回報告する人骨は、第23次調査の木棺墓の人骨を除き、原位置を留めるものではなく、他の遺物と混在して出土した散乱骨である。しかし、唐古・鍵遺跡の墓域形成には前述したような傾向がみられることから、これら散乱骨の一部の由来についてはある程度推測が可能である。

### 3. 分析試料と方法

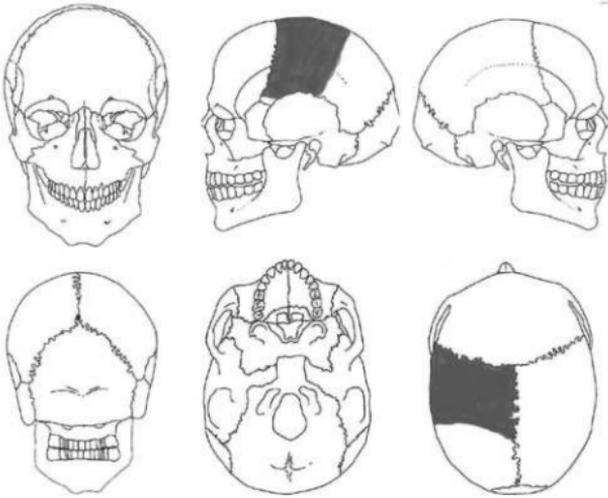
今回分析した人骨資料は1985年度の第23次発掘調査において発見された2基の木棺に納められていた1号人骨・2号人骨と<sup>(12)</sup>、溝や土坑などの遺構から動物骨とともに回収された散乱人骨から採取した。散乱人骨については、これまで報告がなされていなかったもので、本稿において、動物骨から丸山が抽出し、安部が分担して形質人類学的な観察をおこなった。その形態学的な所見は以下の通りである。

炭素同位体分析をおこなった人骨は、第23・74・79・91次と第93次調査から出土したものである(第1表)。成人の頭骨片が第79・91次(第2・3図)と第93次調査のものであり、第23次調査のものとは咬耗のある上顎第1大臼歯であった。また、第74次調査では両骨端が破損している成人の脛骨が出土しており、脛骨の扁平度を示す扁平示数が66.7で中脛であった。第23次調査からは上顎の第1乳切歯が1点出土し、歯根の吸収と咬耗の程度から、6歳前後と推定された。第91次調査では頭骨片が多数出土しているが、いずれも重複する部位は無く、接合する骨片もみられた。

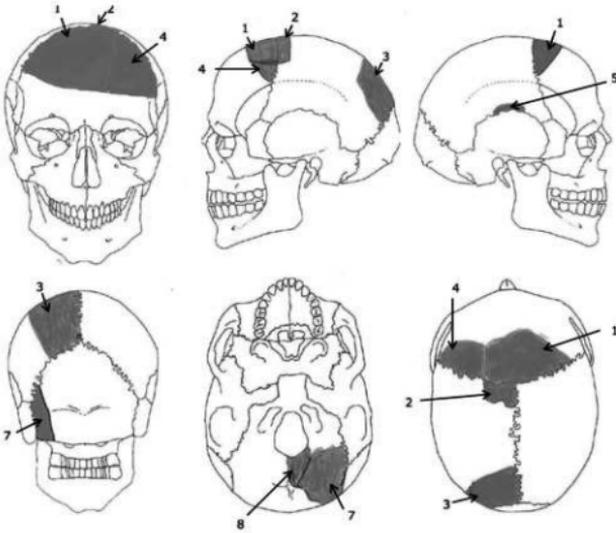
続いて米田が分担して、炭素・窒素同位体比の前処理ならびに測定を下記の手順で実施した。まず、前処理は、酸・アルカリ・酸処理につづいて、ゼラチン化をおこなって、生体由来するタンパク質(コラーゲン)を回収することを試みた<sup>(13)</sup>。まず、サンドブラストおよび純水中10分間の超音波洗浄で表面に付着した汚染物質を除去した。今回分析した資料のいくつかには取り上げの際に

第1表 唐古・藤遺跡出土人骨一覧表

次数	遺構	層位	土色	取上/地区	台帳番号	遺構時期	備考	資料番号	左右	部位	詳細	計測値等
第21次	SK-112	第5層	灰黄色 砂質土		860206	大和型Ⅳ-1様式	井戸下層	023-80001B	右	上脛 前1乳切痕	6歳前後、股長は大きく、踵骨が若干分短縮されていることから、平均値のはみ範囲の9月期	
第22次	SK-113	第2層	赤褐	粘土ヤングル (色)	860112	大和型Ⅳ-1様式	井戸上層	023-80002B	右	上脛 前1乳切痕	呪傷に呪札あり	
第23次	SK-117	第5層	黒灰色細砂		900029	大和型Ⅳ-1様式	井戸下層	074-80001B	右	脛骨	両骨短縮、骨幹約20cm短縮	
第25次	SD-108	第11層	灰褐色 (白灰)		001107	大和型Ⅳ-2様式γ	遺跡下層 中層区間の方形周溝敷に 付す可成柱石	079-80001B	左	頭頂骨	冠形結合と矢状線合部、10×8cmの長方形で遺存	
								091-80001B-1		前脛骨	冠形結合のはみ外縁部	結合する
								091-80001B-2	左	頭頂骨	冠形結合と矢状線合部	
								091-80001B-4		前脛骨	冠形結合の外縁を含む	
								091-80001B-3	左	頭頂骨	矢状線合とラム字線合部	
第26次	SD-109	第5層	赤褐色 (黒粒状)	012-011	001030	大和型Ⅳ-3様式	遺跡下層 中層区間の方形周溝敷に 付す可成柱石	091-80001B-5	右	頭頂骨	輪形線合部	結合する
								091-80001B-6		脛骨片		
								091-80001B-7		後脛骨	後脛骨の左側	
								091-80001B-8		後脛骨	大後脛骨の口縁の一部を含む	
								091-80001B-9		不明	脛骨片	
								091-80001B-10		不明	骨片 多数	
第30次	SK-2122	第5層	赤褐	北平	031029	大和型Ⅴ様式	遺跡下層 中層区間の方形周溝敷に 付す可成柱石	095-80001B	不明	頭頂骨 9	矢状線合を含む部分のみのみで遺存	



第2図 第79次 人骨



第3図 第91次 人骨

第2表 唐古・鍵遺跡出土人骨における炭素と窒素の含有率と安定同位体比

資料名	部位	ゼラチン 回収率	炭素 含有率(%)	窒素 含有率(%)	C/N比	炭素 同位体比(‰)	窒素 同位体比(‰)	備考	遺構時期	
23次1号人骨	木棺蓋	頭骨片	0.12%	10.0	1.1	16.7	-26.2	2.9	固化材塗布	大和第四-1様式
23次2号人骨	木棺蓋	肋骨片	0.14%	34.0	2.3	17.1	-24.8	7.2	固化材塗布	大和第四-1様式
74次No.887	74次5層	肋骨(左)	14.74%	42.7	15.9	3.1	-16.4	10.7		大和第四-1様式
79次No.657	79次5層	肋骨骨(左)	7.11%	45.4	15.5	3.2	-21.1	11.6	固化材塗布	大和第四-2様式?
91次No.136	91次9層	肋骨片	5.53%	42.5	15.4	3.2	-20.6	12.1		大和第四-3様式
93次No.903	93次5層	肋骨片	0.58%	48.0	10.6	4.4	-21.3	11.2	固化材塗布	大和第五様式

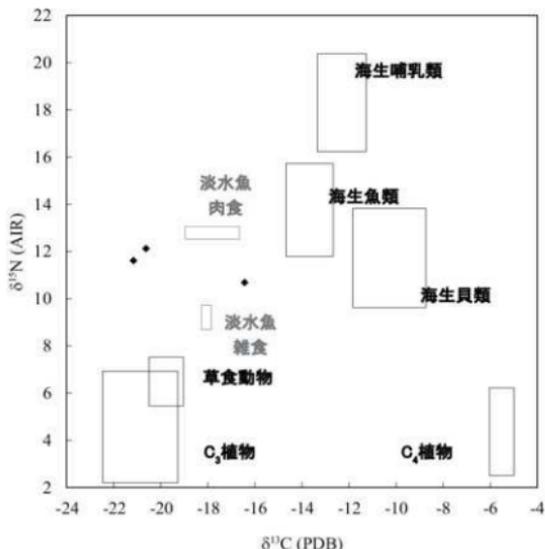
固化剤が塗布されたものがあつたので、アセトンと水で交互に超音波洗浄をおこなつて、薬剤を除去した。つづいて、0.2MのNaOHで16~18時間アルカリ処理することで、土壌に由来する有機物を除去した。純水で4~8時間洗浄して中性化してから、凍結乾燥した骨片を数mmに粉砕した。半透膜中に封印した骨粉を1.2MのHClと4℃で16~18時間、穏やかに反応させることで、無機質を溶解(脱灰)した。その後、4℃の純水に変え、純水を交換しながら25~26時間洗浄して抽出物を中性化した。半透膜中の残留物を遠心分離して、得られた有機物を凍結乾燥し、回収された有機物を秤量した。さらに有機物を10mLの純水中で12時間90℃に保持することで、コラーゲンのみを可溶化して(ゼラチン化)、ガラス濾紙(Whatman GF/F)で吸引ろ過した濾液を凍結乾燥して、ゼラチンを得た。回収されたゼラチンを秤量して、回収率を計算した。

炭素および窒素の重量含有率および安定同位体比の測定は、放射性炭素年代測定室において、Thermo Fisher Scientifics社製のFlash2000元素分析を前処理装置として、ConFloIIインターフェースを経由して、Delta V安定同位体比質量分析装置で測定する、EA-IRMS装置を用いておこなつた。約0.5mgの精製試料を鋳箔に包み取り、測定に供した。測定誤差は、同位体比が値付けされている二次標準物質(アラニン等)を試料と同時に測定することで標準偏差を計算した。通常の測定では、 $\delta^{13}\text{C}$ の測定誤差は0.1‰、 $\delta^{15}\text{N}$ の誤差は0.1‰である。

#### 4. 結果

ゼラチン化による前処理と炭素・窒素同位体比の測定結果を第2表に示す。骨組織は、ハイドロキシアパタイトを中心とした無機質と、コラーゲンを主成分とする有機質から構成されるが、生前の情報を保持している可能性が高いコラーゲンを分析対象とした。タンパク質の一種であるコラーゲンは、食物中のタンパク質から合成されるので、その化学的特徴から当時の人々が利用したタンパク質の傾向をある程度定量的に知ることができる。ただし、タンパク質が変性したり、外部から土壌有機物などの影響を受けていると、当時の食生活を復元することはできない。本研究では、同位体と同時に炭素と窒素の含有率を測定し、その元素数値比(C/N比)をもとにコラーゲンの保存状態を確認した。残念ながら、木棺出土の1号人骨と2号人骨、ならびに093-06001BはC/N比が生物でみられる範囲(2.9~3.6)を逸脱しており、変性あるいは汚染の可能性があるので、食生活の復元には用いない。

比較的保存状態がよいと考えられた3点について、代表的な食料資源との比較を試みた(第4図)。骨コラーゲンでは、炭素同位体比で約4.5‰、窒素同位体比で約3.5‰の濃縮が起こるので、第4図では現生の動植物と縄文時代の貝塚遺跡から出土した動物骨コラーゲンの同位体比をもとに、各食物群を消費した人骨のコラーゲンの同位体比に補正した値を計算して図示している。唐古・鍵遺跡か



動物性食料資源のδ¹⁵N値は、期待される骨コラーゲンのδ¹⁵N値と比較して、1.5‰ほど高い (Tanaka et al. 2000)

第4図 唐古・鎌遺跡出土人骨における炭素・窒素同位体比

ら出土した3個体のうち1個体は比較的炭素同位体比が高いという特徴をもち、海生魚類とC<sub>3</sub>植物植物(ならびのそれを食べる草食動物)との間に位置している。一方、2個体では炭素同位体比は比較的低く、C<sub>3</sub>植物を生産者とする生態系とほぼ等しいが、窒素同位体比のみ高い値を示す傾向が認められた。この値は、図示した天然の食料資源だけでは説明することが困難であり、唐古・鎌遺跡で特徴的であるといえる。

## 5. 考察

第79次調査の079-00001Bは、北西側の環濠から出土したものである。この調査の西側の第13次調査でも環濠や土坑から肋骨や尺骨が出土しており、さらにこの西側には方形周溝墓が形成されていることから、このあたり一体が墓域であった可能性が高い。環濠の掘削によって墓が壊され、人骨が散乱したと考えられる。環濠の掘削は大和第三-1様式まで遡ることから、人骨は当該期以前であろう。同様なことは、第91次調査の091-00001Bについても言え、南東側の方形周溝墓が環濠掘削によって壊された時のものと考えられる。この環濠は、中期初頭の掘削であるが再掘削を繰り返しており、後期後半の時期に混在したものであろう。

第74次調査の074-00001Bは西地区の中央部の中期の井戸、第93次調査の093-00001Bは西地区北部の後期の井戸から出土したもので、この周辺部では各当該期以前の墓域形成がみられないことから、どのような経緯でこれら井戸に混入したのは不明である。第23次調査の井戸SK-113から出土

した023-00013Bと00002Bの菌の内、00013Bは6歳前後のはえ換わり時期のものであることから、墓に伴うとは考えられないであろう。00002Bの菌については、この井戸付近に前述の木棺墓が存在しており当該場所が墓域になっており、墓が壊された時の所産の可能性もあるが判断できない。

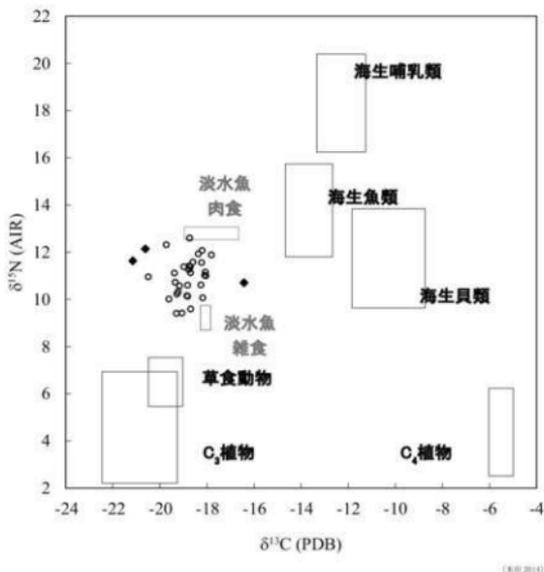
炭素・窒素同位体分析では保存状態の良いコラーゲンが回収された3点のうち、079-06001Bは固化剤が塗布されていたが、091-06001Bと近似する炭素・窒素同位体比を示した。このことは、固化剤の影響を受けていないコラーゲンを回収できている可能性が高いことを示唆している。保存状態の良いコラーゲンを回収できたもう1個体である074-06001Bは、他の2個体よりも炭素同位体比が比較的高い点の特徴である。この個体については、陸上生態系と海洋生態系の双方を利用して縄文時代人の同位体の特徴と類似しているといえる。

一方、類似した炭素・窒素同位体比を示した2個体は、炭素同位体比はC3植物食の範囲とほぼ等しいが、窒素同位体比は陸上生態系だけを利用していただけの場合よりも明らかに高い点で、縄文時代人とは大きく異なる特徴を示している。淡水棲の魚貝類の同位体比は、水系や季節によっても変動することが知られており、代表的な値を示すことが困難である（第4図には琵琶湖湖底の粟津湖底貝塚から回収された淡水魚の同位体比を参考値として示している）。比較的炭素同位体比の低い淡水生態系の活用が認められるのかもしれない。

その可能性のひとつとして、水田における嫌気条件が人骨コラーゲンの同位体比に影響している可能性を指摘できる。嫌気的な環境下では脱窒細菌のはたらきで、アンモニウムや硝酸といった植物の利用できる有機物が、無機の窒素ガスに還元され、土壌より失われる。その際、同位体比が重い窒素が残留するため、水田で栽培された水稲は乾田で栽培された陸稲よりも窒素同位体が高くなることが知られている<sup>10)</sup>。一方、炭素同位体比は大気中の二酸化炭素を反映するので、水稲でも他の植物でも大きな変化は存在しない。したがって、今回2個体で観察された炭素同位体比はC3植物食と同程度だが、窒素同位体比のみ高くなっている人骨は、水稲あるいは水田に由来する魚貝類を多く摂取していた可能性が想定できる。

比較のために、山口県土井ヶ浜遺跡から出土した弥生時代人骨の炭素・窒素同位体比と比較した結果を第5図に示す。土井ヶ浜遺跡の人骨は、窒素同位体比が唐古・鍵遺跡人骨と同程度かそれよりもやや高いのに対し、炭素同位体比が高い値を示す個体が多いことを指摘できる。このことから、土井ヶ浜人骨はC3植物生態系のみでは多くの個体の食生活が説明できず、海浜に立地する遺跡環境からも海産物などの利用を想定することができる。一方、唐古・鍵遺跡では窒素同位体比のみ同位体比が上昇するという傾向が顕著であり、海産物を利用した場合は異なる要因で窒素同位体比が上昇していると考えられ、水田の影響が顕著であるということが出来る。弥生時代の生業活動にも遺跡立地や地域による多様性があったと考えられ、今度、弥生時代人骨の分析事例を動物考古学・考古植物学的な研究と組み合わせることで、その実態を明らかにできると期待される。

人為的な環境である水田がどのような炭素・窒素同位体比を示すかは、灌漑や栄養の条件（例えば施肥の有無）などでも変化する可能性がある。今後、動物骨や魚骨における炭素・窒素同位体比を測定して、弥生時代の唐古・鍵遺跡における様々な生態系の同位体的特徴を明らかにし、生態系における弥生時代人の位置づけを検討することが重要である。同様に、食生態においてヒトの影響を受けている可能性のある家畜（イヌ、ブタ、ニワトリなど）についても、炭素・窒素同位体比を



第5図 唐古・鎌遺跡出土人骨(◆)と山口県土井ヶ浜遺跡の弥生時代人骨(○)の比較

分析することで、その飼育・棲息条件について有益な情報を得られるであろう。

なお馬場<sup>(13)</sup>は、中村俊夫(私信)として2号人骨の骨片の放射性炭素年代を測定した結果、 $2110 \pm 120$ 年BPであり、弥生時代前期末葉に由来すると報告している。この年代については、前処理や元素分析の結果が報告されていないため、骨コラーゲンの保孫状態を評価できない。本研究で分析した結果によれば、汚染の可能性もあるので、人骨の放射性炭素年代については今後、再分析をおこなう計画である。

## 謝辞

奈良県田原本町教育委員会には貴重な資料を分析する機会を賜った。

## 参考文献

- (1) a. 南川雅男(2001). 炭素・窒素同位体分析による復元した先史日本人の食生態. 国立歴史民俗博物館研究報告 86, 333-357.
- b. 米田稔(2014). 土井ヶ浜遺跡から出土した弥生時代人骨の炭素・窒素同位体分析. 「下関市文化財調査報告書35 土井ヶ浜遺跡 第1次~第12次発掘調査報告書」(下関市教育委員会・土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム), pp. 207-214.

- (2) 田原本町教育委員会1997「清水風遺跡 第2次調査」『田原本町埋蔵文化財調査年報6』1996年度
- (3) 奈良県立橿原考古学研究所編1983「法貴寺遺跡一県立第11高校建設予定地事前発掘調査概報」『奈良県遺跡調査概報（第二分冊）1982年度』pp.367-376
- (4) 奈良県立橿原考古学研究所編2008「法貴寺齋宮前遺跡第7次調査・小阪榎木遺跡第3次調査」『奈良県遺跡調査概報（第一分冊）2007年度』pp.335-364
- (5) 田原本町教育委員会2002「阪手東遺跡 第2次調査」『田原本町埋蔵文化財調査年報11』2001年度
- (6) 田原本町教育委員会1987「昭和61年度 唐古・鍵遺跡第29・30次発掘調査概報」田原本町埋蔵文化財調査概要9
- (7) 田原本町教育委員会2003「唐古・鍵遺跡第91次調査」『田原本町埋蔵文化財調査年報12』2002年度
- (8) 本年報p.6
- (9) 田原本町教育委員会・橿原考古学研究所編1979「昭和53年度 唐古・鍵遺跡第4・5次発掘調査概報」
- (10) 田原本町教育委員会1988「唐古・鍵遺跡第21・23次発掘調査概報」田原本町埋蔵文化財調査概要6
- (11) 田原本町教育委員会1989「昭和62・63年度 唐古・鍵遺跡第32・33次発掘調査概報」田原本町埋蔵文化財調査概要11
- (12) a. 埴原和郎 (1988). 唐古・鍵遺跡の人骨. 『唐古・鍵遺跡第21・23次発掘調査概報』, pp.74-79. 田原本町教育委員会.  
 b. 馬場悠男 (2000). 唐古・鍵遺跡出土家以時代人骨の形態と復顔. 国立科博専報 32, 167-174.
- (13) a. Longin, R. (1971). New method of collagen extraction for radiocarbon dating. *Nature*, 230, 241-242.  
 b. Yoneda, M., M. Hirota, M. Uchida, A. Tanaka, Y. Shibata, M. Morita and T. Akazawa (2002). Radiocarbon and stable isotope analyses on the Earliest Jomon skeletons from the Tochibara rockshelter, Nagano, Japan. *Radiocarbon* 44, 549-557.
- (14) 米山忠克 (1987). 土壌-植物系における炭素、窒素、酸素、水素、イオウの安定同位体自然存在比: 変異、意味、利用. *日本土壤肥料科学雑誌* 58(2), 252-268.
- (15) (参考文献12) b. に同じ。
- (16) DeNiro, M.J. (1985). Postmortem preservation and alteration of in vivo bone-collagen isotope ratios in relation to paleodietary reconstruction. *Nature* 317, 806-809.
- (17) van Klinken, G.J. (1999). Bone collagen quality indicators for palaeodietary and radiocarbon measurements. *Journal of Archaeological Science* 26, 687-695.
- (18) Yoneda, M., Y. Shibata, M. Morita, R. Suzuki, T. Sukegawa, N. Shigehara, and T. Akazawa (2004). Isotopic evidence of inland-water fishing by a Jomon population excavated from the Boji site, Nagano, Japan. *Journal of Archaeological Science* 31(1), 97-107.

## 唐古・鍵遺跡とその周辺遺跡で出土した木製品の樹種

森林総合研究所

能城 修一

東北大学植物園

鈴木 三男

小林 和貴

株式会社パレオ・ラボ

佐々木由香

京都大学総合博物館

村上由美子

### 1. はじめに

唐古・鍵遺跡および周辺の遺跡で出土した弥生時代から古墳時代の木製品の樹種を報告する。ここで報告するのは田原本町教育委員会に保管されている木製品369点であり、唐古・鍵遺跡の資料が313点、羽子田遺跡の資料が46点、笹鉾山古墳群の資料が1点、十六面・薬王寺遺跡の資料が4点、小阪里中遺跡の資料が2点、清水風遺跡の資料が2点、保津・宮古遺跡の資料が1点である（第1・2表）。木製品は、PEG含浸法やラクチール・トレハロース含浸法で保存処理されているものがほとんどで、表面を熱湯に浸して顕微鏡観察用の切片を採取した。

### 2. 方法

顕微鏡観察用の切片にあたっては、熱湯で表面を軟化したのちに、原則として片刃カミソリで横断面、放射断面、接線断面の切片を作成し、それをガムクロラール（抱水クロラール50g、アラビアゴム粉末40g、グリセリン20ml、蒸留水50mlの混合物）で封入して同定用プレバートとした。保存処理されている資料では、破壊を少なくするため、広葉樹では横断面のみ、針葉樹では放射断面のみ採取した資料もある。プレバートには、NAR-101～NAR-472（3点欠番）の番号を付した。これらのプレバートは東北大学植物園に保管されている。

### 3. 結果

資料369点中には、針葉樹5分類群、広葉樹21分類群が認められた（第1・2表）。以下には木材解剖学的な記載をおこない、代表的な標本の顕微鏡写真を提示して、同定の根拠を示す。

#### 1. モミ属 *Abies* マツ科 写真1:1c（枝・幹材、NAR-466）

垂直・水平樹脂道を欠く針葉樹材。早材から晩材への移行は緩やか。放射柔細胞には単壁孔が著しく、垂直壁は結節状。放射組織は柔細胞のみからなり、分野壁孔はごく小型のスキ型で1分野に2～3個。

#### 2. コウヤマキ *Sciadopitys verticillata* (Thunb.) Siebold et Zucc. コウヤマキ科 写真1:2a-2c

第1表 唐古・縄遺跡から出土した木製品の樹種

樹種	鋤 鍬	鋤 鍬 柄	泥 除	農 具	田 下 駄	徳 換 具	斧 直 柄	横 槌	件	堅 杵	小 型 臼	槽	容 器	杓 子	木 錘	刺 突 具	用 途 不 明	建 築 材	合 計
モミ属																1			1
コウヤマキ												1							1
ヒノキ													1			1		1	3
ヒノキ科					8														8
イヌガヤ														1					1
クスノキ													1						1
サイカチ						1													1
モモ															2				2
サクラ属 (広義)															1				1
ナシ亜科								2	1										3
ニレ属															1				1
ケヤキ													1	1					2
エノキ属										2				1		1			4
クワ属		2				1								1					4
コナラ属クスギ節		2				1				7							1		11
コナラ属コナラ節						2				1					3				6
コナラ亜属		1				1									4				6
イチイガシ		32	2	3		1													38
イチイガシ?		56	8	3															67
コナラ属アカガシ亜属		82	5	3	1		1	1		4					12		2		111
ミツバウツギ			1																1
トチノキ											2		1						3
ムクロジ			1																1
キハダ?															1				1
サカキ				7											2				9
ツバキ属			1					2							1				4
モチノキ属								1							1				2
総計	175	25	9	1	8	7	1	6	1	12	4	1	4	2	30	2	4	1	293

(枝・幹材, NAR-460)

垂直・水平樹脂道を欠く針葉樹材。早材から晩材への移行は緩やかで、晩材はやや多い。放射組織は柔細胞のみからなり、分野壁孔は水平に開く窓状で1分野に1(～2)個。

第2表 唐古・鏡遺跡の周辺の遺跡から出土した木製品の樹種

樹種	羽子田遺跡					雲針山古墳群		十六面・薬王寺遺跡				小阪里中遺跡		清水風遺跡		保津・宮古遺跡	
	総銀	総銀柄	横槓	堅杆	木鏝	用途不明	合計	総銀	総銀	掛矢	下駄	紡錘車	総銀	総銀	堅杆	総銀	
カヤ											1						
ナシ亜科			1		1		2								1		
エノキ属	2						2										
コナラ属 クスギ節					4		4										
イチイガシ	6	2					8										
イチイガシ?	6					1	7	1	1			1					1
コナラ属 アカガシ亜属	7	2		1	1	3	14			1			2	1			
ムクロジ		1					1										
サカキ		1			1		2										
カキノキ属	2						2										
ツバキ属																	
モチノキ属					1		1										
総計	23	6	1	1	8	4	43	1	1	1	1	1	2	1	1		1

3. ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* (Siebold et Zucc.) Endl. ヒノキ科 写真1:3b-3c (枝・幹材, NAR-465)

垂直・水平樹脂道を欠く針葉樹材。早材から晩材への移行は緩やかで、晩材は少ない。早材の終わりから晩材に樹脂細胞が散在する。放射組織は柔細胞のみからなり、分野壁孔は中型のトウヒ型で1分野に2個。

4. イヌガヤ *Cephalotaxus harringtonia* (Knight ex Forbes) K.Koch イヌガヤ科 写真1:4a-4c (枝・幹材, NAR-464)

垂直・水平樹脂道を欠く針葉樹材。早材から晩材への移行は緩やかで、晩材は少ない。樹脂細胞が年輪内に散在する。仮道管の内壁に斜めに不規則に走るらせん肥厚がある。放射組織は柔細胞のみからなり、分野壁孔はごく小型のトウヒ型で1分野に2~3個。

5. カヤ *Torreya nucifera* (L.) Siebold et Zucc. イチイ科 写真1:5a-5c (枝・幹材, NAR-456)

垂直・水平樹脂道を欠く針葉樹材。早材から晩材への移行は緩やかで、晩材はやや多い。仮道管の内壁には2~3本ずつまとまって走るらせん肥厚がある。放射組織は柔細胞のみからなり、分野壁孔はごく小型のトウヒ型で1分野2~3個。

6. クスノキ *Cinnamomum camphora* (L.) J. Presl クスノキ科 写真1: 6a- 6b (枝・幹材, NAR-467)

大型～小型で丸い道管が単独あるいは2～3個放射方向に複合して、年輪内で小型化しながら、疎らに散在する半環孔材。道管の穿孔は単一。放射組織は上下端の1(～2)列が直立する異性で2～3細胞幅、不規則に層階状に配列する。周囲状の木部柔組織と放射組織の直立部にはしばしば大型の油細胞がある。

7. サイカチ *Gleditsia japonica* Miq. マメ科 写真1・2: 7a- 7c (枝・幹材, NAR-305)

大型～中型で丸い道管が単独あるいは2～3個放射方向に複合して徐々に小型化しながら疎らに散在し、晩材では小道管が数個集まって放射方向にのびる塊をなす半環孔材。道管の穿孔は単一で、小道管の内壁にはらせん肥厚がある。木部柔組織は周囲状で、晩材で連合翼状。放射組織は同性で4細胞幅位。

8. モモ *Amygdalus persica* L. バラ科 写真2: 8a- 8c (枝・幹材, NAR-275)

中型で丸い道管がほぼ単独で年輪のはじめに3列ほど配列し、晩材では小型で丸い道管が単独あるいは2～3個放射方向に複合して放射方向～斜めに連なる傾向をみせて散在する半環孔材。道管の穿孔は単一で、内壁にはらせん肥厚がある。放射組織は上下端の1～3列が直立する異性で4細胞幅位。

9. サクラ属(広義) *Prunus* s.l. バラ科 写真2: 9a- 9b (枝・幹材, NAR-233)

小型で丸い道管が単独あるいは2～3個放射方向に複合して斜めに連なる傾向をみせて散在する散孔材。道管の穿孔は単一。放射組織は上下端の1～4列が直立する異性で7細胞幅位。

10. ナシ亜科 Subfam. Maloideae バラ科 写真2: 10a- 10c (枝・幹材, NAR-418)

小型で丸い孤立道管が均一にやや密に散在する散孔材。道管の穿孔は単一。木部柔組織は短接線状、しばしば大型の菱形結晶が連なる。道管の穿孔は単一。放射組織は上下端の1～5列が直立する異性で2細胞幅。

11. ニレ属 *Ulmus* ニレ科 写真2: 11a- 11c (枝・幹材, NAR-348)

年輪のはじめに大型で丸い道管がほぼ単独で2列ほど配列し、晩材ではごく小型の道管が集合して斜め～接線方向の帯をなす環孔材。道管の穿孔は単一。木部柔組織にはしばしば菱形結晶が連なる。放射組織は同性で5細胞幅位。

12. ケヤキ *Zelkova serrata* (Thunb.) Makino ニレ科 写真2: 12a- 12c (枝・幹材, NAR-461)

年輪のはじめにごく大型でやや角張った孤立道管が1列に配列し、晩材ではごく小型の道管が集合して接線方向の帯をなす環孔材。道管の穿孔は単一で、小道管の内壁にはらせん肥厚がある。放射組織は上下端の1列が直立する異性で5細胞幅位、直立部にはしばしば大型の菱形結晶をもつ。

13. エノキ属 *Celtis* アサ科 写真2・3:13a-13b (枝・幹材, NAR-255)

年輪のはじめに大型で丸い道管がほぼ単独で2列ほど配列し、晩材ではごく小型の道管が塊をなして斜めに連なる傾向をみせる環孔材。道管の穿孔は単一。放射組織は上下端の1~3列が直立する異性で10細胞幅位、精細胞をもつ。

14. クワ属 *Morus* クワ科 写真3:14a-14c (枝・幹材, NAR-253)

やや大型で丸い道管が単独あるいは2~3個複合して年輪のはじめに1~2列ほど配列し、晩材では小型で丸い道管が単独あるいは2~4個放射方向に複合して斜めに連なる傾向をみせて散在する半環孔材。道管の穿孔は単一で、小道管の内壁にはらせん肥厚がある。放射組織の上下端の1~2列が直立する異性で4細胞幅位。

15. コナラ属クスギ節 *Quercus* sect. *Aegilops* ブナ科 写真3:15a (枝・幹材, NAR-269)

年輪のはじめにごく大型で丸い孤立道管が2列ほど配列し、晩材ではやや急に径を減じたやや小型で丸い厚壁の孤立道管が放射方向に配列する環孔材。木部柔組織は晩材でいびつな接線状。放射組織は単列で小型のものと大型で複合状のものとは異なる。

16. コナラ属コナラ節 *Quercus* sect. *Prinus* ブナ科 写真3:16a (枝・幹材, NAR-270)

クスギ節に似る環孔材で、晩材の小道管は薄壁で小さく火炎状に配列する。

17. イチイガシ *Quercus gilva* Blume ブナ科 写真3:17a (枝・幹材, NAR-173)

最大直径220 $\mu$ m以上のごく大型で丸い孤立道管が放射方向に配列する放射孔材。木部柔組織はいびつな接線状。放射組織は単列で小型のものと大型で複合状のものとは異なる。

道管の最大直径が200 $\mu$ m以上で220 $\mu$ m未満のものはイチイガシの可能性が高いが、他のアカガシ亜属の種の可能性も否定できないのでイチイガシ?とした。

18. コナラ属アカガシ亜属 *Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* ブナ科 写真3:18a (枝・幹材, NAR-229)

直径が200 $\mu$ m未満の丸いやや大型の孤立道管が放射方向に配列する放射孔材。

19. ミツバウツギ *Staphylea bumalda* DC. ミツバウツギ科 写真3:19a-19c (枝・幹材, NAR-157)

小型で丸い孤立道管が均一にやや疎らに散在する散孔材。道管の穿孔は30段ほどの階段状。放射組織は上下端の3列ほどが直立する異性で4細胞幅位。

20. トチノキ *Aesculus turbinata* Blume ムクロジ科 写真3:20a-20c (枝・幹材, NAR-271)

小型で丸い道管が単独あるいは2~3個放射方向に複合してやや密に均一に散在する散孔材。道管の穿孔は単一で、内壁にはらせん肥厚がある。放射組織は単列同性で層階状に配列する。

21. ムクロジ *Sapindus mukorossi* Gaertn. ムクロジ科 写真3・4:21a-21c (枝・幹材, NAR-208)

大型で丸い道管がほぼ単独で年輪はじめに1列に配列し、晩材ではごく小型で薄壁の道管が放射方向にのびる塊をなして散在する環孔材。道管の穿孔は単一で、内壁にはらせん肥厚がある。木部柔組織は晩材で翼状~帯状。放射組織は同性で3細胞幅位。

22. キハダ? *Phellodendron amurense* Rupr.? ミカン科 写真4:22a-22c (枝・幹材, NAR-561)

年輪のはじめにやや大型で丸い道管が2列ほど配列し、晩材では小型の道管が斜めに連なるように見える環孔材。放射組織は同性で5細胞幅位。

23. サカキ *Cleyera japonica* Thunb. サカキ科 写真4:23a-23c (枝・幹材, NAR-288)

ごく小型で角張った孤立道管が均一に密に散在する散孔材。道管の穿孔は50段ほどの階段状。放射組織は単列異性。

24. カキノキ属 *Diospyros* カキノキ科 写真4:24a-24c (枝・幹材, NAR-215)

中型で厚壁の丸い道管が単独あるいは2~3個放射方向に複合して、ごく疎らに散在する散孔材。道管の穿孔は単一。木部柔組織は接線状。放射組織の上下端の2~4列ほどが直立する異性で2細胞幅、層階状に配列する。

25. ツバキ属 *Camellia* ツバキ科 写真4:25a-25c (枝・幹材, NAR-231)

小型で丸い孤立道管が年輪のはじめに3列ほど配列し、晩材ではさらに小型化した孤立道管がやや密に散在する散孔材。道管の穿孔10段ほどの階段状。放射組織は上下端の2~5列ほどが直立する異性で2~3細胞幅位、直立部にはしばしば大型の菱形結晶をもつ。

26. モチノキ属 *Ilex* モチノキ科 写真4:26a-26c (枝・幹材, NAR-274)

やや小型で角張った道管が単独あるいは2~3個放射方向に複合して、やや疎らに散在する散孔材。道管の穿孔は30段ほどの階段状。放射組織は上下端の2列ほどが直立する異性で5細胞幅位のもの、直立細胞からなる単列のものとなる。

#### 4. 考察

唐古・鏡遺跡および周辺の遺跡から出土した木製品の樹種では、鋤鎌と、その柄、泥除にイチイガシとイチイガシ?が多用されており、同定できた資料の半数以上を占めていた(第1・2表)。その他の樹種としては、クスギ節が一木鋤と平鎌に、ツバキ属が組合せ鋤に、ムクロジが平鎌に使われていた。柄はイチイガシをはじめとするアカガシ亜属が多いもののサカキやクワ属も使われていた。その他では、田下駄にヒノキ科が、横槌にナシ亜科とツバキ属が、堅杵にクスギ節とアカガシ亜属が、小型臼にクワ属とトチノキが、木錘にクスギ節やコナラ節、アカガシ亜属が多用されていた。

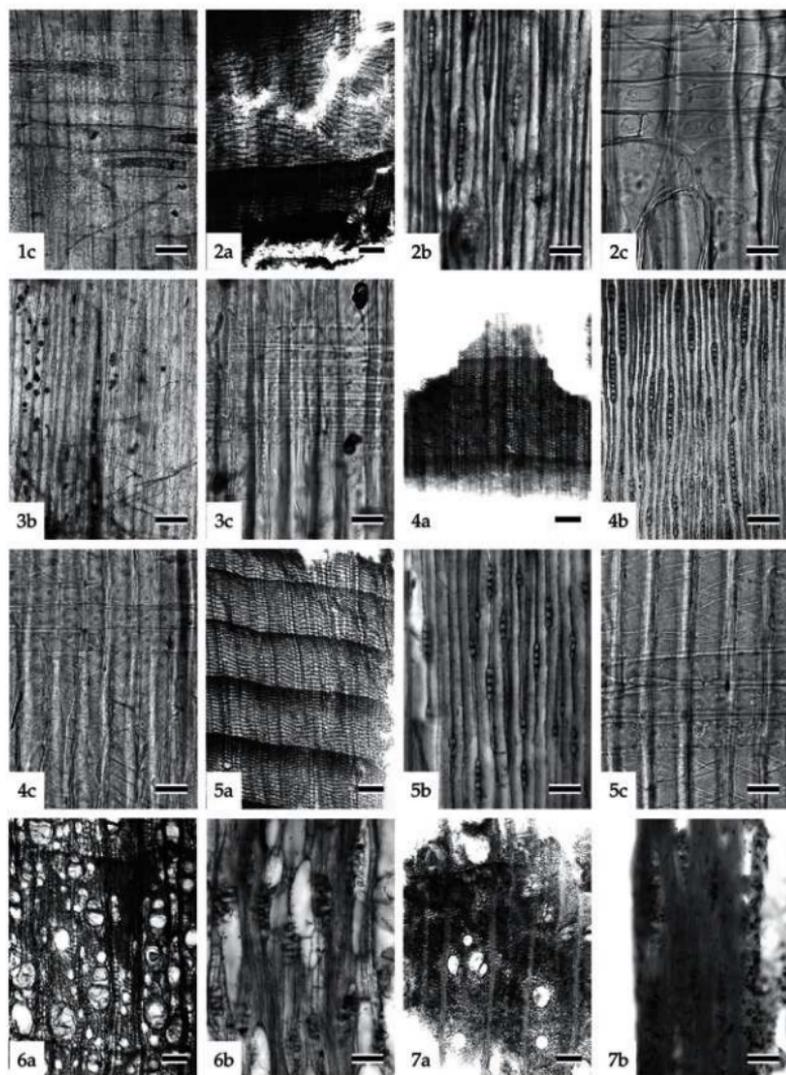


写真1. 唐古・鍵遺跡と周辺遺跡出土木製品類の顕微鏡写真(1)

1c: モミ属(枝・幹材, NAR-466), 2a- 2c: コウヤマキ(枝・幹材, NAR-460), 3b- 3c: ヒノキ(枝・幹材, NAR-465), 4a- 4c: イヌガヤ(枝・幹材, NAR-464), 5a- 5c: カヤ(枝・幹材, NAR-456), 6a- 6b: クスノキ(枝・幹材, NAR-467), 7a- 7b: サイカチ(枝・幹材, NAR-305). a: 横断面(スケール=200  $\mu\text{m}$ ), b: 接線断面(スケール=100  $\mu\text{m}$ ), c: 放射断面(スケール=25  $\mu\text{m}$ ).

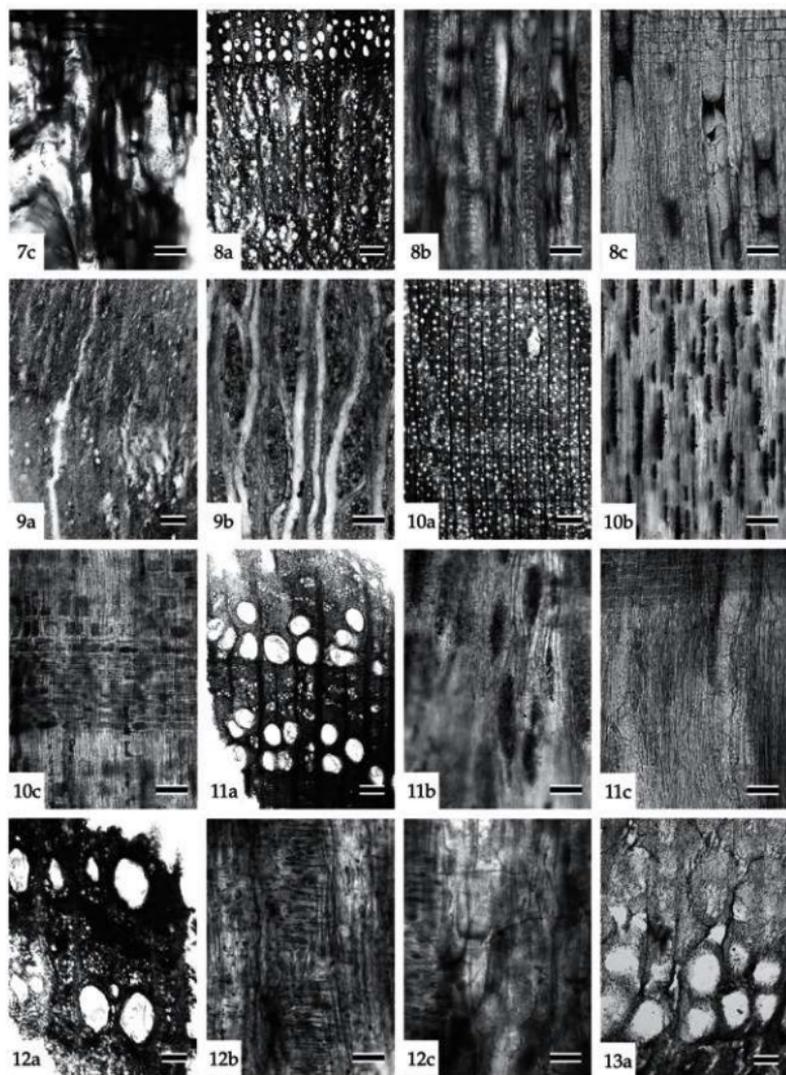


写真2. 唐古・鍵遺跡と周辺遺跡出土木製品類の顕微鏡写真(2)

7c: サイカチ (枝・幹材, NAR-305), 8a- 8c: モモ (枝・幹材, NAR-275), 9a- 9b: サクラ属 (広義) (枝・幹材, NAR-233), 10a- 10c: ナシ亜科 (枝・幹材, NAR-418), 11a- 11c: ニレ属 (枝・幹材, NAR-348), 12a- 12c: ケヤキ (枝・幹材, NAR-461), 13a: エノキ属 (枝・幹材, NAR-255). a: 横断面 (スケール=200  $\mu$ m), b: 接線断面 (スケール=100  $\mu$ m), c: 放射断面 (スケール=50  $\mu$ m).

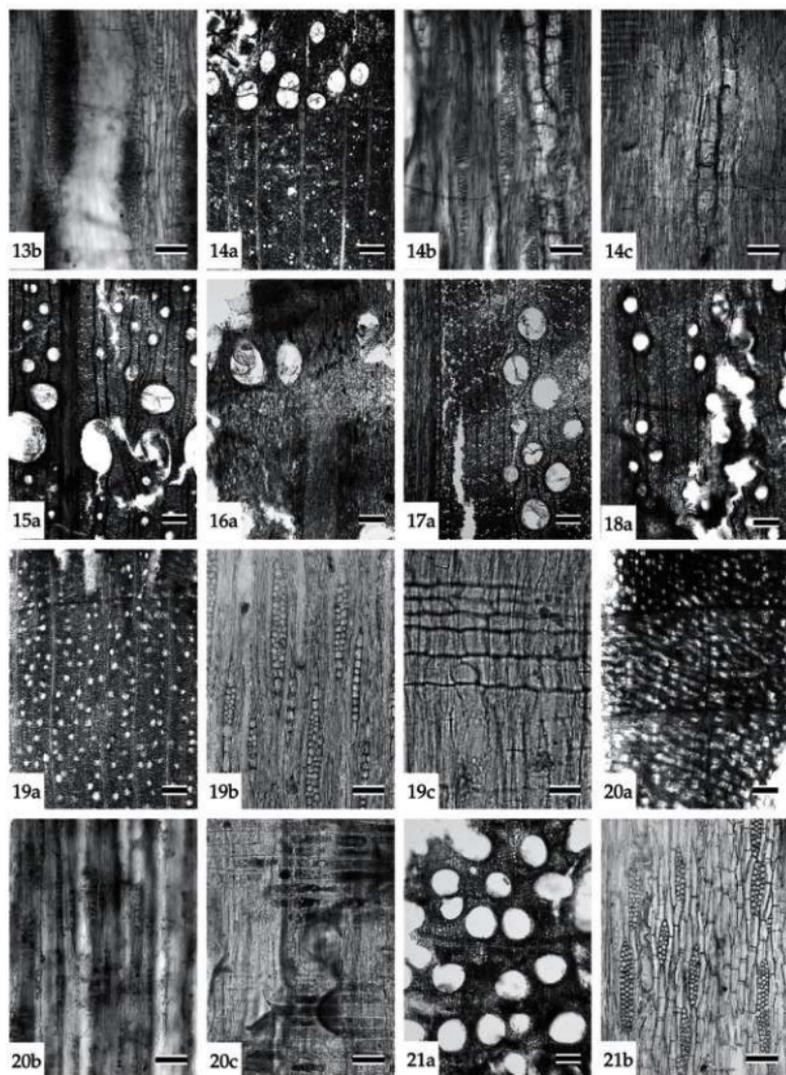


写真3. 唐古・鍵遺跡と周辺遺跡出土木製品類の顕微鏡写真 (3)

13b: エノキ属 (枝・幹材, NAR-255), 14a- 14c: クワ属 (枝・幹材, NAR-253), 15a: コナラ属クスギ節 (枝・幹材, NAR-269), 16a: コナラ属コナラ節 (枝・幹材, NAR-270), 17a: イチイガシ (枝・幹材, NAR-173), 18a: コナラ属アカガシ亜属 (枝・幹材, NAR-229), 19a- 19c: ミツバウツギ (枝・幹材, NAR-157), 20a- 20c: トチノキ (枝・幹材, NAR-271), 21a- 21b: ムクロジ (枝・幹材, NAR-208). a: 横断面 (スケール=200  $\mu\text{m}$ ), b: 接線断面 (スケール=100  $\mu\text{m}$ ), c: 放射断面 (スケール=50  $\mu\text{m}$ ).

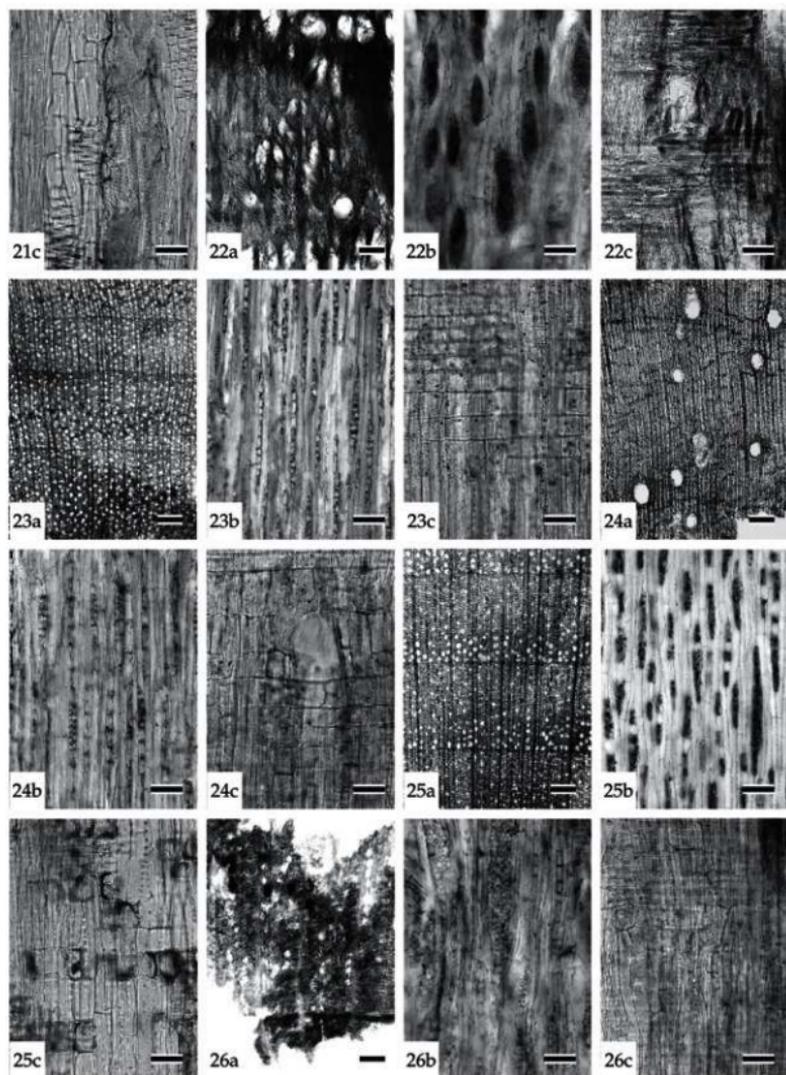


写真4. 唐古・鍵遺跡と周辺遺跡出土木製品類の顕微鏡写真(4)

21c: ムクロジ(枝・幹材, NAR-208), 22a- 22c: キハダ? (枝・幹材, NAR-561), 23a- 23c: サカキ(枝・幹材, NAR-288), 24a- 24c: カキノキ属(枝・幹材, NAR-215), 25a- 25c: ツバキ属(枝・幹材, NAR-231), 26a- 26c: モチノキ属(枝・幹材, NAR-274). a: 横断面(スケール=200  $\mu$ m), b: 接線断面(スケール=100  $\mu$ m), c: 放射断面(スケール=50  $\mu$ m).

第3表 資料一覽

№	種別	遺跡名	次数	製品名	製品コード	白磁%	遺構名	層位/土色	時期/時代
MM-101	イチイガシ	唐古・建造跡	13	組合せ物	KXX-013-000218	114	SP-02	棟物跡	Ⅳ
MM-102	イチイガシ	唐古・建造跡	13	組合せ物	KXX-013-000218	114	SP-02	棟物跡	Ⅳ
MM-103	イチイガシ	唐古・建造跡	13	木簡	KXX-013-000220	114	SP-02	棟物跡	Ⅳ
MM-104	イチイガシ	唐古・建造跡	13	穂柄	KXX-013-000248	431	SP-06B	第1層	Ⅴ-1
MM-105	イチイガシ	唐古・建造跡	19	炭鉛末成品	KXX-019-000028	736	SK-102	第7層	Ⅳ-2・Ⅴ-1
MM-106	イチイガシ	唐古・建造跡	19	平織末成品	KXX-019-000048	736	SK-102	第7層	Ⅳ-2・Ⅴ-1
MM-107	イチイガシ	唐古・建造跡	20	炭鉛末成品	KXX-020-000058	179	SK-107	第3層	Ⅲ-2
MM-108	イチイガシ	唐古・建造跡	20	線身	KXX-020-000128	696	SP-201	第5層	Ⅱ-2
MM-109	イチイガシ	唐古・建造跡	22	平織末成品	KXX-022-000018	366	SK-1101	第3層	Ⅲ-3
MM-110	イチイガシ	唐古・建造跡	22	平織末成品	KXX-022-000048	319	SK-205	第3層	Ⅲ-1
MM-111	イチイガシ	唐古・建造跡	33	糸柄又線末成品	KXX-033-001108	515	SK-134	第4層	Ⅰ-1
MM-112	イチイガシ	唐古・建造跡	33	平織	KXX-033-001108	1061	SP-202	第5層	Ⅱ-2
MM-113	イチイガシ	唐古・建造跡	33	平織	KXX-033-000208	1072	SK-208	第5層	Ⅱ-1
MM-114	イチイガシ	唐古・建造跡	33	平織	KXX-033-000258	884	SP-207	第4層	Ⅱ-3-a
MM-115	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	33	平織末成品	KXX-033-001078	1112	SP-125	第2層	Ⅱ-1
MM-116	—	唐古・建造跡	37	木簡	KXX-037-000048	424	SK-2114	第7層	Ⅰ-1
MM-117	イチイガシ	唐古・建造跡	37	平織末成品	KXX-037-000058	1063	SP-2202B	第8層	Ⅱ-1-b
MM-118	イチイガシ	唐古・建造跡	37	木簡末成品	KXX-037-000068	122	SK-2103	第3層	Ⅴ-1
MM-119	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	37	平織	KXX-037-000138	823	SP-2201	第4層	Ⅱ-1-b
MM-120	イチイガシ	唐古・建造跡	37	線身	KXX-037-000218	125	SP-1102	第6層	Ⅱ-2
MM-121	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	37	木簡	KXX-037-000248	118	SK-2108	第1層	Ⅲ-1
MM-122	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	37	炭鉛末成品	KXX-037-000408	1062	SK-2102	第3層	Ⅲ-3
MM-123	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	37	木簡末成品	KXX-037-000518	1014	SK-2138	第1層	Ⅲ-1
MM-124	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	37	木簡	KXX-037-000608	851	SK-2130	第2(下)層	Ⅲ-2
MM-125	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	38	平織末成品	KXX-038-000048	177	SK-208	第7層	Ⅱ-1-h
MM-126	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	38	線身	KXX-038-000098	138	SK-205・SK-206	第2層	Ⅰ-1
MM-127	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	38	平織	KXX-038-000108	131	SP-201	第3層	Ⅱ-2-a
MM-128	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	38	平織	KXX-038-000138	157	SK-204	第1層	Ⅱ-1-b
MM-129	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	38	平織末成品	KXX-038-000148	146	SK-206	第2層	Ⅱ-1
MM-130	イチイガシ	唐古・建造跡	40	平織	KXX-040-000068	351	SP-104B	第4層	Ⅱ-2
MM-131	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	40	平織	KXX-040-000118	379	SP-104B	第4(下)層	Ⅱ-1
MM-132	中谷本	唐古・建造跡	40	平織 柄	KXX-040-000118	379	SP-104B	第4(下)層	Ⅱ-1
MM-133	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	40	木簡	KXX-040-000128	379	SP-104B	第4(下)層	Ⅱ-1
MM-134	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	40	木簡	KXX-040-000128	351	SP-104B	第4(下)層	Ⅱ-2
MM-135	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	40	線身	KXX-040-000148	351	SP-104B	第4層	Ⅱ-2
MM-136	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	40	木簡	KXX-040-000158	318	SK-101	第7層	Ⅱ内
MM-137	イチイガシ	唐古・建造跡	47	木簡	KXX-047-000018-1	450	SP-2101	第8層	Ⅴ
MM-138	イチイガシ	唐古・建造跡	47	木簡	KXX-047-000028	513	SP-2102B	第8層	Ⅴ
MM-139	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	47	組合せ物	KXX-047-000038	496	SP-2105	第7層	Ⅲ
MM-140	イチイガシ	唐古・建造跡	48	木簡	KXX-048-000028	375	SP-C-107	第3層	Ⅴ-3
MM-141	イチイガシ	唐古・建造跡	48	木簡	KXX-048-000038	375	SP-C-107	第3層	Ⅴ-3
MM-142	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	49	横線	KXX-049-000018	241	SP-108	東室第4層	Ⅲ
MM-143	イチイガシ	唐古・建造跡	53	平織末成品	KXX-053-000138	400	SK-201	第2層	Ⅱ-1
MM-144	イチイガシ	唐古・建造跡	58	平織	KXX-058-000028	214	SK-201	第3(下)層	Ⅰ-1
MM-145	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	58	平織	KXX-058-000038	426	SP-106	第4層	Ⅱ-3
MM-146	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	58	線身	KXX-058-000078	288	SK-101	第5層	Ⅲ-1
MM-147	イチイガシ	唐古・建造跡	58	組合せ物	KXX-058-000088	262	SK-101	第4層	Ⅲ-1
MM-148	イチイガシ	唐古・建造跡	58	木簡	KXX-058-000098	388	SK-106	第6層	Ⅱ-3
MM-149	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	58	木簡	KXX-058-000118	464	SP-201	第4層	Ⅱ-2
MM-150	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	58	穂柄	KXX-058-000308	390	SP-106	第4層	Ⅲ-3
MM-151	イチイガシ	唐古・建造跡	59	平織	KXX-059-000078	914	SP-3104B	第4層	Ⅲ-3
MM-152	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	60	木簡	KXX-060-000028	79	SP-1177	第1層	Ⅴ-3
MM-153	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	61	横線	KXX-061-000038	1137	SK-118	第6層	Ⅲ-3
MM-154	中谷本	唐古・建造跡	61	横線 柄	KXX-061-000038	1137	SK-118	第6層	Ⅲ-3
MM-155	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	61	平織	KXX-061-000058	1576	SK-152	第2層	Ⅲ-3
MM-156	イチイガシ	唐古・建造跡	61	平織	KXX-061-000088	1616	SK-1518B	第6層	Ⅲ-3
MM-157	シラバウロ	唐古・建造跡	61	平織 柄	KXX-061-000088	1616	SK-1518B	第6層	Ⅲ-3
MM-158	イチイガシ	唐古・建造跡	61	平織	KXX-061-000098	1451	SP-3103C	第7層	Ⅲ-3
MM-159	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	61	平織	KXX-061-000108	1511	SP-3103C	第7層	Ⅲ-3
MM-160	中谷本	唐古・建造跡	61	平織 柄	KXX-061-000108	1511	SP-3103C	第7層	Ⅲ-3
MM-161	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	61	平織	KXX-061-000118	1440	SP-3103C	第7層	Ⅲ-1
MM-162	イチイガシ	唐古・建造跡	61	横線	KXX-061-000128	1137	SK-118	第6層	Ⅲ-3
MM-163	イチイガシ	唐古・建造跡	61	木簡	KXX-061-000148	1267	SK-153	第2層	Ⅱ-2
MM-164	イチイガシ	唐古・建造跡	61	穂柄	KXX-061-000158-1	1504	SK-3188B	第8(下)層	Ⅲ-3
MM-165	イチイガシ	唐古・建造跡	61	組合せ物	KXX-061-0001218	1508	SK-3188B	第9層	Ⅱ-1
MM-166	イチイガシ	唐古・建造跡	62	平織	KXX-062-000028-1	148	SP-101	第5(下)層	Ⅱ-2
MM-167	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	63	平織	KXX-063-000028	317	SP-103B	第5層	Ⅴ-1
MM-168	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	63	平織末成品	KXX-063-000048	311	SP-103A	第3(下)層	Ⅳ-1
MM-169	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	63	平織末成品	KXX-063-000058	311	SP-103A	第3(下)層	Ⅳ-1
MM-170	イチイガシ	唐古・建造跡	63	平織	KXX-063-000068	311	SP-103A	第3(下)層	Ⅳ-1
MM-171	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	63	組合せ物末成品	KXX-063-000108	311	SP-103A	第3(下)層	Ⅳ-1
MM-172	イチイガシ	唐古・建造跡	65	炭鉛	KXX-065-000218-1	957	SK-158	第5層	Ⅱ内
MM-173	イチイガシ	唐古・建造跡	65	平織	KXX-065-000208	957	SK-158	第5層	Ⅱ内
MM-174	イチイガシ	唐古・建造跡	69	平織	KXX-069-000068	2131	SK-1137	第6(下)層	Ⅲ-3

№	No.	機種	道村名	枚数	製品名	製品コード	台帳No.	道村名	層位/土色	時期/時代
MR-176		イチイガシ?	唐古・建造跡	69	平織	K00-069-000078	2132	SK-1137	第6層	III-3
MR-176		コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	69	平織未成品	K00-069-000088	848	SD-1109	第6層	V・VI-1
MR-177		イチイガシ?	唐古・建造跡	69	平織未成品	K00-069-000098	1003	SD-1109	第6層	V・VI-1
MR-178		イチイガシ?	唐古・建造跡	69	苧織未成品	K00-069-000108	848	SD-1109	第6層	V・VI-1
MR-179		コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	69	組合せ織	K00-069-000118	2114	SK-1137	第6層	III-3
MR-180		イチイガシ?	唐古・建造跡	69	木織	K00-069-000128	848	SD-1109	第6層	V・VI-1
MR-181		コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	69	織柄	K00-069-000168	848	SD-1109	第6層	V・VI-1
MR-182		イチイガシ?	唐古・建造跡	69	織柄	K00-069-000178	585	SD-1109	第5(下)層	V・VI-1
MR-183		イチイガシ?	唐古・建造跡	73	平織	K00-073-000044	162	SD-202	第4層	I-1
MR-184		コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	74	横織	K00-074-000038	294	SK-113	第5層	III-2
MR-185		コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	74	組合せ織	K00-074-000068	820	SK-120	第5層	V-1
MR-186		コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	76	組合せ織	K00-076-000038	419	SK-1113	第4層	B-2
MR-187		イチイガシ?	唐古・建造跡	78	平織未成品	K00-078-000014	146	SK-102	第3層	V-1
MR-188		イチイガシ?	唐古・建造跡	78	横織	K00-078-000038	166	SD-109	第4層	V-1
MR-189		コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	79	平織未成品	K00-079-000024	653	SK-130	第5層	IV-1
MR-190		コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	79	苧織未成品	K00-079-000058	653	SK-130	第5層	IV-1
MR-191		イチイガシ?	唐古・建造跡	79	織柄瓦	K00-079-000258	131	SK-101	第5層	III-4
MR-192		イチイガシ?	唐古・建造跡	82	平織	K00-082-000028	238	SK-219	第2層	I-1
MR-193		コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	88	平織	K00-088-000028-1	105	SK-2110	第1層	I-1
MR-194		コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	90	平織	K00-090-000018	92	SD-101C	第16(下)層	V-1
MR-195		コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	90	組合せ織未成品	K00-090-000038	78	SD-101C	第15層	V-1
MR-196		コナラ風コナラ葉	唐古・建造跡	90	帛片	K00-090-000058	32	SD-101C	第11層	V-1
MR-197		コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	91	平織	K00-091-000014	992	SD-201E	第5(下)層	B-3
MR-198		コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	91	平織未成品	K00-091-000028	1010	SD-104B	第13層	B-1
MR-199		コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	91	組合せ織	K00-091-000048	457	SD-101C	第9層	V-1
MR-200		コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	91	組合せ織	K00-091-000048	457	SD-101C	第9層	V-1
MR-201		イチイガシ?	唐古・建造跡	91	木織	K00-091-000078	457	SD-101C	第9層	V-1
MR-202		イチイガシ?	唐古・建造跡	91	木織	K00-091-000098	532	SD-101B	第11層	B-3
MR-203		コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	91	木織	K00-091-000108	992	SD-201E	第5(下)層	B-3
MR-204		イチイガシ?	唐古・建造跡	91	木織	K00-091-000118	992	SD-201E	第5(下)層	B-3
MR-205		イチイガシ?	唐古・建造跡	91	木織	K00-091-000128	624	SD-201A	第4層	B-7
MR-206		イチイガシ?	唐古・建造跡	93	平織	K00-093-000014	1304	SK-2201	第4層	III-3
MR-207		イチイガシ?	若子田遺跡	19	平織	H07-019-000038	92	SK-101	第6層	古墳前期
MR-208		ムクロジ	若子田遺跡	19	平織 柄	H07-019-000038	92	SK-101	第6層	古墳前期
MR-209		イチイガシ?	若子田遺跡	19	平織	H07-019-000048-1	92	SK-101	第6層	古墳前期
MR-210		イチイガシ?	若子田遺跡	19	平織	H07-019-000048-1	92	SK-101	第6層	古墳前期
MR-211		エノキ風	若子田遺跡	19	平織 柄	H07-019-000048-1	92	SK-101	第6層	古墳前期
MR-212		コナラ風アカガシ虫風	若子田遺跡	19	平織	H07-019-000058	87	SK-101	第5(下)層	古墳前期
MR-213		オキナギ風	若子田遺跡	19	平織 柄	H07-019-000058	87	SK-101	第5(下)層	古墳前期
MR-214		イチイガシ?	若子田遺跡	19	平織 柄	H07-019-000068-1	87	SK-101	第5(下)層	古墳前期
MR-215		オキナギ風	若子田遺跡	19	平織 柄	H07-019-000068-1	87	SK-101	第5(下)層	古墳前期
MR-216		イチイガシ?	若子田遺跡	19	平織	H07-019-000068-1	87	SK-101	第5(下)層	古墳前期
MR-217		イチイガシ?	若子田遺跡	19	平織	H07-019-000078	81	SK-101	第3層	古墳前期
MR-218		エノキ風	若子田遺跡	19	平織 柄	H07-019-000078	81	SK-101	第5層	古墳前期
MR-219		コナラ風アカガシ虫風	若子田遺跡	19	帛柄平織	H07-019-000098	92	SK-101	第6層	古墳前期
MR-220		コナラ風アカガシ虫風	若子田遺跡	19	帛柄平織	H07-019-000108	87	SK-101	第5(下)層	古墳前期
MR-221		コナラ風アカガシ虫風	若子田遺跡	19	帛柄又織	H07-019-000118	87	SK-101	第5(下)層	古墳前期
MR-222		コナラ風アカガシ虫風	若子田遺跡	19	帛柄織	H07-019-000128	191	SK-101	第6(下)層	古墳前期
MR-223		イチイガシ?	若子田遺跡	19	木織	H07-019-000138	87	SK-101	第5(下)層	古墳前期
MR-224		コナラ風アカガシ虫風	若子田遺跡	19	帛片	H07-019-000188	75	SK-101	第5層	古墳前期
MR-225		コナラ風アカガシ虫風	若子田遺跡	19	木織	H07-019-000258	92	SK-101	第6層	古墳前期
MR-226		コナラ風アカガシ虫風	若子田遺跡	19	用途不明品	H07-019-000448	192	SK-101	第6(下)層	古墳前期
MR-227		コナラ風アカガシ虫風	若子田遺跡	19	用途不明品	H07-019-000518	75	SK-101	第5層	古墳前期
MR-228		イチイガシ?	若子田遺跡	19	用途不明品	H07-019-000528	81	SK-101	第5層	古墳前期
MR-229		コナラ風アカガシ虫風	若子田遺跡	19	用途不明品	H07-019-000538-1	81	SK-101	第5層	古墳前期
MR-230		コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	69	用途不明品	K00-069-000628	848	SD-1109	第6層	V・VI-1
MR-231		ツバキ風	唐古・建造跡	13	組合せ織	K00-013-000228	111	SD-02(中層遺)	第22層	IV
MR-232		ツバキ風	唐古・建造跡	13	木織	K00-013-000388	335	SD-06B	第4層	V
MR-233		ヤアラ風(広義)	唐古・建造跡	13	木織	K00-013-000418	561	SK-30	最下層	IV内
MR-234		エノキ風	唐古・建造跡	13	小型口	K00-013-000458	1	SD-01	未結	V
MR-235		コナラ風アヌギ部	唐古・建造跡	20	帛片	K00-020-000098	604	SK-205	第4層	I-1
MR-236		コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	20	織身未成品	K00-020-000128	574	SK-213	第3層	B-2
MR-237		コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	20	織身	K00-020-000158	705	SK-215	第2(下)層	I-2-a
MR-238		コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	20	織身未成品	K00-020-000208	269	SK-101	第4層	III-2
MR-239		イチイガシ?	唐古・建造跡	20	織	K00-020-000518	234	SK-101	第3層	III-2
MR-240		コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	23	帛柄又織	K00-023-000338	285	SD-106	第2層	III-1
MR-241		イチイガシ?	唐古・建造跡	23	織身	K00-023-000368	542	SD-109	第4層	III-4
MR-242		コナラ風アヌギ部	唐古・建造跡	33	帛片	K00-033-000328	373	SD-109	第6層	V-1
MR-243		コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	33	帛柄織	K00-033-000338	519	SK-135	第3層	III-3
MR-244		コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	37	帛片	K00-037-000038	385	SK-2114	第5層	III-3
MR-245		ヘ	唐古・建造跡	37	織身柄	K00-037-000238	851	SK-2130	第7(下)層	III-3
MR-246		コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	37	平織未成品	K00-037-000598	1066	SK-2139	第5層	B-3-b
MR-247		コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	37	織身	K00-037-000618	894	SK-2204	第3層	B-1
MR-248		イチイガシ?	唐古・建造跡	37	織身	K00-037-000638	904	SK-4201	第2層	I-1-a
MR-249		コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	37	織身	K00-037-000648	874	SK-4201	第2層	I-1-b
MR-250		コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	38	平織	K00-038-000088	169	SD-201	第1層	I-2-b

№	No.	種名	遺跡名	次数	製品名	製品コード	白磁%	遺構名	層位/土色	時期/時代
MR-251	コナラ風タヌキ	唐古・建造跡	38	組片	K03-038-000128	169	SD-201	第1層	I-2-b	
MR-252	イチイガシ	唐古・建造跡	40	平鏡	K03-040-000028	440	SD-1028	第8層	B-2	
MR-253	タワシ	唐古・建造跡	40	平鏡 柄	K03-040-000028	440	SD-1028	第8層	B-2	
MR-254	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	40	木鏝	K03-040-000168	318	SK-101	第7層	内	
MR-255	ユキキ風	唐古・建造跡	47	小型臼	K03-047-000048	501	SD-2105	第7層	弥生前期	
MR-256	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	51	平鏡	K03-051-000048	120	SK-104	第5層	V-1	
MR-257	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	58	平鏡	K03-058-000048	440	SD-106	第4層	B-3	
MR-258	平カキ	唐古・建造跡	58	平鏡 柄	K03-058-000048	440	SD-106	第4層	B-3	
MR-259	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	58	平鏡	K03-058-000058	444	SD-1068	第9層	B・1・2	
MR-260	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	58	平鏡未成品	K03-058-000068	233	SK-201	第3層	I-1	
MR-261	カハダ	唐古・建造跡	59	木鏝	K03-059-000108	912	SK-3101	第4層	紀古平	
MR-262	—	唐古・建造跡	59	木鏝	K03-059-000138	865	SK-3101	第3層	紀古平	
MR-263	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	61	組身	K03-061-000028	1133	SK-118	第6層	Ⅱ-3	
MR-264	平カキ	唐古・建造跡	61	組身	K03-061-000028	1133	SK-118	第6層	Ⅱ-3	
MR-265	タヌキ風	唐古・建造跡	61	楕圓	K03-061-000168	1538	SD-1518	第8(下)層	B-2	
MR-266	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	63	木鏝未成品	K03-063-000148	311	SK-103A	第3(下)層	Ⅱ-1	
MR-267	ナシ虫風	唐古・建造跡	65	楕圓	K03-065-000028	701	SK-134	第5層(下)	V-1	
MR-268	コナラ虫風	唐古・建造跡	69	楕圓具	K03-069-000188	1502	SK-1112	第3層	Ⅱ-3	
MR-269	コナラ風タヌキ	唐古・建造跡	69	型片	K03-069-000198	1790	SD-1119	第7(下)層	B-1	
MR-270	コナラ風コナラ	唐古・建造跡	74	楕圓具	K03-074-000078	480	SK-117	第3層	Ⅱ-1	
MR-271	トナノキ	唐古・建造跡	74	小型臼	K03-074-000088	820	SK-120	第3層	B-2	
MR-272	—	唐古・建造跡	74	木鏝	K03-074-000098	227	SK-110	第2(下)層	内	
MR-273	コナラ風コナラ	唐古・建造跡	74	木鏝	K03-074-000108	227	SK-110	第2(下)層	内	
MR-274	モチノキ風	唐古・建造跡	74	木鏝	K03-074-000118	218	SK-110	第2層	内	
MR-275	モモ	唐古・建造跡	74	木鏝	K03-074-000128	218	SK-110	第2層	内	
MR-276	コナラ虫風	唐古・建造跡	74	木鏝	K03-074-000138	218	SK-110	第2層	内	
MR-277	コナラ風コナラ	唐古・建造跡	74	木鏝	K03-074-000148	218	SK-110	第2層	内	
MR-278	コナラ虫風	唐古・建造跡	74	木鏝	K03-074-000168	218	SK-110	第2層	内	
MR-279	コナラ虫風	唐古・建造跡	74	木鏝	K03-074-000188	218	SK-110	第2層	内	
MR-280	—	唐古・建造跡	74	木鏝	K03-074-000198	218	SK-110	第2層	内	
MR-281	コナラ風コナラ	唐古・建造跡	74	木鏝	K03-074-000208	218	SK-110	第2層	内	
MR-282	コナラ虫風	唐古・建造跡	74	木鏝	K03-074-000218	218	SK-110	第2層	内	
MR-283	モモ	唐古・建造跡	74	木鏝	K03-074-000228	218	SK-110	第2層	内	
MR-284	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	78	平鏡未成品	K03-078-000028	151	SD-109	第4層	V-1	
MR-285	平カキ	唐古・建造跡	79	楕圓具	K03-079-000038	401	SD-1018	第7層	Ⅱ-1	
MR-286	コナラ風コナラ	唐古・建造跡	82	楕圓具	K03-082-000038	171	SK-106	第2層	V-1	
MR-287	コナラ風タヌキ	唐古・建造跡	90	木鏝未成品	K03-090-000048	164	SD-101C	第1(下)層	V-1	
MR-288	平カキ	唐古・建造跡	91	組身	K03-091-000138	986	SD-201E	第5(下)層	B-3	
MR-289	コナラ風タヌキ	唐古・建造跡	91	型片	K03-091-000148	779	SD-104B	第13層	B-1	
MR-290	—	唐古・建造跡	93	楕圓	K03-093-000028	256	SK-2111	第4(下)層	Ⅱ-4	
MR-291	ユキキ風	唐古・建造跡	93	木鏝	K03-093-000038	256	SK-2111	第4(下)層	Ⅱ-4	
MR-292	イチイガシ	弥生山遺跡	2	動物文鏡	K03-002-000018	51	SD-1101	第6層	古墳前期	
MR-293	イチイガシ	弥生山遺跡	19	文鏡	HC7-019-000008	66	SK-101	第4(下)層	古墳前期	
MR-294	ナシ虫風	葦子遺跡	19	楕圓	HC7-019-000198-1	81	SK-101	第5層	古墳前期	
MR-295	—	葦子遺跡	19	木鏝	HC7-019-000218	92	SK-101	第6層	古墳前期	
MR-296	ナシ虫風	葦子遺跡	19	木鏝	HC7-019-000228	92	SK-101	第6層	古墳前期	
MR-297	コナラ風タヌキ	葦子遺跡	19	木鏝	HC7-019-000238	92	SK-101	第6層	古墳前期	
MR-298	コナラ風タヌキ	葦子遺跡	19	木鏝	HC7-019-000248	92	SK-101	第6層	古墳前期	
MR-299	平カキ	葦子遺跡	19	木鏝	HC7-019-000268	81	SK-101	第5層	古墳前期	
MR-300	コナラ風タヌキ	葦子遺跡	19	木鏝	HC7-019-000278	81	SK-101	第5層	古墳前期	
MR-301	ツツキ風	唐古・建造跡	69	楕圓	K03-069-000208-1	2114	SK-1137	第6層	Ⅱ-3	
MR-302	イチイガシ	唐古・建造跡	13	組身	K03-013-000028	404	SD-06B	第11層	Ⅱ-1	
MR-303	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	13	楕圓具	K03-013-000038	114	SD-02	植物層	Ⅱ-3	
MR-304	タワシ	唐古・建造跡	13	楕圓具	K03-013-000128	382	SD-06C	第7層	Ⅱ-1	
MR-305	イイカサ	唐古・建造跡	13	楕圓具	K03-013-000088	342	SD-06C	第6-6層	Ⅱ-1	
MR-306	イチイガシ	唐古・建造跡	13	動物	K03-013-000828	430	SD-06B	第10-4層	Ⅱ	
MR-307	—(木材ではない)	唐古・建造跡	15	平鏡	K03-015-000028	49	SK-01	—	弥生中後?	
MR-308	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	16	組合せ鏝	K03-016-000178	79	SD-101	黒褐色砂質土	B-3	
MR-309	イチイガシ	唐古・建造跡	16	組身	K03-016-000198	79	SD-101	黒褐色砂質土	B-3	
MR-310	イチイガシ	唐古・建造跡	19	平鏡	K03-019-000068	565	SK-1101	第4層	B-2	
MR-311	イチイガシ	唐古・建造跡	19	平鏡未成品	K03-019-000078	939	SK-1103	第5層	Ⅱ-1	
MR-312	ナシ虫風	葦子遺跡	19	片	K03-019-000448	777	SK-102	第8(上)層	I・2・V-1	
MR-313	コナラ風タヌキ	唐古・建造跡	19	楕圓具	K03-019-000668	622	SD-204	第4(下)層	V-1	
MR-314	—	唐古・建造跡	19	木鏝	K03-019-000638	722	SD-204	第3(下)層	Ⅱ	
MR-315	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	20	組身	K03-020-000218	392	SK-101	第6層	Ⅱ-1	
MR-316	—	唐古・建造跡	20	組合せ鏝	K03-020-000548	436	SK-101	第6層	Ⅱ-1	
MR-317	イチイガシ	唐古・建造跡	23	平鏡未成品	K03-023-000048	402	SK-113	第4層	Ⅱ-1	
MR-318	イチイガシ	唐古・建造跡	33	平鏡未成品	K03-033-000138	1666	SK-208	第4層	Ⅱ-4	
MR-319	イチイガシ	唐古・建造跡	33	平鏡未成品	K03-033-000178	1026	SD-205	第2層	弥生前期	
MR-320	イチイガシ	唐古・建造跡	33	組身	K03-033-000248	1042	SK-208	Ⅱ-1		
MR-321	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	33	文鏡	K03-033-000268	1063	SD-202	第5層	B-2	
MR-322	イチイガシ	唐古・建造跡	33	平鏡未成品	K03-033-000278	1026	SD-205	第2層	弥生前期	
MR-323	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	33	平鏡未成品	K03-037-000018	908	SD-4201	第1層	B?	
MR-324	—	唐古・建造跡	37	楕圓具	K03-037-000098	198	SK-2103	第4層	V-1	
MR-325	イチイガシ	唐古・建造跡	37	鳥貝柄	K03-037-000148	911	SK-2130	第8層	Ⅱ-3	
MR-326	イチイガシ	唐古・建造跡	38	組身	K03-038-000078	72	SD-51	第4層	弥生時代	

№	No.	機種	道村名	枚数	製品名	製品コード	台帳No.	建機名	層位/土色	時期/時代
MR	327	コナツ風フタ葺	唐古・建造跡	38	組 替	KXX-038-000118	136	SK-206	第2層	II-1
MR	328	イチイガシ	唐古・建造跡	40	木 軸	KXX-040-000108	378	SD-104B	第4(下)層	II-1
MR	329	コナツ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	40	木 軸	KXX-040-000178	318	SK-101	第7層	Ⅲ内
MR	330	コナツ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	40	木 軸	KXX-040-000188	318	SK-101	第7層	Ⅲ内
MR	331	コナツ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	40	木 軸	KXX-040-000198	318	SK-101	第7層	Ⅲ内
MR	332	コナツ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	40	木 軸	KXX-040-000208	318	SK-101	第7層	Ⅲ内
MR	333	コナツ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	40	木 軸	KXX-040-000218	318	SK-101	第7層	Ⅲ内
MR	334	コナツ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	40	木 軸	KXX-040-000228	318	SK-101	第7層	Ⅲ内
MR	335	コナツ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	40	木 軸	KXX-040-000238	318	SK-101	第7層	Ⅲ内
MR	336	コナツ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	40	木 軸	KXX-040-000248	318	SK-101	第7層	Ⅲ内
MR	337	コナツ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	40	木 軸	KXX-040-000258	318	SK-101	第7層	Ⅲ内
MR	338	コナツ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	40	木 軸	KXX-040-000268	318	SK-101	第7層	Ⅲ内
MR	339	ヒノキ科	唐古・建造跡	59	出下駄	KXX-059-000028	858	SK-3101	第3層	Ⅴ前半
MR	340	ヒノキ科	唐古・建造跡	59	出下駄	KXX-059-000028	858	SK-3101	第3層	Ⅴ前半
MR	341	ヒノキ科	唐古・建造跡	59	出下駄	KXX-059-000028	858	SK-3101	第3層	Ⅴ前半
MR	342	ヒノキ科	唐古・建造跡	59	出下駄	KXX-059-000028	858	SK-3101	第3層	Ⅴ前半
MR	343	ヒノキ科	唐古・建造跡	59	出下駄	KXX-059-000028	858	SK-3101	第3層	Ⅴ前半
MR	344	ヒノキ科	唐古・建造跡	59	出下駄	KXX-059-000028	858	SK-3101	第3層	Ⅴ前半
MR	345	ヒノキ科	唐古・建造跡	59	出下駄	KXX-059-000028	858	SK-3101	第3層	Ⅴ前半
MR	346	ヒノキ科	唐古・建造跡	59	出下駄	KXX-059-000048	858	SK-3101	第3層	Ⅴ前半
MR	347	イチイガシ?	唐古・建造跡	59	組 身	KXX-059-000008	1086	SD-3201	第4層	II-1
MR	348	コナツ風	唐古・建造跡	59	木 軸	KXX-059-000118	865	SK-3101	第3層	Ⅴ前半
MR	349	-	唐古・建造跡	59	木 軸	KXX-059-000128	865	SK-3101	第3層	Ⅴ前半
MR	350	-	唐古・建造跡	59	木 軸	KXX-059-000148	865	SK-3101	第3層	Ⅴ前半
MR	351	-	唐古・建造跡	59	木 軸	KXX-059-000158	865	SK-3101	第3層	Ⅴ前半
MR	352	-	唐古・建造跡	59	木 軸	KXX-059-000168	865	SK-3101	第3層	Ⅴ前半
MR	353	-	唐古・建造跡	59	木 軸	KXX-059-000178	865	SK-3101	第3層	Ⅴ前半
MR	354	-	唐古・建造跡	59	木 軸	KXX-059-000188	865	SK-3101	第3層	Ⅴ前半
MR	355	ヤカキ	唐古・建造跡	59	木 軸	KXX-059-000198	865	SK-3101	第3層	Ⅴ前半
MR	356	ヤカキ	唐古・建造跡	59	木 軸	KXX-059-000208	865	SK-3101	第3層	Ⅴ前半
MR	357	コナツ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	61	平 鏡	KXX-061-000018	1144	SK-118	第7層	Ⅲ-3
MR	358	コナツ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	37	組 身	KXX-037-000678	1053	SD-2201	東芝Sec.第4層	I-2-b
MR	359	コナツ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	98	平鏡 柄	KXX-098-000028	296	-	軽灰積(40葺)	II-b
MR	360	イチイガシ?	唐古・建造跡	37	組 身	KXX-037-000798	1063	SD-2202B	第8層	I-1-b
MR	361	コナツ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	37	組 身	KXX-037-000808	118	SK-2108	第1層	II-1
MR	362	イチイガシ?	唐古・建造跡	37	組 身	KXX-037-000818	449	SK-2114	第6(下)層	II-1
MR	363	イチイガシ?	唐古・建造跡	37	組 身	KXX-037-000908	745	SD-2201	第3層	II-1
MR	364	コナツ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	37	組・組 身	KXX-037-000918	1075	SK-2129	第5層	II-3-b
MR	365	イチイガシ	唐古・建造跡	38	組 身	KXX-038-000018	144	SD-201	第4層	I-1-b
MR	366	イチイガシ	唐古・建造跡	38	組 身	KXX-038-000028	119	SD-201	第5層	I-2-a
MR	367	- (欠番)	唐古・建造跡	40	木 軸	KXX-040-000028	318	SK-101	第7層	Ⅲ内
MR	368	イチイガシ?	唐古・建造跡	59	木 軸	KXX-038-000028	86	SK-101	第3層	Ⅲ-3
MR	369	コナツ風	唐古・建造跡	51	平鏡未成品	KXX-051-000058	153	SD-103	-	Ⅲ-3
MR	370	イチイガシ?	唐古・建造跡	53	平 鏡	KXX-053-000128	284	SK-101B	第6(下)層	II-1
MR	371	イチイガシ?	唐古・建造跡	76	平 鏡	KXX-076-000028	477	SK-1113	第3層	V-1
MR	372	イチイガシ?	唐古・建造跡	76	木 軸	KXX-076-000048	347	SK-1113	第3層	V-1
MR	373	コナツ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	76	型 替	KXX-076-000058	396	SD-1109	第4層	II-3
MR	374	イチイガシ?	唐古・建造跡	79	組・組 身	KXX-079-000068	492	SD-101B	第7(下)層	Ⅲ-3
MR	375	イチイガシ?	唐古・建造跡	79	巻貝柄	KXX-079-000068	565	SD-101C	第14層	Ⅲ-3
MR	376	コナツ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	79	不明巻貝	KXX-079-000098	548	SD-101C	第13層	Ⅲ-2
MR	377	コナツ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	98	平 鏡	KXX-098-000028	296	-	軽灰積(40葺)	II
MR	378	コナツ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	102	組・組 身	KXX-102-000048	60	SD-101	第6-4層	Ⅲ-2
MR	379	- (欠番)	唐古・建造跡	40	木 軸	KXX-040-000188	318	SK-101	第7層	Ⅲ内
MR	380	コナツ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	102	組・組 身	KXX-102-000068	41	SD-101	第5層	Ⅲ-3
MR	381	イチイガシ?	唐古・建造跡	61	組 身	KXX-061-000048	1126	SK-118	第5層	Ⅲ-3
MR	382	イチイガシ	若子遺跡跡	19	組・組 身	167-019-000558	81	SK-101	第5層	古墳期間
MR	383	イチイガシ?	若子遺跡跡	33	平 鏡	167-033-000018	121	SK-103	第3(下)層	Ⅲ-3
MR	384	-	唐古・建造跡	74	木 軸	KXX-074-000158	218	SK-110	第2層	Ⅲ内
MR	385	イチイガシ?	唐古・建造跡	40	木 軸	KXX-040-000278	340	SD-104B	第4層	II-2
MR	386	イチイガシ?	唐古・建造跡	40	巻貝柄	KXX-040-000288	340	SD-104B	第4層	II-2
MR	387	イチイガシ?	唐古・建造跡	40	巻貝柄	KXX-040-000298	349	SD-104B	第4層	II-2
MR	388	コナツ風アカガシ虫風	小坂里中遺跡	1	木 軸	KSS-001-000028	136	SD-101	第1層	古墳時代
MR	389	イチイガシ?	唐古・建造跡	40	巻貝柄	KXX-040-000318	323	SD-104B	第3層	II-1
MR	390	コナツ風アカガシ虫風	唐古・建造跡	40	平 鏡	KXX-040-000348	404	SD-104B	第6(下)層	II-2
MR	391	ナシ木科	唐古・建造跡	47	椽 包	KXX-047-000068	179	SD-2101	第6層	弥生後期
MR	392	ツバキ科	唐古・建造跡	47	椽 包	KXX-047-000078	428	SD-2104B	第9-1層	弥生中期
MR	393	ツバキ科	唐古・建造跡	47	木 軸	KXX-047-000088	350	SD-2101	第9-1層	弥生後期
MR	394	イチイガシ?	唐古・建造跡	63	平 鏡	KXX-063-000018	245	SD-106A	第2層	V-1
MR	395	トナリ木	唐古・建造跡	88	小型柱未成品	KXX-088-000038	23	SK-2102	第2層	II-1-2
MR	396	コナツ風フタ葺	若子遺跡跡	31	平 鏡	167-031-000028	279	SK-2103	第6層	Ⅲ内
MR	397	モナリ木	若子遺跡跡	31	木 軸	167-031-000038	302	SK-2103	第6層	Ⅲ内
MR	398	-	若子遺跡跡	31	木 軸	167-031-000048	302	SK-2103	第6層	Ⅲ内
MR	399	- (欠番)	-	-	-	-	-	-	-	-
MR	400	イチイガシ?	唐古・建造跡	48	組 替	KXX-048-000058	384	SD-C-107	第3(下)層	Ⅲ-3
MR	401	コナツ風アカガシ虫風	60 積鏡	60	積鏡	KXX-060-000018	197	SD-1111	第2層	弥生中期
MR	402	コナツ風フタ葺	唐古・建造跡	73	平 鏡	KXX-073-000028	74	SK-101	第4(下)層	Ⅲ-3

№	No.	題名	遺跡名	次数	製品名	製品コード	台帳No.	遺構名	層位/土色	時期/時代	
MR	403	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建速跡	63	網	K08-063-000078	318	SD-103B	第5層	Ⅱ-2	
MR	404	ムラギ	唐古・建速跡	73	平織	K08-073-000028	74	SK-101	第4(下)層	Ⅲ-3	
MR	405	イチイガシ	唐古・建速跡	63	組合せ織未成品	K08-063-000099	311	SD-103A	第3(下)層	Ⅳ-1	
MR	406	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建速跡	63	本織	K08-063-000128	283	SD-103A	第3層	V-1	
MR	407	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建速跡	61	組合せ織	K08-061-000138	1561	SK-102	第1層	Ⅱ-1	
MR	408	イチイガシ	唐古・建速跡	63	本織未成品	K08-063-000158	318	SD-103B	第5層	Ⅱ-2	
MR	409	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建速跡	63	用途不明品	K08-063-000168	329	SD-103B	第4(下)層	Ⅱ-2	
MR	410	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建速跡	69	織身	K08-069-000148	2123	SK-1137	第6(下)層	Ⅲ-3	
MR	411	イチイガシ	唐古・建速跡	69	織身	K08-069-000158	2123	SK-1137	第6(下)層	Ⅲ-3	
MR	412	イチイガシ	唐古・建速跡	73	平織	K08-073-000038	116	SD-103	第6層	Ⅱ-3	
MR	413	イチイガシ	唐古・建速跡	73	本織	K08-073-000058	97	SD-103	第4(下)層	Ⅲ-3	
MR	414	イチイガシ	唐古・建速跡	73	織身	K08-073-000068	138	SD-103	第5(下)層	Ⅲ-3	
MR	415	イチイガシ	唐古・建速跡	73	織身	K08-073-000078	175	SD-201	第5層	Ⅱ-2	
MR	416	イチイガシ	唐古・建速跡	80	平織未成品	K08-080-000018	113	SD-101	第6(下)層	Ⅳ-2	
MR	417	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建速跡	2	組合せ織	S08-002-000028	216	SD-102	第5(下)層	Ⅳ-2	
MR	418	ナカノミ	唐古・建速跡	2	型片	S08-002-000038	433	SK-102(北辺)	第5層	Ⅳ	
MR	419	コナラ風アカガシ虫風	小坂田牛遺跡	1	本織	K55-001-000128	149	古墳内蔵	第1(下)層	古墳時代	
MR	420	イチイガシ	保原・宮古遺跡	1	糸筒又織	079-001-000038	19	SK-101	第4層	古墳前期	
MR	421	イチイガシ	羽子田遺跡	19	又織	067-019-000038	96	SK-101	第6(下)層	古墳前期	
MR	422	コナラ風アカガシ虫風	羽子田遺跡	19	糸筒又織	067-019-000048	194	SK-101	第7層	古墳前期	
MR	423	コナラ風アカガシ虫風	羽子田遺跡	19	織身	067-019-000068	79	SK-101	第5層	古墳前期	
MR	424	イチイガシ	羽子田遺跡	19	織身	067-019-000078	75	SK-101	第5層	古墳前期	
MR	425	-	羽子田遺跡	19	糸筒柄	067-019-000088	96	SK-101	第6(下)層	古墳前期	
MR	426	弁方キ	羽子田遺跡	19	糸筒柄	067-019-000098	86	SK-101	第5(下)層	古墳前期	
MR	427	コナラ風アカガシ虫風	羽子田遺跡	19	糸筒柄	067-019-000708	86	SK-101	第5(下)層	古墳前期	
MR	428	コナラ風アカガシ虫風	羽子田遺跡	19	糸筒柄	067-019-000718	84	SK-101	第5(下)層	古墳前期	
MR	429	イチイガシ	羽子田遺跡	19	糸筒柄	067-019-000728	67	SK-101	第4(下)層	古墳前期	
MR	430	イチイガシ	羽子田遺跡	21	織柄	067-021-000018	51	SK-102	第2層	Ⅲ-3	
MR	431	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建速跡	91	平織	K08-091-000028	1055	SD-204	第5層	Ⅱ	
MR	432	タワ風	唐古・建速跡	91	平織 網	K08-091-000028	1055	SD-204	第5層	Ⅱ	
MR	433	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建速跡	74	表織未成品	K08-074-000058	461	SD-101	第4層	Ⅳ-1	
MR	434	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建速跡	23	型片	K08-033-000128	770	SK-124	第6層	Ⅲ-3	
MR	435	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建速跡	82	型片	K08-082-000048	236	SK-207	第2層	Ⅰ-1	
MR	436	イチイガシ	唐古・建速跡	88	平織	K08-088-000028	2	106	SK-2110	第2層	Ⅰ-1
MR	437	イチイガシ	唐古・建速跡	21	横織未成品	K08-021-000018	3	SD-02	第3層	Ⅳ・V?	
MR	438	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建速跡	61	平織	K08-061-000078	1286	SD-151B	第7層	Ⅲ-3	
MR	439	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建速跡	61	平織 柄	K08-061-000078	1286	SD-151B	第7層	Ⅲ-3	
MR	440	-	唐古・建速跡	20	織身	K08-020-000148	760	SK-207	第3層	Ⅱ-1	
MR	441	イチイガシ	唐古・建速跡	79	織身	K08-079-000048	501	SD-101C	第14層	Ⅱ-2	
MR	442	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建速跡	90	組合せ織未成品	K08-090-000028	85	SD-101C	第16層	Ⅱ-2	
MR	443	イチイガシ	唐古・建速跡	62	平織	K08-062-000028	2	167	SD-101	第5(下)層	V-1
MR	444	イチイガシ	唐古・建速跡	65	表織	K08-065-000038	927	SK-158	第5層	Ⅲ内	
MR	445	イチイガシ	唐古・建速跡	65	表織	K08-065-000038	927	SK-158	第5層	Ⅲ内	
MR	446	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建速跡	98	織身	K08-098-000048	220	SD-101C	第12層	Ⅱ-1	
MR	447	イチイガシ	唐古・建速跡	73	平織	K08-073-000048	2	163	SD-202	第4層	Ⅲ-1
MR	448	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建速跡	63	本織	K08-063-000138	293	SD-103A	第3層	V-1	
MR	449	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建速跡	16	横織	K08-016-000208	44	SD-101	車輪	Ⅲ-3	
MR	450	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建速跡	16	本織	K08-016-000238	50	SD-101	車輪下層	Ⅲ-1	
MR	451	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建速跡	16	平織	K08-016-000308	224	SK-102	車輪	Ⅰ-2・b	
MR	452	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建速跡	16	型片	K08-016-000378	224	SK-102	車輪	Ⅰ-2・b	
MR	453	イチイガシ	唐古・建速跡	33	織身	K08-033-001248	884	SD-127	第4層	Ⅲ-3・a	
MR	454	イチイガシ	唐古・建速跡	33	平織	K08-033-001308	1092	-	第6(下)層	Ⅲ-1・2	
MR	455	(木村ではない)	唐古・建速跡	74	型織	K08-074-000238	687	SK-119	第4(下)層	Ⅲ-3	
MR	456	弁方	十六面・東王寺遺跡	31	下駄	J01-031-000128	427	SK-16	第1層	平安時代	
MR	457	イチイガシ	十六面・東王寺遺跡	31	結縛車	J01-031-000038	1375	SK-191	第2層	在野~4	
MR	458	イチイガシ	十六面・東王寺遺跡	31	糸筒又織	J01-031-000028	1375	SK-191	第2層	在野~4	
MR	459	コナラ風アカガシ虫風	十六面・東王寺遺跡	31	掛欠	J01-031-000018	1213	SK-174	第3層	古墳前期	
MR	460	コウヤマキ	唐古・建速跡	63	標	K08-063-000108	396	SD-103B	第3(下)層	Ⅳ-1	
MR	461	クヤキ	唐古・建速跡	63	不明器	K08-063-000108	284	SD-103B	第3(下)層	Ⅳ-1	
MR	462	タワ風	唐古・建速跡	63	横判子	K08-063-000208	275	SD-103A	第2層	Ⅱ-2	
MR	463	ヒノキ	唐古・建速跡	69	不明器	K08-069-000208	1056	SD-1104	第2(下)層	Ⅲ-3	
MR	464	イヌガヤ	唐古・建速跡	73	横判子	K08-073-000128	84	SD-106	第4層	Ⅰ-2	
MR	465	ヒノキ	唐古・建速跡	73	刺突具	K08-073-000098	88	SD-104	第3層	Ⅲ-3	
MR	466	ヒノキ	唐古・建速跡	73	刺突具	K08-073-000088	143	SD-103	第2層	Ⅲ-3	
MR	467	クスノキ	唐古・建速跡	73	器蓋未成品	K08-073-000108	164	SK-201	第5層	Ⅲ-3	
MR	468	ヒノキ風	唐古・建速跡	73	用途不明品	K08-073-000108	95	SD-104	第3(下)層	Ⅲ-3	
MR	469	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建速跡	73	用途不明品	K08-073-000178	98	SD-106	第6層	Ⅰ-2	
MR	470	コナラ風アカガシ虫風	唐古・建速跡	73	弁方柄	K08-073-000018	165	SD-201	第5層	Ⅱ-2	
MR	471	ヒノキ	唐古・建速跡	73	埋塞材	K08-073-000148	179	SD-201	第5(下)層	Ⅱ-2	
MR	472	トチノキ	唐古・建速跡	74	不明器	K08-074-000238	798	SK-202B	第6層	Ⅰ-2	

**田原本町文化財調査年報24**

2014年度

平成28年 3月28日

編集発行 田原本町教育委員会  
印刷 株式会社 明新社

